



## 日本語とモンゴル語の主題マーカーの対照研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 賽希雅拉図 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00002522">https://doi.org/10.24729/00002522</a>

大阪府立大学大学院

人間社会学研究科 言語文化学専攻

博士論文

日本語とモンゴル語の主題マーカ어의対照研究

賽希雅拉图

2014年1月

## 目次

序章 .....	1
0. 1 本研究の対象・目的・意義 .....	1
0. 2 本研究の研究手法 .....	2
0. 3 本研究の構成.....	3
略号.....	6
表記.....	7
第1部 日本語とモンゴル語の主題マーカーに関する先行研究 .....	8
第1章 日本語の主題マーカーの研究史と研究の現状 .....	9
1. 1 日本語の典型的な主題マーカー .....	9
1. 2 日本語の非典型的な主題マーカー .....	28
1. 3 日本語の先行研究のまとめ .....	30
第2章 モンゴル語の主題マーカーの研究史と研究の現状 .....	37
2. 1 モンゴル語の典型的な主題マーカー .....	37
2. 2 モンゴル語の非典型的な主題マーカー .....	50
2. 3 モンゴル語の先行研究のまとめと問題点 .....	52
第2部 モンゴル語の主題マーカー .....	58
第3章 モンゴル語の典型的な主題マーカーの主題表示機能.....	59
3. 1 主題マーカーと属性叙述文・事象叙述文 .....	59
3. 2 格成分が主題になっている文 .....	65
3. 3 格成分の連体修飾部が主題になっている文 .....	70
3. 4 被修飾名詞が主題になっている文 .....	75
3. 5 節が主題になっている文 .....	79
3. 6 破格の主題をもつ文 .....	81
第4章 モンゴル語の典型的な主題マーカーの非主題表示機能 .....	86
4. 1 対比表示機能.....	86
4. 2 条件表示機能.....	106

## 目次

第5章	モンゴル語の非典型的な主題マーカ―の主題表示機能	117
5.1	言葉の解説を行う文の主題マーカ―	117
5.2	限定された叙述を行う文の主題マーカ―	126
第6章	モンゴル語の非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能	128
6.1	言葉の解説を行う文の主題マーカ―	128
6.2	限定された叙述を行う文の主題マーカ―	132
第3部	日本語とモンゴル語の主題マーカ―の対照研究	135
第7章	典型的な主題マーカ―の主題表示機能	136
7.1	主題マーカ―と属性叙述文・事象叙述文	136
7.2	格成分が主題になっている文	149
7.3	格成分の連体修飾部が主題になっている文	170
7.4	述語成分の連体修飾部が主題になっている文	177
7.5	被修飾名詞が主題になっている文	180
7.6	節が主題になっている文	184
7.7	破格の主題をもつ文	187
第8章	典型的な主題マーカ―の非主題表示機能	191
8.1	対比表示機能	191
8.2	条件表示機能	217
第9章	非典型的な主題マーカ―の主題表示機能	225
9.1	言葉の解説を行う文の主題マーカ―	225
9.2	限定された叙述を行う文の主題マーカ―	233
第10章	非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能	235
10.1	言葉の解説を行う文の主題マーカ―	235
10.2	限定された叙述を行う文の主題マーカ―	241
終章	まとめと今後の課題	243
	例文採集資料	255
	参考文献	256

## 序 章

## 序 章

### 0. 1 本研究の対象・目的・意義

#### 0. 1. 1 研究対象

本論文は現代日本語と現代モンゴル語の主題マーカースの対照研究を行うものである。本論文は中国・内モンゴル自治区中部で使われているチャハル方言を標準語<sup>1</sup>とする書き言葉の主題マーカースを研究の対象とする。

主題マーカースと言えば、広義と狭義のどちらの意味でとらえるかによって研究対象が大きく異なる。主題マーカースの広義と狭義について、徐烈炯・劉丹青(2007)は、以下のように規定している。

广义的话题标记可以包括各种音段成分，超音段成分（或叫韵律成分），以及成分排列顺序即语序。（中略）狭义的话题标记就是指用来表示语言单位的话题功能的某种音段成分，在语法上属于形态或附属性的虚词。

（広義の主題マーカースはさまざまな音節成分、超音節成分（あるいは音律成分と呼ぶ）、成分の配列順序すなわち語順を含める。狭義の主題マーカースは言語単位を表す主題提示機能をもつ音節成分で、文法上は形態あるいは助詞で表される。）

徐烈炯・刘丹青 (2007:71)

本論文で扱うのは狭義の主題マーカースである。具体的には、以下のような主題マーカースを研究の対象とする。

表 1 本論文で扱う主題マーカース

	日本語	モンゴル語
典型的な主題マーカース	は	bol
*非典型的な主題マーカース ・言葉の解説を行う 文の主題マーカース	① って ② とは、というのは	① geju ② gesen bol、gedeg bol
*非典型的な主題マーカース ・限定された叙述を行う 文の主題マーカース	① については（関しては）	① tuqai(tuqai bol)

<sup>1</sup> 中国国内では、ショローンフフ・ホショー（正藍旗）に代表されるチャハル方言が標準語として選ばれている。フフバートル(1993)によると、モンゴル語は中部方言、東部方言、西部方言、北部方言という4方言がある。チャハル方言は中部方言に属する。

### 0. 1. 2 本研究の目的

1) 日本語の主題マーカーとモンゴル語の主題マーカーの対照研究を通じて、両言語における主題マーカーの類似点と相違点を明らかにする。

2) 日本語と同様に、SOV 言語かつ膠着語であるモンゴル語の主題マーカーおよび主題に関する諸現象から、日本語の主題マーカーおよび主題の性格を突き止める。

### 0. 1. 3 意義

1) これまでに、モンゴル語の主題マーカーに関する研究は **bol** についてされているのみであり、その他の主題マーカーに関する研究は未だに殆どされていない。これに対して、日本語の主題マーカーについての研究はかなり進んでいるため、日本語の主題マーカーの視点からモンゴル語の主題マーカーを観察することで、モンゴル語に限った研究だけでは見えてこない現象が見えてくる。

2) 日本語とモンゴル語は、ともに SOV 言語で膠着語であるため、日本語とモンゴル語の主題マーカーの対照研究を行うことにより、日本語の主題マーカーの性質や特徴がはっきり見えてくる可能性もある。

3) 日本語とモンゴル語の主題マーカーの類似点と相違点を明らかにすることは、日本語教育にも寄与できると考えられる。特に、日本語学習者にとって学習しにくい項目の1つとされてきた日本語の「は」を、モンゴル語の **bol** と対照し、その相違を明らかにすることは、モンゴル語を母語とする日本語学習者への支援にもなるであろうと考える。

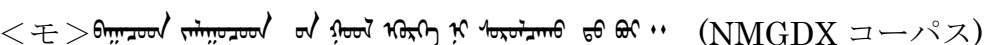
## 0. 2 研究方法

1) 本研究は同様に、SOV 言語かつ膠着語に属す日本語と、モンゴル語の主題マーカーについて記述する記述的研究である。

2) 日本語の主題を表す「は」と、モンゴル語の主題を表す **bol** の用いられる範囲については、益岡 (2008) の「属性叙述」と「事象叙述」の枠を援用する。複文の中の主題を考察する時、日本語とモンゴル語の複文の分類が異なるため、日本語の複文の分類に従う。日本語の複文の分け方も研究者によって異なるが、本研究は日本語記述文法研究会 (2008) の分類を踏襲する。

## 序 章

3) モンゴル語の用例はローマ字転写を読むのが苦手な読者のことを配慮し、次の(1)のように、一行目にいわゆる「ウイグル式モンゴル文字」で表記し、それを二行目にローマ字転写し、三行目に逐語訳し、四行目は日本語訳を付ける。一行目の「ウイグル式モンゴル文字」は、縦書きをするのが原則である。ただし、本研究は、横書きの日本語に合わせるために、すべての「ウイグル式モンゴル文字」を、次の(1)の一行目のような横書きにする。

(1) <モ>  (NMGDX コーパス)

bayačuud jalayučuud-un yool egürge ni surulča-qu-du bui.

少年 青年-GEN 主要 任務 は 勉強する-VN-DAT ある

(青少年の主な仕事は勉強することにある)

4) 用例はできるだけ実例を使い、その都度出典を示すが、作例や置き換えによる例文もある。モンゴル語の作例や置き換えによる例文は筆者の内省によるものである。モンゴル語の判断しにくい用例および、日本語の作例や入れ替えによる例文は、それぞれその言語の母語話者 5 人に用例の文法性判断を依頼した。

5) 本研究は日本語の典型的な主題マーカー「は」とモンゴル語の典型的な主題マーカーbolの主題を表す用法を考察する際、野田(1996)の枠組みを援用する。すなわち、格成分が主題になっている文、格成分の連体修飾部が主題になっている文、述語名詞の連体修飾部が主題になっている文、被修飾名詞が主題になっている文、節が主題になっている文、破格の主題をもつ文の 6 つに分けてみることにする。

### 0. 3 本研究の構成

本研究は「序章」と「終章」を含めて全部で 3 部、12 章から構成される。

**序章**——本研究の目的、対象、意義、研究方法、本論文の構成、使用する略号、表記を述べる。

## 第 1 部 日本語とモンゴル語の主題マーカーに関する先行研究

### 第 1 章 日本語の主題マーカーにおける研究史と研究の現状——日本語の典

## 序 章

型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーの研究の流れを概観する

**第2章 モンゴル語の主題マーカーにおける研究史と研究の現状**——モンゴル語の典型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーの研究の流れを概観し、その不備を指摘する。

### 第2部 モンゴル語の主題マーカー

**第3章 典型的な主題マーカーの主題表示機能**——モンゴル語の典型的な主題マーカーbolについて、主題マーカーと属性叙述文・事象叙述文、格成分が主題になっている文、格成分の連体修飾部が主題になっている文、被修飾名詞が主題になっている文、節が主題になっている文、破格の主題をもつ文の6つに分けて述べる。

**第4章 典型的な主題マーカーの非主題表示機能**——モンゴル語の典型的な主題マーカーbolの非主題表示機能について、対比表示機能、条件表示機能の2つに分けて述べる。

**第5章 非典型的な主題マーカーの主題表示機能**——モンゴル語の非典型的な主題マーカーについて、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカーの主題表示機能、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカーの主題表示機能の2つに分けて述べる。

**第6章 非典型的な主題マーカーの非主題表示機能**——モンゴル語の非典型的な主題マーカーの非主題表示機能について、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカーの非主題表示機能、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカーの非主題表示機能の2つに分けて述べる。

### 第3部 日本語とモンゴル語の主題マーカーの対照研究

**第7章 典型的な主題マーカーの主題表示機能**——日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカー「は」とbolの類似点と相違点について、主題マーカーと属性叙述文・事象叙述文、格成分が主題になっている文、格成分の連体修飾部が主題になっている文、述語名詞の連体修飾部が主題になっている文、被修飾名



## 序 章

詞が主題になっている文、節が主題になっている文、破格の主題をもつ文の 7 つに分けてみる。

**第 8 章 典型的な主題マーカ―の非主題表示機能**——日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカ―「は」と bol の非主題表示機能における類似点と相違点について、対比表示機能、条件表示機能の 2 つに分けて述べる。

**第 9 章 非典型的な主題マーカ―の主題表示機能**——日本語とモンゴル語の非典型的な主題マーカ―の主題表示機能における類似点と相違点について、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ―の主題表示機能、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ―の主題表示機能の 2 つに分けて述べる。

**第 10 章 非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能**——日本語とモンゴル語の非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能における類似点と相違点について、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ―の非主題表示機能、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ―の非主題表示機能の 2 つに分けて述べる。

**終章 まとめと今後の課題**——本研究のまとめを述べ、今後の課題について検討する。

## 序 章

### 略号<sup>2</sup>

1ST	first person 一人称	NP	non-past 非過去
2ND	second person 二人称	OPT	optative 希求
3RD	third person 三人称	PASS	passive 受身
ABL	ablative 奪格	PAST	past 過去
ACC	accusative 対格	PERF	perfective 完了
ASS	associative 連合	PL	plural 複数
CAUS	causative 使役	POSS	possessive particle 所有小辞
COL	collective 集合	PROG	progressive 進行
COM	comitative 共同格	QP	question particle 疑問小辞
COMP	completive 完成	REC	reciprocal 相互
CON	conditional 仮定	REFL	reflexive possessive 再帰所有
COO	cooperative 共同	TER	terminal 限界
CV	converb 副動詞語尾	TV	terminating verbal 終止語尾
DAT	dative-locative 与位格	VN	verbal nominal 形動詞語尾
DIR	directive 方向格	VOL	voluntative 意志
DOER	doer 行為者	WISH	wish 希望
FP	focus particle 焦点を表す小辞		
GEN	genitive 属格		
HAB	habitual 習慣		
IMP	imperative 命令		
IMPF	imperfective 未完了		
INST	instrumental 造格		
IV	intransitive verbalizer 自動詞派生辞		
MP	modal particle ムードの小辞		

---

<sup>2</sup> 略号は梅谷 (1999) によるものである。

序 章

表 記

母 音			子 音			
モンゴル	ラテン	ラテン	モンゴル	ラテン	ラテン	ラテン
語頭	語中	語尾	語頭	語中	語尾	
ᠠ	ᠠ	ᠠ / ᠠᠢ	ᠨ	ᠨ / ᠨ	ᠨ / ᠠᠢ	n
ᠡ	ᠡ / ᠢ	ᠡ / ᠠᠢ / ᠢ	ᠪ	ᠪ	ᠪ	b
ᠢ	ᠢ	ᠢ	ᠫ	ᠫ		p
ᠣ	ᠣ	ᠣ / ᠤ	ᠬ / ᠬ	ᠬ / ᠬ	ᠬ	q / k
ᠤ	ᠤ	ᠣ / ᠤ	ᠬ / ᠬ	ᠬ / ᠬ	ᠬ / ᠬ / ᠬ	γ / g
ᠥ	ᠥ / ᠦ	ᠣ / ᠤ	ᠯ	ᠯ	ᠯ	l
ᠦ	ᠥ / ᠦ	ᠣ / ᠤ	ᠮ	ᠮ	ᠮ	m
			ᠰ	ᠰ	ᠰ	s
			ᠱ	ᠱ		š
			ᠲ	ᠲ / ᠳ		t
			ᠳ	ᠳ	ᠳ / ᠳ	d
			ᠴ	ᠴ		č
			ᠵ	ᠵ	ᠵ	j
			ᠶ	ᠶ	ᠶ	y
			ᠷ	ᠷ	ᠷ	r
			ᠸ	ᠸ		w
				ᠨᠭ	ᠨᠭ	ng
			借 用 子 音			
モンゴル	ラテン	モンゴル	ラテン	モンゴル	ラテン	
ᠪ	f	ᠪ		ᠪ	k	
ᠬ	h	ᠬ		ᠬ	lh	
ᠳ	dz	ᠳ		ᠳ	ts	
ᠵ	zh	ᠵ		ᠵ	ch	
ᠱ	sh	ᠱ		ᠱ	rh	

## 第1部 日本語とモンゴル語の主題マーカーに関する先行研究

日本語の主題マーカーや主題については、これまで長い年月にわたってさまざまな観点とからめながら、夥しい量の研究が蓄積されてきた。「は」を中心とした研究には、「は」の用法の分類を目的としたものもあれば、「は」と「が」の使い分けの解明を目的としたものもある。「は」をもつ文の構造に焦点を当てた研究もあれば、「は」をもつ文の意味に焦点を当てた研究もある。また、「は」以外の周辺的な主題マーカーを対象とした研究も見られる。第1部では、日本語とモンゴル語の従来の主題マーカーに関する研究を、典型的な主題マーカーを対象とした研究と非典型的な主題マーカーを対象とした研究に分けて見ていくことにする。

第1章では、日本語の主題マーカー「は」に関する先行研究について見る。日本語の主題マーカーに関する研究を、典型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーに分けて見る。さらに、日本語の典型的な主題マーカーに関する研究の流れを、本研究の研究目的に合わせて、「は」の主題を表す用法に関する研究、「は」の対比を表す用法に関する研究、「は」の条件用法に関する研究の3つに分けて見る。

第2章では、モンゴル語の主題マーカーbolに関する先行研究について見る。モンゴル語の主題マーカーに関する研究を、典型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーに分けて見る。さらに、モンゴル語の典型的な主題マーカーに関する研究の流れを、本研究の研究目的に合わせて、bolの主題を表す用法に関する研究、bolの対比を表す用法に関する研究、bolの条件用法に関する研究の3つに分けて見る。また、最後に、先行研究の不備を指摘する。

## 第1章 日本語の主題マーカーにおける研究史と研究の現状

この章では、日本語の主題マーカーに関する従来の研究について、典型的な主題マーカーに関する研究と非典型的な主題マーカーに関する先行研究の2つに分けて述べる。

### 1. 1 日本語の典型的な主題マーカー

日本語の典型的な主題マーカーは「は」である。「は」についての従来の研究を、①「は」の主題表示機能に関する研究、②「は」の対比表示機能に関する研究、③「は」の条件用法に関する研究の3つに分けて述べる。

#### 1. 1. 1 「は」の主題を表す用法に関する研究

「は」の主題を表す用法について、構造的な観点からの研究と意味的な観点からの研究がある。以下で、構造的な観点からの研究は①格と主題の研究、②従属節の中の主題研究、③主題から見た文の種類の研究、④二重主語構文の研究、そして意味的な観点からの研究は⑤新情報と旧情報に基づく主題研究、⑥叙述類型に基づく主題研究、⑦措定と指定に基づく主題研究の順に見ていく。

##### 1. 1. 1. 1 格と主題の研究

ここで、「格と主題の研究」と呼ぶのは、「が」は主格を表す格助詞であるが、「は」は主格を表す格助詞ではなく、主題を表す助詞（係助詞）だとする研究である。

係助詞の研究史上まず注目すべきは山田(1908)である。山田は助詞を、格助詞、副助詞、接続助詞、係助詞、終助詞、間投助詞の6種に分けた(山田 1908:551)。

係助詞としての「は」は格助詞とは別のレベルのものであることを指摘したのは山田である。氏が係助詞と呼んでいるものには、「は」、「も」、「ぞ」、「なむ」、「こそ」、「や」、「か」、「な」(山田 1908:612)が含まれる。「は」は陳述に勢力を及ぼす係助詞の1つであり、「は」に対する結びは、文語では終止形、口語では連体形であるとして、節の組成に関係する「が」などの格助詞と区別する。また、

「は」は格助詞に附属したり格助詞の代理となったりすると指摘している。格助詞の代理となったりするという指摘は、三上の「は」は格助詞を「兼務する」という指摘の先駆的発言でもある。

佐久間(1940)は、基本的に松下の「題目説」を受け継ぎ、「は」と「も」を提題の助詞と名付けて詳しく論じている。佐久間によると、「は」は特説の助詞で、「も」は共説の助詞である。氏は「は」の働きについて、「「は」は「非現場」において提題の役割をつとめると共に、その提起した題目について残りなく行きわたることを示すというところに本領をもつ」と述べている。

佐久間は、「「は」は排他的で、事物を判然と指定し、他と混乱するのを防ぐ」と見た山田義雄の説に対して、「助詞「は」の職能を排他的と名づけるのは、行き過ぎている」と反論する。

### 1. 1. 1. 2 従属節の中の主題の研究

山田(1936)は、従属節の中の「は」と「が」の異なる振る舞いについては次の(1)と(2)の例文をあげて、「は」と「が」の係りかたの違いを説明している。

(1) <日>鳥が飛ぶ時には空気が動く。 (山田 1936:490)

(2) <日>鳥は飛ぶ時に羽根をこんな風にする。 (山田 1936:490)

山田は、(1)の「が」の勢力は従属節の中の「飛ぶ」までしか及ばないのに対して、(2)の「は」は従属節の中の「飛ぶ」と直接関係しないで、「羽根をこんな風にする」という陳述と結び付くという。これは、主格の「が」は「時」の節の中に現れるが、主題の「は」は「時」の節の中には現れないということである。

南(1974)は、従属句をA類、B類、C類の3種類に分け、B類の従属句には対比の意味を表す「は」と打ち消しの強調の「は」が現れるが、主題の「は」は現れない。C類の従属句には主題の「は」が現れることを指摘した。

野田(1998)は、従属節を従属句、強い従属節、弱い従属節、引用節の4種類に分け、従属句および強い従属節の内部には主題の「は」は現れないが、弱い従属節および引用節の内部には主題の「は」は現れることを明らかにした(次の表は野田(1996:171)によるものである)。

表1 従属節と「は」「が」

種類	代表例	が	は
従属句	付帯状況句(～ながら、～まま、～て)、継起句(～て、～[連用形])	×	×
強い従属節	継起節(～と、～たら、～て、～[連用形])、仮定節(～たら、～(れ)ば、～と、～ては、～ても)、様態節(～ように、～ほど)、時間節(～とき、～まえに、～あとで、～まで)、連体修飾節(～[名詞])、名詞節(～こと、～の、～か)、理由節(1)(～ため、～て、～から(焦点)、～ので(焦点)、～のに(焦点))	○	×
弱い従属節	理由節(2)(～から、～ので、～のに)、並列節(～て、～[連用形]、～し、～けれど、～が)	○	○
引用節	引用節(～と、～って)	○	○

### 1. 1. 1. 3 主題から見た文の種類の研究

「は」と「が」は次元の異なる助詞で、同次元で安易に比較してはならないという見方が支配的になった時、「は」と「が」の近似性が頻繁に問題になることを説明しようとして現れたのがこの類の研究である。

松下(1928)は、文を「有題断句」と「無題断句」に分け、「は」と「も」は題目語であると規定した点、先駆的な指摘をした研究と言える。松下は、山田(1908)の「提示語」(「は」を提示語と呼んだ)という用語を継承し、提示語を「題目語」「係語」「特提語」の三つに分ける。題目語には「は」と「も」がある。主題には「分説」「合説」「単説」の3種類があり、分説は「は」で表され、合説は「も」で表され、単説は $\phi$ で表されるとする。

三尾(1948)は、文を「場」との関係から「場の文」「場をふくむ文」「場を指向する文」「場と相補う文」の4種類に分けて考えた。野田(1998)にも指摘があるように、三尾のこの分類は、もともと「場」との関係で文を分類したものであるが、いつのまにか主題による分類にすりかわっていった。つまり、判断文は主題をもつ文のことで、現象文は主題をもたない文のことだという意識が広まっていった。

- (一) 場の文・・・・・・・・現象文 →雨がふっている。
- (二) 場をふくむ文・・・・・・・・判断文 →それは梅だ。
- (三) 場を指向する文・・・・・・・・未展開文 →あ！雨だ！
- (四) 場と相補う文・・・・・・・・分節文 →考えているのだ。

三上(1953)は、文を「名詞文」と「動詞文」に分けて考えた(三上の「名詞文」には名詞述語文と形容詞述語文が含まれる)。三上によると、動詞文は係助詞「は」

がなくても完全でありえるのに対して、名詞文は「は」に助けられるのを原則とする。

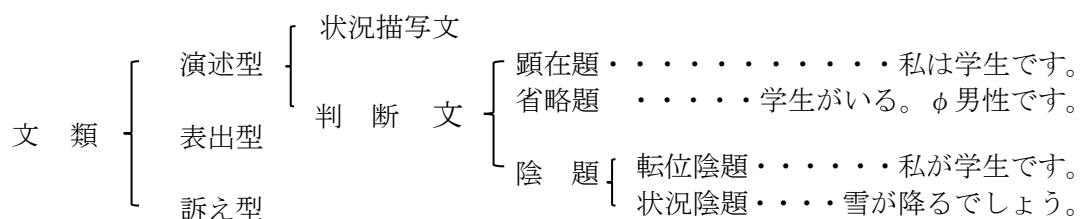
三上は、「主題化」という操作によって主題になったものがもとはどんな成分であったかを分析した。氏は主題になるのは「が」「を」「に」などの格成分だけではなく、「Xのx」の「Xの」や「Xのx」の「のx」も主題になると考えた。

三上は、「は」には上述のように格助詞の代行となる場合と、以下の例文のように、格助詞の代行となりにくい場合があると考えた。これは、野田(1996)が指摘する「破格の主題」に相当するものである。

(3) <日>コレハ寝スギタ。シクジッタ。 (三上 1972: 100)

(4) <日>コレハ、道ヲマチガエタカナ? (三上 1972: 100)

仁田(1979)は、文類型を「表出型」「訴え型」「演述型」の3つに分け、「演述型」に属する「判断文」は有題文であると主張する。氏は有題文である判断文をさらに「顕在題」「省略題」「陰題」に分け、「顕在題」は主題の「は」によって提示されることを提案した。仁田の文類型をまとめると、以下のようになる。



野田(1996)は、文のどの成分が主題になっているかで、「格成分が主題になっている文」「格成分の連体修飾部が主題になっている文」「述語名詞の連体修飾部が主題になっている文」「被修飾名詞が主題になっている文」「節が主題になっている文」「破格の主題をもつ文」の6種類に分けて詳しく述べている。

(5) <日>父はこの本を買ってくれた。 (格成分が主題)

(6) <日>象は鼻が長い。 (格成分の連体修飾部が主題)

(7) <日>かき料理は広島が本場だ。 (述語名詞の連体修飾部が主題)

(8) <日>辞書は新しいのがいい。 (被修飾名詞が主題)

(9) <日>花が咲くのは7月ごろだ。 (節が主題)

(10) <日>このにおいはガスが漏れてるよ。 (破格の主題)



#### 1. 1. 1. 4 二重主語構文の研究

二重主語構文の研究には、構文の主格を中心とした「～が～が……」についての研究と、構文の主題を中心とした「～は～が……」「～が～が……」についての研究という2種類がある。ここで見たいのは後者、すなわち、構文の主題を中心とした研究である。以下、杉本(1995)の「～が～が……」文、菊地(1995)と野田(1996)の「～は～が……」文の順で見えていくことにする。

杉本(1995)は、「～が～が……」文を大主語構文と呼び、「～は～が……」という主題文も大主語化を経てから主題化されたものであると考えた。また、主題化が不可能な要素の場合は、大主語化も不可能であると考えた。

菊地(1995)は、「XはYがZ」文を「基本型」「包含型」「変種型」「特定類型」の4種に分け、これらをさらに細かく分類した。基本型には「格対応型」「の対応型」「従属節対応型」の3類、包含型には「選び出し型」「同定型」「(包含～)状況説明型」「細分並列型」「その他の包含型」の5類、特定類型には「内容説明型」「方法説明型」「(非包含-)状況説明型」「結果展開型」「背景解析型」「作品・結果の、内容・経緯説明型」「解析／批評型」の7類がある。

菊地の「XはYがZ」文は、主題化という派生プロセスを想定できるのは「基本型」の主題文だけで（「基本型」というのは格助詞や「の」に還元できるもの）、残りの「包含型」「変種型」「特定類型」の3種類は主題化という派生プロセスで説明できない主題文である。

野田(1996)は、「～は～が……」構文を構造と機能の両面から見ている。「～は～が……」構文は、構造の面から「格成分・副詞的な成分が主題」「格成分の連体修飾部が主題」「述語名詞の連体修飾部が主題」「被修飾名詞が主題」「従属節の中の成分が主題」「破格の主題」の6種類に、機能の面から「叙述型」と「選択型」の2種類に分けられると考える。構造の面からの6種類に関する例文は「主題になる成分の研究」の(5)～(10)を参考されたい。ここで、「叙述型」と「選択型」の2種類に関する例文をあげることにする。

叙述型の「～は～が……」構文というのは、(11)でいえば、主題「象は」について、「～が……」の部分「鼻が長い」で叙述するものである。叙述型の「～が」は総記の意味、すなわち、排他的な意味をもたない。これにたいして、選択型の「～は～が……」構文というのは、主題と述語に当たるものを、「が」で選択する

もので、たとえば、(12)は「かき料理の本場」に当たるものを「広島」と選択している。

(11) <日>象は鼻が長い。 (野田 1996:30)

(12) <日>かき料理は広島が本場だ。 (野田 1996:42)

### 1. 1. 1. 5 新情報と旧情報に基づく主題研究

新情報と旧情報に基づく主題研究と呼ぶのは、既知・未知、新情報・旧情報という視点から「は」と「が」の相違を説明するものである。この説を大きく分けて、主題が既知、解説(述部)が未知という一文内に見た「文内既知・未知、新情報・旧情報」説と、文脈の中で見る「文脈的既知・未知、新情報・旧情報」説の2種類に分けることができる。以下、従来の新情報と旧情報に基づく主題の研究について、この2種類に分けて見ることにする。

#### 1) 文内既知・未知、新情報・旧情報説

松下(1928)は既定・不可変、未定・可変、旧概念などの用語を用いて主題との関係を説明した。これははじめて既知・未知、新・旧という情報構造の観点から主題および主題マーカーに言及した研究である。この文内情報構造説は後に多くの研究者に受け継がれ、文脈的既知・未知、新情報・旧情報へと変容することになる。

松下によると、未定、可変の概念を表すには必ず平説態(無題文)を用いる。主題になるものは既定のもので、その主題文の述部は未定、可変、自由なものである。未定、可変、自由なものは絶対に主題にならない。

未定、可変の概念を連用的概念として表す場合には必ず平説態を用いる。判定の対象は判定の前から既定動かすべからざるものである。所が判定に使ふ材料は判定の都合で説話者が勝手に使ふのであるから、未定、可変、自由なものである。此の未定、可変、自由なものは絶対に題目にはならない。其れへ若し題目態を使つたら飛んでもない意味になる。

(松下 1928:773)

また、氏は、主題は述部に先立って定められるので、述部に対して旧概念であるということも指摘している。氏は「題目は即ち問題である。判定の対象の予定的提示であるから解説に先立って先ず定められ、そうして解説を要求する。先ず定められるから旧概念となる。旧概念となるから倒置法でない限り必ず判定語より先に云はれる。」(松下 1928:772)と指摘している。

三上(1953)は、情報構造の観点から松下大三郎、佐久間鼎と同趣旨のこと、すなわち、「主題は既知で消極的、解説は未知で積極的、重点はいつも解説にある。だから主題を欠く解説にも結構意味があり得るが、解説を欠く主題は全く無意味である」と述べている(三上 1953:81)。氏の「主題は既知」であるということは主題を表す「は」は既知の情報を提示するということである。

## 2) 文脈的既知・未知、新情報・旧情報説

久野(1973)は「新しいインフォメーション」「古いインフォメーション」という用語を用いて「は」と「が」の相違を説明している。久野は、「は」で提示される主題となる名詞句は総称名詞句か、すでに話題にのぼっている事物を指す文脈指示名詞句でなければならない。ただし、対比を表す「は」で提示される名詞句はこのような制約がないという。

大野(1978)は、「は」と「が」を考える時に、言葉の上での文脈、さらに、事実の上での文脈(話し手と聞き手との間で、言語以前の事実についてどんな諒解が存在したのか)について深く考えるべきだと述べる(大野 1978:22)、文は既知と未知の組み合わせであると主張する。

氏によると、文表現には、既知と未知という2つの要素があり、文はその2つの要素の組み合わせによって「既知+未知」「既知+既知」「未知+既知」「未知+未知」の4種類がつくられる(大野 1978:24)。また、「は」による主題文は「既知+未知」「既知+既知」の形をとるが、その大部分は「既知+未知」だとする。

北原(1981)も、大野晋(1978)と同じく、新情報・旧情報を文脈的にとらえ、「～は」はすでに知られている古い情報を表し、「～が」はまだ知られていない新しい情報を表すという(北原 1981:253)。北原が指摘する既知・未知と「は」「が」との関係は以下のようなものである。

- 1) 既知 は 未知
- 2) 未知 が 既知
- 3) 未知 が 未知
- 4) 既知 は 既知

(北原 1981:258-260)

### 1. 1. 1. 6 叙述類型に基づく主題研究

叙述類型に基づく主題研究と呼ぶのは、文を属性叙述文と事象叙述文に分け、主題を表す「は」は属性叙述文にも事象叙述文にも用いられる。属性叙述文に用いられる「は」は「文内主題」を表し、事象叙述文に用いられる「は」は「談話・テキスト主題」を表すというものである。以下、佐久間(1940)、佐久間(1941)、益岡(1987・2000・2004・2008)、野田(1996)、影山(2012)の順に見ていく。

佐久間(1940)は、表現の様式に「事象の叙述」と「事案の判定」の区別があり、「は」と「が」はこの表現様式において、用法が異なると指摘した。佐久間(1941)は、佐久間(1940)の「事象の叙述」と「事案の判定」を改めて、「品定め文」と「物語の文」という異なる類型をたてた。佐久間によると、品定め文は「(何々)は(こうこう/何か)だ」という構文様式を取り、そこでは、主部に「(何々)は」という提題の形式が現れる。物語文は「(何々)が(どうか)する/した」という構文様式を取るとされる。

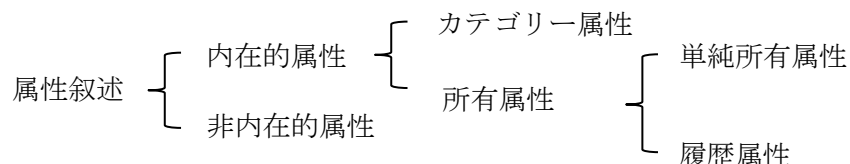
益岡(1987)は、叙述には「属性叙述」と「事象叙述」の2種類ある、属性叙述をさらに「内在的属性叙述」と「非内在的属性叙述」に分類することができる、属性叙述文は「有題性」という特徴をもつ、属性叙述文は「主題」(名詞+は)の形式で表されると指摘した。

益岡(2000)は、叙述には益岡(1987)が取りあげた「属性叙述」「事象叙述」以外に、「指定叙述」があると考えた。また、「指定叙述」には「ハ指定文」と「ガ指定文」の二種類があり、「ハ指定文」(幹事は私です)も「ガ指定文」(私が幹事です)も属性叙述文ではない、属性叙述を表現する文の構造上の特徴は、原則として「XはY」という有題の形式をとるといふ。

益岡(2004)は、属性叙述文に用いられる「は」を、文内部的事情により与えられているという意味で「文内主題」と呼び、事象叙述文における主題を、文外

部の事情、すなわち、「談話・テキスト」により与えられているという意味で「談話・テキスト主題」と呼び、属性叙述は「主題」(topic)+は+「解説」(comment)の形で表されると述べた。

益岡(2008)は、属性叙述について、次のような下位分類を行った。



金水(1995)は、古代日本語は、「語りのハ」があまり使われないことについて、文類型の角度から分析をした。「語りのハ」は事象叙述文で使われる主題提示の「は」のことで、古代日本語には「語りのハ」が発達していなかったとする。氏は、古代日本語に「語りのハ」が発達しなかった理由について、以下のように説明する。

(前略) 語りのハの発生をめぐってハがこうむった変化は、ハの内的必然性によるというよりは、無助詞や主語の不提示といった他の文法的手段の消長との相関において、自然に浸出的に形成されてきたものであると見るべきであろう。その意味で、ハは変わったとも言えるし、変わっていないとも言えるのである。(金水 1995:79)

野田(1996)は、主題を「判断の主題」と「関連の主題」に分けて考えている(野田 1996:279)。これは、主題を表す「は」は「判断の主題」と「関連の主題」の両方にまたがる使い方があるという意味である。基本的に、野田の「判断の主題」は益岡の「文内主題」に、「関連の主題」は「談話・テキスト主題」に当たるものである。

- 1) 判断の主題——その時以外のことも考えた判断の対象を表す。
- 2) 関連の主題——前の文脈や話の場面と関連があることを表す。

影山(2012)は、益岡の叙述類型を援用して、属性叙述文と「は」との関連性を説明した。影山は、多種多様な属性叙述文(コピュラ文、青い目をしている構文、動作主複合語、「一づらい」構文、属性可能文、「そびえる」構文)を観察した上で「属性

叙述文の見かけ上の統語構造は多種多様であるが、意味解釈は「X（主題）はY（述部）である」という意味構造に収斂する」と結論づけた。

### 1. 1. 1. 7 措定と指定に基づく主題研究

措定と指定に基づく研究というのは、主格名詞と述語との意味的な関係に基づいて「は」と「が」の使い分けを説明しようとする研究のことである。つまり、措定文の場合は「は」だけが使われ、指定文の場合は「は」か「が」が使われるというものである。

最初に措定と指定という用語を使って研究を行ったのは三上(1953)である。三上は、名詞述語文を「措定」「指定」「端折り」の3種類に分けた(「端折り」文というのは「僕は紅茶だ」のようないわゆるウナギ文である)。三上は、次の(13)のような「は」の文と、その次の(14)のような「は」の文の違いを指摘している。

(13) <日> 私は幹事です。

(14) <日> 幹事は私です。

三上によると、前の(13)のような文は「私」について「幹事だ」と解説をする措定文なので、次の(15)のような「が」の文に変えることはできない。それに対して、前の(14)のような文は「幹事」と「どれ」の一致を認定する指定文なので、次の(16)のような「が」の文に変えることができる。

(15) <日> \*幹事が私です。

(16) <日> だれが幹事ですか？ (私が幹事です)

西山(1985)、上林(1988)、熊本(1989)は、三上の措定と指定をさらに精密化している。この3人は「指示名詞句」「叙述名詞句」という概念を用いて名詞述語文を説明する。「指示名詞句」といのは、「太郎は学生です」の「太郎」のような指示対象が特定できるもので、「叙述名詞句」というのは、「学生です」のような叙述をする名詞のことである。

三人とも次の(17)のような措定文の主語名詞「太郎」は指示名詞句あるいは総称名詞句でなければならないし、述語名詞「学生」は叙述名詞句でなければならない。それに対して、その次の(19)のような倒置指定文(三上の「指定文」に相当する)の主語名詞「学生」は非指示的名詞句で、述語名詞「太郎」は指示名詞句であると説明する。また、(19)のような「倒置指定文」は(18)のような「～が

～だ」に変えることができるという。

(17) <日> 太郎は学生だ。 [措定]

(指示) (叙述)

(18) <日> 太郎が学生だ。 [指定]

(指示) (叙述)

(19) <日> 学生は太郎だ。 [倒置指定]

(叙述) (指示)

(上林 1988: 64)

### 1. 1. 2 「は」の対比を表す機能に関する研究

「は」の対比を表す機能に関する4種類の先行研究について、1つ目は「は」に2種類の対比があると見た研究、2つ目は「は」に対比を表す用法があると見た研究、3つ目は「は」の対比を表す機能を基本と見た研究、4つ目は「は」で対比を表せる成分に注目した研究に分けて見ることにする。

#### 1. 1. 2. 1 「は」に2種類の対比があると見た研究

山田(1908)は、「は」を提示語（「提示語」という用語は後の松下大三郎の見解の先駆的な発言である）と称し、「「は」は其の意義排他的にして、事物を判然と指定し、他と混乱することを防ぐ為に用いられる。」(山田 1908:651)と述べている。山田がいう「排他的」というのは「対比」を意味していることは尾上(1979)でも指摘されている。これは、「は」が付いた語のみが対比的に使われるということである。

山田は、「は」の助詞が主語だけではなく、述語も対比的にとりたてることあることにも言及している。

松尾(1936)も、山田と同様に、「は」の対比を表す用法には次の2種類があると主張する。

(甲) はの附いた上の語が表す物と其に類似した物を区別する場合

(乙) 其のはの係結をして居る全文（又は「は」を含んだ前句）と之に類した事柄を表す全文（又は全句）とを区別する場合の、二種類に分けて考察しなければならない。 (松尾 1936:420-421)

1. 1. 2. 2 「は」に対比を表す用法があるとみた研究

山田氏と松尾氏が「は」の対比を表す用法に2種類あると指摘したのに対して、時枝(1950)、亀井(1955)、杉崎(1968)、松村(1969)、鈴木(1972)などは、「は」には対比を表す用法があるということのみに言及している。

時枝(1950)は、辞は上接する詞を包み、統一するという「入子型構文」を提唱した。この結果、「は」の係助詞やその本質というものは時枝文法には登場しない。時枝文法では、「は」の辞としての性格は、直上の詞に対する意味的な働きによってのみ理解されることになる。時枝氏は「は」助詞を「格を表す助詞」と「限定を表す助詞」とに分けた。

「格を表す助詞」というのは、次の(20)のように、「感情的なものは無く、殆どすべてが、論理的思考の表現」であるとしている。

(20) <日> 万葉集は歌集である。 (時枝 1950:219)

「限定を表す助詞」というのは、(21)「甲は勉強している」という文で言えば、甲の他に、乙も丙も勉強している場合、あるいは、甲以外は乙も丙も勉強していない場合などである。このように、対比の色が強い場合は「限定を表す助詞」になるとする。

(21) <日> 甲は勉強している。 (時枝 1950:219)

亀井(1955)は、「は」を「副助詞」「終助詞」「接続助詞」の3つに分けて見ている。氏は「は」の意味を重視し、「種々の語に付き、他を排して、あるものを強調するに用いる」と指摘する(亀井 1955:144)。「終助詞」の「は」というのは「発話者の主観的感情を文全体に加える」もので、「接続助詞」の「は」というのは「順接条件を表す」ものである。

杉崎(1968)は、助詞「は」について、「とりたて」「文末用法」「仮定条件用法」の3つの視点から考察を行い、「は」の対比を表す機能を強調している。

- A. ある事柄を取り立てて、特にはっきりと指示・強調する。従って、他と区別するという結果ともなる。
- B. 文末に用いて感動の意を表す。
- C. 形容詞型活用語、さらに助動詞「ず」の連用形について、未然形に「ば」のついた場合と同様の、仮定条件を表わす。

(杉崎 1968:184)



松村(1969)は、係助詞「は」と「も」が現代語に残りえた理由は「他の係助詞のように曲調終止にかかわらない」ことと関係があると述べた上で、「は」は区別することに特徴があり、係助詞「こそ」に通じるところがあると述べる。

(前略)「は」はよくいわれるようにやはり区別するところに特徴があり、その点では係助詞「こそ」に通じるところがある。

(松村 1969:591)

### 1. 1. 2. 3 「は」の対比を表す機能を基本とみた研究

前の1)と2)では、「は」に対比を表す用法があることを主張した研究を取りあげた。次の鈴木(1972)、尾上(1981)、益岡(1987)、寺村(1991)、野田(1996)などは、「は」の対比を表す機能を基本と見る研究である。

鈴木(1972)は、「名詞+は」や「名詞+格助詞+は」の形で使われるものはすべて対比を表すものだと見ている。すなわち、「は」「も」「さえ」は名詞の格に付く「第一種とりたてのくつつき」である。氏は、「は」のついた形はすべて対比で、対比の意味がほとんど感じられない場合は主題を表すと主張する。

尾上(1981)は、「は」の意味的特性は「排他性」で、文法的働きは「二分結合」であることを指摘した。氏によれば、「は」の排他性は係助詞としての文法的働き(二分結合)と一体にして理解しなければならない。「排他」とは、第一に、二項の結合、すなわち句全体の他からの特立であり、第二に、「は」のすべての用法において指摘できる意味的特性である。

“提題”の根底には常に意味としての排他性があるのであって、“提題”の「は」には“対比”の気持ちは全くないとか“対比”の「は」には絶対に“提題性”は感じられないとか言い切れるものではない。文の表面に“対比”の色が希薄な場合ほど「は」の表現論的機能としての“提題性”が強く意識されるということである。

(尾上 1981:112)

益岡(1987)は、「は」の構造的特性を「二分化」(「二分結合」)とし、意味的特

性を「対比（分説性）表示」という考え方に立ち、「は」は対比する働きを基本とし、対比の意味が弱い場合は主題提示の働きをすると指摘した。

本稿の主眼は、助詞「は」の提題の用法と対比性（分説性）表示の用法の間の関連性を探ることにあつた。その探求の中から、「は」は当該の事態を他の事態と対比する働きを基本とし、そこから「二分化」（「二分結合」）の介入によって対比主題を表し、さらにその延長線上に主題提示の働きが位置づけられるという道筋が浮かび上がってきた。これを一言で表せば、本稿の標題である「対比性表示から提題へ」ということになる。

（益岡 1987:121）

寺村(1991)は、「は」の表現機能について、対比的な意味をもつ場合と、単なる主題を表す場合があることを認め、その上で「は」の「対立的対比の表現」をその機能の基本と見て、主題提示をその特別な場合とする。

本書では、「ハ」の、文中のある要素をとくに際立たせ、ある対比的効果を生じさせる働きを基本と見、それがあつた条件下で、対比の相手である影の存在が意識されず、単にそこに聞き手の注意をとくに惹きつけ、あとの陳述と結びつけるだけの場合を、「(単なる) 主題」を表すものとする。

（寺村 1991:41）

野田(1996)は、「は」を構造と意味の視点から論じた。構造的には「二分」、意味的には「対比」という働きがあるとする複合説を提唱する(野田 1996:275)。

(ア) 構造的には、その前と後を大きく2つの部分に分ける。

(イ) 意味的には、対比的な意味を付け加える。

また、野田氏は、対比には明示的な対比と暗示的な対比があると述べている。明示的な対比というのは、対比の相手が文の中にあるもので、暗示的な対比というのは、文の中に対比の相手が出現していないが対比の相手が想定できるものである。

#### 1. 1. 2. 4 「は」で対比を表せる成分に注目した研究

ここで、「は」で対比を表せる成分に注目した研究について、青木(1992)、野田(1996)、日本語記述文法研究会(2009b)を取り上げたい。

青木(1992)は、「は」で表せる対比について、格成分、連用修飾成分、述語成分の二分結合などの観点から考察している。

青木は、「は」で表せる格成分を、文型対比、文脈的対比、他はともかくという対比の3つに分けて考えた。連用修飾成分に下接して対比を表す「は」については、情態修飾成分(形容詞・形動詞の連用形、情態副詞)、程度修飾成分、限定修飾成分の3つに分けている。述語成分の二分結合については、述語句の二分結合、述語の動詞・形容詞の二分結合、補助動詞の二分結合、助動詞ダの二分結合の4つに分けて見ている。

野田(1996)は、「は」で対比を表せる成分について、対比を表せる格成分、対比を表せる副詞的成分、対比を表せる従属節、対比を表せる述語成分の4つに分けて見ている。

氏は、対比の「は」が付くか付かないかについて、それぞれの成分と述語との結びつきの強さによると考えた。すなわち、述語との結びつきが強い成分と、述語との結びつきが弱い成分には対比を表す「は」が付かない、述語との結びつきが中間的な成分には対比を表す「は」が付くということである。

日本語記述文法研究会(2009b)は、「は」で対比を表せる成分について、格成分、副詞的成分、従属節、述語の4つに分けて考えている。この分類法は、ほぼ野田(1996)の分類と同じである。

また、日本語記述文法研究会(2009b:31-32)は、「は」が対比の意味になる要因として、次の4つの要因をあげている。

第一に、「は」が付く成分が述語に近い位置にあるほど、対比の意味になりやすい。

第二に、「は」が付く成分の種類である。「は」が付く成分が基本語順で述語の近くにあるものほど対比の意味になりやすい。

第三に、「は」が付いた名詞の種類である。「は」が付いた名詞がそれと対になる名詞を思い付きやすいものである場合、対比の意味になりやすい。

第四に、音声的な要因である。「は」の含まれる成分が音声的に強調されると、対比の意味になることがある。

### 1. 1. 3 「は」の条件用法に関する研究

日本語では、主題マーカー「は」と条件表現との融和は古くからしばしば取り上げられてきた。ここでは、「は」と条件表現との派生関係に触れている先行研究を概観することにする。

松下(1928)は、「動詞の拘束格と放任格とは本来題目態である」と指摘している。氏が指摘している「題目態」には、「分説」(「は」)、「合説」(「も」)、単説(ゼロ接辞)の3種類ある。松下によれば、拘束格は第一活格又は第五活格へ「ば」を付けてこれを示す。拘束格には仮定拘束格、確定拘束格の2種ある。放任格には「とも」「ども」の2種類あり、仮定放任格と確定放任格に分けられている。松下は主題マーカーと条件表現の関係について、以下のように述べている。

動詞の拘束格と放任格とは本来題目態である。

「——ば」・・・・・・・・分説	花咲かば	花咲けば
「——とも」「——ども」・・・・合説	鼻咲くとも	花咲けども
「——と」「——ど」・・・・単説	花咲くと	花咲けど

古文の「ば」の無い拘束格は単説である。口語の「風が吹くと寒い」などいふ「吹くと」の類も単説である。

松下 (1928:713-714)

亀井(1955)は、「は」「ば」は順接条件を表す接続助詞で、次のような接続用法があると指摘している。

1) 上句の内容が、下句の内容に対して、仮定または不確定の条件である場合、上句の述部が、動詞あるいは補充形容詞の場合は、未然形に「ば」が付く。また、上句の述部が完全形容詞(または不完全形容詞)の場合には、連用形に「は」が付く。否定の助動詞の場合には、「ずは」の形をとる。

(22) <日>をらば おちぬべき はぎの つゆ ひろはば きえなむと  
する たまざさ(笹ノ美称)の 上の あられ(源氏、帚木)

(23) <日> わが いほは みわの やまもと こひしくは とぶらひ き  
 ませ すぎ たてる かど (古今、十八)

(24) <日> いつまでか のべに こころの あくがれむ 花し ちらずは  
 千代も へぬべし (古今、二)

(亀井 1955:145-146)

2) 上句の内容が、下句の内容に対して、既定または確定の条件である場合、  
 上句の述部の已然形に「ば」を付ける。

(25) <日> ときはなる まつの みどり (常緑の松の若い枝) も はる くれ  
ば (春がくると) いま ひとしほの いろ まさりけり (古今、一)

(亀井 1955: 146)

渡辺 (1971) は、仮定条件と「は」との関係について次のように示している。  
 渡辺の分類から見ると、「は」と「ば」は順接仮定条件を表すのに用いられる。  
 「は」は「並列形(て形)+は」の形で順接仮定を表す。

仮定条件	順態	並列形+接続助詞「は」	読んでは	静かでは
		接続形	読めば	静かなら (ば)
	逆態	終止形+指定助動詞接続形	読むなら (ば)	
		並列形+接続助詞「も」	読んでも	静かでも

三上(1953)は「何々は」も「源太ト来タラ 向ウ見ズダカラナ」「平次ト言エ  
 バ もう来サウナモンダガ」「藤三ッテ (バ) 今日ハドウカシテルヨ」のよう  
 な仮定法の仲間として見なければならぬとしている(三上 1953:206-207)。

また、氏は「仮定法から提示法へ、形式にはちよつとギャップがあるけれど  
 も、心持にはほとんど隙間が感じられない。」とし、次の例をあげている。

行クト ミカンダト実ヲ食べ、金柑ダト皮ヲ食ベル  
 行ッテハ ミカンデハ実ヲ食べ、金柑デハ・・・・・・・・  
 行ケバ ミカンナラ実ヲ食べ、金柑ナラ・・・・・・・・  
 —— ミカンハ実ヲ食べ、金柑ハ・・・・・・・・

此島(1973)は、「は」「も」は主題を表す係助詞だと論じた上で、「は」「も」と  
 条件節との関係に言及している。氏によると、順接条件の「ば」は「は」の変  
 形であり、逆接条件の「とも」「ども」「けれども」の「も」は係助詞「も」を  
 添えたものである。順接「ば」の条件節中では「も」が多く用いられて「は」

は用いられず、逆接条件節中では「は」が多く用いられて「も」は少ない。特に「は」が順接「ば」の句中では殆ど用いられず、逆接句中で極めて多く用いられるのは、「は」の意義が逆接陳述と深い関係のあることを示しているとする。

青木(1992)は、条件を表す「は」には接続助詞的性格と主題提示に近い用法があると指摘している。氏は条件用法の「は」を既定順接条件用法と仮定順接条件用法に分けてそれぞれの特徴を記述している。

青木によると、既定順接条件の「は」は「状況題目提示」(場所・時+には/では)に近いが、「状況題目提示」と異なるところもある。すなわち、「状況題目提示」は「体言+格助詞+は」の形で提示されるのに対して、既定順接条件の「は」は「用言+て+は」の形で提示される。既定順接条件の「は」が用いられる文は、コトとしての事柄同士が並列され、しかも両者の間に意味的因果関係が認められるのであれば、これはもはや接続関係と見なし得る。条件を表す「は」はこのように接続助詞的性格を獲得し、接続助詞「～ば」に変わったとする。

また、氏は、仮定順接条件を表す「は」は、もちろん普通には主題提示用法であるとは見なさないが、「娘をおだてることは困ります」などの例は、主題提示用法によって表現されたのと、事態の意味は変わらない。表現としては極めて近いが、違うのは、主題提示用法の場合には、事態をモノとして提示しているのに対して、仮定順接条件用法の場合には、動作をそのままコトとして提示している点であると指摘している。

有田(1992)は、主題文「名詞句+は」がどのような場合に条件的解釈を受けやすいのかについて述べている。聞き手の中に存在がはっきりしない相手に向かって発話する場合は「名詞句+は」は条件的解釈になるという。たとえば、(26)で言えば、「新聞を読みたい人がいるかいがないか、話し手がはっきり分からない場合(26)を発すると(27)の条件文に近い。

(26) <日>新聞を読みたい人は、ここにあります。

(27) <日>新聞を読みたければ、ここにあります。

大島(1995)は、「「は」をもつ文「A は P」は条件文「A (である) ならば P」の変形として考えることができる。」(大島 1995:126) と述べ、「A は P」文が条件文に近い意味をもつ典型的な例として次の例をあげる。

(28) <日>『クレヨンしんちゃん』を知らないんですか？ 幼稚園の子はみんな

な知っていますよ。 [=幼稚園の子ならばみんな知っている]

(大島 1995:126)

阪倉(1993)は、古代日本語の条件表現は、動詞や形容詞や否定の助動詞に助詞の「は」を添えて表していたことについて詳しく述べている。氏によると、現代日本語の条件を表す「～ば」は、「は」から発展変化したものである。阪倉(1993)を簡潔にまとめると、以下のようである。

- 1) 動詞の第一活用形に助詞の「は」を添えた「～未然形+は」は仮定条件の前件を表していた。
- 2) 動詞の第五活用形に助詞の「は」を添えた「～已然形+は」は確定条件の前件を表していた。
- 3) 形容詞の連用形に助詞の「は」を添えた「～くは」は仮定条件の前件を表していた。
- 4) 否定の助動詞「ず」に助詞の「は」を添えた「～ずは」は仮定条件の前件を表していた。

丹羽 (2006)は、「仮定条件と題目との共通性」という節をたてて、両者の共通性について指摘している(丹羽 2006:274-275)。丹羽の指摘をまとめると、次のようになる。

1) 「S なら T」などの仮定条件文は、「S という世界を設定して、その世界でどんなことが成り立つか」というと T が成り立つ」ということを表す。ここには「S を提示して、それに何が割り当てられるか」というと T が割り当てられる」という課題構造が成り立っている。その点、題述関係と共通しており、題目を表す形式と仮定条件を表す形式との間で派生関係が成り立つことが可能になる。

2) 古典語では形容詞述語などの仮定条件は「は」で表される。

(29) <日>恋しくは「恋之久者」形見にせよとわが背子が植ゑし秋花咲きに  
けり (丹羽 2006:275)

3) 現在でも「ては」「では」という形で仮定条件が表される。さらに、係助詞「は」と接続助詞「ば」が同源であるという説も有力であるとする。

4) 「なら」も仮定条件の側からの主題関係への派生と位置づけられる。

## 1. 2 日本語の非典型的な主題マーカー

日本語の非典型的な主題マーカーに関する研究は、典型的な主題マーカーの研究に比べて、研究の歴史が浅く、研究の数もそれほど多くない。これらの研究の中には、ある1つの非典型的な主題マーカーだけに特化したものもあれば、典型的な主題マーカーから非典型的な主題マーカーまですべてを網羅した研究もある。

渡辺(1995)は、『情報の取り出し』と『情報の取り入れ』の視点から日本語の主題マーカー「は」「って」「 $\phi$ 」の相違を説明する。渡辺によると、「は」は情報の取り出し専用マーカーで、「って」は情報の取り入れ専用マーカーである。

丹羽(2006)は、主題を「統語的題目」と「意味的題目」に分けて考えた。「統語的題目」というのは、「は」「って」「なら」「について言えば」「接続助詞由来の「が」「無助詞主題」など、その助詞自体が主題を表すと言えるものである。「意味的題目」というのは、統語構造としては題述関係を形成していない文であっても、Xの在り方についての関心をPと述べる関係が把握できるのであれば、そのXにあたる部分は「意味的題目」である。(30)の「あのケーキ」は「意味的題目」である。

(30) <日>あのケーキを、誰が食べたの？ (丹羽 2006:307)

丹羽によると、次の(ア)が典型的な「統語的題目」、(ウ)が典型的な「意味的題目」、(イ)も「意味的題目」で、「潜在主題」「転位陰題文」も「意味的題目」だとする。

(ア) その形式が題目のための課題構造を持つ。

1、専ら題目を表す：

「は」「って」「なら」「ったら」「が (接続助詞)」「無助詞」など

2、他の意味も兼ねる：

「は」「なら」(題目用法で、対比的に用いられる場合)

「なんて」(例示・否定的評価かつ題目)

「にしても」「にしたって」(同類・譲歩かつ題目)

(イ) その形式が題目以外のための課題構造を持ち、題目のための課題構造としても働く。



## 第1部 第1章 日本語の主題マーカーにおける研究史と研究の現状

「は」(単純提示の一部)

「は」「なら」(対比題目)

「も」「でも」「だって」(同類・譲歩かつ題目) など

(ウ) 文脈的に題目のための課題構造を形成する。

「なんか」、「を」「に」など

(丹羽 2006:311-312)

日本語記述文法研究会 (2009b) はもっとも多くの主題マーカーを扱った研究である。日本語記述文法研究会 (2009b) では、典型的な主題マーカーから非典型的な主題マーカーまで意味による分類を行った。その分類は次のような 10 種類に及ぶ。

表2 意味による主題マーカーの分類

典型的な主題	「は」
話し言葉の主題	無助詞
言葉の解説を行う主題	「とは」類
限定された叙述を行う文の主題	「については」類
立場を表す主題	「としては」類
敬意を伴う主題	「におかれては」類
評価を伴う主題	「なんか」類、「ったら」類
発話の受け取りを表す主題	「なら」、「といえは」類
段階に関する主題	「となると」類
新しく示す主題	「だが」類

岩男(2008)は、「って」について考察を行い、「って」に「引用+定義」「引用+再定義」「指示的+定義」「指示的+再定義」の4つの用法がある、用法が定義のものは<内在的属性>のみを表す、用法が再定義のものは<内在的属性>に加え<非内在的属性>も表すことができることを述べた。

益岡(2012)は、主題マーカーを「汎用的主題標識」と「専用的主題標識」とに分けて考えている。汎用的主題標識は「は」で、専用的主題標識は「なら、についていえば、といえは、というのは、って、ときたら、ったら」などを含める。氏は、「専用的主題標識」の中の「というのは、って、ときたら、たら」は属性叙述に特化した主題標識であると指摘した上で、「というのは」と「ときたら」を対象に考察した。「というのは」構文は、カテゴリ属性の叙述を明示する働きを持ち、「ときたら」構文は、評価属性を表す働きを持つとされる。

### 1. 3 日本語の先行研究のまとめ

日本語の主題マーカーに関する研究を、典型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーの2種類に分けてまとめることにする。

#### 1. 3. 1 典型的な主題マーカー

日本語の典型的な主題マーカーは「は」である。「は」に関する研究は、大きく分けて、主題を表す「は」、対比を表す「は」、条件を表す「は」の3つにまとめられる。以下、主題、対比、条件用法の順にまとめる。

##### 1. 3. 1. 1 主題を表す「は」

主題を表す「は」は、単文、従属節（複文）、文章・談話の中で、使われ方が異なる。以下、単文、従属節、文章・談話の順にまとめる。

#### 1) 単文の中の主題を表す「は」

単文の中の主題を表す「は」は、文のどの成分が主題になっているかで、次の(ア)～(カ)の6種類に分けられる。

##### (ア)格成分が主題になっている文

格成分が主題になっている文というのは、「父はこの本を買ってくれた」の文のように、「父が」という格成分が主題になっている文のことである。格成分の中には、「が」格のように、文の主題になりやすいものから、「と」格のようにほとんど文の主題にならないものまでである。

格成分の後に「は」が付くと、格助詞の「が」と「を」は必ず消える。「に」「で」「へ」も後に「は」が付くと、格助詞の「に」「で」「へ」が消えることがある。

主題になりやすいのは、動作やできごとの主体を表す「が」、動作の対象を表す「を」、所有や可能や必要の主体を表す「に」、場所を表す「に」、場所を表す「で」「から」「まで」、時を表す「から」「まで」などである。主題になりにくいのは、能力や感情などの対象を表す「が」、出発点や通過点を表す「を」、結果の状態を表す「に」、原因を表す「に」、到着点を表す「に」、手段や材料を表す「で」や、「へ」「と」などである。

(イ) 格成分の連体修飾部が主題になっている文

格成分の連体修飾部が主題になっている文というのは、「象は鼻が長い」文のように、「象の鼻が」という格成分の連体修飾部である「象の」が主題になっている文のことである。「が」格成分、「を」格成分、「に」格成分、「で」格成分の連体修飾部が主題になることがある。

「象は鼻が長い」構文の述語「長い」は典型的には、性質や状態を表すものが多いが、1回だけの動作やできごとを表す動詞である例もかなり見られる。「鼻」の部分は、「象」の「部分」や「側面」になっていることが多いが、「部分」や「側面」とは言いにくい例もある。「象」の部分には、性質や状態を表す形容詞的な名詞は使われない。

(ウ) 述語名詞の連体修飾部が主題になっている文

述語名詞の連体修飾部が主題になっている文というのは、「かき料理は広島が本場だ」のように、その述語名詞「本場」の連体修飾部「かき料理」が主題になっている文のことである。

「かき料理は広島が本場だ」文の述語は必ず「本場だ」のような名詞述語でなければならない。この構文の述語に使われる典型的な名詞には「特徴」類、「中心」類、「原因」類、「目的」類、「基盤」類、「限度」類の6種類がある。

(エ) 被修飾名詞が主題になっている文

被修飾名詞が主題になっている文というのは、「辞書は新しいのがいい」のように、「新しい辞書」の被修飾名詞「辞書」が主題になっている文のことである。

この構文の「新しい」の部分は形容詞や動詞に「の」、「もの」、「人」、「ところ」などの名詞の代用形式がついたものが入るタイプ、名詞が入るタイプなどがある。また、この構文は選択型と並列型の2種類がある。選択型文の述語は典型的には形容詞で、並列型文の述語は典型的なものは名詞である。

(オ) 節が主題になっている文

節が主題になっている文というのは、「花が咲くのは7月ごろだ」のように、述語を中心にした「花が咲く」という節が主題になっている文のことである。

この構文の「7月ごろ」の部分に入りやすいのは、理由を表す成分、時を表す成分、「が」格成分、「を」格成分、「に」格成分、「で」格成分などである。反対に、「7月ごろ」の部分に入りにくいのは、結果を表す「に」格や手段を表す

「で」格、様態を表す副詞的成分などである。

(カ) 破格の主題をもつ文

破格の主題をもつ文というのは、「このにおいはガスが漏れてるよ」のように、「\*このにおいがガスが漏れてるよ」のような格関係にもどすことができない文のことである。この構文には過剰型、不足型、漠然型の3種類ある。

## 2) 従属節の中の主題を表す「は」

複文の主節の中の主題を表す「は」の使われ方は単文と同じである。ただし、従属節の中の主題を表す「は」の使われ方は、従属節の種類および主節との結びつきの強さによって異なる。

(ア) 主節との結びつきが強い従属節の中では、主題の「は」が使われない。

主節との結びつきが強い従属節には、継起節（～と、～たら、～て、～[連用系]）、仮定節（～たら、～（れ）ば、～と、～ては、～ても）、様態節（～ように、～ほど）、時間節（～とき、～まえに、～あとで、～まで）、連体修飾節（～[名詞]）、名詞節（～こと、～の、～か）、理由節（～ため、～て、から（焦点）、～ので（焦点）、～のに（焦点））などがある。ただし、主節との結びつきが強い「～ということ」、「～という[名詞]」、「～かどうか」のような節の中では、主題を表す「は」が使われるという例外がある。

(イ) 主節との結びつきが弱い従属節や引用節の中では、主題を表す「は」が使われる。

主節との結びつきが弱い従属節には理由節（～から、～ので、～のに）、並列節（～て、～[連用形]、～し、～けれど、～が、）などがある。

## 3) 文章・談話の中の主題を表す「は」

文章・談話の中の主題を表す「は」には、文章・談話の最初の文の「は」と、文章・談話の途中の文の「は」の2種類がある。

文章・談話の最初の文の主題になる典型的な名詞には次の(ア)～(エ)がある。

(ア) 日常の談話では、話の現場にあるもの、聞き手の意識にあるもの

(イ) 報道の文章・談話では、聞き手の意識にあるもの

(ウ) 説明の文章・談話では、聞き手の意識にあるものとならないもの

(エ) 物語の文章では、聞き手の意識にないもの

文章・談話の途中の文で主題になる典型的な名詞には、次の(オ)～(ク)がある。

(オ) 日常の談話では、前に出てきたものを指す名詞

(カ) 報道の文章・談話では、前に出てきたものと関係のあるものを指す名詞

(キ) 説明の文章・談話では、前に出てきたものと関係のあるものを指す名詞

(ク) 物語の文章では、前に出てきたものを指す名詞

### 1. 3. 1. 2 対比を表す「は」

対比の意味を表す「は」が使われる文には、明示的な対比と暗示的な対比の2種類ある。以下、明示的な対比、暗示的な対比、「は」で対比を表せる成分の順にまとめる。

#### 1) 明示的な対比

明示的な対比というのは、たとえば、「私は英語はできるが、中国語はできない」のように、対比の相手が明示されているものである。

(ア) 明示的な対比には、対比専用の「は」と対比兼用の「は」があり、対比専用の「は」のほうが対比の「は」の典型である。

以下、典型的な対比の「は」である対比専用の「は」を中心に見ていく。

(イ) 明示的な対比には、対立的な対比と並立的な対比があり、対立的な対比を表す文のほうが、対比を表す文の典型である。

(ウ) 対比される部分が構造的に対立している文では、対比専用の「は」が必要である。

(エ) 対比される2つの部分をつなぐ場合には接続助詞が用いられ、その接続助詞には「が」や「けれど」のような対立的なものと、「て」や「し」のような並立的なものがある。

(オ) 明示的な対比を表す対比専用の「は」は、対比される部分の中のもっとも大きな切れ目に入る。

## 2) 暗示的な対比

暗示的な対比というのは、「私は英語はできる」のように、文中に対比の相手が具体的に明示されていないにもかかわらず、想定ができるものである。

- (ア) 暗示的な対比になりやすい条件には、述語の近くにある「は」、対になる名詞が思いつきやすいなどの条件がある。
- (イ) 否定文では、暗示的な対比を表す「は」が使われることが多い。
- (ウ) 否定文でも述語との結びつきが強い時、対比の「は」は使われない。

## 3) 「は」で対比を表せる成分

- (ア) 格成分は基本的に、「は」を付けて対比の意味を表すことができる。ただし、「から」および手段や材料、原因を表す「で」には、対比の「は」は付きにくい。
- (イ) 副詞的成分には、「は」が付くものと付かないものがある。「は」が付くものには、時間を表す副詞的成分と数量の副詞的成分がある。「は」が付かないものには、アスペクトの副詞的成分とムードの副詞的成分がある。「は」が付く場合と付かない場合があるものには、様態の副詞的成分と程度の副詞的成分がある。
- (ウ) 従属節には、「は」で対比を表せるものと表せないものがある。「は」で対比を表せる従属節には、継起句、仮定節、時間節がある。「は」で対比を表せない従属節には、付帯状況句、理由節、並列節がある。
- (エ) 述語成分は基本的に、その内部に「は」を入れて、対比の意味を表すことができる。

### 1. 3. 1. 3 条件表現と「は」

古代日本語の条件表現は、動詞や形容詞や否定の助動詞に助詞の「は」を添えて表していた。

- (ア) 動詞の第一活用形に助詞の「は」を添えた「～未然形+は」は仮定条件の前件を表していた。

たとえば、動詞「行く」の未然形に助詞の「は」を添えて、「行か+は」の形で仮定条件を表していた。それが形式として固定して慣用化した結果、「は」が

連濁を起し、「行かば」になったのである。

(イ) 動詞の第五活用形に助詞の「は」を添えた「～已然形+は」は確定条件の前件を表していた。

たとえば、動詞「読む」の已然形に助詞の「は」を添えて、「読め+は」の形で確定条件を表していた。それが形式として固定して慣用化した結果、「は」が連濁を起し、「読めば」になったのである。

(ウ) 形容詞の連用形に助詞の「は」を添えた「～くは」は仮定条件の前件を表していた。

たとえば、形容詞「よい」の連用形に助詞の「は」を添えた「よくは」は仮定条件を表していた。動詞の場合と違って、この「は」が「ば」と連濁しなかったのは、動詞の未然形と已然形が独立性の低い、非自立形式であったのたいてい、連用形はある程度独立性をもった自由形式であったためである。

(エ) 否定の助動詞「ず」に助詞の「は」を添えた「～ずは」は仮定条件の前件を表していた。

たとえば、動詞「ふる」に否定の助動詞と助詞の「は」を添えた「ふらずは」は、仮定条件を表していた。この「は」が「ば」と連濁しなかったのは、否定の助動詞「ず」が形容詞性をもっていたからである。形容詞の連用形が連濁しなかった理由は前の(ウ)で述べた通りである。

### 1. 3. 2 非典型的な主題マーカー

最後に、日本語の非典型的な主題マーカーについてまとめる。日本語記述文法研究会(2009b)の意味的な観点からの分類では、日本語の非典型的な主題マーカーには、言葉の解説を行う主題マーカー「とは」類、限定された叙述を行う文の主題マーカー「については」類、立場を表す主題マーカー「としては」類、敬意を伴う主題マーカー「におかれては」類、評価を伴う主題マーカー「なんか」類と「ったら」類、発話の受け取りを表す主題マーカー「なら」と「といえば」類、段階に関する主題マーカー「となると」類、新しく示す主題マーカー「だが」類などがある。

ここでは、本論文の研究対象である「とは」類と「については」類を中心にまとめることにする。

### 1. 3. 2. 1 「とは」類

「とは」類には「とは」「というのは」「って」の3種類がある。これらの主題マーカーには、主題を表す用法と非主題用法がある。以下で、「とは」「というのは」「って」の順にまとめる。

#### 1) とは

「とは」には主題用法と非主題用法がある。次の(ア)は主題用法を、(イ)は非主題用法を述べたものである。

(ア) 言葉や事物や概念を主題として提示し、それについての属性を述べるのに用いられる。

(イ) 事態や言語表現を提示し、それについての話し手の評価や感想を述べるときに用いられる。

#### 2) というのは

「というのは」には主題を表す用法はあるが、「とは」のような主題を表さない用法はない。次の(ア)はその主題を表す用法である。

(ア) 言葉や事物や概念を主題として提示し、それについての属性を述べるのに用いられる。

#### 3) って

「って」には主題を表す用法と非主題用法がある。次の(ア)と(イ)はその主題を表す用法を、その次の(ウ)は主題を表さない用法を述べたものである。

(ア) 言葉や事物や概念を主題として提示し、それについての属性を述べるのに用いられる。

(イ) 主題について得た新たな知識や認識を述べるのにも用いられる。

(ウ) 文脈に事物を導入する。

### 1. 3. 2. 2 「については」類

「については」類には「については」「関しては」の2種類ある。この2種類は主題を表す用法がほとんど同じであるため、その主題を表す用法を一緒にまとめることにする。次の(ア)と(イ)はその主題を表す用法である。

(ア) あるものに限定した叙述を行う文の主題を提示する。

(イ) 言語活動や思考活動の動作が向けられる対象を主題として提示する。



## 第2章 モンゴル語の主題マーカーにおける研究史と研究の現状

この章では、モンゴル語の典型的な主題マーカーおよび非典型的な主題マーカーに関する先行研究を概観し、その不備を指摘する。

モンゴル語の主題や主題マーカーについての研究は日本語より遥かに遅れている。モンゴル語の主題マーカーに関する従来の研究のほとんどは bol の機能について論じたものである。この章は、モンゴル語の主題マーカーに関する従来の研究を、典型的な主題マーカーに関する研究と非典型的な主題マーカーに関する研究に分けてまとめることにする。

### 2. 1 モンゴル語の典型的な主題マーカー

モンゴル語の典型的な主題マーカーは bol である。bol についての従来の研究を、①bol の主題表示機能に関する研究、②bol の対比表示機能に関する研究、③bol の条件用法に関する研究の順に見ていく。

#### 2. 1. 1 bol の主題表示機能に関する先行研究

典型的な主題マーカーbolに関する先行研究を、主①題マーカー説、②主語・主格説、③新情報・旧情報に基づく主題の研究、④従属節の中の主題の研究、⑤叙述類型に基づく主題の研究の順に見ていく。

##### 2. 1. 1. 1 主題マーカー説

従来 of bol についての研究の中には、辞書の形で bol の用法について説明するものもあれば、主語標示という視点から bol をとらえたものもある。未だに多くの文法書は、bol は主語をはっきりと表す時に限って使われる主語標示だと説明している。

鴛淵(1928)は、bol を主題マーカーだとはっきりとは指摘していないが、bol を日本語の「は」に当たる助詞として扱っているので、鴛淵(1928)を「主題マーカー説」で取り上げたい。

氏は、日本語の「は」に当たるモンゴル語の助詞として bolbala、bolbasu、inü、anu の4つを取り上げた。この4つの中の1つ目の形式 bolbala は、主題マーカーbolの口語で使われる形である。2つ目の形式 bolbasu は、bolの古代モンゴル語で使われていた形である。3つ目と4つ目の inü、anu は、現代モンゴル語の3人称所属小辞「ni」の古代モンゴル語で使われていた形である。3つ目の inü は女性語に付き、4つ目の anu は男性語に付く。以下で、鷺淵氏の説明と例文を引用しておく。

ᠪᠣᠪᠪᠠᠯᠠ [bolbala] 口語前語ニ係ラズ用ひ得 ᠶᠠᠨᠢ ᠪᠣᠪᠪᠠᠯᠠ ᠱᠠᠷᠢ ᠶᠡᠭᠦ ᠪᠠᠭᠠᠳᠤ ᠬᠡ ᠰᠡ それは私の物デス。

ᠪᠣᠪᠪᠠᠰᠤ [bolbasu] 文語前語ニ係ラズ用ひ得 ᠰᠠᠮᠤ ᠪᠣᠪᠪᠠᠰᠤ ᠰᠠᠮᠤᠯᠤ ᠬᠡ 雪ハ白イ。

ᠶᠠᠨᠢ [inü] 文語 一般ニ用ひ得ルモ、前語が女性ナルヲ要ス ᠶᠠᠨᠢ ᠶᠠᠨᠢ ᠰᠠᠷᠢ ᠪᠠᠭᠠᠳᠤ ᠬᠡ 駱駝ハ温順シイ。

ᠠᠨᠤ [anu] 文語 一般ニ用ひ得ルモ、前語が男性ナルヲ要ス ᠠᠨᠤ ᠠᠨᠤ ᠰᠠᠷᠢ ᠪᠠᠭᠠᠳᠤ ᠬᠡ 山ハ高シ。

(鷺淵 1928:11)

Hammar, Lucia B.(1983) は、モンゴル語の bol を主題マーカーだと指摘した。氏は、モンゴル語の bol の中心的な機能は主題を表す機能および対比を表す機能であると主張する。ただし、その後、氏の bol に関するこの説はモンゴル語研究者の間ではそれほど重視されることはなかった。

I will show that bol has two central functions which often overlap with the peripheral function of marking subjects . I will call those two central functions topic marking and contrast marking.

(Hammar, Lucia B 1983:45)

風間(2003)は、モンゴル語の bol は主題マーカーであることを認めた上で、bolの由来について「モンゴル語で主題提示に用いられる bol も、bолоx「なる」に仮定副動詞-bol がついた形 bolbol に由来する。」と述べている(風間 2003:285)。

風間は bol を「主題提示に用いられる」と指摘した点では、モンゴル語の主題

## 第1部 第2章 モンゴル語の主題マーカーにおける研究史と研究の現状

マーカーの研究を一步前進させる発言だと言ってもよい。ただ、アルタイ諸言語には専用の主題マーカーはなく、モンゴル語は3人称所属小辞 *ni* が主題提示の機能を示すようになってきているという指摘(風間 2003:285)には著者は首肯できない。後述するように、モンゴル語には専用の主題マーカーがあり、それが *bol* という助詞である。また、後で論述するように、3人称所属小辞 *ni* は主題を表す助詞ではない。

ナラントヤ (2006) は、モンゴル語の *bol* には、主題、対比、主節の主語、既知の要素、非難を表す機能があると指摘した点では評価できる。ただし、ナラントヤは、*ni* (3人称所属小辞) にも主題、対比、既知・未知情報、従属節の主語、排他、非難、所有・所属、非特定などを表す機能があると述べたことや、「は」と *bol* の類似性だけに言及し、その相違点に言及していない、という2つの問題点を指摘しておきたい。

張(2010)は、「父はこの本を買ってくれた」文を取り上げ、モンゴル語は他動的動作主には主題マーカーが使われないと指摘している。

先の野田論文の引用に見られるように、先行主張<b>を立てるために、「父がこの本を買ってくれた(こと)」が主題化し、「父はこの本を買ってくれた」に変わっていくという事例が用いられている。しかし、「父はこの本を買ってくれた」が示している、他動的動作の主には主題マーカーが使われるという構文的現象は、上述の主題マーカーを持つとされている16言語のすべてに見られる現象ではない。例えば第3節において提示したカチン語、チベット語、モンゴル語の3言語の訳を見ても、他動的動作の動作主に主題マーカーが使われているのはカチン語だけで、チベット語とモンゴル語では使われていない。

(張 2010:260)

張(2010)の指摘は的を射た指摘で、著者もこの意見に与する。ただし、モンゴル語は、他動的動作の動作主だけでなく、次の(1)のように、基本的に、自動詞を述語とする自動的動作の動作主にも主題マーカーは用いられない。

(1) <モ>  (Čenggeltei1979:298)

bi φ odo menggiged yabu-l\_a.

私 φ 今 すぐ 行く-NP

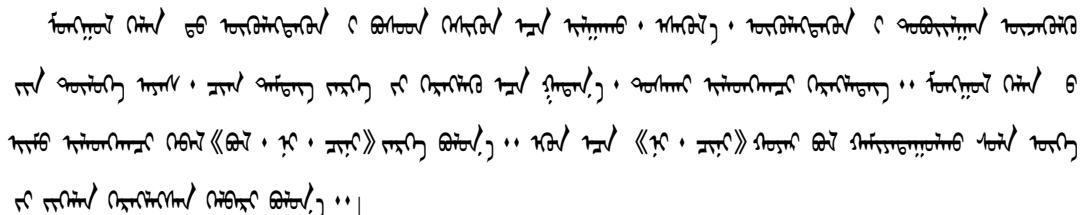
(私は今すぐ行く)

## 2. 1. 1. 2 主語・主格説

従来の研究の多くは、モンゴル語の bol を主格助詞、あるいは主語標示だと見ている。現在も主な文法書などでは bol を主語標示あるいは主格助詞として扱っている。これは、モンゴル語には主題や主題マーカーという概念が未だに定着していないことと無関係ではなかろう。従来の研究が述べている「主語・主格」は、実際は、主題のことを含めたものである。したがって、この「主語・主格説」を「bol の主題表示機能に関する研究」で扱った。

竹内等(1957)は、モンゴル語の主格助詞に「-ni」「-bul」「bolbal(a)」の3つがあり、内蒙古においては bolbal に čin という助詞を付加して bolbalčin と使うこともあると指摘している(竹内等 1957:36-37)。竹内が取り上げた bul は bol のことである。

öbör mongyol-un yeke suryaγuli-yin mongyol sudulul-un degedü suryaγuli-yin mongyol kele sudulqu yaĵar(1964)は、モンゴル語では主語を強調して言う時に使われる専用のマーカーとして bol、ni、čini という3つの助詞があると指摘する。この研究が主語として取り上げている例文を見ると、この研究で扱っている「主語」は主題のことで、この研究は明らかに、主語と主題を混同している。



(モンゴル語は主語を他の成分と区別するためには、あるいは、主語を強調して示すためにはポーズ、句読点などを用いる以外に、専用のマーカーを用いる。モンゴル語のそのような専用のマーカーと言えは bol、ni、čini などである。この中で ni、čini は人称所属小辞を転用した形である。)











- 1) ポーズ、句読点で表す。
- 2) 複数を表す語尾で表す。
- 3) ni、čini、bol、gegči、gedeg などの専用のマーカーで表す。  
ču、la などで表す。  
gedeg bol、gedeg čini、gedeg ni、gegči bol、gegči ni、ni ču、gedeg  
čini bol などで表す。）

(Garudi2001:524)

### 2. 1. 1. 3 新情報・旧情報に基づく主題説

新情報・旧情報の観点からモンゴル語の主題マーカーをとらえた研究には、水野(1991)、ナラントヤ(2006)がある。

水野(1991)は、所属小辞は文の「旧情報」を表すマーカーで、旧情報を表した場合、所属小辞や bol を用いると指摘している。所属小辞というのは、1人称所属小辞 mini や 2人称所属小辞 čini や 3人称所属小辞 ni のことである。

ナラントヤ(2006)は、情報構造の視点から bol と ni について詳しく述べている。ここで、ナラントヤの研究を少し詳しく紹介したい。ナラントヤによると、基本的に、モンゴル語では、ゼロ接辞で現れる名詞の主格形それ自体が新情報を担っている。これに対して、前の名詞で表示される名詞が旧情報であることを表す場合 bol や ni などが使われる。したがって、bol と ni はある意味で旧情報マーカーであると見なすことができる、と論じている（次の例文の翻訳はナラントヤによるものである）。

- (4) <モ>erte urd-in čag-d öbgen emgen xoyar bai-ju ge-ne. öbgen ni  
昔 昔-属 時代-与 爺 婆 二人 いる-並列 と言う 爺  
mal-aan xarul-ju, emgen ni xool cai-gaan xi-deg ge-ne.  
家畜-再帰 見張る-並列 婆 飯茶-再帰 用意する-反復 と言う-現在  
(昔昔、あるところにお爺さんとお婆さんの二人がいたとき。お爺さん  
は家畜の面倒を、お婆さんは食事の用意をしていたとき)

(ナラントヤ 2006:10)

前の例文(4)では、初めて言及される *öbgen emgen* 「お爺さん お婆さん」はマーカーなしで表示され、この *öbgen emgen* 「お爺さん お婆さん」が再び言及される際 *öbgen ni* (お爺さん)・*emgen ni* (お婆さん) のようにそれぞれ *ni* を付けて表示されている、と説明している。

## 2. 1. 1. 4 従属節の中の主題の研究

主題を表す *bol* がどのような従属節に用いられるかについての研究には、サイシャラト(2012a)やサイシャラト(2012b)などがある。

サイシャラト(2012a)は、主題を表す *bol* がどのような従属節に用いられ、どのような従属節に用いられにくいのか、について詳しく述べた。その結論を表で示すと、次のようになる。

表1 従属節にみる主題を表す *bol*

種類	名詞節	引用節	疑問節	名詞修飾節	原因理由節①	原因理由節②	様態節	条件節	時間節	目的節	等位節並列節
<i>bol</i>	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○

原因理由節①は、野田(1996)が言う強い従属節「～ため、～て、～から(焦点)、～ので(焦点)、～のに(焦点)」などで、原因理由節②は、弱い従属節「～から、～ので、～のに」などである。

サイシャラト(2012b)では、日本語の主題マーカー「は」とモンゴル語の主題マーカー *bol* が用いられる従属節と用いられにくい従属節について考察し、「は」と *bol* の相違に言及した。その結論を表で示すと、次のようになる。

表2 従属節にみる「は」と *bol*

種類	名詞節	引用節	疑問節	名詞修飾節	原因理由節①	原因理由節②	様態節	条件節	時間節	目的節	等位節並列節
ハ	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○
<i>bol</i>	○	○	○	×	×	○	×	×	×	×	○

原因理由節①は、野田(1996)が言う強い従属節「～ため、～て、～から(焦点)、～ので(焦点)、～のに(焦点)」などで、原因理由節②は、弱い従属節「～から、～ので、～のに」などである。

### 2. 1. 1. 5 叙述類型に基づく主題の研究

モンゴル語の主題マーカーの特徴を叙述類型論の観点から論じた研究には、サイシャラト(2012a)とサイシャラト(2012b)がある。

サイシャラト(2012a)は、益岡(2008)の叙述類型についての枠組みを援用して、主題を表す bol は属性叙述文には用いられるが、事象叙述文には用いられないと指摘した。その結論を表で示すと、次のようになる。

表3 属性叙述文・事象叙述文と bol

叙述類型	属性叙述文		事象叙述文	
	主題	対比	主題	対比
bol	○	○	×	○

サイシャラト(2012b)は、益岡(2008)の叙述類型についての枠組みを援用して、「は」と bol の類似点と相違点について考察した。サイシャラトは、日本語の主題を表す「は」は事象叙述文にも用いられるが、モンゴル語の主題を表す bol は事象叙述文には用いられないことを指摘している。その結論を表で示すと、次のようになる。

表4 属性叙述文・事象叙述文と「は」bol

叙述類型	属性叙述文		事象叙述文	
	主題	対比	主題	対比
は	○	○	○	○
bol	○	○	×	○

### 2. 1. 2 bol の対比表示機能に関する研究

小沢(1995)は、bol の対比表示機能について、文の成分のどれか1つをとりたてて強く表現したい場合には、モンゴル語では「bol」「čini」を用いてこれを表すことが多いと指摘している。

フフバートル(1997)は、「bol は「主格」を表すと言われるが、主として主体を強調して言う場合に用いられる。日本語のハに近い」と述べている(フフバートル1997:63)。「主体を強調する」というのは、「とりたてる」あるいは「対比」という意味で理解しても差し支えないであろう。フフバートルは、bol の対比を表す機能を重視するあまり逆にその主題提示という機能を見逃している。実は、フ

フバートルが主体を強調している例として取り上げた次の(5)は、主題をもつ文として解釈してもよい例である（日本語訳はフバートルによるものである）。

(5) <モ>  (フバートル 1997:63)

ene bol nom.

これ は 本

(これは本です。)

もちろん、前の(5)の「これは」は、他のものと比較して述べていると理解してもよい文脈があれば、対比の意味で解釈することも可能である。しかし、他のものと対比して言わない場合はごく自然な主題文である。

Tumenolzii (2002)は、bol の対比を表す機能のみを強調し、ひいては bol にはあたかも日本語の「が」のような排他的な機能があるように述べた。bol の主題を表す機能および、bol と ni が置き換えられる条件、ni には主題提示の機能などがあるか否かについては言及していない。ni は主題マーカーbol の位置に現れることはあるが、実際には、ni には主題提示の機能がない。bol の主な機能を「対比」ととらえた点では、日本語の「は」の対比用法を基本と見る説によく似ている。

モンゴル語の‘bol’は日本語の「は」のように「...は...だ」と同じようなニュアンスで広く使われていない。主体を重視して、詳しく説明や紹介をする時「...が...だ。」または、「...というのは...からだ。」というニュアンスを表す時に使われているのではないかと思う。また、場合によって‘ni’という形にも変わることができる性質を持っていることが分かるだろう。

(中略) 一方、日本語の「は」はモンゴル語の‘bol’と‘ni’のどちらに相当するのかと考えると、場合によって異なる。この問題は日本語の「は」と「が」のように不明確であり、かなり複雑である。

(Tumenolzii2002:68)

### 2. 1. 3 仮定用法に関する先行研究

大藪(1921)は、bolbalには日本語の「は」に相当する用法と、仮定用法があると指摘している。このbolbalは、主題マーカーbolのことである。内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所 編(1999:473)『蒙漢詞典』では、ᠪᠣᠯᠪᠠᠯ=ᠪᠣᠯ(bolbal=bol)と説明している。すなわち、bolbalはbolと同じものであるという意味である。

大藪はbolbalを助詞として扱い、「は、のは、なれば、なら、ならば、ければ」に訳して、名詞、代名詞、数詞、その他形容詞等をうけて、「…ハ即チ云々」という意を示す場合に用いられる。また、仮定の意を示す場合にも使う」と指摘している(大藪 1921:246)。

Čenggeltei (1991)は、bolに仮定を表す用法があることを指摘し、その接続用法について、次のように述べている。

否定的假定意义用  $\mathcal{B}$  ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ 表示。与此相连，假定的意义还可以用  $\mathcal{B}$  ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ、ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ qu yum bolᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯ kü yum bol, ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯ qu ügei yum bol-ᠠᠯ ᠪᠣᠯᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯ kü ügei yum bol 等等方式表达。

(否定的な仮定の意味は qu ügei bol、kü ügei bol、ügei bol で表す。また、仮定の意味は ḡsan bol、gsen bol、ḡsan ügei yum、gsen ügei yum bol、gsen ügei bol、gsen yum、ḡsan ügei yum bol、gsen ügei yum bol、qu yum bol、kü yum bol、qu ügei yum bol、kü ügei yum bol 等で表すこともある。)

(Čenggeltei1991:274-275)

bol を用いて否定的な仮定の意味を表すというのは、古代日本語の「～ずは」の形で否定的な仮定の意味を表すことと同じである。否定的な仮定の意味を表したい場合、動詞の否定形だけではなく、形容詞の否定形にも bol を付けて仮定の意味を表すことがある。古代日本語の形容詞の仮定形は「恋しく+は」の形で表すことがあったように、現代モンゴル語も、「形容詞+bol」や「形容詞+bisi(ない)+bol」の形で仮定を表す。たとえば、「qalayun bol」(「暑い+は」=暑ければ)や「qalayun bisi bol」(「暑い+ない+bol」=暑くなければ)のように接続する。

## 2. 2 モンゴル語の非典型的な主題マーカー

この節では従来の非典型的な主題マーカーに関する研究について見る。3人称所属小辞 *ni* を主題マーカーだと主張する研究もこの節で扱うことにする。

風間(2003)は、「モンゴル語の再帰以外の所属人称要素の中で、まず、1、2人称とも複数のものはあまり用いられない。3人称のものは、もはや主題表示としての機能がその中心となってきた。」と述べる(風間 2003:282)。「3人称のもの」というのは *ni* を指している。後述するように、*ni* は日本語の「は」「が」「の」(名詞化辞)などに対応したりすることから見ても決して主題マーカーではない。*ni* は主題の位置に現れる場合に限って日本語の主題を表す「は」に対応することがある。

ナラントヤ(2006)は、*ni* (3人称所属小辞)にも主題、対比、既知・未知情報、従属節の主語、排他、非難、所有・所属、非特定などを表す機能があると述べた。ただし、次の実例(6)からも分かるように、*ni* は主題マーカーではない。

(6) <モ>  $\text{ᠠᠶᠢᠮᠦᠨ ᠤᠯᠠᠶ᠋ᠠᠨ ᠤᠨᠭᠭᠡ ᠨᠢ ᠲᠡᠶᠢᠮᠦᠨ ᠨᠠᠶᠢᠶ᠋ᠠᠨ ᠤᠨᠭᠭᠡ ᠡᠸᠡ ᠳᠡᠭᠡᠷᠡ}$  (Čenggeltei 1991:232)

*eyimü ulayan öngge ni teyimü noyoyan öngge-eče deger\_e.*

このような赤い 色 3RD そのような みどり 色-ABL よい

(このような赤色 { は / (のほう) が } そのような緑色よりよい。)

前の(6)の *ni* は、日本語の排他(総記)を表す「が」に対応したり「は」に対応したりする二通りの解釈が可能である。確かに、*ni* は日本語の主題提示の「は」に訳されることが多い。しかし、これで *ni* を主題マーカーだと決めつけるのはまだ早い。その理由については後で詳述する。

橋本(2006)は、*ni* を照応的指示詞 *ni*、部分詞としての *ni*、行為者標示の *ni*、接続詞の *ni*、モダリティ標示の *ni*、名詞化標示の *ni*、トピック標示と焦点化標示の *ni* という8つの機能に分けた上で、*ni* がトピックという役割を果たしている例文として次の例をあげている。

(7) <モ> *ene ni činü, tere ni Batu-yin nom bayin\_a.*<sup>4</sup>(橋本 2006:408)

これ 3RD 君の それ 3RD バト-GEN 本 ある (現在)

<sup>4</sup> 橋本(2006)の例文の転写は本論文の転写と異なるため、著者が本論文の転写に合わせてもう一度転写をした。日本語訳は橋本(2006)によるものである。

(これ{ は/が } 君の、それ{ は/が } バトの本です。)

前の例(7)は、二通りの解釈が可能である。1 つは「どれが私の本ですか」という質問に対する答えだとする場合は、「これが君の、それがバトの本です」と翻訳しなければならない。もう 1 つは「これは君の、それはバトの本です」という主題文としての解釈である。このように、橋本が主題を表す *ni* として取り上げた例も文脈によって日本語の「は」に訳されたり「が」に訳されたりする。

L.Toyтанbayar (2006)は、*bol* 以外の主題マーカー、すなわち、*gegčii bol* (とは/というのは)、*gedeg bol* (とは/というのは) 、*gedeg ni* (とは/というのは) などの主題マーカーを扱っている。

ᠠᠨᠵᠢ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ ᠮᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠠᠨ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ ᠮᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠠᠨ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ  
ᠠᠨᠵᠢ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ ᠮᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠠᠨ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ ᠮᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠠᠨ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ  
ᠠᠨᠵᠢ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ ᠮᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠠᠨ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ ᠮᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠠᠨ ᠵᠢᠨᠢ ᠠᠨᠨᠠᠵᠢ

(モンゴル語の *bol*、*gegčii bol*、*gedeg bol*、*gedeg ni* などは主題マーカーである。場合によって主題マーカーを用いず、ポーズを入れて主題を表す。)

(L.Toyтанbayar2006:10)

実は、モンゴル語には、L・Toyтанbayar が言及した 4 形式以外に、*gesen bol*、*gejü*、*gegeg čini bol*、*gedeg čini*、*kemegčii* (とは、って、というのはに当たる) などたくさんのバリエーションがある。その他に、日本語の「については」に相当する *tuqai*、「といえは」に相当する *gebel* などの形式も存在する。氏は主題マーカーを用いて主題を表す場合もあれば、ポーズを入れて主題を表すこともあると指摘しているだけで、どの場合に主題マーカーを用い、どの場合にポーズを入れて主題を表すかについては言及していない。また、*bol*、*gegčii bol*、*gedeg bol*、*gedeg ni* などの非典型的な主題マーカーの使われ方などの詳しいことも述べていない。

サイシャラト(2012c)は、*gejü*、*gegčii bol*、*gedeg bol* を定義型主題マーカーとして取り上げ、情報の取り入れと情報の取出しという観点から詳しく分析した。

## 2. 3 モンゴル語の先行研究のまとめと問題点

### 2. 3. 1 先行研究のまとめ

従来の主題マーカーに関する研究を、典型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーの2種類に分けて概観した。

モンゴル語の典型的な主題マーカーbolに関する研究を、大きく分けて、主題を表す機能に関する研究、対比を表す機能に関する研究、条件を表す機能に関する研究の3つに分けられることを述べた。

bolの主題を表す機能に関する研究には、主題マーカー、主格助詞、旧情報の表示、他動的動作の動作主に主題マーカーbolの不使用、属性叙述文での使用などの諸説があることを述べた。

bolの対比を表す機能に関する研究には、bolがもつばら対比を表す助詞であるという説や、仮定の意味が弱くなると対比の意味になるなどの説があることを述べた。

bolの条件を表す機能に関する研究には、動詞・形容詞の否定形や、形容詞・形動詞に下接して仮定の意味を表すことがあると指摘した研究がある。

非典型的な主題マーカーに関する研究には、3人称所属小辞niを主題マーカーとして扱った研究と、gegči bol、gedeg bol、gedeg niを主題マーカーとして扱った研究があると述べた。

### 2. 3. 2 問題点

「問題点」のところでは、まず、先行研究のすべての問題点を挙げる。その次に、多くの先行研究で主題マーカーとして扱われてきた3人称所属小辞niは主題マーカーではないことを論証したい。

#### 2. 3. 2. 1 諸問題点

1) 従来の研究の多くはbolを主格助詞、あるいは主語標示として説明してきた。これは、明らかに主題と主語を混同している。モンゴル語では、主題は基本的に文頭に置かれる。もちろん、主語も基本的に文頭に置かれる。このように、モンゴル語では、主題と主語が重なって、主語が主題になることがある。



従来の研究は、このような主題を主語と呼び、このような主題に下接した *bol* を主格助詞として扱っている。

2) これまでの研究は、3人称所属小辞 *ni* を主題マーカーとして扱ってきた。*ni* は主題の位置に現れることがあるが主題マーカーではない。

3) これまでの研究は、主題を表す *bol* がどのような文に用いられ、どのような文には用いられないか、単文と従属節の中で *bol* の使われ方が同じか、などの疑問にも答えていない。また、対比を表す *bol* に明示的な対比と暗示的な対比などがあることや、*bol* で対比を表せる成分、主題を表す *bol* と仮定を表す *bol* との関係についても触れていない。

4) モンゴル語の非典型的な主題マーカーには、これまでの研究で指摘されてきた *gegči bol*、*gedeg bol*、*gedeg ni* という3形式のほかにも、*gejü*、*gebel*、*tuqai* など多数の形式がある。これについては、非典型的な主題マーカーのところで詳しく述べる。


## 2. 3. 2. 2 *ni* は主題マーカーではない

これまでの多くの研究は、3人称所属小辞 *ni* を主題マーカーとして見てきた。本研究は、*ni* は主題マーカーではないと見ている。以下で、*ni* は主題マーカーではないという理由や根拠を述べる。

### 1. モンゴル語の人称所属小辞

人称所属小辞というのは、名詞の後に付き、名詞の指示対象の所属を示すものである。モンゴル語は特定の小辞を用いて人称所属関係を表す方法があり、一人称所属は *mini*、二人称所属は *čini*、三人称所属は *ni* という小辞で表される。

次の(8)は、1人称所属語尾 *mini* を用いて、弟は自分(1人称)の弟であることを示している。その次の(9)は、2人称所属語尾 *čini* を用いて、聞き手(2人称)の「お兄さんと弟さん」であることを示している。(10)は、3人称所属語尾 *ni* を用いて、「お婆さん」は聞き手と話し手以外の第三者(3人称)と関係がある「お婆さん」であることを示している。

(8) <モ>  (NMGD<sub>X</sub> コーパス)  
degüü mini γayiq-a-qu kereg ügei.

弟 1ST 驚く-VN こと ない

(私の弟、(あなた) 驚かないで。)

(9) <モ>  $\text{aq}_a$  blood degüü čini  $\text{yayu}$   $\text{kijü}$   $\text{bayiqu}$   $\text{bui}$ ? (Čenggeltei1991:179)

お兄さん と 弟さん 2ND 何 する ある QR

(あなたのお兄さんと弟さんは何をしていますか。)

(10) <モ>  $\text{emege}$   $\text{eji}$  ni  $\text{kejiy}_e$   $\text{ču}$   $\text{eyimü}$   $\text{öndör}$   $\text{tomu}$ ,  $\text{γuw}_a$   $\text{sayıqan}$   $\text{bayi-γsan}$   $\text{ügei}$   $\text{bile}$ .

(NMGDX コーパス)

お婆さ 3RD いつ も こんな 背が高い 美しい ある-VN ない MP

(お婆さんはいつもこんなに背が高くて美しくはなかった。)

3人称所属を表す小辞 *ni* は、元々古代モンゴル語の“*anu*” “*inü*” から由来したと考えられる。小沢 (1995)は「古代モンゴル語の *inu* が *inu>ini>ni* と弱音化して現代に至り、現代に文語で *ni* と書かれるようになった」と指摘している。

3人称所属小辞 *ni* は、1人称所属小辞 *mini* と2人称所属小辞 *čini* と違って、照応的指示詞、部分詞、行為者標示、接続詞、モダリティ標示、名詞化標示と焦点化標示(橋本 2006)などの機能がある。

## 2. *ni* は主題マーカーではないという理由

前に述べたように、3人称所属小辞 *ni* を「主題表示」(風間 2003)、「主題小辞」(ナラントヤ 2006)、「トピック標示」(橋本 2006)として扱ってきた。これらの研究はいずれも3人称所属小辞 *ni* を主題マーカーだと見ている。

以下で、3人称所属小辞 *ni* は主題マーカーではないという理由について、次の3つに分けて論証する。

### 1) *ni* は疑問詞に付く

(ア) *ni* は「どれ」「だれ」などの疑問詞に付くことがある。

たとえば次の(11)の *ni* は、*ali* (どれ) という疑問詞に付いている。その次の(12)には *ni* が2つある。1番目の *ni* は疑問詞「だれ」に付き、日本語の「が」に対応している。2番目の *ni* は、「友達」の後に付いて、この「友達」はその前

にある「チョクさん」の「友達」であることを示している前方照応的指示の *ni* である。

(11) <モ>  $\text{ali } \underline{\text{ni}} \text{ nom be?}$  (ナラントヤ 2006:15)

ali ni nom be?  
 どれ 3RD 本 ですか  
 (どれ {が/\*は} 本ですか?)

(12) <モ>  $\text{ken } \underline{\text{ni}} \text{ } \check{\text{c}}\text{uqum } \check{\text{C}}\text{o}\check{\text{y}}\text{-un sayin nayiji ni bui?}$  (NMGDX コーパス)

ken ni čuqum Čoy-un sayin nayiji ni bui?  
 だれ 3RD 一体 チョク-GEN 仲良い 友達 3RD QR  
 (一体だれがチョクさんの仲が良い友達ですか?)

主題マーカーが「だれ」「どれ」などの疑問詞に付いて主題を表すということは考えられない。なぜなら、指示対象が定まっていないものを主題として提示し、それについて叙述しても情報の価値がない。日本語の主題を表す「は」が疑問詞に下接することはないということを考えても、疑問詞に下接する用法をもつ *ni* を主題マーカーと見るべきではない。

## 2) *ni* の後に *bol* が付くことがある

(イ) *ni* の後に *bol* が付いて、「~*ni+ bol*」の形で用いられることがある。

たとえば次の(13)の *ni* は2つの役割を担っている。1つは、「工場長が考えた」という節を名詞化し、言わば日本語の名詞化辞「の」の役割を果たしている。もう1つは、「考えた」は、その前に置かれている「工場長」が考えたことを示す、前方照応的指示の役割を果たしている。その次の(14)も *ni* の後に *bol* がついた形の例で、この文の *ni* は前方照応的指示の役割を果たしている。すなわち、「経営の特徴」は、その前に置かれている「彼(彼女)」の経営の特徴であることを示している。

(13) <モ>  $\text{üiledbürilel-ün daruy\_a-yin bodu-}\gamma\text{san } \underline{\text{ni}} \text{ } \underline{\text{bol}} \text{ } \text{bür ajil-un}$   
 (NMGDX コーパス)

üiledbürilel-ün daruy\_a-yin bodu-γsan ni bolbür ajil-un  
 工場-GEN 長-GEN 考える-VN 3RD は すべて 仕事-GEN  
 tal\_a-ača bodulkila-γsan yum.



(ほら、ごらん、父の手が震えている。)

たとえば前記の(15)は、日本語の「は」と「が」のどちらにも解釈される例である。目の前にいくつかの箱があって、「どれが本ですか」と聞いた相手に対して、「これが本です」と答えた文として考える場合、(15)は主語焦点文の解釈になる。前記の(16)は、目の前の出来事をそのまま描写している現象文である。この文は、「手」に3人称所属小辞 *ni* が付き、父の「手」であることを示している、いわゆる前方照応的指示を表す *ni* である。

主題を表す *bol* をもつ文は必ず述部に伝えたいことが述べられる述語焦点文を形成するのに対して、*ni* が使われる文は主語焦点文、現象文、述語焦点文のいずれの解釈も可能である。もし、*ni* が主題マーカーであれば、日本語の「が」のように主語焦点文や現象文に用いられることはないはずである。

主題マーカー *bol* と3人称所属小辞 *ni* が文の中で表す情報構造を示すと、以下のようである。

<i>bol</i>	[主題] [伝えたいこと] . . . . . 述部焦点文
<i>ni</i>	{ [主題] [伝えたいこと] . . . . . 述部焦点文
	{ [伝えたいこと] [主題] . . . . . 主語焦点文
	{ [文全体が伝えたいこと] . . . . . 現象文

要するに、3人称所属小辞 *ni* には、疑問詞に付く用法、*ni* の後に *bol* を付けて使用する用法、主語焦点文や現象文を形成するなどの用法があるので、*ni* は主題マーカーではない。

## 第2部 モンゴル語の主題マーカー

第2部は、モンゴル語の典型的な主題マーカーと非典型的な主題マーカーにおける主題表示機能および非主題表示機能を明らかにすることを目的とする。

### 第3章 典型的な主題マーカーの主題表示機能

3. 1 主題マーカーと属性叙述文・事象叙述文
3. 2 格成分が主題になっている文
3. 3 格成分の連体修飾部が主題になっている文
3. 4 被修飾名詞が主題になっている文
3. 5 節が主題になっている文
3. 6 破格の主題をもつ文

### 第4章 典型的な主題マーカーの非主題表示機能

4. 1 対比表示機能
4. 2 条件表示機能

### 第5章 非典型的な主題マーカーの主題表示機能

5. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカー
5. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカー

### 第6章 非典型的な主題マーカーの非主題表示機能

6. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカー
6. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカー

### 第3章 モンゴル語の典型的な主題マーカ－の主題表示機能

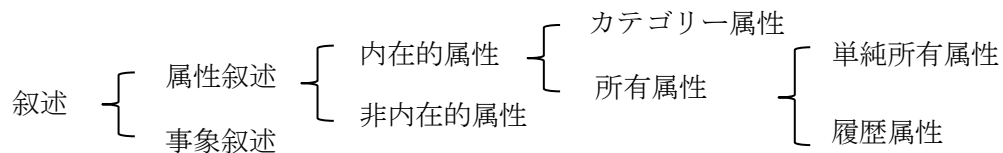
#### 3. 1 主題マーカ－と属性叙述文・事象叙述文

##### 3. 1. 1 叙述の種類

主題マーカ－と属性叙述文・事象叙述文との関係の考察に入る前に、属性叙述文・事象叙述文について少し触れておきたい。その理由は、研究者によって、属性叙述文・事象叙述文に対する定義や考え方が異なるので、本研究で使う属性叙述文・事象叙述文について少し説明を付け加えたい。

叙述の種類には属性叙述と事象叙述の2種類がある。益岡(2008)は、佐久間(1941)の「物語文」「品定め文」、三上(1953)の「動詞文」「名詞文」、川端(1976)の「動詞文」「形容詞文」を受け継ぎ、叙述には属性叙述と事象叙述の2種類があると指摘した(図1は、著者が益岡(2008)を改変したものである)。

図1 益岡(2008)の叙述の分類



##### 3. 1. 1. 1 属性叙述

属性叙述について、益岡(2008)は「属性叙述は対象が有する属性を述べるものであり、文のレベルでは基本的に「主題(対象表示部分)＋解説(属性表示部分)」という有題文の形で表される」と指摘している。影山(2008)は「時間が経過しても展開することなく、恒常的に持続する性質(属性)を述べる文を属性叙述文と呼ぶことにする」と述べている。影山(2012)では「属性叙述文の見かけ上の統語構造は多種多様であるが、意味解釈は「X(主題)はY(述部)である」という意味構造に収斂する」と指摘している。山岡(2000)も「<属性叙述>とは、名詞的概念を表す主題に、属性概念を表す命題を結びつけることによって行う叙述のことで、<属性叙述>文は必ず有題文に限られると指摘する。

たとえば次の(1)0 は、日本がもつ「地震国」「先進国」「島国」など種々の属性の中から「島国」という属性を付与する属性叙述文である。

(1) <日>日本は島国だ。 (益岡 2008:5)

### 3. 1. 1. 2 事象叙述

益岡 (2008) は「事象叙述は特定の時空間に実現するイベント (出来事) を述べるものである」と指摘している。影山 (2008) は「時間の推移によって展開 (発生・継続・終了) する出来事や状態を表す文を事象叙述文と呼ぶ」と指摘している。

(2) <日>花子はその結果に失望した。 (益岡 2000:44)

益岡と影山の事象叙述・属性叙述に対する考え方が少し異なる。影山 (2008)<sup>5</sup> は、益岡が属性叙述文の例としてあげた「日本は今不況だ。」(益岡 2000:47)を属性叙述文ではなく、事象叙述文だと主張する。その理由について、「日本は 2000 年から 2006 年まで不況だった」のように始点と終点を明示できるし、また、「日本は今、不況のさなかにある」の「さなか」のような出来事の進行を表す表現とも整合するからである」と述べている。本研究は益岡 (2008) の枠組みを援用するが、影山 (2008) の事象叙述の判断基準も参考する (表 1 は影山による叙述の分類で、筆者が一部改変した)。

表 1 影山 (2008) の叙述の分類

叙述のタイプ	事象叙述 開始・終了の時間を明示できる		属性叙述 開始・終了の時間を明示できない	
	出来事	状態	準属性	(内在的)属性
例示	彼は 2003 年に大学を卒業した。	彼は 1997 年から 2005 年まで学生だった。	彼は(ふだんは)愛想がよい。	彼は(*ふだんは)長身だ。

<sup>5</sup>影山 (2008:26) は、「本稿の「(内在的)属性」は、かなりの程度、益岡の「カテゴリー帰属の属性と対応するが、完全に一致するものではない。たとえば「西洋人の男性は、女性に優しい」という例を考えると、「女性に優しい」という性質は「西洋人男性」というカテゴリーを特徴づけるひとつの属性とみなされるだろう。しかし、この文に「ふだんは」といった時間の限定を加えて「西洋人の男性は、ふだん女性に優しい」と言っても何らかの問題はないから、これは本稿で言うところの「準属性」に当る。同じくカテゴリー帰属属性でも、「ゾウは鼻が長い」という場合なら「ふだん」を付け加えることは不可能であるから、益岡の「カテゴリー帰属の属性」でもあり、本稿の「(内在的)属性」でもある。」と述べている。



### 3. 1. 2 単文にみる bol

ここで、主題を表す bol が属性叙述文と事象叙述文に使われるかどうかについて考えたい。

(ア) 属性叙述文には、主題を表す bol が使われる。

以下で、述語が名詞、形容詞、動詞である属性叙述文を1つずつ取り上げて、主題を表す bol がその中に用いられるかどうかについて見てみたい。

まず、名詞が述語になっている属性叙述文に主題を表す bol が用いられるかどうかについて考えたい。益岡(2008)にも指摘しているように、カテゴリ属性を表す文の典型は名詞述語文である。たとえば次の(3)は、名詞述語文で、「私の父」が「羊飼い」というカテゴリに属するという属性叙述文でもある。この文の主題「私の父」は bol によって提示されている。

(3) <モ> ᠮᠢᠨᠦ ᠠᠪᠤ ᠪᠣᠯᠠ ᠠᠷᠠᠨᠢᠴᠢᠨ ᠶᠤᠮᠤ .. (NMGDX コーパス)

minü abu bol qoničin yum.

私の父 は 羊飼い MP

(私の父は羊飼いである。)

次に、形容詞が述語になっている属性叙述文に主題を表す bol が用いられるかどうかについて考えたい。益岡(2008)にも指摘があるように、単純所有属性を表す文の典型は形容詞述語文である。たとえば次の(4)は、形容詞述語文で、「この髪飾り」が「高い」という属性を所有している単純所有属性叙述文でもある。この文の主題「この髪飾り」は bol によって提示されている。

(4) <モ> ᠡᠨᠡ ᠭᠡᠵᠢᠭᠡ-ᠶᠢᠨ ᠵᠢᠮᠰᠡᠭ ᠪᠣᠯᠠ ᠮᠠᠰᠢ ᠦᠨᠡᠲᠡᠢ .. (NMGDX コーパス)

ene geḷige-yin ḷimseg bol masi ünetei.

この 髪-GEN 飾り は とても 高い

(この髪飾りは(値段が)とても高い。)

最後に、動詞が述語になっている属性叙述文に主題を表す bol が用いられるかどうかについて考えたい。益岡(2008)にも指摘があるように、履歴属性を表す文の典型は動詞述語文である。たとえば次の(4)は、動詞が述語になっている属性叙述文である。この文の主題「私たちのグループのアルスランさん以外の数世帯」は bol によって提示されている。このように、属性叙述をする動詞述語文の中でも主題を表す bol は用いられる。

(5) <モ>  $\text{ᠮᠠᠨᠤᠳᠦᠭᠦᠢᠯᠠᠩᠤᠨ ᠠᠷᠰᠤᠯᠠᠨᠤᠬᠢᠡᠴᠡ ᠪᠤᠰᠤᠳᠤᠬᠡᠳᠢᠨᠡᠷᠢᠬᠡᠪᠣᠯ}$

(NMGDX コーパス)

man-u duḡuyilang-un arslan-u ki-eče busud kedün erüke bol

私たち-GEN グループ アルスラン-GEN ほう-ABL ほか 数 世帯 は

čöm neyile-jü aḡilla-day.

みんな 集まる-CV 働く-VN

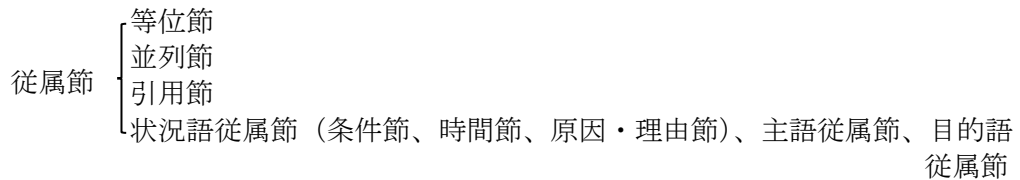
(私たちのグループのアルスランさん以外の数世帯はみんな集団で働く。)

### 3. 1. 3 従属節にみる bol

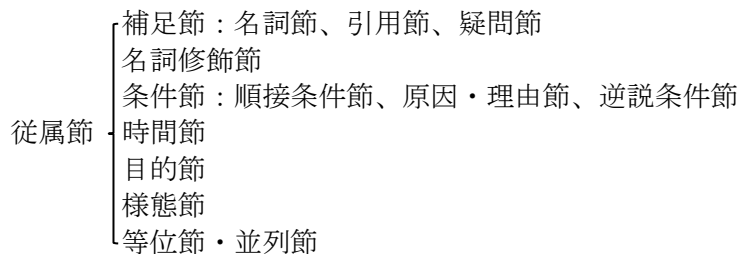
#### 3. 1. 3. 1 従属節の種類

日本語とモンゴル語は、従属節の分類が異なる。本研究は日本語とモンゴル語の対照研究であるため、両言語の従属節の分類を同じ枠で見る必要がある。本研究は、日本語記述文法研究会 (2008)の分類に従う。以下で、日本語とモンゴル語の従属節の分類を示しておく。

#### 1) モンゴル語の従属節の分類 (内蒙古大学蒙古学院蒙古語研究所 1964)



#### 2) 日本語の従属節の分類 (日本語記述文法研究会 (2008))



3. 1. 3. 2 主題表示の bol が使われる従属節

ここで、主題を表す bol がどのような従属節の内部に使われるかについて考えたい。以下で、名詞節、引用節、疑問節、名詞修飾節、等位節の順に見ていく。

(イ) 名詞節、引用節、疑問節、名詞修飾節、等位節の内部には主題を表す bol が使われる。

**名詞節**：名詞節の内部には主題を表す bol が用いられることがある。名詞節の内部に主題を表す bol が用いられる条件は、その名詞節が属性叙述文であることである。たとえば次の(6)は、「コウモリは哺乳類である」という属性叙述文が名詞節になっているので、その名詞節の内部には主題を表す bol が用いられる。

(6) <モ> ᠪᠠᠶᠪᠠᠶᠠᠢ ᠪᠣᠯ ᠰᠢᠨ ᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠡᠳᠡᠨ ᠪᠣᠯᠠᠭᠤᠶᠢ ᠮᠡᠳᠡᠭᠰᠢᠨ ᠤᠭᠡᠢ ᠡ

baybayai bol süin tejigelten bolqu-yi mede-gsen ügei.

コウモリ は 哺乳類 である-ACC 知る-VN ない

(コウモリは哺乳類であることを知らなかった。)

**引用節**：引用節の内部には主題を表す bol が用いられることがある。引用節の内部に主題を表す bol が用いられる条件は、その引用節が属性叙述文であることである。たとえば次の(7)は、「バトさんは学部生だ」という属性叙述文が引用節になっているので、その引用節の内部には主題を表す bol は用いられる。

(7) <モ> ᠪᠠᠶᠰᠢ ᠪᠠᠲᠤ ᠪᠣᠯ ᠣᠶᠤᠲᠠᠨ ᠶᠤᠮ ᠭᠡᠵᠢ ᠬᠡᠯᠡᠪᠡ ᠡ

baysi Batu bol oyutan yum gejü kele-be.

先生 バト は 学部生 だ と言う-PAST

(先生はバトさんは学部生だと言った。)

**疑問節**：疑問節の内部には主題を表す bol が用いられることがある。疑問節の内部に主題を表す bol が用いられる条件は、その疑問節が属性叙述文になることである。たとえば次の(8)は、「鯨は魚か哺乳類か」という属性叙述文が疑問節になっているので、その疑問節の内部には主題を表す bol が用いられる。

(8) <モ> ᠬᠠᠯᠢᠮᠤ ᠪᠣᠯ ᠵᠢᠶᠠᠰᠤ ᠶᠤᠮ ᠤᠰᠢᠨ ᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠡᠳᠡᠨ ᠶᠤᠮ ᠤᠰᠤ ᠲᠠ ᠲᠠᠶᠠᠵᠤ ᠤᠵᠡᠭᠡᠷᠡᠢ ᠡ

qalimu bol jiyasu yum uu süin tejigelten yum uu ta taya-ju üje-gerei.

クジラは 魚 MP か 哺乳類 MP か あなた当てる-CV 見る-OPT

(鯨は魚か哺乳類かをあなたが当ててみてください。)



### 3. 2 格成分が主題になっている文

格成分というのは、動詞や形容詞などの述語に対して、その動作を行う動作主や対象、相手、手段など、あるいは性質や感情の持ち主などを表すもので（野田 1996:18）、「～φ（主格）」、「～yi, i（対格）」、「yin/un, ün/n」（属格）、「～du, dü/tu, tü（与位格）」、「ača, eče（奪格）」、「～bar, ber/iyer, iyar（造格）」、「tai, tei」（共同格）などの形をした成分である。

#### 3. 2. 1 主格成分が主題になっている文

モンゴル語の主格助詞は日本語の格助詞「が」に近いもので、無助詞（以下、φと記す）の形で表される。モンゴル語の主格は無助詞の形で表されるため、主格成分が主題になった場合、基本的に「～φ + bol」の形をとる。

(ア) モンゴル語では、主格成分が主題になることがある。

モンゴル語では、主格成分が主題になることがある。たとえば次の(11)は、「労働」という主格成分が主題になっている文である。

(11) <モ> ᠠᠵᠢᠪᠠ ᠵᠢ ᠠᠯᠢᠪᠠ ᠶᠢ ᠪᠦᠲᠦᠭᠡ ᠳᠡᠭ ᠶᠤᠮᠤ 〃 (NMGDX コーパス)

ködelmüri bol aliba-yi bütüge-deg yum.

労働 は すべて-ACC つくる-VN MP

(労働はすべてをつくる。)

主格成分が主題になっている文の述語動詞には、前の(11)のように、形動詞が用いられることが多い。その理由は、反復・習慣的形動詞には恒常的な状態や習慣的な繰り返しを表す用法があるからである。

ただし、主格が主題になっている文の述語動詞は、反復・習慣的形動詞だけではなく、動詞の現在形・未来形で表されることもある。その理由は、モンゴル語の動詞の現在形・未来形に恒常的な状態を表す用法があるからである。たとえば次の(12)では、qarayda-n\_a（見える）という動詞が動詞の現在形・未来形になっている。

(12) <モ> ᠴᠢᠷᠠᠶᠳᠠ ᠨᠠ ᠵᠢᠷᠠᠮᠠᠯ ᠴᠢᠷᠠᠶᠠᠨ ᠵᠢᠷᠠᠶᠠᠨ ᠵᠢ ᠴᠣᠮ ᠠᠵᠢᠳᠤᠯᠡᠩᠭᠡᠳᠡᠢ ᠰᠠᠶᠢᠴᠠᠨ 〃

(NMGDX コーパス)

quryan egüles, quramal qurayan egüles bol cöm üjeskülenᠭtei sayiqan

卷 積 雲                  積                  雲                  は                  全部                  美しい

qarayda-n\_a.

見える-NP

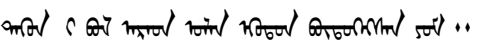
(巻積雲、積雲は全部美しく見える。)

### 3. 2. 2 対格成分が主題になっている文

モンゴル語の対格助詞は日本語の格助詞「を」に近いもので、yi と i の二種類がある。yi は語尾が母音で終わる語に、i は語尾が子音で終わる語に付く。

(イ) モンゴル語では、対格成分が主題になることがある。

モンゴル語では、対格成分が主題になることがある。基本的に、対格成分が主題になった場合、対格助詞が残って「対格助詞+ bol」の形をとる。たとえば次の(13)は、tegiin-i (それを) という対格成分が主題になっている文で、対格助詞 i が残っている。

(13) <モ>  (NMGDX コーパス)

tegiin-i      bol      arad olan egüidin bütüge-gsen yum.

それ-ACC は      人民      つくる-VN                  MP

(それは人民がつくった。)

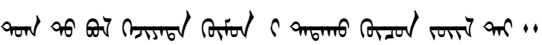
対格成分が主題になっている文の述語は、前の(13)のように、形動詞が用いられることが多い。(13)の述語動詞は形動詞の過去形で表されている。

### 3. 2. 3 与位格成分が主題になっている文

モンゴル語の与位格助詞は日本語の格助詞「に」に近いもので、du, dü と tu, tü の二種類がある。du, dü は語尾が母音や l, m, ng, n などの子音の場合、tu, tü は語尾が b, g, r, s, d などの子音の場合に使われる。

(ウ) モンゴル語では、与位格成分が主題になることがある。

モンゴル語では、与位格成分が主題になることがある。モンゴル語は、与位格成分が主題になった場合、基本的に「～与位格助詞+bol」の形をとる。たとえば次の(14)は、tuy (旗) という与位格成分が主題になっている。

(14) <モ>  (NMGDX コーパス)

tuy-tu      bol      kejiyede kömün-i      tata-qu                  kücün jüyil      tei

旗-DAT は いつも 人々-ACC 魅了する-VN 力 ある  
 (旗にはいつも人々を魅了する力がある。)

与位格助詞の中で、もっとも文の主題になりやすいのは、前の(14)のような所有の主体を表すものである。この文は、いわゆる「与格主語」が主題になったものである。「与格主語」が主題になっている場合は、次の(15)のように、与位格を主格に変えても文の意味がほとんど変わらない。

(15) <モ>  $\text{ᠲᠤᠭᠤ ᠪᠣᠯᠤᠯᠠᠭᠤᠨ ᠬᠡᠵᠢᠶᠡᠳᠡ ᠬᠣᠮᠤᠨ-ᠢ ᠲᠠᠲᠤ-ᠴᠤ ᠬᠡᠴᠢᠨ ᠵᠢᠶᠢᠯᠢ ᠲᠡᠢ}$

tuγ bol kejiyede kömün-i tata-qu kücün jüyil tei  
 旗 は いつも 人々-ACC 魅了する-VN 力 ある  
 (旗はいつも人々を魅了する力がある。)

与位格助詞の中で、次に文の主題になりやすいのは、場所を表す与位格助詞や時間を表す与位格助詞である。次の(16)は、場所を表す与位格助詞が主題になっている例で、この文では、sili yaġar (山間地帯) という場所名詞が主題になっている。

(16) <モ>  $\text{ᠰᠢᠯᠢ ᠶᠠᠭᠠᠷ-ᠲᠤ ᠪᠣᠯᠤ ᠴᠠᠵᠢᠯᠠᠳᠠᠢ ᠵᠡᠷᠭᠡ ᠴᠢᠨᠠᠷ ᠰᠠᠶᠢᠲᠠᠢ ᠤᠷᠲᠤ ᠨᠠᠰᠤᠲᠤ ᠪᠡᠪᠡᠰᠦ ᠲᠠᠷᠢ-ᠴᠤ ᠪᠠᠪᠠᠶᠢᠶᠠᠯᠢ-ᠶᠢᠨ ᠪᠡᠪᠡᠰᠦ ᠪᠡᠯᠴᠢᠭᠢᠭᠡᠷ-ᠢ ᠪᠡᠲᠡᠭᠦᠮᠵᠢᠯᠢᠨ ᠤᠷᠦᠭᠦᠭᠦᠯᠤ-ᠴᠤ ᠪᠡᠪᠡᠰᠦᠨ ᠬᠡᠷᠢᠶᠦ-ᠡ ᠪᠠᠶᠢᠶᠦᠯᠤ-ᠴᠤ-ᠪᠠᠷ ᠶᠣᠯᠤ ᠪᠣᠯᠶᠠᠨ-ᠠ}$

(NMGDX コーパス)

sili yaġar-tu bol qaryan\_a, čakilday ĵerge činar sayitai urtu nasutu ebesü  
 山間地帯-DAT は 杏の木 ネジアヤメなど 質 よい 寿命長い 草  
 tari-qu ba bayiyali-yin ebesü belčiger-i bitegümjilen uruyul-qu  
 植える-VN や 天然牧草地-ACC 囲んで 育てる-VN  
 ebesün küriy\_e bayiyul-qu-bar γool bolyan\_a.  
 囲まれた牧草地 つくる-VN-INST 中心 する  
 (山間地帯には杏の木、ネジアヤメなど質のよい、寿命が長い草を植えることや、天然牧草地を囲んで育てる囲まれた牧草地をつくることを中心とする。)

時を表す与位格成分も主題になりやすい。たとえば次の(17)では、γaray-un edür buyu ilegüken čay-tai üy\_e (日曜日あるいは時間がたっぷりある時) という与位格成分が主題になっている。

(17) <モ> ᠶᠠᠷᠠᠭᠤ ᠠᠨ ᠡᠳᠦᠷ ᠪᠤᠶᠤ ᠢᠯᠡᠭᠦᠢᠬᠡᠨ ᠴᠠᠭᠤᠲᠠᠢ ᠦᠢᠦ ᠡ ᠳᠦᠮᠤ ᠪᠣᠯ ᠲᠡᠷᠡ ᠦᠷᠭᠦᠯᠢ ᠡᠶᠢᠮᠦ ᠪᠣᠶᠣᠷᠰᠣᠶ ᠴᠠᠭᠠᠷᠢ ᠳᠠᠶ.

(NMGDX コーパス)

ᠶᠠᠷᠠᠭᠤ edür buyu ilegüken čay-tai üy\_e-dü bol tere ürgülji  
日曜日 あるいは 多く 時間-ある 時-DAT は 彼(彼女) いつも  
eyimü boyorsoᠶ qaqari-day.

このような お菓子 つくる-VN  
(日曜日あるいは時間がたっぷりある時には、彼(彼女)がいつもこの  
ようなお菓子をつくる。)

3. 2. 4 奪格成分が主題になっている文

モンゴル語の奪格助詞は日本語の「から」に近いもので、 ača と eče の2つの書き方がある。

(エ) モンゴル語では、奪格成分が主題になることがある。

モンゴル語は、奪格成分が主題になることがある。基本的に、奪格成分が主題になった場合「～奪格助詞+bol」の形をとる。たとえば次の(18)では、joriyuda γarya-γsan ün\_e ös-kü yabudal (意図的に値段を吊り上げること) という奪格成分が主題になっている。

(18) <モ> ᠵᠣᠷᠢᠶᠤᠳᠠ ᠭᠠᠷᠠᠭᠠ ᠭᠰᠠᠨ ᠦᠨ ᠡ ᠣᠰ ᠬᠦ ᠶᠠᠪᠤᠳᠠᠯ ᠠᠴᠠ ᠪᠣᠯ ᠵᠠᠶᠢᠯᠠᠰᠢ ᠵᠦ ᠪᠣᠯᠤᠨ ᠠ.

(NMGDX コーパス)

joriyuda γarya-γsan ün\_e ös-kü yabudal-ača bol jāyilaski-jü bolun\_a.  
意図的 する-VN 値吊り上げる-VN こと-ABL は 避ける-CV できる  
(意図的に値段を吊り上げることは避けられる。)

奪格成分が主題になっている前の(18)を、次の (19)のような主格成分が主題になっている文に変えても意味がほとんど変わらない。(19)もやはり「奪格主語」と言うべきものが主題になっている文である。

(19) <モ> ᠵᠣᠷᠢᠶᠤᠳᠠ ᠭᠠᠷᠠᠭᠠ ᠭᠰᠠᠨ ᠦᠨ ᠡ ᠣᠰ ᠬᠦ ᠶᠠᠪᠤᠳᠠᠯ ᠪᠣᠯ ᠵᠠᠶᠢᠯᠠᠰᠢ ᠵᠦ ᠪᠣᠯᠤᠨ ᠠ.

joriyuda γarya-γsan ün\_e ös-kü yabudal bol jāyilaski-jü bolun\_a.  
意図的 する-VN 値吊り上げる-VN こと は 避ける-CV できる  
(意図的に値段を吊り上げることは避けられる。)

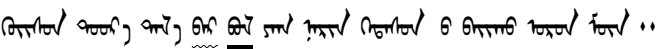


3. 2. 5 造格（場所格）成分が主題になっている文

モンゴル語の造格助詞は日本語の格助詞「で」に近いもので、bar,ber と iyar, iyer の2種類ある。bar, ber は語尾が母音の語に、iyar, iyer は語尾が子音の語に付く。

(オ) モンゴル語では、造格成分が主題になることがある。

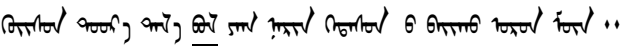
造格（場所格）成分が主題になることがある。主題になるのは、場所を表す造格成分である。造格成分が主題になった場合「～造格+bol」の形をとる。たとえば次の(20)では、küisün-ü door\_a tal\_a（～その下部）という造格（場所格）成分が主題になっている。

(20) <モ>  ..

(NMGDX コーパス)

küisün door\_a tal\_a-bar **bol** yay narin gedesün-ü bayiqu oron mön.  
 へそ 下 部-INST は ちょうど 小腸-GEN ある ところ MP  
 (へその下部はちょうど小腸があるところである。)

前の造格成分が主題になっている(20)を、次の(21)のような主格成分が主題になっている文に変えても文の意味はほとんど変わらない。この(20)もやはり「造格主語」と言うべきものが主題になっている例である。

(21) <モ>  ..

küisün door\_a tal\_a **bol** yay narin gedesün-ü bayiqu oron mön.  
 へそ 下 部-INST は ちょうど 小腸-GEN ある ところ MP  
 (へその下部はちょうど小腸があるところである。)

3. 2. 6 「格成分が主題になっている文」のまとめ

「格成分が主題になっている文」で述べてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表3 主題になる格成分

格助詞	主題になる格成分
主格助詞	○
対格助詞	○
与位格助詞	○
奪格助詞	○
造格助詞	○

### 3. 3 格成分の連体修飾部が主題になっている文

格成分の連体修飾部が主題になっている文というのは、「象は鼻が長い」のような文である。この文は、「象の鼻が」という主格成分の連体修飾部「象」が主題になっている。また、この文の修飾名詞「象」と被修飾名詞「鼻」は「の」でつながっている。

モンゴル語の属格助詞は日本語の「の」に近いもので、yin/un, ün/u, ü の3種類ある。yin は語尾が母音の場合、un, ün は語尾が n 以外の子音の場合、u, ü は語尾が n 子音の場合に使われる。

(ア) モンゴル語では、格成分の連体修飾部が主題になることがある。

モンゴル語は、格成分の連体修飾部が主題になることがある。格成分の連体修飾成分が主題になった場合「～属格+bol」の形をとる。すなわち、格成分の連体修飾部が主題になった場合属格助詞が消える。たとえば次の(22)は、jayan (象) が主題になっている文である。この文の主題は、「象の」の「の」が消えて「象は」になった。

- (22) <モ> ᠵᠠᠶᠠᠨ ᠪᠣᠯ ᠬᠠᠮᠠᠷ ᠨᠢ ᠤᠷᠲᠤ ᠶᠤᠮᠤ (ナラントヤ 2006:9)
- jayan bol qamar ni urtu yum.
- 象 は 鼻 3RD 長い MP
- (象は鼻が長い。)

#### 3. 3. 1 格成分の連体修飾部が主題になっている文の種類

ここで、どのような格成分の連体修飾部が主題になっているのかについて考えたい。たとえば「象は鼻が長い。」文では「象の鼻が」という「が」格成分の連体修飾部「象」が主題になっている。

(イ) モンゴル語では、主格、与位格、奪格などの格成分の連体修飾部が主題になる。

モンゴル語では、主格、与位格、奪格などの格成分の連体修飾部が主題になることがある。前の(22)は、jayan-u qamar (象の鼻が) という主格成分の連体修飾部 jayan-u (象) が主題になっている文である。このように、格成分の連体修飾部が主題になっている文の中で、主格成分の連体修飾部が主題になっている

ものが多い。

以下で、与位格と奪格成分の連体修飾部が主題になっている文について見ていこう。次の(23)は与位格成分の連体修飾部が主題になっている例で、その次の(24)は奪格成分の連体修飾部が主題になっている例である。

(23) <モ> ᠡᠵᠢ ᠪᠣᠯ ᠪᠠᠷᠠᠭᠤᠨ ᠶᠠᠷ-ᠤᠨ ᠠᠯᠠᠶᠠᠨ-ᠳᠤ ᠨᠢ ᠲᠣᠮᠤ ᠤᠯᠠᠶᠠᠨ ᠮᠡᠩᠭᠡ ᠲᠡᠢ ᠶᠤᠮᠤ ᠋᠋

eji bol barayun yar-un alayan-du ni tomo ulayan mengge tei yum.

母は右手-GEN 手のひら-DAT 3RD 大きな あかあざ ある MP

(母は右手の手のひらに大きなあかあざがある。)

(24) <モ> ᠪᠠᠲᠤ ᠪᠣᠯ ᠵᠡᠭᠦᠨ ᠴᠠᠮᠠᠷ-ᠠᠴᠠ ᠨᠢ ᠦᠷᠭᠦᠯᠢᠵᠢ ᠴᠢᠰᠤ ᠶᠠᠷ-ᠳᠠᠶ ᠋᠋

Batu bol jegün qamar-ača ni ürgülji čisu yar-day.

バトは 左側 鼻-ABL 3RD いつも 鼻血 出る-VN

(バトさんは左側の鼻からいつも鼻血が出る。)

前の(23)は、eji-yin barayun yar-un alayan-du (母の右手の手のひらに) という与位格成分の連体修飾部 eji(母)が主題になったもので、前の(24)は、「Batu-yin jegün qamar-ača (バトさんの左側の鼻から) という奪格成分の連体修飾部が主題になったものである。

### 3. 3. 2 格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語の性質

ここで、格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語にはどのようなものが用いられるのか、について考えたい。

(ウ) 格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語は、もっとも典型的な形は形容詞で、性質や状態を表す動詞、数量や性質を表す名詞が用いられることもある。

格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語は、性質や状態を表すものである。したがって、その述語は、次の(25)の oqur (短い) のような形容詞であるのが、もっとも典型的なケースである。

(25) <モ> ᠬᠣᠷᠴᠢᠨ ᠶᠠᠨ ᠴᠣᠨᠢ ᠪᠣᠯ ᠰᠡᠭᠦᠯ ᠨᠢ ᠣᠴᠣᠷ ᠶᠤᠮᠤ ᠋᠋

Qorčin qoni bol segül ni oqor yum.

ホルチン羊 は しっぽ 3RD 短い MP

(ホルチン羊はしっぽが短い。)

しかし、形容詞でなくても、次の(26)の čadday (腹がいっぱいになる) のような恒常的な状態や習慣的に繰り返される動作を表す動詞や、その次の(27)の「2m」のような数量や性質を表す名詞も述語になる。

(26) <モ> /mal 7 sar\_a-du sayi gedesü ni čadday ..

man-u nutuy-un mal bol 7 sar\_a-du sayi gedesü ni čadday.

我々-GEN 地方-GEN 牛は 7月-DAT 初めて 腹 3RD 腹いっぱいになる

(我々の地方の牛は7月になって初めて(青草で)腹がいっぱいになる。)

(27) <モ> /2m yum ..

Qorčin wang-un bökečin bol bey\_e ni 2m yum.

ホルチン王-GEN 相撲さん は 身長が 3RD 2m MP

(ホルチン王のお相撲さんは身長が2mである。)

### 3. 3. 3 格成分の連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞の性質

この節では、格成分の連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞の性質について考えたい。被修飾名詞というのは、「象は鼻が長い。」で言えば「鼻」の部分に当たる名詞のことである。

(エ) モンゴル語は、部分や側面を表す名詞や、部分や側面になっているとは言にくい名詞も被修飾名詞の部分に使われることがある。

まず、被修飾名詞が修飾名詞の部分や側面になっているものについて見てみたい。たとえば次の(28)は、修飾名詞と被修飾名詞が「全体」と「部分」の関係にある例である。この文では、「耳」が「馬」の「部分」になっている。

(28) <モ> /qurča yum ..

mori bol čiki ni qurča yum

馬 は 耳 3RD 鋭い MP

(馬は耳が鋭い(聴覚がいい)。)

次の(29)は、修飾名詞と被修飾名詞が「全体」と「側面」の関係にある例である。この文では、「性格」が「ひつじ」の「側面」になっている。

(29) <モ> /onomoqan ..

qoni bol jang činar ni nomoqan.

羊 は 性 格 3RD おとなしい

(羊は性格がおとなしい。)

側面とも言える被修飾名詞には、前の(28)と(29)のような普通の名詞もあれば、次の(30)のような動詞からできた名詞もある。動詞からできた名詞は日本語の動作名詞に似たものである。たとえば次の(30)では、「成長」という動作名詞が被修飾名詞になっている。

(30) <モ> keiked bol ösülte ni qurdun yum.

こども は 成長 3RD 速い MP

(こどもは成長が速い。)

ただし、格成分の連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞は、修飾名詞の「部分」や「側面」と言いにくい場合も多い。たとえば次の(31)では、「利益」が「この工場」の部分や側面とは言にくい。

(31) <モ> ene üyiledbüri bol oroly\_a sayitai.

この工場 は 利益 いい

(この工場は利益がいい。)

### 3. 3. 4 格成分の連体修飾部が主題になっている文の修飾名詞の性質

ここで、格成分の連体修飾部が主題になっている文の修飾名詞の部分に用いられる名詞について見ていきたい。

(オ) モンゴル語は、全体、場所などを表す名詞が連体修飾部に用いられる。

モンゴル語は、全体、場所などを表す名詞が「格成分の連体修飾部が主題になっている文」の連体修飾部に用いられる。たとえば次の(32)の連体修飾名詞「ハムスター」は「鼻」に対して「全体」を表す名詞である。また、その次の(33)は、「北海道」という場所を表す名詞が連体修飾名詞になっている。

(32) <モ> ürgünči bol qamar ni sayin.

ハムスター は 鼻 3RD いい

(ハムスターは鼻がいい。)

(33) <モ> ᠪᠣᠯ ᠡᠪᠢᠯ ᠬᠦᠢᠶᠢᠲᠦ ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠢ ..

Qukkaidou bol ebül küyiten bayiday.

北海道 は 冬 寒い MP

(北海道は冬が寒い。)

### 3. 3. 5 「格成分の連体修飾部が主題になっている文」のまとめ

「格成分の連体修飾部が主題になっている文」で見えてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表4 「格成分の連体修飾部が主題になっている文」のまとめ

どの格成分の連体修飾部が主題になるのか	主格、与位格、奪格などの格成分
述語の部分に使われるもの	形容詞、性質や状態を表す動詞、数量や性質を表す名詞など
被修飾名詞の部分に使われる名詞	部分や側面になっている名詞、部分や側面になっているとは言いにくい名詞
連体修飾部に使われる名詞	全体を表す名詞、場所を表す名詞など

### 3. 4 被修飾名詞が主題になっている文

この節では、モンゴル語の「被修飾名詞が主題になっている文」について見ていく。被修飾名詞が主題になっている文というのは、「新しい辞書がいい」という文の被修飾名詞「辞書」が主題になった「辞書は新しいのがいい」構文のことである。

(ア) モンゴル語には、被修飾名詞が主題になっている文がある。

モンゴル語には、被修飾名詞が主題になっている文が多く見られる。たとえば次の(35)は、被修飾名詞が主題になっている文である。この文は、(34)の被修飾名詞「友だち」が主題になった文である。

(34) <モ>  $\text{ᠠᠭᠤᠴᠢᠨ ᠨᠠᠶᠢᠵ᠎ᠠ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠋ᠰᠢ}$

qayučin nayija sayin.

古い 友だち いい  
主題

(古い友だちがいい(こと))

(35) <モ>  $\text{ᠨᠠᠶᠢᠵ᠎ᠠ ᠪᠣᠯ ᠠᠭᠤᠴᠢᠨ ᠨᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠋ᠰᠢ}$

nayija bol qayučin ni sayin.

友だち は 古い 3RD いい

(友だちは古いのがいい。)

#### 3. 4. 1 被修飾名詞が主題になっている文の種類

ここで、被修飾名詞が主題になっている文の種類について考えたい。

(イ) 被修飾名詞が主題になっている文において、典型的なものとして選択型と並列型<sup>6</sup>の2種類がある。

まず、「選択型」構文について見ていこう。

「選択型」の被修飾名詞が主題になっている文というのは、次の(36)のような文である。この文は、「古い辞書」や「新しい辞書」などの中から「新しい辞書」を「いい」ものとして選択している。野田(1996)によると、「選択型」の被修飾名詞が主題になっている文の述語は、典型的なケースは形容詞である。

<sup>6</sup> 「選択型」と「並列型」という用語は野田(1996)によるものである。

(36) <モ> ᠲᠣᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠪᠣᠯ ᠰᠢᠨ ᠡ ᠨᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠋ ᠋

toli bičig bol sin\_e ni sayin.

辞書 は 新しい 3RD いい

(辞書は新しいのがいい。)

選択型の被修飾名詞が主題になっている文の述語は、典型的なケースは形容詞であるが、動詞なども述語になることがある。たとえば次の(37)は「売れる」という動詞が述語になっている例である。この文は、「自動車」の中から「新しい自動車」を「売れる」ものとして選択している。

(37) <モ> ᠮᠠᠰᠢᠨ ᠲᠡᠷᠭᠡ ᠪᠣᠯ ᠰᠢᠨ ᠡ ᠨᠢ ᠢᠯᠡᠭᠢᠭᠦ ᠪᠣᠷᠣᠯᠠᠶᠤᠯᠦᠭᠦᠳᠠᠳᠠᠳᠠᠳᠠᠳᠠ ᠋ ᠋

masin terge bol sin\_e ni ilegiüü borolayuluỵdaday.

自動車 は 新しい 3RD よく 売れる

(自動車は新しいのがよく売れる。)

次に、並列型の被修飾名詞が主題になっている文について見ていこう。

並列型の被修飾名詞が主題になっている文というのは、次の(38)のようなものである。(38)では、「新しいのが値段が高い」と「古いのがやすい」が並列的な関係にあり、この並列的に用いられている「新しいのが値段が高い」と「古いのがやすい」は、「辞書」という共通の主題をもっている。

(38) <モ> ᠲᠣᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠪᠣᠯ ᠰᠢᠨ ᠡ ᠨᠢ ᠢᠨᠡᠳᠡᠢ ᠬᠠᠶᠤᠴᠢᠨ ᠨᠢ ᠬᠢᠮᠳᠠ ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠳᠠᠳᠠ ᠋ ᠋

toli bičig bol sin\_e ni ünetei, qayučin ni kimda bayiday.

辞書 は 新しい 3RD 高い 古い 3RD やすい MP

(辞書は新しいのが高くて、古いのがやすい。)

### 3. 4. 2 被修飾名詞が主題になっている文の修飾部の種類

ここで、被修飾名詞が主題になっている文の修飾部の種類について見ていく。修飾部というのは、「辞書は新しいのがいい。」文で言えば、「新しい」に当たるものである。

(ウ) 修飾部の種類には、名詞、形容詞、動詞、「XというY」の4つのタイプがある。

まず、被修飾名詞が主題になっている文の修飾部に名詞が用いられることについて見ていこう。次の(39)では、「シリングル」という名詞が修飾部に用いら





(42) <モ>  $\text{ᠰᠢᠩᠠᠭᠤ ᠲᠤᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠭᠡᠳᠭ ᠲᠤᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠨᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠡᠳᠡ}$

Sinquwa toli bičig gedeg toli bičig ni sayin.

新華 辞書 という 辞書 3RD いい

(新華辞書という辞書がいい。)

### 3. 4. 3 「被修飾名詞が主題になっている文」のまとめ

モンゴル語の「被修飾名詞が主題になっている文」について、この節で見てきたことを簡潔にまとめると、次のようになる。

表5 「被修飾名詞が主題になっている文」のまとめ

モンゴル語には、被修飾名詞が主題になっている文があるか	モンゴル語には被修飾名詞が主題になっている文がある
被修飾名詞が主題になっている文の種類	選択型と並列型の2種類がある
被修飾名詞が主題になっている文の修飾部の種類	名詞、形容詞、動詞、「XというY」の4つのタイプがある

### 3. 5 節が主題になっている文

この節では、モンゴル語の節が主題になっている文について見ていく。

(ア) モンゴル語には、節が主題になっている文がある。

節が主題になっている文というのは、次の(43)のような文である。この文は、その次の(44)の qariyačai ire-kü (ツバメが飛来する) という述語を中心にした節が主題に指定されている。もし主題が名詞であれば、その名詞に bol が付いて、それが文頭に置かれる。しかし、節が主題の場合は、次の(43)のように、名詞化辞 ni によって名詞化され、「~ni+bol」という形の主題になる。

(43) <モ>  $\text{ᠠᠵᠢᠶᠠᠴᠠᠢ ᠪᠦᠴᠠᠵᠦ ᠢᠷᠡᠬᠦ ᠨᠢ ᠪᠣᠯᠠ ᠲᠠᠪᠤᠨ ᠰᠠᠷᠠ ᠶᠢᠨ ᠦᠦᠢᠵᠡ ᠪᠡᠷ ᠶᠤᠮᠤ ᠠᠵᠢᠶᠠᠴᠠᠢ ᠪᠦᠴᠠᠵᠦ ᠢᠷᠡᠬᠦ ᠨᠢ ᠪᠣᠯᠠ ᠲᠠᠪᠤᠨ ᠰᠠᠷᠠ ᠶᠢᠨ ᠦᠦᠢᠵᠡ ᠪᠡᠷ ᠶᠤᠮᠤ ᠠᠵᠢᠶᠠᠴᠠᠢ ᠪᠦᠴᠠᠵᠦ ᠢᠷᠡᠬᠦ ᠨᠢ ᠪᠣᠯᠠ ᠲᠠᠪᠤᠨ ᠰᠠᠷᠠ ᠶᠢᠨ ᠦᠦᠢᠵᠡ ᠪᠡᠷ ᠶᠤᠮᠤ$

qariyačai buča-ju ire-kü ni bol tabun sar\_a-yin üy\_e-ber yum.  
ツバメ 帰る-CV 来る-CV 3RD は 五月-GEN ごろ-INST MP  
(ツバメが飛来するのは5月ごろだ。)

(44) <モ>  $\text{ᠲᠠᠪᠤᠨ ᠰᠠᠷᠠ ᠶᠢᠨ ᠦᠦᠢᠵᠡ ᠪᠡᠷ ᠠᠵᠢᠶᠠᠴᠠᠢ ᠪᠦᠴᠠᠵᠦ ᠢᠷᠡᠬᠦ ᠶᠤᠮᠤ ᠠᠵᠢᠶᠠᠴᠠᠢ ᠪᠦᠴᠠᠵᠦ ᠢᠷᠡᠬᠦ ᠶᠤᠮᠤ$

tabun sar\_a-yin üy\_e-ber qariyačai buča-ju ire-kü yum.  
五月-GEN ごろ-INST ツバメ 帰る-CV 来る-CV MP  
主題

(5月ごろツバメが飛来する。)

ただし、モンゴル語では、節が文の主題になった場合、節が ni によって名詞化されることなく、「節+bol」という形で表されることもある。たとえば次の(45)は、kölösü-ben sibqa-ju čisu-ban urusqa-ju ire-gsen (汗をしぼり血を流してきた) という節が主題になっている文で、その節に名詞化辞 ni が付かず、直接 bol が付いている。

(45) <モ>  $\text{ᠬᠥᠯᠤᠰᠦ ᠪᠡᠨ ᠰᠢᠪᠠ ᠵᠢ ᠴᠢᠰᠤ ᠪᠠᠨ ᠤᠷᠤᠰᠠ ᠵᠢ ᠢᠷᠡ ᠭᠰᠡᠨ ᠪᠣᠯᠠ ᠪᠦᠷ ᠡᠳᠡᠨᠦᠰ ᠤᠨ ᠲᠥᠯᠦᠭᠡ ᠶᠤᠮᠤ$

(NMGDX コーパス)

kölösü-ben sibqa-ju čisu-ban urusqa-ju ire-gsen bol бүр edenüs-ün  
汗-REFL しぼる-CV 血-REFL 流す-CV 来る-VN は すべて 彼ら-GEN  
tölöge yum.  
ため MP

(汗をしぼり血を流してきたのはすべて彼らのためである。)

### 3. 5. 1 節が主題になっている文の述語

ここで、節が主題になっている文の述語の性質について見ていきたい。

(イ) 理由を表す成分や時を表す成分、それに主格、対格、与位格、造格などの成分も述語の部分に入る。

モンゴル語では、理由を表す成分や時を表す成分が、節が主題になっている文の述語になることがある。前の(43)で、時を表す成分が述語になっている文について見たので、ここでは理由を表す成分が述語になっている例を見てみたい。たとえば次の(46)では、「魚の生臭いにおいが嫌だからである」という理由を表す成分が述語になっている。

(46) <モ>  $\text{ᠵᠢᠶᠠᠰᠤᠨ ᠮᠢᠴᠠᠨ-ᠳᠤ ᠳᠤᠷ ᠠ ᠤᠭᠡᠢ ᠨᠢ ᠪᠣᠯ ᠵᠢᠶᠠᠰᠤᠨ-ᠤ ᠰᠢᠩᠭᠡᠭ ᠤᠨᠢᠷ-ᠲᠦ ᠳᠤᠷ ᠠ ᠤᠭᠡᠢ-ᠡᠸᠡ ᠪᠣᠯᠤᠶᠰᠠᠨ ᠶᠤᠮ.}$   
 jiyasun miqan-du dur\_a ügei ni bol jiyasun-u singkeg ünür-tü  
 魚 肉-DAT 好きでない 3RD は 魚-GEN 生臭い におい-DAT  
 dur\_a ügei-eče boluysan yum.  
 好きでない-ABL MP MP

(魚肉が好きではないのは、魚の生臭いにおいが嫌だからである。)

また、主格、対格、与位格、造格などの格成分も述語の部分に用いられることがある。たとえば次の(47)は、「工業の発展」という主格成分が述語になっている例である。

(47) <モ>  $\text{ᠶᠡᠩᠭᠢᠵᠦ ᠣᠷᠴᠢᠨ ᠲᠣᠶᠣᠷᠢᠨ-ᠢ ᠮᠠᠶᠤᠵᠢᠷᠠ-ᠶᠤᠯ-ᠤ-ᠶᠰᠠᠨ ᠨᠢ ᠪᠣᠯ ᠠᠵᠤ ᠤᠶᠢᠯᠡᠳᠦᠷᠢ-ᠶᠢᠨ ᠬᠡᠭᠢᠯᠲᠡ ᠪᠣᠯᠤᠨ ᠠ.}$   
 inggijü orčin toyorin-i mayujira-γul-u-γsan ni bol aju üyiledbüri-yin kögjlte  
 こんなに 環境-ACC 悪くする-CAUS-VN 3RD は 工 業-GEN 発展  
 bolun\_a.  
 MP

(こんなに環境を悪くしたのは、工業の発展(が原因)である。)

### 3. 5. 2 「節が主題になっている文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表6 「節が主題になっている文」のまとめ

モンゴル語には、節が主題になっている文がある。
理由を表す成分や時を表す成分、それに主格、対格、与位格、造格などの成分も述語の部分に入る。



泣いてしまう-PAST という テーマ ある 話 MP

(みなさん、今日私が話したい話は「母なる地球が泣いてしまった」というテーマの話である。)

しかし、このような過剰なものがすべて不必要なもので誤用だとか冗長だとか決めつけるわけにはいかない。たとえば次の(50)では、「これ」が4回反復されている。実は、この「これ」を使っていない(51)もごく自然な主題をもつ文である。しかし、この「これ」を反復することによって、言いたいことを強調したり口調を整えたりする効果がある。

(50) <モ>  $\text{ᠠᠷᠢᠬᠢ ᠤᠦᠭᠤᠦ᠋ᠦᠬᠤ, ᠠᠶᠢᠯ ᠭᠡᠰᠢᠬᠦ᠋᠎ᠠ, ᠮᠣᠲᠣᠷ ᠤᠨᠤᠬᠤ, ᠮᠠᠶᠢᠮᠠᠢ ᠬᠢᠬᠦ, ᠡᠨᠡ ᠪᠣᠯ ᠮᠢᠨᠦ$   
 $\text{ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠯ, ᠡᠨᠡ ᠪᠣᠯ ᠮᠢᠨᠦ ᠬᠡᠰᠡᠯ, ᠡᠨᠡ ᠪᠣᠯ ᠮᠢᠨᠦ ᠣᠮᠣᠶᠰᠢᠯ, ᠡᠨᠡ ᠪᠣᠯ ᠮᠢᠨᠦ ᠵᠢᠷᠶᠠᠯ}$   
 $\text{ᠰᠢᠬᠡ ᠬᠣᠷᠢ, ᠬᠣᠷᠢ ᠬᠣᠰᠡ}$ !

(odo üy\_e-yin mongyol keüked-ün udq\_a jokiyal-un degeji2010:84)

ariki uuṣuqu, ayil gesükü, motor unuqu, mayimai kikü, ene bol minü  
飲酒 近所回り バイク乗り 商売 これは私の  
amidural, ene bol minü küsel, ene bol minü omoyzil, ene bol minü jiryal.  
生活 これは私の理想 これは私の誇り これは私の幸せ  
(飲酒、近所回り、バイク乗り、商売、これは私の生活、これは私の理想、これは私の誇り、これは私の幸せである。)

(51) <モ>  $\text{ᠠᠷᠢᠬᠢ ᠤᠦᠭᠤᠦ᠋ᠦᠬᠤ, ᠠᠶᠢᠯ ᠭᠡᠰᠢᠬᠦ᠋᠎ᠠ, ᠮᠣᠲᠣᠷ ᠤᠨᠤᠬᠤ, ᠮᠠᠶᠢᠮᠠᠢ ᠬᠢᠬᠦ, ᠪᠣᠯ ᠮᠢᠨᠦ$   
 $\text{ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠯ, ᠮᠢᠨᠦ ᠬᠣᠰᠡᠯ, ᠮᠢᠨᠦ ᠣᠮᠣᠶᠰᠢᠯ, ᠮᠢᠨᠦ ᠵᠢᠷᠶᠠᠯ}$   
 $\text{ᠰᠢᠬᠡ ᠬᠣᠷᠢ, ᠬᠣᠷᠢ ᠬᠣᠰᠡ}$ !

ariki uuṣuqu, ayil gesükü, motor unuqu, mayimai kikü bol minü amidural,  
飲酒 近所回り バイク乗り 商売 は私の生活  
minü küsel, minü omoyzil, minü jiryal.  
私の理想 私の誇り 私の幸せ  
(飲酒、近所回り、バイク乗り、商売は私の生活、私の理想、私の誇り、私の幸せである。)

### 3. 6. 2 不足型の破格の主題をもつ文

ここで、不足型の破格の主題をもつ文について見ていく。不足型の破格の主題をもつ文というのは、たとえば次の(52)のような文である。野田(1996)による

と、この文は、「益子焼を見に行く人は左折してください」というような意味であり、いろいろなものが省略されている。

(52) <日> 益子焼は左折 (野田 1996:79)

(イ) モンゴル語には、不足型の破格の主題をもつ文がある。

モンゴル語には、不足型の破格の主題をもつ文がある。たとえば次の (53) は、破格の主題をもつ文である。この文は、「写真は 40 数匹のキツネを養殖しているインエンシャンさんの純利益が 15000 元に達した写真である」というような意味で、述部の「もの」などが脱落してできた文だと見ることができる。

(53) <モ>  $\text{ᠵᠢᠷᠠᠭ ᠪᠣᠯ 40 ᠶᠠᠷᠠᠢ ᠦᠨᠡᠭᠡ ᠲᠡᠭᠢᠭᠡ-ᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠭ ᠶ᠋ᠢᠨ ᠶ᠋ᠠᠨ ᠰᠢᠶᠠᠩ-ᠤᠨ ᠴᠡᠪᠦᠷ ᠣᠷᠣᠯᠶ ᠠ ᠨᠢ 15000 ᠲᠦᠭᠦᠷᠢᠭ ᠬᠢᠷ-ᠴᠡᠢ ᠠᠨᠢᠨᠦᠨ ᠰᠢᠶᠠᠨ ᠰᠢᠨ}$  (Öbör mongyol-un edür-ün sonin2009.1.3 p.2)

jiruy bol 40 yarui ünege tejige-ju bayiy\_a Yin yan siyang-un čeber oroly\_a ni  
 写真は 40 余りキツネ養殖-CV いる インエンシャン-GEN 純 利益 3RD  
 15000 tögorig kür-čei.

15000 元 達する-PAST

(写真は 40 数匹のキツネを養殖しているインエンシャンさんの純利益が 15000 元に達した。)

不足型の破格の主題をもつ文をすべて、話し手や書き手の不注意から起きたものだとしてしまうわけにはいかない。表現を簡潔にしたりする効果をもつことがある。たとえば次の(54)の2番目の文「これは県(から)の」は、述語が欠如していて、この文だけでは文意が不明である。ただ、1番目の「これは市(から)のプレゼント」とい文から、2番目の文の述語は「プレゼント」であることが推測できる。これは、同一述語をもつ2つの文のうち、後ろの文の述語を省略することによって表現を簡潔する効果がある。このように、話の現場の状況、前後の文脈から推測できる成分を省略することはしばしばある。

(54) <モ>  $\text{ᠵᠢᠷᠠᠭ ᠪᠣᠯ ᠠᠶᠢᠮᠠᠭ ᠠᠨ ᠪᠡᠯᠭ ᠰᠢᠵᠢᠶᠠᠨ ᠠᠨ ᠵᠣᠰᠢᠶᠠᠨ ᠠᠨ ᠠᠨ ᠠᠨ}$  (中略) ・  $\text{ᠵᠢᠷᠠᠭ ᠪᠣᠯ ᠵᠣᠰᠢᠶᠠᠨ ᠠᠨ ᠠᠨ}$

(odo üy\_e-yin mongyol keüked-ün udq\_a jökiyal-un degeji2010:454)

ene bol ayimay-un beleg, ene bol qosiyun-u.

これは 市-GEN プレゼント これは 県-GEN

(これは市(から)のプレゼント、これは県(から)の。)

3. 6. 3 漠然型の破格の主題をもつ文

漠然型の破格の主題をもつ文というのは、この文全体の「表題」とでも言ったらいいものを、とりあえず漠然と示すものである。たとえば次の(55)のような文である。野田(1996)によると、この文の主題「京葉線の利用状況」は、この文全体の「表題」とでも言ったらいいものを、とりあえず漠然と示しているだけである。

(55) <日> 京葉線の利用状況は、多様な快速のダイヤ構成からもうかがえるように、通勤通学と行楽・レジャーの双方に大きな流動がある。

(野田 1996:79)

(ウ) モンゴル語には、漠然型の破格の主題をもつ文がある。

モンゴル語には、漠然型の破格の主題をもつ文がある。たとえば次の(56)は漠然型の主題をもつ文である。この文の主題「一つの目標」は述部にとって、漠然としたもので、格関係に戻して「一つの目標がモラルのある病院をつくる」と言うこともできない文である。(56)は、述部の「ことである」などが抜けてできた「不足型」の破格の主題をもつ文と見ることもできる文である。この文は、述部に「ことである」などを補足しても格関係に戻せないものである。

(56) <モ> ᠠᠨᠢᠭᠡ ᠴᠠᠷᠠᠯᠲᠤ ᠪᠣᠯᠪᠣᠪᠪᠠᠰᠤᠨ ᠡᠮᠨᠡᠯᠭᠡ-ᠶᠢᠨ ᠴᠣᠷᠢᠶᠤᠯᠤᠨ-ᠤ-ᠨ-ᠠ (NMGDX コーパス)

nige qaralta bol bolbasun emnelge-yin qoriy\_a bayiyul-u-n\_a.

一つ 目標 は モラルある 病院 つくる-NP

(一つの目標はモラルのある病院をつくる (ことである) 。)

このような漠然型の破格の主題をもつ文には、前の文脈の出来事などを指示する指示代名詞が主題になっているものもある。たとえば次の(57)の主題「これ」は、前の文「走って走って 1 つの大きなトンネルに入った」を指しているとも言える。

(57) <モ> ᠠᠶᠤᠨ ᠶᠠᠪᠤᠰᠠᠶᠠᠷ ᠨᠢᠭᠡᠨ ᠪᠦᠳᠦᠭᠦᠨ ᠨᠦᠬᠡᠨ ᠠᠮᠠ-ᠪᠠᠷ ᠣᠷᠣ-ᠯ-ᠠ ᠡᠨᠡ ᠪᠣᠯᠤ ᠳᠡᠯᠡᠬᠡᠢ-ᠳᠢᠢ  
ᠠᠯᠳᠠᠷᠰᠢ-ᠶᠰᠠᠨ ᠪᠠ ᠳᠠ ᠯᠢᠩ-ᠤᠨ ᠳᠠᠪᠠᠶᠠᠨ-ᠤ ᠨᠦᠬᠡᠨ ᠵᠠᠮ-ᠶᠢᠶᠠᠷ ᠶᠠᠪᠤ-ᠵᠤ ᠪᠠᠶᠢᠨ-ᠠ (省略) \*\* (NMGDX コーパス)

yabun yabuᠰayār nigen бүдүгүн нүкен ama-bar oro-l\_a. ene bol delekei-dü

走って走って 一つ大きい トンネル-INST 入る-PAST これは世界-DAT

aldarsi-γsan ba da ling-un dabayan-u nūken ᠵᠠᠮ-iyar yabu-ᠵu bayin\_a

有名になる-VN 八 達 嶺-GEN トンネル-INST 走る-CV いる



(走って走って1つの大きなトンネルに入った。これは世界に有名な八達嶺(山)のトンネルを走っている。)

この文の下線部にある bol には2つの役割がある。1つは、主題を表している。もう一つは、ene delekei (この世界) という意味になることを避けるためである。モンゴル語では、「これ」も「この」も一つの ene で表される。ene (この/これ) と delekei (世界) の間に bol を入れると、「この世界」という意味にならず「これは」という意味になる。

すなわち、前の(57)の bol を取り去った次の(58)は、前の文とまったく異なった意味をもつ文になってしまう。(57)は「これは世界に有名な八達嶺(山)のトンネルを走っている」という文であるのに対して、bol を取り去った(58)は「この世界に有名な八達嶺(山)のトンネルを走っている」という文になる。

(58) <モ>  $\text{ᠠᠨᠢᠳᠠᠷᠰᠢᠶᠰᠠᠨᠨᠠᠳᠠᠯᠢᠩᠭᠤᠨᠳᠠᠪᠠᠶᠠᠨᠤᠨᠢᠬᠡᠨᠵᠠᠮᠢᠶᠠᠷ}$   
 ene delekei-dü aldarsi-γsan Ba da ling-un dabayan-u nūken jam-iyar  
 これ世界-DAT 有名になる-VN 八達嶺-GEN トンネル-INST  
 yabu-ju bayin\_a.  
 走る-cv いる  
 (この世界に有名な八達嶺(山)のトンネルを走っている)

### 3. 6. 4 「破格の主題をもつ文」のまとめ

モンゴル語の「破格の主題をもつ文」について、この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表7 「破格の主題をもつ文」のまとめ

破格の主題をもつ文	過剰型
	不足型
	漠然型

## 第4章 モンゴル語の典型的な主題マーカーの非主題表示機能

この章では、モンゴル語の典型的な主題マーカーbolにおける非主題表示機能について考察する。具体的には、bolの対比表示機能、bolの条件表示機能の順に見ていく。

### 4. 1 対比表示機能

この節では、bolの対比を表す機能について考えたい。

(ア) bolは対比を表すことができる。bolの対比を表す用法には、明示的な対比と暗示的な対比の2種類がある。

ここまで見てきたモンゴル語のbolは主題を表すものであった。しかし、bolの中には、主題を表す働きが弱く、対比的な意味が強いものがある。たとえば次の(1)のdeger\_e bol(上は)とdergete bol(そばは)は対比的に用いられ、主題を表しているというより、対比的な意味が強い。

(1) <モ> ᠪᠢᠳᠡᠨᠤ ᠳᠡᠭᠡᠷᠡ ᠪᠣᠯᠡ ᠠᠷᠠᠳᠤᠨ ᠶ᠋ᠢᠨ ᠠᠵᠢᠷᠢᠯᠠ ᠳᠠᠶᠤ ᠨᠠᠮ ᠵᠠᠰᠠᠶᠤ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠᠨᠠᠳᠤᠳᠡ ᠪᠣᠯᠡ  
ᠶ᠋ᠭᠠᠨ ᠲᠤᠰᠠᠯᠠᠯᠴᠠᠶᠤ ᠵᠡᠭᠢᠵᠡ ᠪᠠᠶᠢᠶᠤ ᠠ ᠣᠯᠠᠨ ᠲᠦᠮᠡᠨ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠᠨᠠ

(odo üy\_e-yin mongyol kele2005:646)

biden-u deger\_e bol arad-i qayirala-day nam jasay bayin\_a. dergedede bol

我々-GEN 上 は 民-ACC 愛する-VN 党 政府 ある そば は

qarilčan tusalalča-y\_a gejü bayiy\_a olan tümen bayin\_a.

互い 助ける-VOL とする みなさん いる

(私たちの上には民を愛する党や政府がある。そばには互いに助け合おうとするみなさんがいる。)

この章では、対比を表すbolや、それに関係の深いbolについて考えていきたい。具体的には、明示的な対比を表すbol、暗示的な対比を表すbol、bolで対比を表せる成分、まとめの順に見ていきたい。

#### 4. 1. 1 明示的な対比を表すbol

明示的な対比というのは、対比の相手が明示されるものである。たとえば次の(2)では、「私は」の「は」は主題を表し、「魚は」と「肉は」の「は」は対

比を表している。この文では、「魚」の対比の相手は「肉」で、互いに対比的に用いられている。

(2) <日>私は魚は食べるが、肉は食べない。

#### 4. 1. 1. 1 対比専用の bol と対比兼用の bol

ここで、明示的な対比を表す2種類の bol について見ていきたい。

(イ) 明示的な対比を表す bol には、対比専用の bol と対比兼用の bol の2種類がある。

一般的に、対比の bol と言われるのは、次の(3)の abu-ača-ban bol (父は) の bol と čim\_a-ača bol (あなたは) の bol や、その次の(4)の aq\_a bol (兄は) の bol と degüü bol (弟は) の bol である。

(3) <モ> би abu-ača-ban bol ayu-qu-ača bisi, čim\_a-ača bol ayu-qu ügei siü.

(sečenbilig-ün nayirayulul-un songyomal2003:272)

私父-ABL-REFL は 恐れる-VN-ABL ない あなた-ABLは恐れる-VNない MP

(私は父は怖いですが、あなたは怖くないぞ。)

(4) <モ> aq\_a bol ažilčin, degüü bol suruyči.

(Čenggeltei1991:520)

兄 は 労働者 弟 は 学生

(兄は労働者で、弟は学生です。)

ただし、同じように対比を表すといっても、(3)で用いられている bol と(4)で用いられている bol には違いがある。(3)の abu-ača-ban bol (父は) と čim\_a-ača bol (あなたは) は、対比の意味がなければ、次の(5)のように、abu-ača-ban (父が)、čim\_a-ača (あなたが) になる。それに対して、(4)の aq\_a bol (兄は) と degüü bol (弟は) は、対比の意味がなくても、次の(6)のように、aq\_a bol (兄は)、degüü bol (弟は) だからである。

(5) <モ> би abu-ača-ban ayu-qu-ača bisi, čim\_a-ača ayu-qu ügei siü.

私父-ABL-REFL 恐れる-VN-ABL ない あなた-ABL 恐れる-VN ない MP

(私は父が怖いですが、あなたが怖くないぞ。)

(6) <モ> aq\_a bol ajilčin, degüü bol suruyči.

aq\_a bol ajilčin, degüü bol suruyči.

兄 は 労働者 弟 は 学生

(兄は労働者で、弟は学生です。)

換言すると、(3)の *abu-ača-ban bol* (父は) と *čim\_a-ača bol* (あなたは) の *bol* は、対比を表すだけで、主題を表す働きはしていない。この文で主題になっているのは、*bi* (私) である。それに対して、(4)の *aq\_a bol* (兄は)、*degüü bol* (弟は) は、まず第一に、主題を表している。そして、それが、並立的な関係にある構文の中にあるため、結果的に対比の意味を感じさせるのである。

これは、対比を表す *bol* にも、対比専用の場合と、対比兼用の場合があるということである。対比専用の *bol* というのは、前の(3)のような *bol* で、このような *bol* は主題を表さず、対比だけを表すものである。それに対して、対比兼用の *bol* というのは、(4)のような *bol* で、主題を表すと同時に対比の意味を感じさせるものである。

対比専用の *bol* と対比兼用の *bol* では、対比専用の *bol* のほうが、対比の *bol* の典型である。対比兼用の *bol* は、結果的に対比の意味が感じられるだけのもので、典型的な対比とは言えない。

では、典型的な対比の *bol* である対比専用の *bol* を中心に見ていこう。

#### 4. 1. 1. 2 対立的な対比と並立的な対比

ここで、対比専用の2種類の *bol* について見ていく。

(ウ) 対比専用の *bol* には、対立的な対比を表す *bol* と並立的な対比を表す *bol* の2種類がある。

この節で扱う明示的な対比は、対比の相手が明示されるものである。対比の相手を明示するには特定の構文が使われるが、そうした構文には、典型的なものとして2種類ある(野田1996)。次の(3)' のように対立的な対比を表すものと、その次の(7)のように並立的な対比を表すものである。

(3)' <モ> *bi abu-ača-ban bol ayu-qu-ača bisi, čim\_a-ača bol ayu-qu ügei siü.*

(『*sečenbilig-un nayirayulul-un songyomal2003:272*』)

*bi abu-ača-ban bol ayu-qu-ača bisi, čim\_a-ača bol ayu-qu ügei siü.*



(8) <モ> <~> ᠠᠳᠤᠪᠦᠷᠢ ᠶᠢ ᠶᠣᠣᠯᠳᠠᠶᠤ ᠪᠢᠴᠢᠭᠤᠨ ᠬᠡᠯᠡᠨᠳᠦ ᠬᠡᠷᠭᠡᠵᠦᠵᠢ, ᠬᠡᠷᠪᠡ  
ᠶᠠᠷᠢᠶᠠᠨᠤ ᠬᠡᠯᠡᠨᠳᠦ ᠪᠣᠯ ᠨᠢᠭᠡ ᠦᠶᠢᠯᠡ ᠬᠣᠳᠡᠯᠭᠡᠭᠡᠨᠢ ᠳᠠᠪᠲᠠᠭᠤ ᠪᠤᠶᠤ ᠭᠡᠰᠦᠬᠦᠯᠡ  
ᠲᠡᠷᠡ ᠳᠣᠷᠤ ᠠᠪᠠᠨ ᠪᠣᠯᠭᠤ ᠤᠳᠬᠤ ᠠᠶᠢ ᠢᠡᠯᠡᠳᠦᠬᠡᠬᠦ ᠦᠶᠡᠰᠦᠲᠦ ᠰᠠᠶᠢ ᠬᠡᠷᠭᠡᠳᠡᠭᠡ.  
ᠲᠤᠭᠤ ᠬᠡᠶᠠᠷᠠᠯᠠᠷᠤ ᠶᠢ ᠶᠣᠣᠯᠳᠠᠶᠤ ᠪᠢᠴᠢᠭᠤᠨ ᠬᠡᠯᠡᠨᠳᠦ ᠬᠡᠷᠭᠡᠵᠦᠵᠢ ᠬᠡᠷᠪᠡ  
ᠶᠠᠷᠢᠶᠠᠨᠤ ᠬᠡᠯᠡᠨᠳᠦ ᠪᠣᠯ ᠨᠢᠭᠡ ᠦᠶᠢᠯᠡ ᠬᠣᠳᠡᠯᠭᠡᠭᠡᠨᠢ ᠳᠠᠪᠲᠠᠭᠤ ᠪᠤᠶᠤ ᠭᠡᠰᠦᠬᠦᠯᠡ  
ᠲᠡᠷᠡ ᠳᠣᠷᠤ ᠠᠪᠠᠨ ᠪᠣᠯᠭᠤ ᠤᠳᠬᠤ ᠠᠶᠢ ᠢᠡᠯᠡᠳᠦᠬᠡᠬᠦ ᠦᠶᠡᠰᠦᠲᠦ ᠰᠠᠶᠢ ᠬᠡᠷᠭᠡᠳᠡᠭᠡ.  
 (ödo uy\_e-yin mongyol kelen jüi 1979:304)

<n>dayaburi-yi yooldayu bičig-ün kelen-dü keregle-ju, kerbe

<n>語尾-ACC 主に 書きことば-DAT 使う-CV もし

yariyan-u kelen-dü **bol** nige üyile ködelgegen-i dabta-qu buyu esekül e

話しことば-DAT は 1つ 動作-ACC 繰り返す-VN あるいは

tere door\_a-ban bolqu udk\_a-yi ieledke-kü üyes-tü sayi keregle-deg.

すぐ 行われる 意味-ACC 表す-VN 時-DAT だけ 使う-VN

(「n」という語尾は、主に書きことばに使われ、話しことばには1つの動作を繰り返す時や、すぐ実施に移すという意味を表す時だけ使われる。)

なお、このような bol は、次の(9)のように、2つの独立した文にまたがって出てくることがある。たとえば次の(9)は2つの文からできている。1つは「一般的には、羊が山羊より大きい。」で、もう1つは「しかし、体が大きい山羊は羊よりも大きい。」である。bol は1つ目の文には出現せず、2つ目の文には出現している。

(9) <モ> ᠶᠠᠷᠢᠶᠠᠨᠤ ᠬᠡᠯᠡᠨᠳᠦ ᠪᠣᠯ ᠨᠢᠭᠡ ᠦᠶᠢᠯᠡ ᠬᠣᠳᠡᠯᠭᠡᠭᠡᠨᠢ ᠳᠠᠪᠲᠠᠭᠤ ᠪᠤᠶᠤ ᠭᠡᠰᠦᠬᠦᠯᠡ  
ᠲᠡᠷᠡ ᠳᠣᠷᠤ ᠠᠪᠠᠨ ᠪᠣᠯᠭᠤ ᠤᠳᠬᠤ ᠠᠶᠢ ᠢᠡᠯᠡᠳᠦᠬᠡᠬᠦ ᠦᠶᠡᠰᠦᠲᠦ ᠰᠠᠶᠢ ᠬᠡᠷᠭᠡᠳᠡᠭᠡ.  
 (フフバートル 1993:96)

yerüdegen qoni ni imayan-ača бүдүгүн yum. gebečü bey\_e-ber бүдүгүн

一般的に 羊 3RD 山羊-ABL 大きい MP しかし 体-INST 大きい

imay\_a **bol** qonin-ača ču бүдүгүн siü.

山羊 は 羊-ABL も 大きい MP

(一般的には、羊は山羊より大きい。しかし、体が大きい山羊は羊よりも大きい。)

#### 4. 1. 2 暗示的な対比を表す bol

前の節では、対比の相手が明示されている時の対比の bol について考えた。この節では、対比の相手が明示されていない時の対比の bol について考える。対比の相手が明示されていない暗示的な対比というのは、次の(10)のようなものであ

る。この文では、「ビールは飲まない」だけが出現しているが、「ほかのものは飲む」など、対比の相手が想定できるものである。

(10) <日>私はビールは飲まない。

#### 4. 1. 2. 1 bol が表す暗示的な対比

ここで、bol に暗示的な対比を表す用法があるかどうかについて見ていく。

(オ) bol には暗示的な対比を表す用法がある。

bol には暗示的な対比を表す用法がある。暗示的な対比は、前節で見た明示的な対比と違って、対比の相手が文の中に現れない。しかし、実際には、対比の相手が想定できることも多い。たとえば次の(11)では、「今我々が住んでいる都市には売っていない」などが想定できる。

(11) <モ> ᠠᠨᠭᠢᠨᠠ ᠨᠠᠭᠤᠨᠠ ᠰᠤᠯᠤᠯᠤᠯ ᠵᠢᠨᠲᠦ ᠠᠨᠵᠢᠨᠲᠦ ᠠᠨᠵᠢᠨᠲᠦ ᠭᠡᠢ .. (Čenggeltei1991:401)

teyimü nom Begejing-dü bol bayiqu mayad ügei.

このような本 北京-DAT は ある かもしれない

(このような本は北京にはあるかもしれない。)

この時、対比の相手というのは「北京に」に対して「今我々が住んでいる都市」などではなく、「北京にはあるかもしれない」に対して「今我々が住んでいる都市などにはない」である。

bol が否定文に使われた時、対比の相手が想定しにくいことも多い。たとえば次の(12)の「彼（彼女）には聞かない」のに対して、「だれに聞くか」は必ずしも想定できるものではない。

(12) <モ> ᠠᠨᠵᠢᠨᠲᠦ ᠤᠨᠠᠨᠵᠢᠨᠲᠦ ᠠᠨᠵᠢᠨᠲᠦ ᠵᠢᠨᠲᠦ ᠠᠨᠵᠢᠨᠲᠦ ᠭᠡᠢ .. (Čenggeltei1991:442)

tegiin-eče bol bi asayu-qu ügei.

彼（彼女）-ABL は 私 聞く-VN ない

(彼（彼女）には私は聞かない。)

#### 4. 1. 2. 2 bol が暗示的な対比になりやすい条件

ここで、bol が暗示的な対比になりやすい条件について考えたい。

(カ) 事象叙述文に使われる bol、斜格に付く bol、対になるような名詞に付く bol は暗示的な対比になりやすい。

1) 事象叙述文に使われる bol は対比的になりやすい

事象叙述文か属性叙述文かによって、bol が暗示的な対比になるかならないかが異なる。事象叙述文の中で使われる bol は基本的に対比の意味を伴う。たとえば次の(13)と(14)は事象叙述文で、bol が付いた「明日」と「映画」は対比の相手が想定できるものである。このように、事象叙述文の中で用いられる bol は、基本的に暗示的な対比の意味を伴う。

(13) <モ> ᠮᠠᠷᠶᠠᠰᠢ ᠪᠣᠯ ᠣᠴᠢ-ᠨᠠ .. (Čenggeltei 1991:401)

maryasi bol oči-n\_a

明日 は 行く-NP

(明日は行く。)

(14) <モ> ᠬᠢᠨᠣ ᠪᠣᠯ ᠤᠵᠡ-ᠨᠡ .. (フフバートル 1993:63)

kino bol üje-n\_e.

映画 は 見る-NP

(映画は見る。)

2) 斜格成分に付く bol は対比的になりやすい

前に、事象叙述文に使われる bol は主題になりやすいことを見てきた。ただし、属性叙述文に使われる bol も対比的に使われることも多い。属性叙述文の中で対比的な解釈を受けやすいのは、斜格成分に付く bol である。

たとえば、次の(15)では、kömüs-ün aru-du (人の陰で) という与位格成分が文頭に置かれ、対比的に使われている。この文は「人の前では人間らしい」など、対比の相手が想定される文である。

(15) <モ> ᠭᠡᠲᠡᠯᠡ ᠬᠣᠮᠤᠰ-ᠦᠨ ᠠᠷᠤ-ᠳᠤ ᠪᠣᠯ ᠴᠢ ᠴᠢᠳᠻᠣᠷ .. (NMGDX コーパス)

getel\_e kömüs-ün aru-du bol či čidkör.

しかし 人々-GEN 陰-DAT は あなた 鬼

(しかし、陰ではあなたは鬼だ (と AさんはBさんに言っている)。)

このほか、対格、奪格、造格、共同格などに付く bol も対比的な解釈を受けやすい。斜格に付く bol が対比的になりやすいことについては、Čenggeltei(1991) などにも指摘されていることで、ここで、与位格以外の例文は省略する。







対比の相手が想定できるものではない。特に、この文のように、主題の後に置かれた与位格成分は対比的な解釈を受けやすい。

(18) <モ> bi Batu-du bol ög-kü ügei.

私 バト-DAT は あげる-VN ない

(私はバトさんにはあげない。)

#### 4) bol で対比を表せる造格成分

ここで、造格成分に bol を付けて対比を表すことができるかどうかについて見てみたい。

(コ) 造格成分に bol を付けて対比を表すことがある。

造格成分に bol を付けて対比を表すことがある。造格成分に bol が付くと、造格助詞が消えず「造格助詞+bol」の形で用いられる。たとえば次の(19)は、sabq\_a-bar (箸で) という造格成分に bol が付いている例である。この文は、「箸を使って食事をすることはできないが、スプーンならできる」という対比である。造格成分に付く bol はほとんど対比の意味を伴う。次の例(19)のように、主題の後に置かれた造格成分は、なおさらである。

(19) <モ> bi sabq\_a-bar bol ide-jü čidaqu ügei.

私 箸-INST は 食べる-CV できる ない

(私は箸では食べることができない。)

#### 5) bol で対比を表せる奪格成分

ここで、奪格成分に bol を付けて対比を表すことができるかどうかについて見てみたい。

(サ) 奪格成分に bol を付けて対比を表すことがある。

奪格成分に bol を付けて対比を表すことがある。奪格成分に bol が付くと、奪格助詞が消えず「奪格助詞+bol」の形で用いられる。たとえば次の(20)は、ende-eče (ここから) という奪格成分に bol が付いている例である。この文は、「ここからは富士山が見えるが、ほかのところからは見えないかもしれない」とい

う対比で、対比の相手は必ずしもはっきりしているものではない。

- (20) <モ> ᠠᠨᠳᠡᠭᠡᠴᠡ ᠪᠣᠯ ᠮᠤᠮᠤᠰᠠᠨ ᠤᠶᠡᠭᠡᠳᠡᠨ ᠡ ᠠᠨᠳᠡᠭᠡᠴᠡ ᠪᠣᠯ Fujisan üjegde-n\_e.  
 ここ-ABL は 富士山 見える-NP  
 (ここからは富士山が見える。)

#### 6) bol で対比を表せる共同格成分

ここで、共同格成分に bol を付けて対比を表すことができるかどうかについて見てみたい。

(シ) 共同格成分に bol を付けて対比を表すことがある。

共同格成分に bol を付けて対比を表すことがある。共同格成分に bol が付くと、共同格助詞が消えず「共同格助詞+bol」の形で用いられる。たとえば次の(21)は、Bayatur-tai (バートルさんと) という共同格成分に bol が付いている例である。この文は、「ほかの人とはともかく、バートルさんとはけんかしたことがない」という対比で、対比の相手が想定しにくいものである。

- (21) <モ> ᠪᠠᠶᠠᠲᠤᠷᠲᠠᠢ ᠪᠣᠯ ᠬᠡᠷᠭᠦᠯ ᠬᠢᠵᠢ ᠣᠩᠭᠡᠷᠭᠡᠰᠢᠨ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠠᠶᠠᠲᠤᠷᠲᠠᠢ bol keregül kijü önggeregsen ügei.  
 バートル-COM は けんか したこと ない  
 (バートルさんとはけんかしたことがない)

#### 4. 1. 3. 2 bol で対比を表せる副詞的成分

副詞的成分にも、bol が付くものと付かないものがある。ここで、bol で対比を表せる副詞的成分のみを取り上げる。すなわち、様態を表す副詞的成分、時を表す副詞的成分、アスペクトに関わる副詞的成分、量を表す副詞的成分、程度を表す副詞的成分の5つである。

##### 1) 様態を表す副詞的成分

ここで、様態を表す副詞的成分に bol を付けることができるかどうかについて考えたい。

(ス) 様態を表す副詞的成分には bol を付けることができる。

日本語記述文法研究会(2009a)によると、様態を表す副詞的成分には、副詞、形容詞の連用形、動詞のテ形、「で」格名詞などがある。

モンゴル語では、事態を表す否定文の中で、様態を表す副詞的成分に **bol** が付きやすい。たとえば次の(22)は事態を表している否定文で、副詞的成分である **yeke dayu-bar** (大声で) に **bol** が付いて、「叫んだことは叫んだが、そんなに大声では叫んでいない」という対比の意味を表している。

(22) <モ> яке дагу-бар бол barkira-γsan ügei siü.

yeke dayu-bar **bol** barkira-γsan ügei siü.

大 声-INST は 叫ぶ-VN ない MP

(大声では叫んでいないよ。)

モンゴル語では、事態を表すのではなく、実現可能性を表す否定文の場合も、様態を表す副詞的成分に **bol** が付きやすい。たとえば次の(23)は実現可能性を表している否定文で、副詞的成分である **todorqai** (はっきり) に **bol** が付いて、「言えることは言えるが、はっきりとは言えない」という対比の意味を表している。

(23) <モ> тодорхай бол kele-jü čidaqu ügei.

todorqai **bol** kele-jü čidaqu ügei.

はっきり は 言う-CV できる ない

(はっきりとは言えない。)

## 2) 時を表す副詞的成分

ここで、時を表す副詞的成分に **bol** を付けることができるかどうかについて考えたい。

(セ) 時を表す副詞的成分には **bol** を付けることができる。

日本語記述文法研究会(2007a)によると、時を表す副詞的成分には、発話時を基準とする副詞的成分、発話時を基準としない副詞的成分がある。前者は基本的に無助詞で用いられる。後者は基本的に「に」を伴って用いられる。

モンゴル語では、時を表す副詞的成分には **bol** を付けることができる。事態を表す否定文の時を表す副詞的成分には **bol** が付きやすい。たとえば次の(24)は、事態を表している否定文で、時を表す副詞的成分である **üde-dü** (お昼に) に **bol** が付いて、「朝食などは別として、昼食は食べなかった」という対比の意味を

表している。

(24) <モ>  $\text{bi } \underline{\text{üde-dü}} \text{ bol qoyola ide-gsen ügei.}$

私 お昼-DAT は ご飯 食べる-VN ない

(私はお昼にはご飯を食べなかった。)

モンゴル語では、事態を表すのではなく、実現可能性を表す否定文の時間を表す副詞的成分に **bol** が付きやすい。たとえば次の(25)は実現可能性を表している否定文で、副詞的成分である *maryasi* (明日) に **bol** が付いて、「ほかの日はともかく、明日は行けない」という対比的な意味を表している。

(25) <モ>  $\text{bi } \underline{\text{maryasi}} \text{ bol oči-ju deyil-kü ügei.}$

私 明日 は 行く-CV できる-VN ない

(私は明日は行けない。)

### 3) アスペクトに関わる副詞的成分

ここで、アスペクトに関わる副詞的成分に **bol** を付けることができるかどうかについて考えたい。

(ソ) アスペクトに関わる副詞的成分には **bol** を付けることができる。

日本語記述文法研究会(2007)によると、アスペクトに関わる副詞的成分には、事態実現の時間的な取り上げ方を表す副詞的成分(すぐに、やがて)、事態の進行の過程を取り上げる副詞的成分(ゆっくり、次々に)、事態の進行の過程を取り上げない副詞的成分(一瞬、ちらっと)の3種類ある。

モンゴル語では、アスペクトに関わる副詞的成分には **bol** を付けることがある。たとえば次の(26)では、「すぐに」という副詞的成分に **bol** が付いている例である。この文の「すぐには突き合っていない」の対比されるものは「すぐに突き合う」である。

(26) <モ>  $\text{getel}_e \text{ qoyar üker ni tere door}_a \text{ ni } \underline{\text{bol}} \text{ mörgölde-gsen ügei, esergüü tal}_a$   
 $\text{ᠭᠡᠲᠡᠯᠡ ᠬᠡ ᠵᠡᠢᠷᠠᠭ ᠤᠬᠡᠷ ᠨᠢ ᠲᠡᠷᠡ ᠳᠣᠷᠠ ᠨᠢ ᠪᠣᠯ ᠮᠣᠷᠭᠣᠯᠳᠡ ᠭᠡᠰᠡᠩ ᠤᠭᠡᠢ ᠲᠠᠯᠠ}$

(中納言：鎌田 敏夫(1982)『新・里見八犬伝』)

$\text{getel}_e \text{, qoyar üker ni tere door}_a \text{ ni } \underline{\text{bol}} \text{ mörgölde-gsen ügei, esergüü tal}_a$



(百人は来る。)

述語が否定の時は、次の(29)のように、「多くても」の意味になる。すなわち、「百人は来ないが、百人以下の、ある数量なら来る」の意味になる。

(29) <モ> ᠵᠠᠶᠤᠨ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠣᠯ ᠢᠷᠡ ᠬᠦ ᠤᠭᠡᠢ ..

ᠵᠠᠶᠤᠨ kömün bol ire-kü ügei.

百 人 は 来る-VN ない

(百人は来ない。)

#### 5) 程度を表す副詞的成分

ここで、程度を表す副詞的成分に bol を付けることができるかどうかについて考えたい。

(チ) 程度を表す副詞的成分には bol を付けることができる。

程度を表す副詞的成分には、普通は bol が付かない。ただし、bay\_a say\_a (ちょっと)、jīyaqan (少し) のような程度を表す副詞的成分には、bol が付くことがある。

(30) <モ> ᠠᠩᠯᠢ ᠬᠡᠯᠡ ᠶᠢ ᠪᠠᠶ\_a ᠰᠠᠶ\_a ᠪᠣᠯ ᠴᠢᠳᠠᠨ\_a ..

ᠠᠩᠯᠢ kele-yi bay\_a say\_a bol čidan\_a.

英語-ACC 少し は できる

(英語は少しはできる。)

### 4. 1. 3. 3 bol で対比を表せる従属節

野田(1996)は、付帯状況節、継起句、仮定節、時間節、理由節、並列節の6つを代表的な従属節として取り上げ、これらの従属節に対比を表す「は」が付くかどうかについて考察を行った。本研究は bol で対比を表せる4つの従属節を取り上げる。すなわち、以下で、引用節、様態節、目的節、時間節について見ていく。

#### 1) 引用節

ここで、引用節に bol を付けて対比を表すことができるかどうかについて考えたい。





次に、付帯状況を表す様態節について見ていこう。モンゴル語には、付帯状況を表す様態節に **bol** を付けて対比を表すことがある。この場合、事態を表すのではなく、実現可能性を表す時 **bol** が付きやすい。たとえば次の(33)は付帯状況を表す従属節 *radio sonosču bayiyad* (ラジオを聞きながら) に **bol** が付いている例である。この文は、実現可能性を述べているので自然である。

(33) <モ> *ᠠᠷᠠᠨᠤ ᠰᠣᠨᠣᠰᠴᠤ ᠪᠠᠶᠢᠶᠠᠳᠤ ᠪᠣᠯ ᠰᠤᠷᠤᠯᠴᠠᠳᠠᠶᠤ ᠤᠭᠡᠢ* ・・ (野田 1996:226 より翻訳)

*radio sonos-ču bayiyad bol surulča-day ügei.*

ラジオ 聞く-CVながら は 勉強する-VNない

(ラジオを聞きながらは勉強しない。)

また、程度を表す様態節には **bol** がつくことがある。たとえば、次の(34)は *soyto-qu kemjiiyen-dü kürtel\_e* (酔っぱらうほど) という様態節に **bol** が付いている例である。この文は、「酒は飲んだが、酔っぱらうほどは飲んでいない」という対比の意味を表している。

(34) <モ> *ᠤᠨᠣᠳᠣᠳᠣᠷ, ᠰᠣᠶᠲᠤᠬᠤ ᠬᠡᠮᠵᠢᠶᠢᠶᠠᠨᠳᠦ ᠬᠦᠷᠲᠡᠯᠡᠭᠡ ᠪᠣᠯ ᠤᠸᠦᠭᠦᠨᠶᠰᠠᠨ ᠤᠭᠡᠢ* ・・

*önödör, soyto-qu kemjiiyen-dü kürtel\_e bol uuγu-γsan ügei.*

今日 酔っぱらう-VN ほど は 飲む-VNない

(今日、酔っぱらうほどは飲んでいない。)

### 3) 目的節

目的節には「ために」「ように」「に」などの種類がある。ここで、目的節に **bol** を付けて対比を表すことができるかどうかについて考えたい。

(ト) 目的節に **bol** を付けて対比を表すことができる。

モンゴル語では、目的節に **bol** を付けて対比を表すことがある。たとえば次の(35)は、*dayin-i sergeyile-kü-yin tölöge* (戦争を防ぐために) という目的節に **bol** が付いている例である。この文は、「ほかのものはともかく、戦争を防ぐためには」という対比のニュアンスがある。

(35) <モ> *ᠳᠠᠶᠢᠨᠢ ᠰᠡᠷᠭᠡᠶᠢᠯᠡᠬᠦᠶᠢᠨ ᠲᠥᠯᠦᠭᠡ ᠪᠣᠯ, ᠡᠩᠭᠡᠲᠠᠶᠢᠪᠦᠩᠤᠨ ᠬᠡᠯᠡᠯᠴᠡᠭᠡᠷᠢ* ・・

(日本語記述文法研究会 2008:237 より翻訳)

*dayin-i sergeyile-kü-yin tölöge bol, engke tayibung-un kelelčeger-i*

戦争-ACC 防ぐ-VN-GENため は 平和-GEN 交渉-ACC

ürgüljile-gül-kü le keregtei.

続ける-CAUS -VN だけ 要する

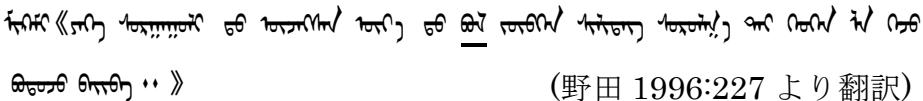
(戦争を防ぐためには、平和交渉を続けるしかない。)

#### 4) 時間節

日本語記述文法研究会(2008)によると、時間節には、同時を表すもの、期間を表すもの、前後関係を表すもの、時間的かつ空間的な状況を表すものがある。ここで、時間節に bol を付けて対比を表すことができるかどうかについて考えてい。

(ナ) 時間節に bol を付けて対比を表すことができる。

モンゴル語では、時間節に bol を付けて対比を表すことがある。たとえば次の(36)は、yeke surγayuli-du üje-gsen üy\_e-dü (大学で見た時) という時間節に bol が付き、「大学で見た時」を「ほかの時」と対比的に表している。

(36) <モ>  (野田 1996:227 より翻訳)

Mikami <yeke surγayuli-du üje-gsen üy\_e-dü bol jöbken silideg suruly\_a tai  
三上 大学-DAT 見る-VN 時-DAT は ただ 優等生  
keüiken le gejü bodo-ju bayi-ba.>

御嬢さんと 思う-CV いる-PAST

(三上「大学で見た時はただの優等生の御嬢さんだと思った」。)

#### 4. 1. 3. 4 bol で対比を表せる述語成分

##### 1) 動詞述語

ここで、動詞が述語になっている述語成分に、bol が付くかどうかについて考えてい。

(ニ) モンゴル語では、述部の補助動詞の前に bol を挿入することができる。

モンゴル語では、述部の補助動詞の前に bol を挿入することができる。特に、述語が否定の時、本動詞と補助動詞の間に bol が入りやすい。たとえば次の(37)では、本動詞 oči-ju (行く) と補助動詞 üjege (見る) の間に bol が用いられてい

る例である。この場合、「行ってはみなかった」に対する対比の相手は必ずしもはっきりしたものではなく、「テレビでは見たが／よく知っているが／」など、様々なものが対比の相手になり得る。

(37) <モ> ..

bi yapon-du oči-ju bol üjege ügei.

私 日本-DAT 行く-CV は 見る ない

(私は日本には行ってはみなかった。)

否定を表す動詞述語文だけではなく、肯定を表す動詞述語文の本動詞と補助動詞の間に **bol** を挿入することもできる。たとえば次の肯定文(38)では、述語である oči-ju üje-jei(行ってみた)の本動詞と補助動詞の間に **bol** が挿入されている。この場合、「行ってはみた」の対比の相手は「行ってはみたが、長期間滞在しなかった／行ってはみたが、よく知らない」など、様々なものが対比の相手になり得る。

(38) <モ> ..

bi yapon-du oči-ju bol üje-jei.

私 日本-DAT 行く-CV は 見る-PAST

(私は日本には行ってはみた。)

## 2) 形容詞述語

ここで、形容詞述語文の述語成分に **bol** が付くかどうかについて考えたい。

(又) モンゴル語では、否定文の形容詞述語に **bol** が付くことがある。

モンゴル語は、否定を表す形容詞述語文の中で、述語とその否定形の間に **bol** を挿入することができる。たとえば次の(39)は、qayučin(古い)という形容詞と bisi(でない)の間に **bol** が入っている文である。このように、モンゴル語の **bol** は、否定を表す形容詞述語文の述語にしかつかない。

(39) <モ> ..

(中納言：浅田 次郎(1999)『三人の悪党』より翻訳)

bi teyimü qayučin bol bisi siü.

私 そこまで 古く は ないぞ


(自分はそこまで古くはないぞ。)

3) 名詞述語

ここで、名詞述語文の述語成分に bol が付くかどうかについて考えたい。

(ネ) モンゴル語では、否定文の述語名詞に bol が付くことがある。

モンゴル語では、否定文の述語名詞に bol が付くことがある。たとえば次の名詞述語文(40)は、sayin kömün bisi (善人でない) という述語成分に bol が付いている例である。この文では、「善人ではない」に対する対比の意味は「悪人ではない」などである。

(40) <モ>  (中納言 : Yahoo!知恵袋 2005 より翻訳)

yaγu gesen ču sayin kömün bol bisi.

どちらにしても 善 人 は でない

(どちらにしても善人ではない。)

4. 1. 4 「対比表示の bol」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表 1 「対比表示の bol」のまとめ

bol で表す対比の種類	明示的な対比と暗示的な対比
bol で表せる格成分	主格、対格、与位格、造格、奪格、共同格などの格成分
bol で表せる副詞的成分	様態を表す副詞的成分、時を表す副詞的成分、アスペクトに関わる副詞的成分、量を表す副詞的成分、程度を表す副詞的成分
bol で表せる従属節	引用節、様態節、目的節、時間節
bol で表せる述語成分	補助動詞の前に、否定文の名詞述語や形容詞述語の後に bol がつく。

#### 4. 2 条件表示機能

この節では、モンゴル語の bol の条件用法について、恒常条件を表す用法、仮定条件を表す用法、確定条件を表す用法の 3 つに分けて見ていく。以下で、モンゴル語の動詞の種類、モンゴル語の形動詞の概観、bol の恒常条件を表す用法、bol の仮定条件を表す用法、bol の確定条件を表す用法、まとめの順に見ていく。

##### 4. 2. 1 モンゴル語の動詞の種類

モンゴル語の文法書では、動詞の条件形を副動詞として扱っている。bol の条件を表す用法の考察に先立って、モンゴル語の動詞の種類をまとめておきたい。Čenggeltei(1991)は、モンゴル語の動詞の語尾の違いに基づいて、動詞を次の表 2 のような 4 種に分類している。

表 2 モンゴル語の動詞の分類

言語	動詞の種類		
モンゴル語	<p>式動詞 命令、意志、陳述、テンス(過去、現在・未来)</p>	<p>副動詞 ① 単純接続副動詞：並列、分離、連合 ② 制約的接続副動詞：即刻、前後、前提、仮定、譲歩、限度、目的、同時並行 ③ 混合接続副動詞：動詞と助動詞の接続、副動詞の重複使用、動詞と動詞の接続、句と句の接続</p>	<p>形動詞 過去、現在・未来、反復・習慣的、継続、可能性、動作の主体</p>

モンゴル語は、基本的に、bal, bel と bol という 2 つの形式を用いて恒常条件、仮定条件、確定条件を表す。言わば、bal, bel は日本語の「～ば」に近いもので、bol は日本語の「は」に近いものである。前の語に続けて書く時は bal, bel を、前の語と離して書く時は bol を使用する。次の表 3 は、bal, bel と bol の接続用法の違いを示したものである。

表3 bal と bol の接続用法

接続用法	
bal	動詞語幹+bal 例、oċibal (行けば)、idebel (食べれば)
bol	① 名詞+(yum)bol 例、baysi yum <u>bol</u> (先生だったら) ② 形容詞+(yum)bol 例、qalayun <u>bol</u> (暑ければ) ③ 形動詞+(yum)bol 例、oċiysan <u>bol</u> (行ったら) ④ 名詞、形容詞、形動詞の否定形+(yum)bol 例、baysi bisi <u>bol</u> (先生でなければ)、qalayun bisi <u>bol</u> (暑くなければ)、oċiysan ügei <u>bol</u> (行ってなければ)

前の表3から分かるように、bolは動詞の中の形動詞にしか付かないのである。その理由は、式動詞と副動詞の語幹には bal, bel がついて、日本語の「ば」のように、前の語に続けて書くからである。唯一、形動詞には bol が付き、その形動詞と bol を離して書くのである。

以下で、モンゴル語の形動詞はいったいどのような性質や接続用法をもつものであるかについて少し説明を付け加えたい。

#### 4. 2. 2 モンゴル語の形動詞

モンゴル語の形動詞は、日本語の動詞の連体形に近いものである。連体形は名詞を修飾するものである。日本語の動詞の連体形は動詞の終止形と同じ形をしていて、非過去形と過去形の2つある。

(41) <日>私が書く書類は、3種類あります。 (非過去形)

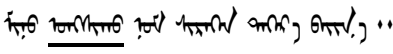
(42) <日>私が書いた書類には、ミスがありました。 (過去形)

モンゴル語の形動詞 (γċi,gċi 以外) は、名詞を修飾することができるだけでなく、日本語の動詞の終止形のように、文末でも使われる。


##### 4. 2. 2. 1 現在・未来を表す形動詞

モンゴル語では、動詞の現在・未来形に2種類ある。1つは形動詞の現在・未来形で、もう1つは陳述副動詞の現在・未来形である。形動詞の現在・未来形は日本語の動詞の連体形のように、名詞を修飾することができる。これに対して、陳述副動詞の現在・未来形は日本語の動詞の終止形のようなもので、名詞を修飾することができない。

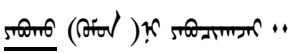
形動詞の現在・未来形は、qu/kü（男性語に qu、女性語に kü が付く）で表される。たとえば次の(43)は、ungsi-qu（読む）という形動詞が nom（本）を修飾している例である。

- (43) <モ>   
 minü ungsi-qu nom siregen deger\_e bayin\_a.  
 私 読む-VN 本 机 上 ある-NP  
 (私が読む本は机の上にある。)

形動詞の現在・未来形は、日本語の動詞の終止形のように、述語になることもできる。これは日本語の連体形（たとえば、書く書類）と終止形（書類を書く）が同じ形になるのによく似ている。たとえば次の(44)は、ire-kü（来る）という形動詞が述語になっている例である。形動詞の現在・未来形を述語にしたい場合、その形動詞の後には、断定を表す yum（だ）などのモダリティ、あるいは、補助動詞を付ける必要がある。

- (44) <モ>   
 tere kömün lab ire-kü yum.  
 あの 人 きっと 来る-VN MP  
 (あの人はきっと来る。)

また、現在・未来を表す形動詞は、名詞の働きをすることもある。たとえば次の(45)の形動詞 yabu-qu(kömün)（帰る(人)）は、被修飾名詞 kömün（人）にかわって名詞の役割を果たしている。

- (45) <モ>  (Čenggeltei1991:286)  
yabu-qu(kömün) ni yabučiqa-jai.  
 帰る-VN (人) 3RD 帰る-PAST  
 (帰る(人)は帰った。)

#### 4. 2. 2. 2 過去を表す形動詞

モンゴル語では、動詞の過去形には2種類ある。1つは形動詞の過去形で、もう1つは陳述副動詞の過去形である。形動詞の過去形は日本語の動詞の連体形のように、名詞を修飾することができる。これに対して、陳述副動詞の過去形は名詞を修飾することができない。



形動詞の過去形は、*γsan/gsen* (男性語に *γsan*、女性語に *gsen* が付く) で表される。たとえば次の(46)は、*ungsi-γsan* (読んだ) という形動詞が *nom* (本) を修飾している。

- (46) <モ> *ᠮᠢᠨᠦ ᠤᠩᠰᠢ-ᠶᠤᠰᠠᠨ ᠨᠣᠮ ᠰᠢᠷᠡᠭᠡᠨ ᠳᠡᠭᠡᠷ ᠡ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ* \*\*  
 minü ungsi-γsan nom siregen deger\_e bayin\_a.  
 私 読む-VN 本 机 上 ある-NP  
 (私が読んだ本は机の上にある。)

形動詞の過去形は述語になることもできる。たとえば次の(47)は、*ungsi-γsan* (読んだ) という形動詞の過去形が述語になった文である。

- (47) <モ> *ᠪᠢ ᠨᠣᠮ ᠤᠩᠰᠢ-ᠶᠤᠰᠠᠨ* \*\*  
 bi nom ungsi-γsan  
 私 本 読んだ-VN  
 (私は本を読んだ。)

また、過去を表す形動詞は、被修飾名詞にかわって名詞の働きをすることもある。たとえば、次の(48)の *yabu-qu(kömün)* (帰る (人)) は、被修飾名詞 *kömün* (人) にかわって名詞の働きをしている。

- (48) <モ> *ᠮᠡᠳᠡ-ᠭᠰᠡᠨ (ᠬᠣᠮᠠᠨ) ᠨᠢ ᠶᠠᠪᠤ-ᠪᠠ* \*\* (Čenggeltei1991:285)  
mede-gsen (kömün) ni yabu-ba.  
 分かる-VN (人) 3RD 帰る-PAST  
 (分かった (人) は帰った。)

#### 4. 2. 2. 3 反復・習慣的動作を表す形動詞

反復・習慣的動作を表す形動詞は、*day/deg* (男性語に *day*、女性語に *deg* が付く) で表される。たとえば次の(49)は、*oči-day* (行く) という形動詞が名詞 *delgegür* (店) を修飾している。

- (49) <モ> *ᠮᠢᠨᠦ ᠣᠴᠢ-ᠳᠠᠶ ᠳᠡᠯᠭᠡᠭᠦᠷ-ᠦᠨ ᠶᠠᠶᠤᠮ ᠠ ᠨᠢ ᠬᠢᠮᠳᠠᠭᠠᠨ* \*\*  
 minü oči-day delgegür-ün yayum\_a ni kimdaqan.  
 私 行く-VN 店-GEN もの 3RD やすい  
 (私が (いつも) 行く店はものがやすい。)

反復・習慣的動作を表す形動詞は述語になることもできる。たとえば次の(50)

は、形動詞 *oči-day* (行く) の否定形 *oči-day ügei*. (行かない) が述語になっている。

(50) <モ>  $\text{bi tente } \underline{\text{oči-day}} \text{ ügei.}$  (Čenggeltei1991:287)

私 あそこ 行く-VN ない

(私は、あそこには (いつも) 行かない。)

#### 4. 2. 2. 4 持続的な動作を表す形動詞

持続的な動作を表す形動詞は、 $\gamma_a$ /*ge* (男性語に  $\gamma_a$  女性語に *ge* が付く) で表される。持続的な動作を表す形動詞の肯定形は、*bayiy\_a* (～している)、*yabuγ\_a* (～行っている) など、ごく一部の動詞にしか付かない。持続的な動作を表す形動詞の否定形は使用頻度はその肯定形より高い。たとえば次の(51)では、形動詞の否定形 *dayusuy\_a ügei* (終わっていない) が名詞 *ažil* (仕事) を修飾している。

(51) <モ>  $\underline{\text{dayusuy_a ügei}} \text{ ažil olan bayin_a.}$

終わる-VN ない 仕事 たくさん ある

(終わっていない仕事がたくさんある。)

また、持続的な動作を表す形動詞は述語になることもできる。持続的な動作を表す形動詞は、必ずモダリティや補助動詞と一緒に述語になる。たとえば次の(52)は、持続的な動作を表す形動詞の否定形 *dayusuy\_a ügei* (終わっていない) が述語になっている。

(52) <モ>  $\text{bi ažil-ıyan } \underline{\text{dayusuy_a ügei.}}$  (Čenggeltei1991:288)

私 仕事-REFL 終わる-VN ない

(私は仕事が終わっていない。)

#### 4. 2. 2. 5 可能性を表す形動詞

可能性を表す形動詞は、*mar(m\_a)/mer(m\_e)* (男性語に *mar(m\_a)*、女性語に *mar(m\_a)* が付く) で表される。可能性を表す形動詞は、「動作の可能性」、「～意義がある」、「～に値する」、「～価値がある」などの意味を表す。たとえば次の(53)は、*yabu-γul-u-mar* (行かせてよい) という形動詞が名詞 *kömün* (人) を修飾している。

(53) <モ>  $\text{ᠠᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰᠤᠨ ᠶᠠᠪᠤᠭᠤᠯᠤᠮᠠᠷ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠠᠶᠢᠨᠤ?}$  (Čenggeltei1991:289)

öger\_e yabu-γul-u-mar kömün bayinu?

ほかに 行かせる-VN 人 いますか

(ほかに行かせる (行かせてもよい) 人はいますか?)

また、可能性を表す形動詞は述語になることもできる。可能性を表す形動詞は、必ずモダリティや補助動詞と一緒に述語になる。たとえば次の(54)は、形動詞 yabuγul-u-mar (行かせてよい) が述語になっている。

(54) <モ>  $\text{ᠨᠠᠳᠠ ᠶᠢ ᠶᠠᠪᠤᠭᠤᠯᠠᠮᠠᠷ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠ}$  (Čenggeltei1991:289)

nada-yi yabuγula-mar bayin\_a.

私-ACC 行かされる-VN ある

(私が行かされる可能性がある。)

#### 4. 2. 2. 6 主体を表す形動詞

主体を表す形動詞は、γči/gči (男性語に γči、女性語に gči が付く) で表される。主体を表す形動詞は、動作の主体を表すもので、書き言葉では、硬い文章には用いられるが、話し言葉ではほとんど用いられない。たとえば joriγjiγul-u-γči küčü (鼓舞する力)。

一部の主体を表す形動詞は名詞を修飾する機能を失い、名詞として使われている。たとえば、suru-γči (学生)、nayiraγulu-γči (編集者) などである。

#### 4. 2. 3 bol の恒常条件を表す用法

##### 4. 2. 3. 1 恒常的条件の用法

恒常条件の用法は、物事の道理を表すもの——現実に生起・存続する個別的事態を問題にしないという点で非現実の事態の表現であるとみなす——であり、そのため、過去のテンスを表すことなく、また、後件のモダリティは真偽判断を表すものに限られる (益岡 2000:154)。

たとえば次の(55)は、「ほんの些細なものでも積もれば高大なものとなる」のように例えられ、恒常条件を表す「～ば」が使われている。

(55) <日> ちりも 積もれば 山となる。

では、モンゴル語の *bol* に恒常条件の用法があるかないかについて考えたい。

(ア) *bol* には恒常条件を表す用法がある。

*bol* は形容詞の肯定形と否定形、現在・未来を表す形動詞の肯定形と否定形に下接して、恒常条件を表すことができる。たとえば次の肯定文(56)は、*olan* (多い) という形容詞に *bol* が付いて、恒常条件を表している例である。その次の否定文(57)は、形動詞の否定形に *bol* が付いて恒常条件を表している例である。

(56) <モ> ᠬᠣᠮᠠ ᠨᠠᠯᠠᠨ ᠪᠤᠯᠠᠨ ᠬᠠᠴᠢ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠢᠢ ᠠᠵᠤ ᠠᠨᠢᠨᠦ (NMGDX コーパス)

*kömün olan bol kücü yeke siü.*

人 多ければ 力 強い MP

(人が多ければ力は強い。)

(57) <モ> ᠵᠠᠯᠠᠶᠤ ᠳᠠᠶᠠᠨ ᠴᠢᠷᠮᠠᠶᠢᠻᠠ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠤᠯᠠᠨ ᠣᠲᠡᠯᠦᠭᠡᠳ ᠭᠡᠮᠰᠢᠬᠠᠢ ᠶᠤᠮ ᠠᠵᠤ ᠠᠨᠢᠨᠦ

*jalayu dayan čirmayi-qu ügei bol ötelöged gems-kü yum.*

若い時に努力する-VN なければ 老いて 悲しむ-VN MP

(若い時に努力しておかないと、老いて悲しむことになる。)

#### 4. 2. 3. 2 反復・習慣を表す用法

恒常条件の用法に隣接するものとして、反復・習慣を表す用法がある(益岡 2000:155)。反復・習慣を表す用法というのは、次の(58)と(59)のようなものである。(58)は「は」で反復・習慣を表している例で、(59)は「ば」で反復・習慣を表している例である。

(58) <日> はねては海の方へ逃げようとする魚を、光枝が一人でつかまえて は奥へ投げ込んでいる。(青木 1992:262)

(59) <日> 二人とも時間さえあれば本を読んでいる。

以下で、モンゴル語の *bol* に反復・習慣を表す用法の有無について見てみたい。

(イ) *bol* には反復・習慣を表す用法がある。

モンゴル語の *bol* には反復・習慣を表す用法がある。次の(60)は、*bol* を用いて反復・習慣を表している例である。この文は、動詞の否定形 *sonosda-qu ügei* (聞こえない) に *bol* が付いて、「カラスの鳴き声が聞こえなければ頭を出している」といった反復動作を表している例である。

(60) <モ> ᠬᠠᠷᠠᠰ ᠶ᠋ᠢ ᠮᠣᠨᠠᠭᠤᠨ ᠠᠵᠤ ᠰᠣᠨᠣᠰᠳᠠᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠤᠯᠠᠨ ᠤᠲᠤ ᠳᠤᠰᠤ ᠣᠳᠤ ᠠᠵᠤ ᠠᠨᠢᠨᠦ

tere ʃulʃay\_a qariyačai ni keriy\_e-yin dayun sonosda-qu ügei bol  
あの 子どもツバメ 3RD カラス-GEN 鳴き声 聞こえる-VN なければ  
toloyai-ban ʧarya-ju bayil\_a.

頭-REFL 出す-CV ある

(あの子供ツバメは、カラスの鳴き声が聞こえなければ頭を出している。)

#### 4. 2. 4 bol の仮定条件を表す用法

仮定条件を表す用法を、現実化以前の事態を表す用法、分からない事態を仮定する用法、事実に反する事態を仮定する用法の3つに分けて述べる。

##### 4. 2. 4. 1 現実化以前の事態を表す用法

現実化以前の事態というのは、前件の事態が起こることは確実であるが、まだ起こっていないということを意味している。益岡(2000)によると、この用法では、事態が起こることが不確実であることを表す「もし」「万一」などを用いることはできない。

たとえば次の(61)は、前件である「父が帰ってくる」ことは現実に起きていないが、「父が帰ってくる」ことは確実である。

(61) <日>父が帰ってくれば、私が起きるわ。

では、モンゴル語の bol に現実化以前の事態を表す用法の有無について見てみたい。

(ウ) bol には現実化以前の事態を表す用法がある。

モンゴル語の bol には現実化以前の事態を表す用法がある。bol で現実化以前の事態を表す時、基本的に bol の前に真偽判断のモダリティ yum を入れる。たとえば次の(62)は、bol を用いて現実化以前の事態を仮定している例である。この文は、仮定を表す bol の前に真偽判断のモダリティ yum を挿入している。

(62) <モ> ᠪᠠᠲᠤ ᠣᠴᠢ-ᠴᠢ ᠤᠭᠡᠢ ᠶᠤᠮ ᠪᠣᠯ ᠪᠢ ᠣᠴᠢ-ᠶᠤ ᠠ ..

Batu oči-qu ügei yum bol bi oči-y\_a

バト 行く-VN ない MP 私 行く-VOL

(バトさんが行かなければ私が行く。)

4. 2. 4. 2 成立するかどうか分からない事態を仮定する用法

成立するかどうか分からない事態を仮定する用法は、仮定条件の用法の典型だと言ってもよいだろう。この用法は、事態が起こることが不確実であることを表す「もし」や「万一」等を用いることができる。

(エ) **bol** には成立するかどうか分からない事態を仮定する用法がある。

**bol** には成立するかどうか分からない事態を仮定する用法がある。たとえば次の(63)の前件に、成立するかどうか分からない事態「もし雨が降らなければ」を仮定し、後件に万一前件のことが起こったら後件のことをするという意味である。

(63) <モ>  $\text{ᠠᠵᠢᠰᠢᠨ ᠪᠣᠷᠣᠶ᠋ᠠᠨ ᠣᠷᠣᠴᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠣᠯᠢ ᠪᠢ ᠪᠠᠰᠠ ᠣᠴᠢᠨᠠ}$  ..

kerbe boroyan oro-qu ügei **bol** bi basa oči-n\_a.

もし 雨 降る-VN なければ 私 も 行く-NP

(もし雨が降らなければ私も行く。)

4. 2. 4. 3 反事実的条件を表す用法

反事実的条件文は、前件で事実と反する事態を想定し、もし前件の事態が起こったら後件のことが起こるだろうという意味を表すものである。たとえば次の(64)は、既に事実として存在する「親が厳しい言葉で聞きただした」ことに対して、「もうすこし親らしいやさしい言葉で聞きただせば」という反事実的仮定をしている文である。

(64) <日> もうすこし親らしいやさしい言葉で聞きただせば、私も素直に話したに違いない。

(オ) **bol** には反事実的条件を表す用法がある。

モンゴル語は、**bol** を用いて反事実的条件を表すことがある。たとえば次の(65)は、**bol** を用いて反事実的な仮定をしている文である。この文の「あなたが心底からの話をすれば」は事実と反するもので、既に、現実に「心底からの話をしなかった」事実が存在している。

(65) <モ>  $\text{ᠴᠢ ᠰᠡᠳᠻᠢᠯᠢᠨ ᠤᠭᠡᠪᠡᠨ ᠬᠡᠯᠡᠭᠰᠡᠨ ᠪᠣᠯᠢ ᠪᠢ ᠪᠠᠰᠠ ᠰᠡᠳᠻᠢᠯᠢᠨ ᠤᠭᠡᠪᠡᠨ ᠬᠡᠯᠡᠬᠡᠢ ᠪᠠᠶᠢᠭᠢᠰᠠᠨ}$  ..

či sedkil-ün üge-ben kele-gsen **bol** bi basa sedkil-ün üge-ben kele-kü bayi-γsan.

あなた心-GEN 話-REFL 言う-VN 私 も 心-GEN 話-REFL 言う-VN ある-VN

(あなたが心底から話をすれば私も心底から話をさせていただきます。)

反事実的条件文は、必ず形動詞の過去形を用いなければならない。たとえば、次の(66)の形容詞 sayin(よい)に bol を付けて反事実的な仮定を表している例で、形容詞 sayin (よい) と bol の間に過去を表す形動詞 bayi-γsan (~だったら) を挿入している。

(66) <モ> би нидүн қарача сайин байи-γсан бол чэриг-тү оро-н а

bi nidün qarača sayin bayi-γsan bol čerig-tü oro-n\_a

私 視力 よい ある-VN 軍隊 入る-NP

(私は視力がよければ入隊していた。)

#### 4. 2. 5 bol の確定条件を表す用法

##### 4. 2. 5. 1 必然確定

必然確定は、次の(67)のように、前件が後件の原因・理由を表すものである。

(67) <日> 十年も共にいれば、孝介への思いとは別に、完治に対しても夫婦らしい静かな情が湧く。 (益岡 2000:159)

(カ) bol には必然確定を表す用法がある。

モンゴル語の必然確定表現は bol を用いて表す。基本的に形動詞の過去形に仮定形の bol を付けて必然確定の意味を表す。たとえば次の(68)は必然確定条件文の例で、この文では、過去を表す形動詞 amidura-γsan (暮らした) に bol が付いて確定条件を表している。

(68) <モ> арбан жил җадаҗаду-ду амидура-γсан бол җадаҗаду-йин қоҗолан-ду дуратаи

arban jil yadayadu-du amidura-γsan bol yadayadu-yin qoyolan-du duratai

十 年 外国-DAT 暮らす-VN 外国-GEN 料理-DAT 好き

bol-u-γsan ni basa ary\_a ügei.

なる-VN 3RD も 無理ないこと

(十年も外国で暮らしていれば、外国の料理が好きになったのも無理ないことである。)

4. 2. 5. 2 前件だけが現実の事態を表す用法

前件だけが現実の事態を表す用法は、前件が現実の事態を表しているという点で確定条件に隣接するもので、確定条件のところでは扱うことにする。

前件だけが現実の事態を表すというのは、次の(69)のようなものである。(69)の前件は「こんなに風が激しい」という現実の事態を表している。後件の「私は一晩中眠れないかもしれない」は不確定なもので、この点で確定条件と異なる。

(69) <日>こんなに風が激しければ、私は一晩中眠れないかもしれない。

(キ) bol には前件だけに現実の事態を表す用法がある。

モンゴル語の bol には、前件だけに現実の事態を表す用法がある。たとえば次の(70)は、前件だけが現実の事態を表している文である。この文の salki eyimü doysin bol (こんなに風が激しければ) は、既に現実起こった事態である。

(70) <モ>  $\text{ᠰᠠᠯᠠᠬᠢ ᠡᠶᠢᠮᠦ ᠳᠣᠶᠰᠢᠨ ᠪᠣᠯ ᠪᠢ ᠨᠢᠭᠡ ᠰᠣᠨᠢ ᠤᠨᠲᠠ-ᠵᠢ ᠴᠢᠳᠠᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠠᠶᠢᠻᠠ}$  ..

salki eyimü doysin bol bi nige söni unta-ju čidaqu ügei bayiq\_a.  
 風 こんなに 激しい 私 一晩中 眠れる-cv できる ない だろう  
 (こんなに風が激しければ、私は一晩中眠れないかもしれない。)

4. 2. 6 「条件表示の bol」のまとめ

この節で述べてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表4 「条件表示の bol」のまとめ

条件を表す bol を接続できるもの	名詞、形容詞、形動詞の肯定形と否定形に付く。
bol の条件を表す用法	恒常条件を表す用法、仮定条件を表す用法、確定条件を表す用法がある。



## 第5章 モンゴル語の非典型的な主題マーカ－の主題表示機能

この章では、モンゴル語の非典型的な主題マーカ－における主題を表す用法について考察する。本研究は2種類の非典型的な主題マーカ－を考察の対象とする。すなわち、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ－と、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ－の2種類である。

以下で、言葉の解説を行う文の主題マーカ－、限定された叙述を行う文の主題マーカ－の順に述べていく。

### 5. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカ－

この節ではモンゴル語の主題マーカ－ *gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol* の主題表示機能について考察する。*gejü* は日本語の「って」の意味・用法に近い、*gesen bol* と *gedeg bol* は日本語の「というのは」「とは」の意味・用法に近い。日本語では「って」「とは」「というのは」を合わせて言葉の解説を行う文の主題と呼んでいる（日本語記述文法研究会 2009）。本研究も日本語記述文法研究会(2009)に倣って、*gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol* を言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ－と呼ぶことにする。

以下で、*gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol*、まとめの順に述べていく。

#### 5. 1. 1 *gejü*

ここで、*gejü* について、言葉を再現して提示するもの、捉えなおし主題を表すものの2つに分けて見る。具体的には、言葉を再現して提示する *gejü*、捉えなおし主題を表す *gejü* の順に見ていく。

##### 5. 1. 1. 1 言葉を再現して提示する *gejü*

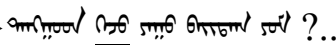
###### 1) 言葉の意味を問題にする文における *gejü*

*gejü* が最もよく使われる場合の1つは、次のような言葉の意味が分からない場合である。

(ア) *gejü* には言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法がある。

次の(1)は「タンゴド」という単語がどういう意味であるか、何を指示しているのか分からないので、その単語を主題として提示し、述部でその意味や指示対象が何かを問題にしている。

この文は、あるモンゴル人村で暮らしているチベット人のお婆さんとモンゴル人の少年との会話文である。この文では、モンゴル人の少年から、チベット人のお婆さんに「みんな、あなたをtangyud ejiと呼んでいるが、tangyud (チベット人) というのはどういう意味ですか」と聞いている。

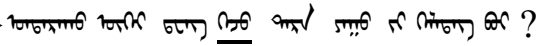
(1) <モ>  ?.. (NMGDXコーパス)

tangyud gejü yaγu bayi-day yum?

タンゴド って 何 ある-VN MP

(タンゴドってどういう意味ですか?)

言葉そのものの意味は分かるのだが、その文脈でどういう意味であるかということが知られていない時にgejüで主題を表すこともある。たとえば次の(2)は、untara-qu ügei deng (消えない灯) という言葉の意味は分かるが、その文脈の中で何を指しているかが分からないので、それを主題として提示し、その主題の意味を問う文である。後の文脈にも説明があるように、「消えない灯」というのは「太陽」を指す。

(2) <モ>  ? (NMGDXコーパス)

untara-qu ügei deng gejü tere yaγu-yi kele-deg bui?

消える-VN ない 灯 って それ 何-ACC 言う-VN QP

(消えない灯って、それは何を指しているのですか。)

## 2) 言葉の属性を問題にする文におけるgejü

言葉の属性を叙述する文において、その言葉がどのような属性をもっているかを述べることがある。

(イ) **gejü**には言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法がある。

たとえば次の(3)は属性叙述文で、この文で問題にしているのは「作風」で、述部でその言葉に関する属性が示されている。gejüにおけることばの属性を問題にする用法は非常に多い。

(3) <モ>  $\underbrace{\text{ᠠᠨᠠᠵᠠᠨᠠᠳᠤ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠭᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠠᠨᠠᠵᠠᠨᠠᠳᠤ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠭᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠵᠠᠵᠠᠷ}}{}$  ..

(Öbör mongyol-un yeke suryayuli-yin mongyol sudulul-un  
degedü suryayuli-yin mongyol kele sudulqu yaĵar1964:954)

ĵokiyal-un surtal geĵü, kömüs-ün ĵokiyal biĉi-kü, iledkel ki-kü surtal-i nerele-n\_e.

文章-GEN作風 っ て 人々-GEN 作文書く -VN講演する -VNスタイル-ACCいう  
(作風って人々が文章を書く、講演する時のスタイルを指すんだ。)

## 5. 1. 1. 2 捉えなおしの主題を表すgeĵü

### 1) 属性の捉えなおし

geĵüの主題を表す用法には前に述べたように、言葉の意味を問題にする以外に、事物を主題にたてて、その属性を改めて捉えなおす用法がある。

(ウ) geĵüには属性の捉えなおしをする文の主題を表す用法がある。

たとえば次の(4)は、ene kömün(この人)を主題として提示し、その述部でöber-ün bey\_e ban bodo-day (利己的) という属性を付与している。言わば、「あの人」に「利己的だ」という属性を取り入れている表現である(渡辺(1995)は、属性の取り入れと属性の取出しという視点から日本語の「って」について詳しく述べている)。

(4) <モ>  $\underbrace{\text{ᠠᠨᠠᠵᠠᠨᠠᠳᠤ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠭᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠠᠨᠠᠵᠠᠨᠠᠳᠤ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠭᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠵᠠᠵᠠᠷ}}{}$  ..

(NMGDXコーパス)

ene kömün geĵü ün en sonin a! dangda öber-ün bey\_e-ben bodo-day yum.

この人 っ て本当 おかしいMPいつも 自 分-REFL 考える-VN MP

(この人って本当におかしいよ。いつも自分のことばかり考えているんだよ。)

前の(4)は「この人」という名詞が主題になっている文であるが、geĵüで提示できるのは名詞に限らず、節や文を主題として提示することもできる。たとえば次の(5)は、名詞修飾節が主題になっている例で、その次の(6)は文が主題になっている例である。いずれもgeĵüによって提示された主題に対する属性の捉えなおしである。

(5) <モ>  $\underbrace{\text{ᠠᠨᠠᠵᠠᠨᠠᠳᠤ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠭᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠠᠨᠠᠵᠠᠨᠠᠳᠤ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠢᠶᠠᠭᠤᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠵᠠᠵᠠᠷ}}{}$  ..

(NMGDXコーパス)

qorĉin nutuy-un qabur namur-un qar\_a salki geĵü keĉegüü yum.

ホルチン地方-GEN 春 秋-GEN 強 風 っ て 恐ろしい MP

(ホルチン地方の春と秋の強風って恐ろしい。)

(6) <モ> ᠬᠣᠷᠠᠶᠤᠲᠤ ᠴᠣᠷᠢᠨ ᠲᠥᠭᠦᠷᠢᠭ ᠭᠡᠭᠡᠵᠢ ᠬᠡᠴᠡᠬᠡᠵᠢᠭᠦ ᠴᠢ ᠶᠤᠮ ᠳᠡ (NMGDXコーパス)

ᠶᠠᠷᠠᠷ-tu qorin tögöriᠭ gejü kečeküü čü yum de.

週-DAT 二十 元 とは きつ い も MP MP

(週に二十元 (で暮らす) ってきついな。)

## 2) 存否の捉えなおし

存否を問題にする文は属性を問題にする文と違って、その主題の存否を問う文である。

(エ) gejüには存否の捉えなおしをする文の主題を表す用法がある。

たとえば次の(7)は、「揺らがない草」と「慌てない人」が主題になっている疑問文で、その主題が存在するかないかを問題にしている。このような存否を問題にする文の述語は「ある」「ない」でない場合も少なくない。

(7) <モ> ᠰᠠᠵᠢᠯᠠᠭᠤ ᠵᠡᠭᠡᠢ ᠪᠡᠪᠡᠰᠦ ᠭᠡᠵᠢ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ ᠠᠭᠤ? ᠰᠠᠨᠳᠤᠷᠤ ᠵᠡᠭᠡᠢ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠭᠡᠵᠢ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ ᠠᠭᠤ?

(NMGDXコーパス)

šajıla-qu ügei ebesü geju bayin\_a uu? šandur-qu ügei kömün geju bayin\_a uu?

揺るぐ-VNない草 っ て ある QP 慌てる-VNない 人 っ て ある QP

(揺らがない草ってあるものかい、慌てない人っているものかい。)

## 5. 1. 2 gesen bol

### 5. 1. 2 1 言葉を再現して提示するgesen bol

#### 1) 言葉の意味を問題にする文におけるgesen bol

gesen bolは引用と主題提示の二つの機能を融合的に表しているものである。

(オ) gesen bolには言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法がある。

gesen bolには言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法がある。たとえば次の(8)では、ger (家) というモンゴル語の意味を主題にして、それについて説明をしている文である。

- (8) 「日本人のモンゴル語学習者にgerという単語の意味を説明している場面」

<モ> <カ> ᠭᠡᠰᠢᠩ ᠪᠣᠯ ᠶᠠᠭᠤᠨ ᠬᠡᠯᠡᠨ-ᠦ 家 ᠭᠡᠰᠢᠩ ᠦ᠋ᠭᠡ ᠶᠤᠮ.

<ger> gesen bol yapon kelen-ü 家 gesen üge yum.

ger というのは 日本語-GEN 家 という意味 MP

(gerというのは、日本語の家という意味である。)

## 2) 言葉の属性を問題にする文におけるgesen bol

言葉を再現して、それがどのような属性をもつものであるかについて述べる時gesen bolを用いることがある。

- (カ) **gesen bol**には言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法がある。

gesen bolには言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法がある。たとえば次の(9)は、文を主題として提示し、主題として提示されたその文の属性について述べている例である。(9)の1つの特徴は、gesen bolによって主題として提示された文の中に主題を表すbolが現れていることである。このように、gesen bolによって提示された主題の中には、ほかの主題マーカーが包みこまれることもしばしばある。

- (9) <モ> 《ᠪᠢ ᠪᠣᠯ eb qamtu jalayučud-un eblel-ün gesigün bol-qu tula aḷil-un  
ᠲᠤᠮᠳᠠ-ᠪᠠᠨ ᠮᠠᠩᠯᠠᠢ-ᠬᠤ ᠦ᠋ᠷᠠᠶᠠ-ᠬᠤ ᠶᠣᠰᠤᠲᠠᠢ》ᠭᠡᠰᠢᠩ ᠪᠣᠯ ᠨᠢᠭᠢᠨ ᠤᠷᠢᠳᠠᠯ-ᠢ

(NMGDXコーパス)

《bi bol eb qamtu jalayučud-un eblel-ün gesigün bol-qu tula aḷil-un  
私 は共産主義 青年-GEN 団-GENメンバー なる-VNので 仕事-GEN  
dumda-ban manglaila-qu üiledül yarya-qu yosutai》 gesen bol nigen uridal-i  
中-INST 率先-VN 役割 果たす-VN べき とは 一つ前提-ACC  
tobčila-γsan γurbala-qu ögüleküi mön.  
省略-VN 三つ-VN 叙述 MP

- (「私は共産主義青年団員だから、仕事をする時自ら率先して範を示す役割を果たすべきだ」とは一つの前提を省略した三つの叙述である。)



(13) <モ> ᠰᠡᠴᠢᠨ ᠭᠡᠰᠢᠨ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠣᠯ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ ..

Sečen gesen kömün bol quljin kömün bayin\_a.

スチン という 人 は ずるい 人 MP

(スチンさんという人はずるい人だ。)

### 5. 1. 3 gedeg bol

#### 5. 1. 3. 1 言葉を再現して提示する gedeg bol

##### 1) 言葉の意味を問題にする文におけるgedeg bol

主題を表す用法において、gedeg bol は前節で述べた gesen bol とほとんど同じである。gesen bol は書き言葉にも話し言葉にも用いられるのに対して、gedeg bol はより書き言葉的である。

(ケ) gedeg bolには言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法がある。

たとえば次の(14)では、nim\_a というチベット語を主題として提示し、nim\_a は「太陽」という意味をもつチベット語だと説明している。

(14) <モ> ᠨᠢᠮᠠ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠪᠣᠯ ᠨᠠᠷᠠ ᠭᠡᠰᠢᠨ ᠤᠳᠠ ᠲᠠᠢ ᠲᠥᠪᠡᠳ ᠤᠭᠡ ᠶᠤᠮ ..

Nim\_a gedeg bol nara gesen udq\_a tai töbed üge yum.

Nim\_a というのは 太陽 という 意味 ある チベット語 MP

(Nim\_a とうのは、太陽という意味をもつチベット語である。)

##### 2) 言葉の属性を問題にする文におけるgedeg bol

gedeg bol には、言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法以外に、言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法もある。

(コ) gedeg bolには言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法がある。

たとえば次の(15)は、solir odo (隕石) を主題として提示し、述部でそれがどのような属性をもつものかについて述べている文である。

(15) <モ> ᠰᠣᠯᠢᠷ ᠣᠳᠣ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠪᠣᠯ ᠰᠠᠨᠰᠠᠷ ᠤᠨ ᠣᠶᠲᠠᠷᠶᠠᠢ ᠳᠤ ᠨᠠᠷᠠ ᠶᠢ ᠳᠠᠶᠠᠨ ᠡᠷᠭᠢ ᠵᠢ ᠶᠠᠪᠤ ᠳᠠᠶ ..

solir odo gedeg bol sansar-un oytaryui-du nara-yi dayan ergi-jü yabu-day (NMGDX コーパス)

solir odo gedeg bol sansar-un oytaryui-du nara-yi dayan ergi-jü yabu-day

隕石           とは 宇宙-GEN 空-DAT           太陽-ACC付いて回-CV行く -VN  
 tomo jĭjig čilayu-nuyud siu de.

大 小 石-PL                               MP MP

(隕石とは宇宙で太陽に付いて回っている大小の石だよ。)

### 5. 1. 3. 2 属性の捉えなおしの gedeg bol

主題を表す *gedeg bol* には、前記の(14)と(15)のような言葉の解説を行うものばかりではなく、主題について評価を述べたりするものもある。

(サ) *gedeg bol*には属性の捉えなおしをする文の主題を表す用法がある。

*gedeg bol* には属性の捉えなおしをする文の主題を提示する用法がある。たとえば次の(16)は、*šarqud* (酒) を主題として提示し、「酒」が入っている容器以外のすべてのものを興奮させる力があると述べている。その評価が真であることもあれば偽であることもある。

(16) <モ> ᠰᠢᠷᠠᠴᠠᠳᠤ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠪᠣᠯ ᠰᠠᠪᠠᠨ ᠠᠴᠠ ᠪᠠᠨ ᠪᠤᠰᠤᠳᠤ ᠢ ᠪᠦᠷ ᠬᠡᠭᠵᠢ ᠭᠡ ᠵᠦ ᠴᠢᠳᠠᠳᠠᠭ ᠤᠮᠳᠠᠶᠠᠨ ᠰᠢᠤ ᠠᠰᠢ

(NMGDX コーパス)

*šarqud gedeg bol saban-ača-ban busud-i бүр kögĭ-ge-jü čidaday umdayan siu.*  
 酒 というのは容器-ABL-REFL他-ACC全部興奮-CAUS-CVできる飲み物MP  
 (酒というのは、容器以外のすべてのものを興奮させることができる飲み物である。)

### 5. 1. 3. 3 gedeg čini と gedeg ni

主題を表す *gedeg bol* 類には *gedeg čini*、*gedeg ni* などの形のものもある。*gedeg čini* の *čini* は二人称所属小辞で、*gedeg ni* の *ni* は三人称所属小辞である。

(シ) *gedeg bol* 類には、*gedeg čini* や *gedeg ni* の形のものもある。

*gedeg bol* 類には、*gedeg čini* や *gedeg ni* の形のものもある。たとえば次の(17)は、*gedeg čini* の形で主題を提示し、(18)は、*gedeg ni* の形で主題を提示している。

(17) <モ> ᠰᠠᠪᠠᠨ ᠴᠤᠯᠤ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠴᠢᠨᠢ ᠶᠠᠭᠤ ᠪᠢᠯᠡ ?                               (フフバートル1993:119)

tabun čulu gedeg čini yayu bile?

五 臓 っ て 2ND 何 でした っ け

(五臓って何でしたっけ?)





## 5. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカ―

モンゴル語の *tuqai* は意味と用法が日本語の「については」に近い。管見の限り、これまでに *tuqai* を主題マーカ―として指摘した研究は未だにない。その理由は、未だにモンゴル語の主題マーカ―の全体像を明らかにした研究がないことと、日本語の主題マーカ―とモンゴル語の主題マーカ―との対照研究が行われてこなかったことなどと無関係ではない。著者は、*tuqai* が日本語の主題マーカ―「については」に近いもので、一種の主題マーカ―だと考える。

以下で、*tuqai* の主題を表す用法について考察し、その後、まとめを述べる。

### 5. 2. 1 *tuqai* の主題を表す用法

*tuqai* は、言語活動や思考活動の動作が向けられる対象を主題として提示する機能がある。

(ア) *tuqai* には、言語活動や思考活動の動作が向けられる対象を主題として提示する用法がある。

たとえば、次の(20)は、*tuqai* を用いて指示詞 *egün* (これ) を主題として提示し、その述部で *jīyasučin ebügen nada todorqai sayiqan yari-ju ög-čei* (漁夫が分かりやすく語ってくれた) と述べている。これは一種の言語活動を表している主題文である。

(20) <モ> *ᠡᠭᠦᠨ ᠤ᠋ tuqai jīyasučin ebügen nada todorqai sayiqan yari-ju ög-čei* 。

(NMGDX コーパス)

*egün-ü tuqai jīyasučin ebügen nada todorqai sayiqan yari-ju ög-čei.*

これ-GEN について 漁 夫 私に分かりやすい 語る-CV くれる-PAST

(これについては、漁夫が私に分かりやすく語ってくれた。)

*tuqai* は、主語の前に置かれた時、主題としての解釈を受けやすい。たとえば前の(20)では、主語「漁夫」が *tuqai* の後に置かれている。*tuqai* は主語の後に置かれた時、主題としての解釈を受けにくい。たとえば次の(21)は、前の(20)の主語「漁夫」を *tuqai* の前に持ってきた文で、この文では、「漁夫」が主題としての解釈を受けやすい。

(21) <モ> ᠵᠢᠶᠠᠰᠤᠴᠢᠨ ᠡᠪᠦᠭᠡᠨ ᠡᠭᠦᠨ-ᠦ ᠲᠤᠴᠠᠢ ᠨᠠᠳᠠ ᠲᠣᠳᠣᠷᠴᠠᠢ ᠰᠠᠶᠢᠴᠠᠨ ᠶᠠᠷᠢ-ᠵᠤ ᠣᠭ-ᠴᠡᠢ

jīyasučin ebügen egün-ü **tuqai** nada todorqai sayiqan yari-ju ög-čei.  
 漁夫 これ-GEN について 私に分かりやすい語る-CV くれる-PAST  
 (漁夫はこれについて私に分かりやすく語ってくれた。)

また、主題を表す **tuqai** は、**tuqai bol** の形で用いられることもある。しかし、コーパスの実例を見ても、**tuqai bol** の形より、**tuqai** の形で用いられる例が多い。

(イ) 主題を表す **tuqai** は、**tuqai bol** の形で用いられることもある。

**tuqai bol** は、**tuqai** の後に主題マーカ―**bol** を付けた複合型のもので、日本語の「について+は」に類似している。たとえば次の(22)は、**uγuča** (臀部) という名詞が **tuqai bol** によって主題として提示されている例である。

(22) <モ> ᠶᠡᠷᠦ ᠤᠶᠤᠴᠠ-ᠶᠢᠨ ᠲᠤᠴᠠᠢ ᠪᠣᠯ <ᠲᠠᠶᠢᠵᠢ-ᠶᠢᠨ ᠤᠶᠤᠴᠠ ᠲᠠᠪᠤᠨ ᠨᠢᠷᠦᠭᠤ ᠲᠠᠢ,  
ᠶᠠᠷᠦᠨ ᠤᠶᠤᠴᠠ ᠶᠤᠷᠪᠠᠨ ᠨᠢᠷᠦᠭᠤ ᠲᠠᠢ> ᠭᠡᠬᠦ ᠤᠭᠡ ᠪᠠᠶᠢ-ᠳᠠᠶ.  
 普段 臀部-GEN については 皇族-GEN 臀部 五つ 腰 ある  
 (NMGDX コーパス)

yerü uγuča-yin **tuqai bol** <tayiji-yin uγuča tabun niruγu tai,  
 普段 臀部-GEN については 皇族-GEN 臀部 五つ 腰 ある  
 qarača-yin uγuča γurban niruγu tai> gekü üge bayi-day.  
 庶民-GEN 臀部 三つ 腰 ある という言葉 ある-VN  
 (臀部については、皇族の臀部は五つの腰があり、庶民の臀部は三つの腰があるという言葉がある。)

5. 2. 2 「限定された叙述を行う文の主題マーカ―」のまとめ

この節で述べてきたことを簡潔に表でまとめると、次のようになる。

表2 「限定された叙述を行う文の主題マーカ―」のまとめ

tuqai の種類	tuqai と tuqai bol の 2 種類ある
tuqai で表せる主題の種類	言語活動や思考活動の動作が向けられる対象を主題として提示する。

## 第6章 モンゴル語の非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能

### 6. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカ―

#### 6. 1. 1 *gejü* の非主題表示用法

*gejü*には前章で述べたように主題を表す用法がある一方、主題を表しているとは言えない用法もある。この節では、主題を表していない*gejü*について見ていく。

(ア) *gejü*の非主題表示用法には、発言内容・思考内容を表す用法、文脈に事物を導入する用法、アスペクトに関わる用法、慣用的用法などがある。

#### 1) 発言内容・思考内容を表す *gejü*

*gejü* は、発言を表す動詞とともに用いられ、その内容を表す用法がある。たとえば次の(1)では、*gejü* の後に発言を表す動詞 *kele-n\_e* (言う) が来て、発言の内容を表している。また、*gejü* は、思考を表す動詞とともに用いられ、その内容を表す用法もある。たとえば次の(2)では、*gejü* の後に思考を表す動詞 *bodo-ju bayi-n\_a* (考えている) が来て、思考の内容を表している。

(1) <モ> *ᠠᠨᠢᠷᠭᠡᠯᠲᠦ ᠶᠢ ᠠᠶᠤᠩᠭᠦ ᠠ ᠪᠠᠶᠤᠭᠤᠨ ᠠ ᠭᠡᠵᠦ ᠭᠡᠯᠡᠨᠡ* \*\* (NMGDXコーパス)

*ene nirgelte-yi ayungγ\_a bayu-qu gejü kele-n\_e.*

この 雷鳴-ACC 雷 落ちる-VN と 言う-NP

(この雷を落雷と言う。)

(2) <モ> *ᠪᠢ ᠵᠦᠪ ᠭᠡᠵᠦ ᠪᠣᠳᠤᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠ* \*\*

*bi jöb gejü bodo-ju bayi-n\_a.*

私 正しい と 考える-VN いる-NP

(私は正しいと考えている。)

#### 2) 文脈に事物を導入する *gejü*

*gejü*が主語の後に用いられた時、文脈に事物を導入する用法としての解釈を受けやすい。たとえば次の(3)では*gejü*が主語の後に用いられている。

(3) <モ> *ᠵᠠᠶᠤᠰᠢ ᠨᠢ ᠵᠢᠶᠠᠰᠤᠠᠴᠠ ᠣᠭᠡᠷᠡ ᠶᠠᠭᠤᠮᠤ ᠭᠡᠵᠦ ᠠᠯᠠᠭᠠ* \*\* (NMGDXコーパス)

*jayusi ni jiyasu-ača öger\_e yayum\_a gejü alay\_a.*

おかず<sub>3RD</sub> 魚-ABL 他 もの って ない  
 (魚以外のおかずってない。)

### 3) アスペクトに関わる *gejü*

*gejü*は形動詞に接続して用いられる用法がある。主語が無情物の場合は、直後の変化に向かって状況が推移していることを表す。たとえば次の(4)は、無情物が主語になっている文で、太陽が沈むという変化に向かって推移していることを表している。一方、主語が有情物の場合、その主体が動きの実現を目指してなんらかの行動を起こしていることを表す。たとえば次の(5)は有情物が主語になっている文で、「訪問しようとしている」のような動きを表している。

(4) <モ>  $\text{ᠨᠠᠷᠠ ᠤᠨᠠᠭᠤ ᠴᠤᠨᠠ ᠪᠠᠶᠢᠨ}$  \*\*

nara una-qu *gejü* bayin\_a.

太陽 沈む-VN とする いる

(太陽が沈もうとしている。)

(5) <モ>  $\text{ᠠᠶᠢᠯᠴᠢᠯᠠᠭᠤ ᠭᠡᠵᠦᠢ ᠪᠠᠶᠢᠭᠤ ᠠ ᠠᠪᠤ ᠡᠵᠢᠶᠢ ᠮᠢᠨᠢ ᠲᠤᠰᠤᠬᠤ ᠪᠠᠷ ᠨᠢᠭᠢᠨ}$

$\text{ᠮᠣᠩᠭᠡᠨ ᠴᠠᠶᠠᠨ ᠡᠭᠴᠡ ᠨᠢᠰᠬᠡᠯ ᠬᠦᠷᠦᠭᠡᠳ ᠢᠷᠡᠯᠡ}$  \*\*

(NMGDXコーパス)

ayilčila-qu *gejü* bayiy\_a abu eji-yi mini tos-qu-bar nigen

訪問-VN と いる 父 母-ACC 1ST 迎える-VN -INST 一つ

mönggen čayan egče niskel kürü-ged ire-l\_e.

銀 白 ヘリコプター 着く-CV 来る-PAST

(訪問に行こうとしている父母を、銀白色のヘリコプターが迎えにきた。)

### 4) 慣用表現を表す *gejü*

*gejü*には、疑問詞 *yayu* (何) と結びついて「なんで」という語をつくることがある。たとえば次の例(6)では、「*yayu* (何) + *gejü*」の形で用いられ、「なんで」という語を形成している。

(6) <モ>  $\text{ᠪᠢ ᠶᠠᠭᠤ ᠭᠡᠵᠦᠢ ᠡᠶᠢᠮᠦ ᠶᠠᠪᠤᠳᠠᠯ ᠬᠢᠭᠰᠢᠨ ᠪᠠᠢ}$  ?

(NMGDXコーパス)

bi *yayu* *gejü* eyimü yabudal ki-gsen bui ?...

私 なんで こんな 事 する-VN QP

(私はなんでこんな事をしてしまったのだろうか。)



- (8) <モ>  $\text{ᠠᠶᠢᠵᠢᠨ ᠠᠨᠠᠭᠤᠨ ᠶ᠋ᠠᠵᠢᠨ ᠭᠡᠰᠡᠨ ᠪᠣᠯᠠ}$  (NMGD<sub>X</sub>コーパス)  
 edenüs čuqum yayaki-qu gesen bol da.  
 この人たち 一体 なにをする-VN と QP MP  
 (この人たちは一体何をしようとしているのだろうか。)

### 6. 1. 3 gedeg bol の非主題表示用法

gedeg bol には前に述べたように、主題を表す用法がある一方で、主題を表しているとは言えない周辺的な用法もある。

(ウ) gedeg bol には疑問を表す用法や驚き・詠嘆を表す用法がある。

主題を表す gedeg bol 類に gedeg čini、gedeg ni、の形があるように、周辺的な用法の gedeg bol 類にも gedeg ni、gedeg čini などの形がある。次の(9)は gedeg bol が文末に用いられて、疑問を表している用法である。この疑問を表す用法も bol の疑問を表す助詞として使われる機能に由来するものである。その次の(10)は gedeg ni という形で驚きや詠嘆を表している用法である。

- (9) <モ>  $\text{ᠲᠡᠷᠡ ᠲᠡᠭᠡᠭᠡᠳ ᠴᠢᠭᠤᠮ ᠶ᠋ᠠᠭᠤ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠪᠣᠯᠤ?}$  (NMGD<sub>X</sub>コーパス)  
 tere tegeged čuqum yayu gedeg bol?  
 それ そして いったい 何 という か  
 (それはいったいなんと言うのだろうか。)

- (10) <モ>  $\text{ᠰᠠᠶᠢᠻᠠᠨ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠨᠢ ᠶ᠋ᠠᠵᠢᠨ ᠪᠢᠯᠡ!}$  (NMGD<sub>X</sub>コーパス)  
 sayiqan gedeg ni yayaiqu bile!  
 立派 って 何と MP  
 (何と立派なことだろうか。)

### 6. 1. 4 「言葉の解説を行う文の主題マーカ―の非主題表示機能」のまとめ

この節で述べてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表1 「言葉の解説を行う文の主題マーカ―の非主題表示機能」のまとめ

gejü	発言内容・思考内容を表す用法、文脈に事物を導入する用法、アスペクトに関わる用法、慣用的用法がある
gesen bol	仮定条件を表す用法、疑問を表す用法がある
gedeg bol	疑問を表す用法、驚き・詠嘆を表す用法がある。

## 6. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカ―

限定された叙述を行う文の主題マーカ―である *tuqai* には、主題を表す用法のほか、主題を表しているとは言えない周辺的な用法がある。

(エ) *tuqai* には、対比を表す用法、「当事者、当時」の「当」に相当する用法、他の語と結合して「適時に」という意味を表す用法、日本語の主題を表さない「について」に近い用法などがある。

### 1) 対比を表す用法

*tuqai bol* には、対比を表す用法がある。特に、文に *tuqai bol* が2回以上現れている場合は対比の意味が顕著である。これは、いわゆる明示的な対比である。

たとえば次の(11)は、明示的な対比を表している例である。この例では、「生存者に対する叙勲については」と「死亡者に対する叙勲については」が対比的に使われている。

(11) <モ>  $\text{ᠠᠮᠢᠳᠤ ᠪᠠᠶᠢᠴᠢ ᠬᠣᠮᠤᠰᠤᠲᠦ ᠶᠠᠪᠢᠶᠠ ᠶᠢᠨ ᠲᠡᠮᠳᠡᠭ ᠣᠯᠤ᠎ᠠ ᠬᠤ ᠲᠤ ᠮᠠᠮᠤᠷ ᠲᠤ ᠪᠡᠶᠡ ᠤᠷᠡᠭᠳᠡ ᠭᠰᠡᠨ ᠬᠣᠮᠤᠰᠤᠲᠦ ᠶᠠᠪᠢᠶᠠ ᠶᠢᠨ ᠲᠡᠮᠳᠡᠭ ᠣᠯᠤ᠎ᠠ ᠬᠤ ᠲᠤ ᠳᠠᠷᠠᠢ ᠳᠤᠨᠢ ᠨᠡᠶᠢᠲᠡᠯᠡᠨ ᠡ$

(中納言：消防庁(1991)「消防白書」より翻訳)

*amidu bayiqu kömüs-tü yabiy\_a-yin temdeg oļo-qu tuqai bol, jil büri, qabur*

生存者 叙勲する-VN については 毎年 春

*bolun namur-tu, bey\_e üregde-gsen kömüs-tü yabiy\_a-yin temdeg oļo-qu*

と 秋-DAT 死亡者-DAT 叙勲 する-VN

*tuqai bol, tere darui-duni neyitelen\_e.*

については その都度 発令される

(生存者に対する叙勲については、毎年、春と秋に、死亡者に対する叙勲については、その都度発令されている。)

### 2) 「当事者、当時」の「当」に相当する用法

この用法は「*tuqai*+名詞」の形で用いられ、「当～」の意味を表す。「*tuqai*+名詞」という用法は、基本的に書き言葉あるいはフォーマルな場面で使われる。

次の(12)は名詞 *kömün* (人) の前に *tuqai* が来て「当人」という意味を表している。その次の(13)は、*tuqai* (当) に *üy\_e* (時) が付いて「当時」という意味を表



している例である。

(12) <モ> ᠲᠡᠭᠡᠬᠡᠳᠡᠭᠡᠨ ᠲᠤᠴᠠᠢ ᠶᠢᠨ ᠬᠣᠮᠤᠨᠦ ᠠᠵᠢᠯ, ᠴᠠᠶ ᠠᠯᠳᠠᠶᠳᠠᠶᠤᠯᠤᠭᠤ ᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠡᠷ ᠲᠣᠪᠴᠢ  
 ᠲᠣᠳᠣᠷᠴᠠᠢ ᠠᠯᠢ ᠪᠣᠯᠠᠭᠤᠪᠠᠷ ᠴᠣᠷᠳᠤᠨ ᠰᠢᠶ ᠶᠠᠷᠢᠳᠠᠶ ᠶᠣᠰᠣᠲᠠᠢ ᠠᠨᠢ ᠬᠡᠳᠢ  
 当-GEN 人-GEN 仕事 時 失う-VN ない-INST 簡単  
 (NMGDX コーパス)

tege-kü-degen tuqai-yin kömün-ü aḵil, čay aldaydayul-qu ügei-ber tobči  
 そして 当-GEN 人-GEN 仕事 時 失う-VN ない-INST 簡単  
 todorqai, ali bolqu-bar qurdun siy yariday yoso-tai.  
 はっきり どれ なる-INST 早く よう 話す べき-だ  
 (そして当人の仕事や、時間に支障がでないように簡単にまとめて話すべきである。)

(13) <モ> ᠲᠤᠴᠠᠢ ᠶᠢᠨ ᠤᠦ ᠳᠡᠭᠡᠨ ᠳᠡᠯᠡᠬᠡᠢ ᠶᠢᠨ ᠴᠠᠮᠤᠭᠤ ᠤᠨ ᠲᠣᠮᠣ ᠴᠢᠯᠠᠭᠤᠨ ᠬᠣᠭᠣᠷᠭᠡ ᠪᠣᠯᠤᠨ ᠠ  
 当-GEN 時-DAT 世界-GEN 最-GEN 大 石 橋 MP  
 (NMGDX コーパス)

tuqai yin üy\_e degen delekei-yin qamuγ-un tomo čilayun kögöрге болун\_a.  
 当-GEN 時-DAT 世界-GEN 最-GEN 大 石 橋 MP  
 (当時は世界最大の石橋だった。)

### 3) 他の語と結合して「適時に」という意味を表す用法

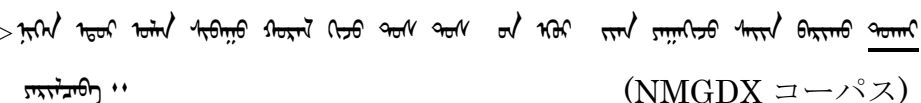
tuqai には tuqai du ni の形で「適時」という意味を表す用法がある。これは「tuqai + 与位格 + 3 人称所属小辞」で構成されたものである。次の(14)がその例である。

(14) ᠡᠶᠢᠮᠦᠡᠴᠡ ᠪᠢᠳᠡ ᠮᠠᠯᠢ ᠶᠢᠨ ᠵᠠᠯᠶᠠᠭᠠ ᠠ ᠠᠵᠢᠶᠢᠯᠠ ᠵᠦ ᠲᠤᠴᠠᠢ ᠳᠤ ᠨᠢ ᠴᠤᠵᠢᠷᠢᠯᠠ ᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ  
 (NMGDX コーパス)

eyimü-eče bide mal-iyan ḵalyay\_a aḵiyla-ḵu tuqai-du ni quḵirila-ḵu bayin\_a.  
 だから我々家畜-REFL 常に観察する-CV 適時に-DAT-3RD 塩を舐める-CV いる  
 (だから、我々はいつも家畜を観察し、適時に塩を舐めさせている。)

### 4) 主題を表さない「について」に近い用法

主題は基本的に文頭に位置するが、主題を表さない tuqai は述部など、文頭以外の位置に現れることが多い。たとえば次の(15)は、tuqai が述語に近い位置に置かれている例である。この文の主語は tuqai が付いている語ではなく、「たくさんの鳥」である。

(15) <モ>  (NMGDX コーパス)

nigen edür olan sibayu qural kijü tus tus-un egür -iyen  
 一 日 多い 鳥 会議 する 個々-GEN 巣-REFL  
 yayakiju bari-qu tuqai yarıłca-ba.

どうして 作る-VN について 話し合う-PAST

(ある日、たくさんの鳥たちが会議を開き、それぞれの巣をどのように作るかについて話し合った。)

5) 「限定された叙述を行う文の主題マーカ―」のまとめ

「限定された叙述を行う文の主題マーカ―」の非主題表示機能について、ここまで述べてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表2 tuqai の非主題表示用法

tuqai の非主題表示用法
対比を表す用法
日本語の「当事者、当時」の「当」に相当する用法
他の語と結合して「適時に」という意味を表す用法
日本語の主題を表さない「について」に近い用法

## 第3部 日本語とモンゴル語の主題マーカースの対照研究

第3部は、日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカースと非典型的な主題マーカースにおける主題表示機能と非主題表示機能の類似点と相違点について考察する。第3部の構成は次の通りである。

### 第7章 典型的な主題マーカースの主題表示機能

7. 1 主題マーカースと属性叙述文・事象叙述文
7. 2 格成分が主題になっている文
7. 3 格成分の連体修飾部が主題になっている文
7. 4 述語名詞の連体修飾部が主題になっている文
7. 5 被修飾名詞が主題になっている文
7. 6 節が主題になっている文
7. 7 破格の主題をもつ文

### 第8章 典型的な主題マーカースの非主題表示機能

8. 1 対比表示機能
8. 2 条件表示機能

### 第9章 非典型的な主題マーカースの主題表示機能

9. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカース
9. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカース

### 第10章 非典型的な主題マーカースの非主題表示機能

10. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカース
10. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカース

## 第7章 典型的な主題マーカ―の主題表示機能

第7章では、日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカ―「は」と bol の類似点と相違点について考察する。具体的には、①主題マーカ―と属性叙述文・事象叙述文との関係、②格成分が主題になっている文、③格成分の連体修飾部が主題になっている文、④述語名詞の連体修飾部が主題になっている文、⑤被修飾名詞が主題になっている文、⑥節が主題になっている文、⑦破格の主題をもつ文の順に考察していく。

### 7. 1 主題マーカ―と属性叙述文・事象叙述文

この節では、両言語における典型的な主題マーカ―と属性叙述文・事象叙述文との関係について見ていく。すなわち、日本語の主題マーカ―「は」とモンゴル語の主題マーカ―bol は属性叙述文・事象叙述文と深い関係があることを述べる。具体的には、単文の「は」と bol、従属節の中の「は」と bol、まとめ、の順に述べていく。

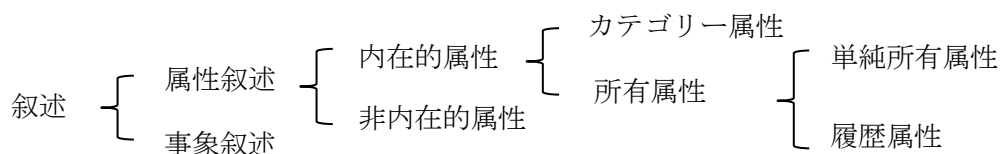
#### 7. 1. 1 単文にみる「は」と bol

単文に使われる「は」と bol を、属性叙述文と事象叙述文の2種類に分けて考察する。具体的には、属性叙述文にみる「は」と bol、事象叙述文にみる「は」と bol の順に考察する。

##### 7. 1. 1. 1 属性叙述文にみる「は」と bol

図1のように、属性叙述には多くの下位項目がある。以下で、図1の属性叙述の分類にしたがって、属性叙述文にみる「は」と bol について考察する。

図1 益岡 (2008) の叙述の分類



(ア) 属性叙述文には、日本語の主題を表す「は」もモンゴル語の主題を表す **bol** も用いられる。

以下で、述語が名詞、形容詞、動詞である属性叙述文を1つずつ取り上げて、主題を表す「は」と **bol** がその中に用いられるかどうかについて見ていく。

まず、属性叙述をしている名詞述語文の中に主題を表す「は」と **bol** が用いられるかどうかについて考えたい。次の(1)は名詞述語文で、対象である「クジラ」が「哺乳類」というカテゴリーに帰属することを示している。

(1) a. <日>クジラは哺乳類だ。

b. <モ> <sup>ᠰᠢᠨᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠲᠡᠨ</sup> bol <sup>ᠶᠤᠮᠤ</sup> <sup>ᠰᠢᠨᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠲᠡᠨ</sup> <sup>ᠶᠤᠮᠤ</sup> 。

qalimu **bol** sün teḷigelten yum.

クジラ は 哺乳類 MP

(クジラは哺乳類だ。)

次に、属性叙述をしている形容詞述語文の中に、主題を表す「は」と **bol** が用いられるかどうかについて考えたい。益岡(2008)が指摘するように、単純所有属性を表す文の典型は形容詞述語文である。たとえば次の(2)は、形容詞述語文で、「あの先生」という対象が持つ「厳しい」という性質を表している。

(2) a. <日>あの先生は厳しい。

b. <モ> <sup>ᠠᠨᠠᠭᠤ</sup> <sup>ᠰᠢᠨᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠲᠡᠨ</sup> bol <sup>ᠴᠢᠩᠭᠤᠠ</sup> <sup>ᠶᠤᠮᠤ</sup> 。

tere baysi **bol** čingγ\_a yum.

あの 先生 は 厳しい MP

(あの先生は厳しい。)

最後に、動詞が述語になっている属性叙述文に主題を表す「は」と **bol** が用いられるかどうかについて考えたい。益岡(2008)が指摘するように、履歴属性を表す文の典型は動詞述語文である。たとえば次の(3)は、動詞述語文で、過去のことを「履歴」として述べている。

(3) a. <日>私はアメリカに何度も行った。

b. <モ> <sup>ᠪᠢ</sup> bol <sup>ᠠᠮᠢᠷᠢᠬᠠᠳᠤ</sup> <sup>ᠣᠯᠠᠨ</sup> <sup>ᠤᠳᠠᠭᠤᠠ</sup> <sup>ᠣᠴᠢᠵᠤ</sup> <sup>ᠥᠩᠭᠡᠷᠡᠪᠡ</sup> 。

bi **bol** Amerika-du olan uday\_a oči-ju önggere-be.

私 は アメリカ-DAT 何度も 行く-CV 過ぎる-PAST

(私はアメリカに何度も行った(ことがある)。)

要するに、日本語の主題を表す「は」もモンゴル語の主題を表す bol も、属性叙述文に使われることがある。この節で述べてきたことを表で簡潔に示すと、次のようになる。

表1 属性叙述文と「は」・bol

属性叙述文	
主題表示のは	○
主題表示の bol	○

### 7. 1. 1. 2 事象叙述文にみる「は」と bol

前の節で、属性叙述文の中には主題を表す「は」も bol も使われることを述べた。この節では、事象叙述文の中には主題を表す「は」と bol が使われるかどうかについて見ていく。

(イ) 事象叙述文の中には、主題を表す「は」は用いられるが、主題を表す bol は用いられない。

事象叙述は、特定の時空間に実現するイベント（出来事）を述べるものであった。主題を表す「は」は事象叙述文の中にも用いられるのに対して、主題を表す bol は事象叙述文の中には用いられない。たとえば次の日本語の例(4a)は、文中に主題を表す「は」が用いられている。これに対して、その次のモンゴル語の例(4b)では、主題を表す bol は用いられていない。これは、日本語の主題を表す「は」は事象叙述文にも用いられるが、モンゴル語の主題を表す bol は事象叙述文には用いられないことを示している。

(4) a. <日>花子は笑った。

b. <モ>  $\text{Qanako} \phi \text{ iniye-be}$  "

Qanako  $\phi$  iniye-be.

花子  $\phi$  笑う-PAST

(花子は笑った。)

次の(5)は「は」と bol が用いられている例である。(5a)の「は」は、主題の「は」と対比の「は」の2通りの解釈が可能であるのに対して、(5b)の bol は、対比の bol でしか解釈できないものである。これは、事象叙述文の中で用いられる bol は対比の解釈を受けやすいことを示している。

(5) a. <日>私は帰る。

b. <モ> bol qari-n\_a.

私 は 帰る-NP

((ほかの人が帰るか帰らないか、分からないが)私は帰る。)

要するに、日本語では、事象叙述文の中には、主題を表す「は」も対比を表す「は」も用いられる。これに対してモンゴル語では、事象叙述文の中には、主題を表す bol は用いられず、対比を表す bol しか用いられない。

ここまで述べたことを表で簡潔に示すと、次のようになる。

表2 事象叙述文と「は」・bol

事象叙述文		
	主題を表す	対比を表す
は	○	○
bol	×	○

### 7. 1. 2 従属節にみる「は」と bol

前に、単文の中の「は」と bol について見た。この節では、複文の中の「は」と bol について見る。複文といえば、基本的に主文と従属節の2つの部分からなる。主文は前節で見てきた単文に近いものなので、ここでは、従属節の中の「は」と bol を中心に見ていく。従属節のまとめは、分りやすくするために、各従属節ごとにまとめるのではなく、最後に1つの表でまとめておく。

#### 7. 1. 2. 1 名詞節

名詞節の内部に、主題を表す「は」が現れることについて、日本語記述文法研究会(2008:216)は、「形式名詞「こと」「の」を伴い、人や物の属性を叙述する名詞節においては、主語を主題として「は」で示すこともできる。」と指摘している。日本語と同様に、モンゴル語の主題を表す bol も名詞節の中に用いられる。

(ウ) 日本語もモンゴル語も、名詞節が属性叙述である場合は、その名詞節の中に主題を表す「は」と bol が用いられる。名詞節が事象叙述である場合は、その名詞節の中に主題を表す「は」と bol は用いられない。

まず、名詞節が属性叙述である場合は、名詞節の内部に主題を表す「は」と bol が用いられることについて見ていこう。たとえば次の(6)の名詞節「コウモリ

は哺乳類である」は属性叙述文で、その名詞節の内部には主題を表す「は」と bol が用いられても自然である。

(6) a. <日> 息子はコウモリは哺乳類であることを知らなかった。

(日本語記述文法研究会 2009b: 216)

b. <モ> ᠮᠢᠨᠦ ᠬᠡᠭᠦᠪᠠᠶᠠᠢ bol ᠰᠦᠨ ᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠲᠡᠨ bolᠬᠤ-yi mede-gsen ügei.

minü küü baybayai bol sün teḷigelten bolqu-yi mede-gsen ügei.

息 子 コウモリは 哺乳類 である-ACC 知る-VN ない

(息子はコウモリは哺乳類であることを知らなかった。)

次に、名詞節が事象叙述である場合は、その中に主題を表す「は」と bol が用いられないことについて見ていく。次の(7)は、「先生が来た」という事象叙述文が名詞節として用いられている例で、その名詞節の中に主題を表す「は」と bol を用いると不自然な文になってしまう。

(7) a. <日> \*息子は先生は来たことを知らなかった。

b. <モ> \*ᠮᠢᠨᠦ ᠬᠡᠭᠦᠪᠠᠶᠠᠢ bol ire-gsen-i mede-gsen ügei.

minü küü baysi bol ire-gsen-i mede-gsen ügei.

息 子 先生 は 来る-VN 知る-VN ない

(\*息子は先生は来たことを知らなかった。)

### 7. 1. 2. 2 引用節

引用節の中には「属性叙述文」と「事象叙述文」を取り込むことができるので、その中には主題を表す「は」と bol を用いることができる。引用節の中に主題を表す「は」と bol を使うかどうかは、基本的に、単文の中の「は」や bol と同じである。

(エ) 引用節が属性叙述文の場合は、主題を表す「は」も bol も使われる。

引用節が事象叙述文の場合は、主題を表す「は」は用いられるが、主題を表す bol は用いられない。

日本語もモンゴル語も、引用節は内部に独自の主題を持つことができる。よって、直接引用節の内部には主題を表す「は」と bol を用いることができる。たとえば次の(8)は、引用節が属性叙述で、主題を表す「は」と bol が使われている例文である。



(8) a.<日>先生は、田中さんは学部生だと言った。

b.<モ> ᠪᠠᠶᠢᠰᠢ ᠲᠠᠨᠠᠬᠤ ᠪᠣᠯ ᠣᠶᠤᠲᠠᠨ ᠶᠤᠮ ᠭᠡᠵᠦ ᠬᠡᠯᠡ-ᠪᠡ

baysi, Tanaka bol oyutan yum geju kele-be.

先生 田中 は 学部生 だ と 言う -PAST

(先生は、田中は学部生だと言った。)

次の(9)は引用節が事象叙述で、日本語の例(9a)の内部には、主題を表す「は」が現れている。これに対して、その次のモンゴル語の例(9b)の引用節の内部には、主題を表す bol が使われると、不自然な文になる。

(9) a.<日>佐藤さんは田中さんは来たと言っていた。

b.<モ> \*ᠰᠠᠲᠤ ᠲᠠᠨᠠᠬᠤ ᠶᠡᠯᠡ-ᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠯᠡ ᠶᠡᠮ ᠭᠡᠵᠦ ᠬᠡᠯᠡ-ᠪᠡ

Satou Tanaka irel\_e geju kele-ju bayil\_a.

佐藤 田中 来る -PAST と 言う -CV いる -PAST

(佐藤さんは田中さんは来たと言っていた。)

日本語では、「と」という引用節の内部だけではなく、「よう (に)」という引用節の内部にも主題を表す「は」が用いられることもある。たとえば次の(10)は「よう (に)」引用節で、その内部に主題を表す「は」が使われている。

(10)<日>兄の野球チームは今年も優勝できないように思う。

(日本語記述文法研究会 2009b: 218)

日本語の引用の形式「よう (に)」は、モンゴル語に対応しにくい面もあることを考慮し、この形式における両言語の対照はしないことにする。

### 7. 1. 2. 3 疑問節

疑問節の中の主題を表す「は」と bol について考察する際、属性叙述をする疑問節と事象叙述をする疑問節に分けて考える。

(オ) 属性叙述をしている疑問節においては、主題を表す「は」も主題を表す bol も用いられる。事象叙述をしている疑問節においては、主題を表す「は」が用いられるが、主題を表す bol は用いられない。

まず、属性叙述をしている疑問節において、主題を表す「は」と bol が用いられることについて見てみたい。次の(11)の「クジラは魚か哺乳類か」は属性叙述をしている疑問節で、この疑問節の中には主題を表す「は」と bol が用いられて

いる。このように、属性叙述をしている疑問節には、主題を表す「は」と bol が用いられることがある。

(11) a. <日> クジラは魚か哺乳類かを当ててみてください

b. <モ> ᠠᠵᠢᠷᠠ ᠬᠤ ᠶ᠋ᠢᠶᠠᠰᠤ ᠶᠤᠮ ᠤᠤ ᠰᠦᠨ ᠲᠡᠵᠢᠭᠡᠯᠲᠡᠨ ᠶᠤᠮ ᠠᠶᠤᠵᠤ ᠤᠯᠡᠭᠡᠷᠡᠢ ᠠᠵᠢᠷᠠ ᠬᠤ ..

qalimu bol jiyasu yum uu sün tejigelten yum üü taya-ju üje-gerei.

クジラは 魚 MP か 哺乳類 MP か 当てる-CV 見る-OPT

(鯨は魚か哺乳類かを当ててみてください。)

次に、事象叙述をしている疑問節について見ていこう。

事象叙述をしている疑問節において、主題を表す「は」は用いられるが、主題を表す bol は用いられない。たとえば次の(12)は事象叙述をしている疑問節をもつ文である。日本語の例(12a)の疑問節の内部には主題を表す「は」が用いられている。これに対して、モンゴル語の例(12b)の疑問節の内部には主題を表す bol を用いることはできない。

(12) a. <日> 田村さんはどこにいるか、僕は知りません。

b. <モ> \*ᠲᠠᠮᠦᠷᠠ ᠬᠤ ᠵᠢᠳᠤᠴᠢ ᠠᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠᠪᠢᠢ ᠪᠢ ᠮᠡᠳᠡᠬᠦᠢ ᠤᠭᠡᠢ ᠠᠵᠢᠷᠠ ᠬᠤ ..

Tamūra bol qamiy a bayin a bui, bi mede-kü ügei.

田村 φどこ いる か 私 分かる-VN ない

(田村さんはどこにいるか、僕は分かりません。)

このように、事象叙述をしている疑問節において、日本語の主題を表す「は」とモンゴル語の主題を表す bol は異なる。

#### 7. 1. 2. 4 名詞修飾節

日本語記述文法研究会(2008)によると、名詞修飾節には、格成分名詞修飾節、内容補充修飾節、相対名詞修飾節、付随名詞修飾節の4種類ある。

(カ) 格成分名詞修飾節や相対名詞修飾節や付随名詞修飾節の内部には、主題を表す「は」と bol は用いられない。内容補充修飾節の内部には、主題を表す「は」と bol が用いられることがある。

まず、格成分名詞修飾節、相対名詞修飾節、付随名詞修飾節の内部には主題を表す「は」と bol が用いられないことについて見ていこう。

格成分名詞修飾節、相対名詞修飾節、付随名詞修飾節の内部には主題を表す

「は」と bol が用いられないのは、これらの名詞修飾節の内部には独自の主題をもつことができなからである。ここで、格成分名詞修飾節の例を取り上げて説明したい。次の(13)は格成分名詞修飾節の例で、被修飾名詞「指輪」と述語「買った」の間には「指輪を買った」という「を」格関係にある。このような名詞修飾節の中に主題を表す「は」と bol を入れると不自然な文になってしまう。

(13) a. <日> \*花子は買った指輪は値段が高い。

b. <モ> \*ᠬᠠᠨᠠᠭᠤᠨ ᠪᠣᠯᠤ ᠠᠷᠤᠮᠤᠳᠤᠨ ᠠᠪᠤᠶᠤᠰᠠᠨ ᠪᠦᠭᠭᠢ ᠪᠣᠯᠤ ᠦᠨᠡᠲᠡᠢ ᠡᠢ

Qanako bol qualdun abu-γsan bügji bol ünetei.

花子 は 買う-VN 指輪 は 値段が高い

(\*花子は買った指輪は値段が高い。)

次に、内容補充修飾節の内部には、主題を表す「は」と bol が使われることについて見ていこう。「～との」「～という」を介する内容補充名詞修飾節の内部には主題を表す「は」と bol が用いられることがある。たとえば次の(14)は、属性叙述をしている内容補充名詞修飾節をもつ文で、その名詞修飾節の内部には主題を表す「は」と bol が使われている。

(14) a. <日> 人は猿から変化したという話を信じるか。

b. <モ> ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠣᠯᠤ ᠰᠠᠷᠮᠠᠶᠴᠢᠨ-ᠠᠴᠠ ᠠᠴᠢ ᠠᠷᠤᠨ-ᠤ ᠡ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠤᠭᠡ-ᠶᠢ ᠢᠲᠡᠭᠡ-ᠬᠦᠢ ᠦᠢᠢ.

kömün bol sarmayčin-ača qubira-ju ire-l e gedeg üge-yi itege-kü üü.

人 は 猿-ABL 変化する-CVくる-PASTという話-ACC信じる-VNか

(人は猿から変化したという話を信じるか。)

ただし、事象叙述をしている内容補充名詞修飾節において、主題を表す「は」は使われるが、主題を表す bol は使われない。たとえば次の日本語の例(15a)の「は」は、主題を表しているとも言える。しかし、その次のモンゴル語の例(15b)の bol は、「春休みなどには帰らないが、冬休みには帰る」という対比専用の bol で、主題を表していない。

(15) a. <日> 冬休みには帰るとの手紙が届いた。

b. <モ> \*ᠡᠪᠦᠯ-ᠶᠢᠨ ᠠᠮᠠᠷᠠᠯᠲᠤ-ᠳᠤ ᠪᠣᠯ ᠠᠷᠢᠨ-ᠠ ᠭᠡᠰᠡᠨ ᠵᠠᠬᠢᠳᠠᠯ ᠢᠷᠡ-ᠪᠡ ᠡᠢ

ebül-ün amaralta-du bol qarín\_a gesen jakidal ire-be.

冬休み-DAT 帰る との 手紙 届く-PAST

(冬休みには帰るとの手紙が届いた。)

7. 1. 2. 5 条件節

日本語記述文法研究会(2008)によると、条件節には原因・理由節、順接条件節、逆接条件節の3種類ある。

(キ) 主題を表す「は」と **bol** は、主節との結び付きが弱い原因・理由節には用いられるが、主節との結び付きが強い<sup>7</sup>原因・理由節には用いられない。また、順接条件節にも逆接条件節にも用いられない。

まず、原因・理由節について見ていこう。

主節との結び付きが弱い原因・理由節の内部には主題を表す「は」と **bol** が用いられる。たとえば次の(16)は、「～ので」という原因・理由節の内部に主題を表す「は」と **bol** が用いられている例である。次の(16b)の **bolqor** は、*tula* (ので/ために) や *učir ača* (ので/ために) に置き換えることもできる。

(16) a.<日> スチンさんは一生懸命に勉強する学生なので、先生は彼をいつもほめる。

b.<モ> ‘stın bol çirmaj-ju sur-day suruyçi bolqor bayşi tegün-i mayta-day.

Sečen bol çirmaj-ju sur-day suruyçi bolqor bayşi tegün-i mayta-day.

スチンは 努力-CV 学ぶ--VN 学生 ので 先生 彼-ACC ほめる-VN

(スチンさんは一生懸命に勉強する学生なので、先生は彼をいつもほめる。)

主節との結び付きが強い原因・理由節の中には主題を表す「は」と **bol** が用いられない。たとえば次の(17)は、原因・理由節の内部に主題を表す「は」と **bol** を用いた文で、不自然である。

(17) a.<日> \*体重は重いために、心臓に負担がかかっている。

b.<モ> \*‘sın bol kündüçe bol kündü tula, jirüken-dü daruyasu bolju bayın\_a.

bey\_e-yin kündüçe bol kündü tula, jirüken-dü daruyasu bolju bayın\_a.

体 重 は 重いために 心臓-DAT 負担 なる いる

(\*体重は重いために、心臓に負担がかかっている。)

次に、順接条件節について見ていこう。順接条件節の内部には主題を表す「は」と **bol** は用いられない。その理由は、順接条件節の内部には独自の主題をもつことが出来ないからである。たとえば次の(18)が示しているように、順接条件節の

<sup>7</sup>野田(1996)を引用したものである。主節との結び付きが弱い原因・理由節には、「～から、～ので、～のに」などがあり、主節との結び付きが強い原因・理由節には、「～ため、～て、～から(焦点)、～ので(焦点)、～のに(焦点)」などがある。

内部には主題を表す「は」と bol は用いられない。

(18) a. <日> \*あなたは一生懸命勉強すれば、 クラスで最下位になることは  
ありえない。

b. <モ> \*ᠠᠨᠠᠲᠤ ᠤᠨᠢ ᠰᠢᠨᠰᠡᠮᠤᠩᠢ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠵᠢᠨᠠᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠳᠤᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰᠤ ᠵᠤᠨᠠᠨᠠᠳᠤ ᠰᠢᠨᠰᠡᠮᠤᠩᠢ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰᠤ  
ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠵᠤᠨᠠᠨᠠᠳᠤ

ta bol čirmayi-ju surulča-day yum bol, anggi-dayan qamuy aday-tu  
あなたは努力する-CV 勉強する-VN MP CON クラス-DAT-REFL 最 下位  
oro-qu bololčay\_a ügei.

入る-VN 可能性 ない

(\*あなたは一生懸命勉強すれば、クラスで最下位になることはありえない。)

また、逆接条件節の内部にも主題を表す「は」と bol は使われない。たとえば次の(19)は、逆接条件節をもつ文で、その従属節の内部には主題を表す「は」と bol を入れると、不自然な文になる。

(19) a. <日> \*注意をしている相手は王子と分かっても、注意をしたのはどうしてでしょう。

b. <モ> \*ᠰᠠᠨᠠᠶᠤᠯᠤ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠳᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰᠤ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠵᠢᠴᠢᠳᠤ ᠵᠠᠸᠠ ᠨᠢᠨᠠᠳᠤ ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ  
ᠲᠤᠨᠠᠭᠤᠯᠤᠰ ᠵᠤᠨᠠᠨᠠᠳᠤ

sanayul-ju bayiqu eteged bol wang-un kübegün geju mede-ju bayibaču,  
注意する-CV いる相手 は 王-GEN 子 と 分かる-CV ても

sanayul-γsan ni yayakiyad bui.

注意する-VN 3RD どうして でしょう

(\*注意をしている相手は王子と分かっても、注意をしたのはどうしてでしょう。)

## 7. 1. 2. 6 時間節・目的節・様態節

時間節・目的節・様態節の内部には主題を表す「は」と bol が用いられないので、時間節・目的節・様態節 3 つを 1 つの節で扱う。

(ク) 時間節、目的節、様態節の内部には主題を表す「は」と bol は用いられない。

まず、時間節について見ていこう。時間節の内部には主題を表す「は」と **bol** は用いられない。たとえば次の(20)は時間節をもつ文で、時間節の内部には主題を表す「は」と **bol** を用いると不自然な文になる。

(20) a. <日> \*母は入院している間、私は家事全般を引き受けた。

(日本語記述文法研究会 2009b:223)

b. <モ> \*ᠮᠣ ᠪᠣᠯ ᠡᠨᠨᠡᠯᠭᠡ-ᠳᠦᠰᠠᠶᠤ-ᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠴᠢ ᠠᠶᠢᠭᠤ ᠠᠵᠢᠯ ᠪᠦᠬᠦᠨ-ᠢ ᠪᠢ ᠭᠡᠷ-ᠦᠨ ᠠᠵᠢᠯ ᠪᠦᠬᠦᠨ-ᠢ

eji bol emnelge-dü sayu-ju bayiqu qoyorundu, bi ger-ün aḡil бүкүн-i

母 病院-DAT 入院する-CV いる 間 私 家事 全般-ACC

dayayaḡu abu-ba.

引き受ける-PAST

(\*母は入院している間、私は家事全般を引き受けた。)

目的節の内部には主題を表す「は」と **bol** は用いられない。目的節には「～ため(に)」「～よう(に)」「～に」といった3つの形式がある。モンゴル語の目的節には *tölöge* (ため)、*bar/iyar* (に) の2つの形式がある。モンゴル語の *tölöge* (ため) と *bar/iyar* (に) も、日本語の「～ため(に)」「～に」も、節の主語は主節の主語と同一であるため、節の中に「は」と **bol** が用いられるかどうかについて考えることは無意味である。また、モンゴル語には、日本語の「～よう(に)」に対応する形式が存在しない。よって、目的節についての例文は省略する。

次に、様態節について見ていこう。様態節の内部には主題を表す「は」と **bol** は用いられない。次の(21)は様態節をもつ文で、様態節の内部に主題を表す「は」と **bol** を入れると不自然な文になってしまう。

(21) a. <日> \*父はそうであるように、息子も本当に几帳面である。

b. <モ> \*ᠠᠪᠤ ᠨᠢ ᠪᠣᠯ ᠲᠡᠶᠢᠮᠦ ᠪᠠᠶᠢᠴᠢ ᠰᠢᠶ-ᠶᠡᠷ küü ni čü ünen kinamayai bayin\_a.

abu ni bol teyimü bayiqu siy-iyer küü ni čü ünen kinamayai bayin\_a.

父 3RD そう であるよう-INST 息子 3RD も 本当 几帳面 である

(\*父はそうであるように、息子も本当に几帳面である。)

### 7. 1. 2. 7 等位節・並列節

等位節と並列節は異なる構造をもっているので、ここで、等位節と並列節を分けて考察したい。

(ケ) 主題を表す「は」と **bol** は、等位節の内部には用いられるが、並列節の内部には用いられない。

まず、等位節について見ていきたい。等位節の内部に用いられる「は」と **bol** はほとんど対比を表すものである。ただし、日本語記述文法研究会(2009b)が指摘しているように、等位節の内部にも主題を表す「は」が用いられることがある。

これらの等位節の主語が、談話に既出のもの、既出のものに関するもの、話の場にあるものなど、聞き手に指示対象が特定できると話し手が考えるものである場合、主題として「は」で示される。

(日本語記述文法研究会 2009b:224)

本研究も、等位節の内部には主題を表す「は」と **bol** が用いられると考える。たとえば次の(22a)は、日本語記述文法研究会(2009b)が等位節の内部に主題を表す「は」が使われる例としてあげた例である。その次のモンゴル語の例(22b)から分かるように、等位節の内部に主題を表す **bol** が用いられている。

(22) a.<日> この家は古くて狭いけれど、私はこの家が好きだ。

(日本語記述文法研究会 2009b:224)

b.<モ> ᠠᠨᠢ ᠭᠡᠷ ᠪᠣᠯ ᠠᠶᠤᠴᠢᠨ ᠮᠣᠷᠲᠡᠭᠡᠨ ᠶᠡᠸᠠᠶᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠᠴᠤ, ᠪᠢ ᠡᠨᠡ ᠭᠡᠷᠲᠢ ᠳᠤᠷᠠᠲᠠᠢ.

ene ger **bol** qayučin mörtegen ibčuu bolbaču, bi ene ger-tü duratai.

この家は 古い かつ 狭い けれど 私この家-DAT 好き

(この家は古くて狭いけれど、私はこの家が好きだ。)

次に、並列節の内部には主題を表す「は」と **bol** が使われないことについて見ていこう。次の(23)で用いられている「は」と **bol** は主題を表しているのではなく、対比を表している。このように、並列節の内部には主題を表す「は」と **bol** は用いられない。

(23) a.<日> 授業はおもしろくないのだ、先生は嫌いだのと言って、勉強しない。 (日本語記述文法研究会 2008:279)

b.<モ> ᠻᠢᠴᠢᠶᠡᠯ ᠪᠣᠯ ᠶᠠᠰᠤ ᠶᠡᠭᠡᠳᠡᠭᠦᠦ ᠲᠡᠢ ᠭᠡᠵᠢ ᠻᠡᠯᠡᠭᠡᠳ, ᠰᠤᠷᠤᠯᠴᠠᠨᠠ ᠤᠭᠡᠢ

kičiyel **bol** šal demei, bayši **bol** egdegüü tej geᠵü keleged, surulča-qu ügei

第3部 第7章 典型的な主題マーカ－の主題表示機能

授業はおもしろくない先生は嫌い と 言って勉強する-VNない  
(授業はおもしろくないだの、先生は嫌いだのと言って、勉強しない。)

7. 1. 3 「主題マーカ－と属性叙述文・事象叙述文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表3 単文・複文の「は」とbol

種類	単文		従属節		
	属性叙述	事象叙述	名詞節、引用節、疑問節、名詞修飾節 (内容補充修飾節)、等位節、原因理由節②		名詞修飾節 (格成分名詞修飾節、相対名詞修飾節、付随名詞修飾節)、原因理由節①、順接条件節、逆接条件節、時間節、目的節、様態節、並列節
			属性叙述をしている節	事象叙述をしている節	
は	○	○	○	○	×
bol	○	×	○	×	×



## 7. 2 格成分が主題になっている文

この節では、日本語とモンゴル語の両言語における格成分が主題になっている文について考察する。格成分は格助詞で表される成分のことで、両言語における格助詞の種類および、格助詞の用法が異なる。次の表4は、日本語の格助詞（日本語記述文法研究会 2009a による分類）とモンゴル語の格助詞の違いを示したものである。

表4 日本語とモンゴル語の格助詞

言語	格助詞									
	日本語	が格	を格	に格	へ格	で格	から格	より格	まで格	と格
モンゴル語	主格	対格	与位格		造格	奪格			共同格	属格

上の表4で言えば、モンゴル語には、日本語の「へ格」<sup>8</sup>、「より格」、「まで格」がない。反対に、日本語には、モンゴル語の属格助詞に対応するものがない<sup>9</sup>。

本研究は、両言語に対応する格助詞がある「が」格（主格）、「を」格（対格）、「に」格（与位格）、「で」格（造格）、「から」格（奪格）、「と」格（共同格）の6つの格成分を考察の対象とする。両言語の格助詞の呼び方は、それぞれの言語の呼び方を使用する。場合によって、日本語の「が」格を主格、「を」格を対格、「に」格を与位格、「で」格を造格、「から」格を奪格、「と」格を共同格と呼ぶ。具体的には、次の6つの格成分を取り上げることにする。

- 1) 主格成分が主題になっている文
- 2) 対格成分が主題になっている文
- 3) 与位格成分が主題になっている文
- 4) 造格成分が主題になっている文
- 5) 奪格成分が主題になっている文
- 6) 共同格が主題になっている文

<sup>8</sup> 日本語の「へ」格に対応するモンゴル語の *uruyu* はあるが、内モンゴル自治区で使われている多くの文法書では格助詞として扱っていない。

<sup>9</sup> モンゴル語の属格助詞は日本語の連体助詞と呼ばれる「の」に近いものである。「の」については、「格成分の連体修飾部が主題になっている文」のところで扱う。

7. 2. 1 主格成分が主題になっている文

7. 2. 1. 1 日本語とモンゴル語の主格助詞

日本語の主格助詞は「が」である。モンゴル語の主格助詞は日本語の「が」に近いもので、ゼロ助詞（以下、 $\phi$ で代表させる）の形で表される。

日本語とモンゴル語の主格助詞の用法は異なる。次の表5に両言語の主格助詞の相違を示す<sup>10</sup>。

表5 日本語とモンゴル語の主格助詞の用法<sup>11</sup>

		用 法	例 文	日	モ
主 格	主	動きの主体	子どもたちが公園で遊ぶ。(意志動作の主体)	○	○
			弟が女の子から花束をもらった。(受身的動作の主体)	○	○
			雨が降る。(自然現象の主体)	○	○
			洪水で橋が壊れる。(変化の主体)	○	○
			田中が弟の成功を心から喜んだ。(心的活動の主体)	○	○
	体	状態の主体	このホテルには有名なレストランがある。(存在の主体)	○	○
			この子が専門書が読めるはずがない。(能力の主体)	○	○
			君が悲しいときは、私も悲しい。(心的状態の主体)	○	○
			今朝は空がとてもきれいだ。(性質の主体)	○	○
			このマークが進入禁止を表す。(関係の主体)	○	○
		同定関係の主体	あの眼鏡をかけた人が田中さんだ。	○	○
	対 象	心的状態の対象	恩師の死が悲しい。	○	×
		能力の対象	この子は逆上がりができる。	○	○
所有の対象		私には大きな夢がある。	○	○	

7. 2. 1. 2 両言語における主格成分が主題になっている文

この節では、日本語にもモンゴル語にも、主格成分が主題になっている文があることと、両言語の主格成分が主題になっている形について見る。

(ア) 日本語とモンゴル語では、主格成分が主題になることがある。主格成分が主題になった場合、日本語は「～~~が~~は～……。」の形を、モンゴル語は「～ $\phi$  bol～……。」の形をとる（ $\phi$ は、ゼロ格助詞のこと）。

<sup>10</sup> 表5～表10における格助詞の分類や例文は、ほとんど日本語記述文法研究会2009aを援用したものである。

<sup>11</sup> 表5の「日」は日本語を、「モ」はモンゴル語を意味している。「○」はそのような用法があるという意味で、「×」はそのような用法が存在しないという意味である。この後の表などではすべてこのように省略して表記する。

たとえば次の(3-11)<sup>12</sup>は、日本語とモンゴル語の主格成分「労働」が主題になっている文である。この主格成分「労働」が主題になると、その後に直接「は」と bol が付く。そして、日本語は「～~~は~~は～……。」の形を、モンゴル語は「～ $\phi$  bol～……。」の形をとる。

(3-11) a. <日>労働はすべてをつくる。

b. <モ>  $\text{᠎ᠠᠳᠡᠮᠦᠷᠢ ᠪᠣᠯ ᠠᠯᠢᠪᠠ-ᠶᠢ ᠪᠦᠲᠦᠭᠡ-ᠳᠡᠭ ᠶᠤᠮᠤ}$  (NMGDX コーパス)  
 ködelmüri bol aliba-yi bütüge-deg yum.  
 労働 は すべて-ACC つくる-VN MP  
 (労働はすべてをつくる。)

### 7. 2. 1. 3 主格成分が主題になっている文における類似点

ここで、日本語とモンゴル語の主題になることができる主格成分と、主題になりにくい主格成分について見ていく。

(イ)「状態の主体」、「同定関係の主体」を表す主格成分は主題になるが、対象を表す主格成分は主題にならない。

まず、日本語とモンゴル語の「状態の主体」を表す主格成分について見ていこう。次の(24)は、「状態の主体」を表す主格成分が主題になっている例である。(24)の状態の主体（能力の主体）は「あの子」である。

(24) a. <日>あの子は英語が読めるはずがない。

b. <モ>  $\text{ᠠᠨᠤᠭᠢ ᠠᠨᠢᠯᠢ ᠬᠡᠯᠡ ᠤᠩᠭᠢ-ᠵᠤ ᠴᠢᠳᠠᠭᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠶᠤᠮᠤ}$   
 tere keiked bol angli kele ungsi-ju čidaqu ügei yum.  
 あの子 は 英語 読む-CV できる ない MP  
 (あの子は英語が読めるはずがない。)

次に、同定関係の主体を表す主格成分が主題になっている文について見る。次の(25)は、同定関係の主体を表す主格成分が主題になっている文である。この文では、「あの眼鏡をかけた人」という主格成分を主題にして、「人事部の山田部長です」と同定している。このように、モンゴル語も日本語と同様に、同定関係の主体を表す主格成分は主題になりやすい。

<sup>12</sup> (3-11) というのは、第3章の例(11)を引用したという意味で、以下もこのように表示する。

(25) a. <日>あの眼鏡をかけた人は人事部の山田部長です。

b. <モ> *ᠠᠨᠤ ᠠᠨᠤᠯᠠᠭᠤ ᠠᠨᠤ ᠰᠢᠯᠢ ᠵᠡᠭᠦᠭᠰᠡᠨ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠣᠯ ᠠᠵᠢᠯᠲᠠᠨ-ᠤ ᠻᠠᠮᠢᠶᠠᠷᠠ-ᠻᠤ ᠬᠡᠯᠲᠡᠰ-ᠦᠨ ᠶᠠᠮᠠᠳᠠ*  
*ᠲᠤᠷᠢ ᠨᠢᠳᠦᠨ ᠰᠢᠯᠢ ᠵᠡᠭᠦᠭᠰᠡᠨ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠪᠣᠯ ᠠᠵᠢᠯᠲᠠᠨ-ᠤ ᠻᠠᠮᠢᠶᠠᠷᠠ-ᠻᠤ ᠬᠡᠯᠲᠡᠰ-ᠦᠨ ᠶᠠᠮᠠᠳᠠ*

tere nidün sil jegü-gsen kömün **bol** ajiltan-u qamiyara-qu keltēs-ün Yamada

あの 眼鏡 かける-VN人 は 人事部-GEN 山田

keltēs-ün daruy\_a yum.

部長 MP

(あの眼鏡をかけた人は人事部の山田部長です。)

最後に、日本語もモンゴル語も、対象を表す主格成分は主題にならないことについて見ていこう。たとえば次の(26)の対象を表している主格成分「料理」を主題にした、その次の(27)が不自然なように、日本語もモンゴル語も、対象を表す主格成分は主題になりにくい。

(26) a. <日>フリアおばさんは料理が抜群にうまい。 (野田 1996:20)

b. <モ> *ᠫᠦᠷᠢᠶ᠋ᠠ ᠡᠵᠢ ᠪᠣᠯ ᠭᠣᠶᠣᠯᠠ ᠨᠣᠶᠣᠭ-ᠠ ᠠᠨᠴᠣᠬᠤᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ*

Füria eji **bol** qoyola noyoy\_a ončoyui sayin.

フリアおばさん は 料理 抜群 うまい

(フリアおばさんは料理が抜群にうまい。)

(27) a. <日>?料理はフリアおばさんが抜群にうまい。 (野田 1996:20)

b. <モ> *?ᠭᠣᠶᠣᠯᠠ ᠨᠣᠶᠣᠭ-ᠠ ᠪᠣᠯ ᠫᠦᠷᠢᠶ᠋ᠠ ᠡᠵᠢ ᠠᠨᠴᠣᠬᠤᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ*

qoyola noyoy\_a **bol** Füria eji ončoyui sayin.

料理 は フリア おばさん 抜群 うまい

(?料理はフリアおばさんが抜群にうまい。)

#### 7. 2. 1. 4 主格成分が主題になっている文における相違点

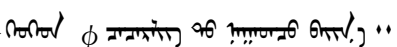
日本語の「が」格とモンゴル語の「主格」は類似点もあれば、次のような相違も見られる。

(ウ) 日本語の動きの主体を表す「が」は主題になりやすいが、モンゴル語の動きの主体を表す主格は主題になりにくい。

日本語において、動きの主体を表す「が」は、格成分の中で、もっとも主題になりやすいものである(野田 1996)。次の(28a)は、意志動作の主体「子供たち」

が主題になっている日本語の例である。ただし、そのモンゴル語訳である(28b)では、主題を表す bol は用いにくい。(28b)の「子供たち」に bol を付けようと思えばできないことはないが、bol を付けると、対比の意味でしか解釈できない文になってしまう。

(28) a. <日>子供たちは公園で遊んでいる。

b. <モ>  "

keüked φ čečerlig-tü nayad-ču bayin\_a.

子どもたち は 公園-DAT 遊ぶ-CV いる

(子どもたちは公園で遊んでいる。)

このように、モンゴル語では、意志動作の主体だけではなく、変化の主体、自然現象の主体、心的活動の主体なども主題になりにくい。

#### 7. 2. 1. 5 「主格成分が主題になっている文」のまとめ

日本語とモンゴル語の主格成分が主題になっている文について、この節で見えてきたことを簡単にまとめると、次のようになる。

表6 「主格成分が主題になっている文」のまとめ

主題になる主格成分	は	bol
状態の主体を表す主格成分	○	○
同定の主体を表す主格成分	○	○
動きの主体を表す主格成分	○	×
対象を表す主格成分	×	×



el\_e jüyil-ün üjel sanay\_a, onol-i bolbür kömüs-ün beyeçi bayidal-iyar-iyān  
 各種-GEN 思想 理論 は すべて人々-GEN 主観的-INST -REFL  
 bütüge-gsen yum.

つくる-VN MP

(各種の思想、理論はすべて人々の主観性によってつくられた。)

前の日本語の例(29a)では、「各種の思想、理論を」という「を」格成分に主題を表す「は」が付いて、「各種の思想、理論は」になっている。すなわち、「～~~は~~は～……。」の形で主題になっている。これに対して、モンゴル語の例(29b)では、「各種の思想、理論を」という対格成分に主題を表す bol が付いて、「～i +bol」の形になっている。すなわち、「～対格助詞+bol～……。」の形で主題になる。

### 7. 2. 2. 3 対格成分が主題になっている文における類似点

この節では、対格成分が主題になっている文における日本語とモンゴル語の類似点について見ていく。

(イ) 日本語もモンゴル語も、変化の対象、動作の対象、心的活動の対象を表す対格成分は主題になる。

日本語もモンゴル語も、変化の対象や動作の対象や心的動作の対象を表す対格成分は主題になることがある。ここで、変化の対象を表す対格成分が主題になっている例を取り上げたい。たとえば次の(30)は、「それ」という変化の対象が主題になっている文である。このほかに、動作の対象や心的活動の対象も主題になることがある。

(30) a. <日> それは人民がつくった。

b. <モ> ᠠᠵᠢ / ᠪᠣᠯ / ᠠᠷᠠᠳ / ᠣᠯᠠᠨ / ᠡᠭᠢᠳᠦᠨ / ᠪᠦᠳᠦᠭᠡ / ᠭᠰᠡᠨ / ᠶᠤᠮᠤ (NMGDX コーパス)

teḡün-i bol arad olan egüdüin bütüge-gsen yum.

それ-ACC は 人民 つくる-VN MP

(それは人民がつくった。)

### 7. 2. 2. 3 対格成分が主題になっている文における相違点

日本語とモンゴル語の対格成分が主題になっている文には異なるところも見られる。

(ウ) 日本語では、経過域を表す「を」格は主題になるが、モンゴル語では、経過域を表す対格は主題にならない。

以下で、時間的な経過域を表す「を」を例に、「を」格（対格）が主題になっている文における日本語とモンゴル語の相違を見てみたい。たとえば次の日本語の例(31a)は、「お正月を」という時間的経過域を表す対格成分が主題になった文だと見ることができる。ただし、その次のモンゴル語の例(31b)の *bol* は、主題というより、むしろ「ゴールデンウィークには実家で過ごしていない」など、対比の意味で解釈したほうが自然である。

(31) a. <日>お正月は実家で過ごした。

b. <モ> *ᠴᠠᠶᠠᠨ ᠰᠠᠷ ᠠ ᠶᠢ ᠪᠣᠯ ᠤᠷ ᠨᠤᠲᠤᠭ-ᠲᠠᠶᠠᠨ ᠣᠩᠭᠡᠷᠭᠡᠭᠡ-ᠪᠡ*

*čayan sar\_a-yi bol uy nutuy-tayan önggerege-be.*

お正月-ACC は 実家-DAT-REFL 過ごす-PAST

(お正月は実家で過ごした。)

経過域を表す「を」格が主題になることがあるといっても、日本語では、「貨物船が岸壁を離れた。」のような出発点を表す「を」や、「このバスは本町を通ります。」のような通過点を表す「を」は主題になりにくい（出発点や通過点を表す「を」が主題になりにくいことについては、野田(1996)に指摘がある）。

モンゴル語の対格助詞には、「出発点」や「通過点」を表す用法がないので、主題になるかならないかの問題は存在しない。

#### 7. 2. 2. 4 「対格成分が主題になっている文」のまとめ

この節でみてきたことを表で簡単にまとめると、次のようになる。

表8 「対格成分が主題になっている文」のまとめ

主題になる対格成分	は	bol
変化の対象を表す対格成分	○	○
動作の対象を表す対格成分	○	○
心的活動の対象を表す対格成分	○	○
経過域を表す対格成分	○	×
出発点を表す対格成分	×	×
通過点を表す対格成分	×	×



7. 2. 3 与位格成分が主題になっている文

7. 2. 3. 1 日本語とモンゴル語の与位格助詞

モンゴル語の与位格助詞に相当する日本語の格助詞は「に」である。次の表9に日本語の「に」格助詞とモンゴル語の対格助詞の用法の違いを示す。

表9 日本語とモンゴル語の与位格助詞の用法

与位格	用法		例文	日	モ		
	着点	移動の着点		子どもが学校に行く。(到達点)	○	○	
			糸くずが服につく。(接触点)	○	○		
相手	変化の結果		信号が青に変わる。	○	×		
		動作の相手		隣の人に話しかける。	○	○	
			授与の相手		おばあさんが孫に絵本をやる。	○	○
			受身的動作の相手		犯人が警察に捕まった。	○	○
場所	基準としての相手		体格が大人にまさる。	○	×		
		存在の場所		机の上に本がある。	○	○	
起因・根拠	出現の場所		あごに髭がはえる。	○	○		
		感情・感覚の起因		職員の横柄な態度に腹を立てる。	○	○	
主体	継続的状态の起因		潮風に帆が揺れていた。	○	○		
		状態の主体		私には大きな夢がある。(所有の主体)	○	○	
				この子に専門書が読めるはずがない。(能力の主体)	○	○	
対象	私には弟の成功が心からうれしい。(心的状態の主体)		私には弟の成功が心からうれしい。(心的状態の主体)	○	○		
		動作の対象		親にさからう。	○	×	
手段	心的活動の対象		先輩にあこがれる。	○	×		
		内容物		この部屋は新鮮な空気に満たされている。	○	×	
時	附着物		全身が泥にまみれる。	○	○		
		時点		1時に事務所に来てください。(時名詞)	○	○	
領域	時		午前中に用事を済ませた。(期間名詞)	○	○		
目的			私には、山本さんの意見は刺激的だった。	○	○		
役割	認識の成り立つ領域		母が買い物に行く。	○	○		
割合	移動の目的		お礼に手紙を書く。	○	×		
		名目		1週間に2日は酒を飲んでいる。	○	○	

7. 2. 3. 2 両言語における与位格成分が主題になっている文

この節では、日本語にもモンゴル語にも、与位格成分が主題になっている文があることと、両言語の与位格成分が主題になっている場合の形について見る。

(ア) 日本語とモンゴル語には与位格成分が主題になっている文がある。与位格成分が主題になると、日本語は「～には～……。」「～は～……。」の形で、モンゴル語は「～与位格+bol～……。」「～bol～……。」の形で表される。

日本語とモンゴル語には、与位格成分が主題になっている文がある。たとえば次の(3-14)'は「旗に」という与位格成分が主題になっている例である。このように、日本語とモンゴル語では、与位格成分が主題になることがある。

(3-14)'a.<日>旗にはいつも人々を魅了する力がある。

b.<モ> <sup>ᠲᠤᠢᠭᠤᠲᠤ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>ᠬᠡᠵᠢᠶᠡᠳᠡ</sup> <sup>ᠬᠣᠮᠦᠨᠢ</sup> <sup>ᠲᠠᠲᠤ</sup> <sup>ᠴᠤ</sup> <sup>ᠬᠦᠴᠦᠨ</sup> <sup>ᠵᠦᠶᠢᠯ</sup> <sup>ᠲᠡᠢ</sup> (NMGDX コーパス)  
 tuy-tu bol kejiyede kömün-i tata-qu kücün jüyil tei  
 旗-DAT は いつも 人々-ACC 魅了する-VN 力 ある  
 (旗にはいつも人々を魅了する力がある。)

前の(3-14)'の主題は、日本語では「～には～……。」の形で、モンゴル語では「～与位格+bol～……。」の形で表されていた。しかし、前の(3-14)'の与位格助詞を取り去った次の(32)も自然な主題文であるように、与位格成分は日本語では「に」格成分は「～は～……。」の形で、モンゴル語では「～bol～……。」の形で表されることもある。

(32) a.<日>旗はいつも人々を魅了する力がある。

b.<モ> <sup>ᠲᠤᠢᠭᠤᠲᠤ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>ᠬᠡᠵᠢᠶᠡᠳᠡ</sup> <sup>ᠬᠣᠮᠦᠨᠢ</sup> <sup>ᠲᠠᠲᠤ</sup> <sup>ᠴᠤ</sup> <sup>ᠬᠦᠴᠦᠨ</sup> <sup>ᠵᠦᠶᠢᠯ</sup> <sup>ᠲᠡᠢ</sup>  
 tuy bol kejiyede kömün-i tata-qu kücün jüyil tei  
 旗 は いつも 人々-ACC 魅了する-VN 力 ある  
 (旗はいつも人々を魅了する力がある。)

### 7. 2. 3. 3 与位格成分が主題になっている文における類似点

この節では、2つのことを考えたい。1つは、日本語とモンゴル語の主題になることができる与位格成分について、もう1つは、日本語もモンゴル語の主題になることができない与位格成分について見ていく。

(イ) 日本語もモンゴル語も、主体や場所や時間を表す与位格成分は主題になることがある。

まず、日本語とモンゴル語の主題になることができる与位格成分について見ていこう。

日本語もモンゴル語も、主体や場所や時間を表す与位格成分は主題になることがある。たとえば次の(33)は、主体を表す与位格成分が主題になっている文である(日本語の「に」の中で、もっとも主題になりやすいのは主体を表す「に」であるこ

とについて、野田(1996)に指摘されている)。

(33) a.<日>弟には特技がある。

- b.<モ> degüü-dü bol onča mergežil bayi-day.  
 弟-DAT は 特技 ある-VN  
 (弟には特技がある。)

日本語もモンゴル語も、場所を表す与位格成分は主題になりやすい(野田(1996)は、主体を表す「に」の次に文の主題になりやすいのは、場所を表す「に」だと指摘している)。たとえば、次の(3-16)'は、「山間地帯に」という場所名詞が主題になっている例である。

(3-16)'a.<日>山間地帯には杏の木、ネジアヤメなど質のよい、寿命が長い草を植えることや、天然牧草地を囲んで牧草地をつくることを中心とする。

- b.<モ> sili qajar-tu bol qaryan\_a, čakilday jerge činar sayitai urtu nasutu ebesü  
 山間地帯-DAT は 杏の木 ネジアヤメなど 質 よい 寿命長い 草  
 tari-qu ba bayiyali-yin ebesü belčiger-i bitegümjilen uryuγul-qu  
 植える-VN や 天然牧草地-ACC 囲んで 育てる-VN  
 ebesün küriy\_e bayiyul-qu-bar γool bolγan\_a.  
 囲まれた牧草地 つくる-VN-INST 中心 とする  
 (山間地帯には杏の木、ネジアヤメなど質のよい、寿命が長い草を植えること  
 や、天然牧草地を囲んで牧草地をつくることを中心とする。)
- (NMGDX コーパス)

sili qajar-tu bol qaryan\_a, čakilday jerge činar sayitai urtu nasutu ebesü  
 山間地帯-DAT は 杏の木 ネジアヤメなど 質 よい 寿命長い 草  
 tari-qu ba bayiyali-yin ebesü belčiger-i bitegümjilen uryuγul-qu  
 植える-VN や 天然牧草地-ACC 囲んで 育てる-VN  
 ebesün küriy\_e bayiyul-qu-bar γool bolγan\_a.  
 囲まれた牧草地 つくる-VN-INST 中心 とする

(山間地帯には杏の木、ネジアヤメなど質のよい、寿命が長い草を植えること  
 や、天然牧草地を囲んで牧草地をつくることを中心とする。)

日本語とモンゴル語では、時間を表す与位格成分も主題になることがある。たとえば次の(3-17)'は、「日曜日あるいは時間がたっぷりある時には」という時間を表す与位格成分が主題になっている文である。

(3-17)'a.<日>日曜日あるいは時間がたっぷりある時には、彼女がいつもお菓子をつくる。

- b.<モ> sili qajar-tu bol qaryan\_a, čakilday jerge činar sayitai urtu nasutu ebesü  
 山間地帯-DAT は 杏の木 ネジアヤメなど 質 よい 寿命長い 草  
 tari-qu ba bayiyali-yin ebesü belčiger-i bitegümjilen uryuγul-qu  
 植える-VN や 天然牧草地-ACC 囲んで 育てる-VN  
 ebesün küriy\_e bayiyul-qu-bar γool bolγan\_a.  
 囲まれた牧草地 つくる-VN-INST 中心 とする

ᠶᠠᠷᠠᠶᠤᠨᠡᠳᠢᠷᠢᠪᠤᠶᠤᠯᠡᠭᠦᠬᠡᠨᠴᠠᠶᠲᠠᠢᠦᠢᠦᠳᠦᠨᠪᠣᠯᠲᠡᠷᠡᠦᠷᠭᠦᠯᠵᠢ

(NMGD<sub>X</sub> コーパス)

yaray-un edür buyu ilegüken çay tai üy\_e-dü bol tere ürgülji

日曜日 あるいは 多く 時間ある 時-DAT は 彼(彼女) いつも

eyimü boyorsoy qayari-day.

このような お菓子 つくる-VN

(日曜日あるいは時間がたっぷりある時には、彼女がいつもこのようなお菓子をつくる。)

次に、日本語にもモンゴル語にも、主題になりにくい与位格成分があることについて見ていこう。

(ウ) 日本語もモンゴル語も、着点(結果)、起因・根拠、相手、対象、手段、役割、割合を表す与位格は主題になりにくい。

ここで、着点(結果)を表す与位格と手段(付着物)を表す与位格を取り上げて説明したい。次の(34)は、着点(結果)を表す与位格成分「青」を主題にした文で、その次の(35)は、手段(付着物)を表す与位格成分「泥」を主題にした文で、いずれも不自然な文である。

(34) a. <日>\*青にはこの信号が変わらない時もある。

b. <モ>\*ᠨᠣᠶᠣᠶᠠᠨᠳᠤᠪᠣᠯᠡᠨᠡᠴᠠᠯᠢᠶᠠᠨᠳᠣᠬᠢᠶᠠᠨᠠᠴᠤᠪᠢᠷᠠᠴᠤᠦᠷᠭᠡᠢᠴᠠᠶᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠶᠢᠨᠠᠶᠢᠳᠠᠶᠢᠨ

noyoyan-du bol ene čakilyan dokiy\_a qubira-qu ügei çay bayiday..

青-DAT は この 信号 変わる-VN ない 時 ある-VN

(\*青にはこの信号が変わらない時がある。)

(35) a. <日>\*泥には全身がいつもまみれる。

b. <モ>\*ᠰᠢᠪᠠᠷᠲᠤᠪᠣᠯᠡᠪᠦᠬᠦᠢᠪᠡᠶᠡᠦᠷᠭᠦᠯᠵᠢᠨᠠᠶᠠᠯᠳᠤᠨᠠ

sibar-tu bol бүкү bey\_e ürgülji nayaldun\_a

泥-DAT は 全身 いつも まみれる-NP

(\*泥にはいつも全身がまみれる。)

このほかに、起因・根拠、相手、対象、役割、割合を表す与位格も主題になりにくい。

7. 2. 3. 4 与位格成分が主題になっている文における相違点

与位格成分が主題になっている文において、日本語とモンゴル語は異なるところもある。

(エ) 日本語では、目的を表す「に」格は主題になることがある。しかし、モンゴル語では、目的を表す与位格は主題になりにくい。

次の日本語の例(36a)では、「買い物に」という目的を表す与位格が主題になっている。ただし、日本語の例(36a)をモンゴル語に翻訳した(36b)が不自然なように、モンゴル語では、目的を表す与位格は主題になりにくい。

(36) a. <日> 買い物はいつも一人でいきますか？

b. <モ> ?ᠪᠠᠷᠠᠶᠤᠠ ᠠᠭᠤᠯᠠᠳᠠ ᠠᠪᠪᠠᠭᠤᠳᠠᠶᠠᠨ ᠪᠣᠯ ᠤᠷᠭᠦᠯᠢ ᠶᠠᠭᠴᠠᠶᠠᠷᠢᠶᠠᠨ ᠣᠴᠢᠬᠤ ᠠᠭᠤᠦ?

baray\_a qualdun abqu-dayan bol ürgülji γayčayar-iyān oči-qu uu?

買い物-DAT は いつも一人-INST 行く -NP か

(買い物はいつも一人でいきますか？)

7. 2. 3. 5 「与位格成分が主題になっている文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡単にまとめると、次のようになる。

表 10 「与位格成分が主題になっている文」のまとめ

主題になる与位格成分	は	bol
主体や場所や時間を表す「に」 (与位格)	○	○
着点 (結果)、起因・根拠、相手、対象、手段、役割、割合を表す「に」格 (与位格)	×	×
目的を表す「に」格 (与位格)	○	×

7. 2. 4 造格成分が主題になっている文

7. 2. 4. 1 日本語とモンゴル語の造格助詞

モンゴル語の造格助詞に相当する日本語の格助詞は「で」である。次の表 11 に、日本語の「で」とモンゴル語の造格助詞の用法の違いを示す。

表 11 日本語とモンゴル語の造格助詞の用法

		用 法	例 文	日	モ
造 格	場所	動きの場所	庭で犬が吠えている。	○	○
	手段	道具	ナイフでチーズを切る。	○	○
		方法	遠近法で図を描く。	○	○
		材料	千代紙で鶴を折る。	○	○
		構成要素	委員会は5人のメンバーで構成される。	○	○
		内容物	会場が人でいっぱいになる。	○	○
		付着物	服がホコリで汚れる。	○	×
	起因 根拠	変化の原因	強い風で看板が倒れる。	○	×
		行動の理由	急用で家へ帰った。	○	○
		感情・感覚の起因	友人とのことで悩んでいる。	○	×
		判断の根拠	隣の部屋の人物がだれなのか、甲高い声でわかった。	○	○
	主体	動きの主体	私と佐藤でその問題に取り組んだ。	○	×
限界	範囲の上限	先着 30 名で締め切る。	○	○	
領域	評価の成り立つ領域	富士山が日本で一番高い山だ。	○	×	
目的	動作の目的	観光で東京を訪れた。	○	○	
様態	動きの様態	裸足で歩く。	○	○	

7. 2. 4. 2 両言語における造格成分が主題になっている文

この節では、日本語にもモンゴル語にも、造格成分が主題になっている文があることと、両言語の造格成分が主題になっている場合の形について見る。

(ア) 日本語とモンゴル語には造格成分が主題になっている文がある。造格成分が主題になると、日本語では「～では～……。」や「～は～……。」の形で、モンゴル語では「～造格+bol～……。」の形で表される。

日本語とモンゴル語では、造格成分が主題になることがある。たとえば次の(37)は、「ヨーロッパで」という造格成分が主題になっている文である。

(37) a. <日>だが、ヨーロッパでは最近、ペアの両方の内側にダイヤを埋め込んだ既製品の結婚指輪が、一般にも売られるようになってきた。  
(野田 1996:23)

b. <モ> <sup>ᠮᠣᠨᠭᠣᠳᠤ</sup> <sup>ᠴᠣᠷᠢᠮᠤ</sup> <sup>ᠪᠣᠯᠣᠷᠴᠢᠮᠤ</sup> <sup>ᠵᠢᠶᠢᠷᠡᠢ</sup> <sup>ᠴᠣᠶᠠᠷᠤᠨ</sup> <sup>ᠳᠣᠳᠣᠷᠤ</sup> <sup>ᠲᠠᠯᠠ</sup> <sup>ᠳᠤ</sup> <sup>ᠨᠢ</sup> <sup>ᠠᠮᠤᠰᠤ</sup>  
ᠳᠠᠶᠤᠰᠠᠨ <sup>ᠴᠣᠷᠢᠮᠤ</sup> <sup>ᠪᠣᠭᠡᠵᠢ</sup> <sup>ᠡᠩᠭᠦᠨ</sup> <sup>ᠬᠣᠮᠤᠰᠤ</sup> <sup>ᠲᠦ</sup> <sup>ᠴᠠᠳᠠᠯᠳᠤ</sup> <sup>ᠴᠤ</sup> <sup>ᠪᠣᠯᠣᠯᠠ</sup> ᠠ.

gebecü, Ewürüpa-bar bol orčim, jüyirei qoyar-un dottor\_a tal\_a-du ni almas  
しかしヨーロッパ-INST は 最近 ペア両方-GEN 内側-DAT 3RD ダイヤ  
qaday-san qorim-un bögeji, eng-ün kömüs-tü qudaldü-qu bolol\_a.

埋め込む-VN 結婚 指輪 一般-DAT 売れる-VN なってきた  
(だが、ヨーロッパでは最近、ペアの両方の内側にダイヤを埋め込んだ  
既製品の結婚指輪が、一般にも売られるようになってきた。)

前の(37)のように、造格成分が主題になると、日本語は「～では～……。」の形で、モンゴル語は、「～造格+bol～……。」の形で表される。しかし、日本語は「日本は火山が多い」のように、「で」格成分が主題になると、「～は～……。」の形で表されることもある。

7. 2. 4. 3 造格成分が主題になっている文における類似点

この節では、2つのことを考えたい。1つは、日本語でもモンゴル語でも主題になることができる造格成分、もう1つは、日本語でもモンゴル語でも、主題になりにくい造格成分についてである。

(イ) 日本語もモンゴル語も、場所を表す造格成分は主題になることがある。

日本語もモンゴル語も、場所を表す造格成分は主題になりやすい。たとえば次の(3-20)'では、「～その下部で」という造格成分が主題になっている。

(3-20)'a. <日> へその下部はちょうど小腸があるところである。

b. <モ> <sup>ᠬᠡᠰᠤᠨ</sup> <sup>ᠤ</sup> <sup>ᠳᠣᠷᠠ</sup> <sup>ᠲᠠᠯᠠ</sup> <sup>ᠪᠠᠷ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>ᠶᠠᠭ</sup> <sup>ᠨᠠᠷᠢᠨ</sup> <sup>ᠭᠡᠳᠡᠰᠦᠨ</sup> <sup>ᠤ</sup> <sup>ᠪᠠᠶᠢᠴᠢᠬᠤ</sup> <sup>ᠣᠷᠤᠨ</sup> <sup>ᠮᠣᠨ</sup>.  
(NMGDX コーパス)

küisün-ü door\_a tal\_a-bar bol yay narin gedesün-ü bayiqu oron mön.  
へそ-GEN 下 部-INST は ちょうど 小腸-GEN あるところ MP  
(へその下部はちょうど小腸があるところである。)

ただし、日本語にもモンゴル語にも、主題になりにくい造格成分がある。

(ウ) 日本語もモンゴル語も手段、起因・根拠、限界、目的、様態を表す造格成分は主題になりにくい。

ここで、手段、起因・根拠、限界、目的、様態を表す造格のうち、手段を表

す造格の例を取り上げたい。たとえば次の(38)は手段を表す造格助詞で、日本語もモンゴル語も主題になりにくい。

(38) a. <日>\*船では、暇がある学生が沖縄に行った。 (野田 1996:24)

b. <モ>\*ᠠᠨᠤᠰᠤᠨ ᠤᠨᠭᠣᠴᠠ-ᠪᠠᠷ ᠪᠣᠯ、ᠴᠢᠯᠠᠭᠡᠲᠡᠢ ᠰᠤᠷᠤᠭᠴᠢᠳ ᠣᠵᠢᠨᠠᠠ ᠳᠤ ᠣᠴᠢᠪᠠᠭ ᠠᠨᠠᠨᠤᠰᠤᠨ ᠤᠨᠭᠣᠴᠠ-ᠪᠠᠷ ᠪᠣᠯ

usun ongyoča-bar bol, čilugetei suruyčid Okinawa-du oči-ba.

船-INST は 暇がある 学生 沖縄-DAT 行く -PAST

(\*船では、暇がある学生が沖縄に行った。)

手段を表す造格成分と同様に、起因・根拠、限界、目的、様態を表す造格成分も主題になりにくい。

#### 7. 2. 4. 4 造格成分が主題になっている文における相違点

造格成分が主題になっている文において、日本語とモンゴル語は異なるところもある。

(エ) 日本語では、領域を表す「で」格成分は主題になるが、モンゴル語では領域を表す造格成分は主題になりにくい。

日本語では、領域を表す「で」成分は主題になるが、モンゴル語では、領域を表す造格成分は主題になりにくい。たとえば次の日本語の例文(39a)は、「ギターとピアノで」という「で」格成分が主題になっている。しかし、日本語の例(39a)のモンゴル語訳である(39b)では、bol を使うと不自然な文になってしまう。

(39) a. <日>ギターとピアノではどっちが難しいですか？

b. <モ>\*ᠠᠨᠠᠨᠠᠳᠤ ᠪᠣᠯ ᠠᠯᠢ ᠨᠢ ᠬᠦᠴᠢᠷ ᠪᠤᠢ?

kitar bolun tegülder quγur-iyar bol ali ni küčir bui?

ギターと ピアノ-INST は どっち 3RD 難しい か

(ギターとピアノではどっちが難しいですか?)

#### 7. 2. 4. 5 「造格成分が主題になっている文」のまとめ

この節でみてきたことを表で簡単にまとめると、次のようになる。

表 12 「造格成分が主題になっている文」のまとめ

主題になる造格成分	は	bol
場所を表す「で」(造格)	○	○
手段、起因・根拠、限界、目的、様態を表す「で」(造格)	○	○
領域を表す「で」格(造格)	○	×



7. 2. 5 奪格成分が主題になっている文

7. 2. 5. 1 日本語とモンゴル語の奪格助詞

モンゴル語の奪格助詞に相当する日本語の格助詞は「から」である。次の表13に、日本語の「から」格助詞とモンゴル語の奪格助詞の用法の違いを示す。

表13 日本語とモンゴル語の奪格助詞の用法

		用 法	例 文	日	モ
奪	起点	移動の起点	子どもたちが <u>教室から</u> 出てきた。	○	○
		方向の起点	ここ <u>から</u> 富士山がよく見える。	○	○
		範囲の起点	本を10ページ <u>から</u> 読みはじめる。	○	○
		変化前の状態	信号が <u>青から</u> 黄に変わった。	○	○
格	主体	動きの主体	<u>私から</u> 集合時間を連絡しておきます。	○	○
		起因	たばこの火の <u>不始末から</u> 火事になった。	○	○
	根拠	判断の根拠	隣の部屋の人物がだれなのか、 <u>甲高い声から</u> わかった。	○	○
		経過域	虫は <u>窓から</u> 出ていった。	○	×
	手段	構成要素	国会は衆議員と参議院 <u>から</u> 成り立っている。	○	×

7. 2. 5. 2 両言語における奪格成分が主題になっている文

この節では、日本語にもモンゴル語にも、奪格成分が主題になっている文があることと、両言語の奪格成分が主題になっている場合の形について見る。

(ア) 日本語にもモンゴル語にも奪格成分が主題になっている文がある。奪格成分が主題になると、日本語では「～からは～……。」の形、モンゴル語では「～奪格+bol～……。」の形になる。

日本語とモンゴル語の奪格成分は主題になることがある。たとえば次の(40)は、「母から」という奪格成分が主題になっている例である。このように、日本語の「から」格も、モンゴル語の奪格も主題になることがある。

(40) a. <日> 我が家の本は、段ボールにして三十箱くらいは捨てた（じゃないと新たな本がはいらんっ！）けど。だが。母からはまだ、しよっちゅう電話がきちゃうのである。「もうちょっと本、引き取ってくれない？ 全然、本が減ったって気がしないのよ」あううっ、こんなに頑張っているのにいつ。…けど、確かに…実家の本の全体量からいって、これだけじゃ、減った気は、しないだろうなあ。（中納言：新井 素子(2004)『お元気ですか』）

b. <モ>(前略) ᠡᠵᠢ ᠡᠴᠡ ᠪᠣᠯ ᠪᠠᠰᠠ ᠢᠷᠦᠭᠦᠯᠢ ᠤᠲᠤᠰᠤ ᠢᠷᠡᠭᠦᠯᠢ ᠳᠡᠭ (下略) \*\*

eji-eče bol basa ürgülji utasu iregül-deg.

母-ABL は まだ しょっちゅう 電話 来る-VN

(母からはまだ、しょっちゅう電話がきちやうのである。)

前の日本語の例(40a)では、奪格成分「母から」は「～からは～……。」の形で主題になっている。その次のモンゴル語の例(40b)でも、奪格成分「母から」は「～奪格+bol～……。」の形で主題になっている。このように、日本語の奪格成分は「～からは～……。」の形で、モンゴル語の奪格成分は「～奪格+bol～……。」の形で主題になる。

### 7. 2. 5. 3 奪格成分が主題になっている文における類似点

ここで2つのことを考えたい。1つは、日本語でもモンゴル語でも主題にすることができる奪格成分、もう1つは、日本語でもモンゴル語でも主題になりにくい奪格成分である。

(イ) 日本語でもモンゴル語でも、起点、主体を表す奪格成分は主題になる。

まず、主題にすることができる奪格成分について見ていこう。

日本語でもモンゴル語でも、起点や主体を表す奪格成分は主題になる。すでに、前の(40)で、主体を表す奪格成分が主題になっている例を見たので、ここでは、起点を表す奪格成分が主題になっている例を見てみたい。たとえば次の(41)は、「ここから」という起点を表す奪格成分が主題になっている例である。このように、日本語とモンゴル語の起点や主体を表す奪格は文の主題になることがある。

(41) a. <日>ここからは石炭が産出される。

b. <モ> ᠡᠨᠳᠡ ᠡᠴᠡ ᠪᠣᠯ ᠨᠡᠭᠦᠢᠷᠡᠰᠦ ᠶᠠᠷ ᠳᠠᠶ \*\*

ende-eče bol negüiresü yar-day.

ここ-ABL は 石炭 産出する-VN

(ここからは石炭が産出される。)

次に、主題になりにくい奪格成分について見ていこう。

(ウ) 日本語でもモンゴル語でも、起因・根拠や手段を表す奪格成分は主題になりにくい。

日本語もモンゴル語も、起因・根拠や手段を表す奪格成分は主題になりにくい。たとえば次の(42)は、起因・根拠を表す奪格成分「過労から」を主題にした文で、いずれも不自然である。また、日本語とモンゴル語では、手段を表す奪格成分も主題にならない(モンゴル語の奪格助詞には手段を表す用法がない)。

(42) a.<日>\*過労からは体をこわしてしまった。

b.<モ>\*ᠦᠨᠲᠦᠷᠦᠭ᠎ᠠ ᠠᠵᠢ ᠪᠣᠯᠢ ᠪᠣᠯ ᠪᠡᠶᠡ ᠪᠡᠨᠭᠡᠮᠡᠲᠦᠭᠡᠳᠢᠴᠢᠭᠡᠵᠡᠢ ᠵᠡᠢ ᠬᠡᠪᠢᠶᠢᠰᠦ᠋ᠨ ᠠᠪᠯᠠ ᠵᠡ᠋ᠨ ᠵᠡ᠋ᠸᠠᠮᠤᠯᠤᠯᠤᠰ ᠠᠨᠤᠳᠤᠰᠤᠳᠤ ᠭᠡᠮᠡᠲᠦᠭᠡᠳᠢᠴᠢᠭᠡᠵᠡᠢ ᠵᠡᠢ ᠪᠣᠯᠢᠪᠡᠶᠡᠪᠡᠨᠭᠡᠮᠡᠲᠦᠭᠡᠳᠢᠴᠢᠭᠡᠵᠡᠢ ᠵᠡᠢ

ketürkei yadara-γsan-ača bol bey\_e-ben gemtügečike-jei.

過労する-VN-ABL は 体-REFL こわしてしまふ-PAST

(\*過労からは体をこわしてしまった。)

#### 7. 2. 5. 4 奪格成分が主題になっている文における相違点

奪格成分が主題になっている文において、日本語とモンゴル語は異なるところもある。

(エ) 日本語では経過域を表す「から」成分は主題になるが、モンゴル語では経過域を表す奪格成分は主題になることはない。

日本語の経過域を表す「から」は主題になることができる。たとえば次の日本語の例(43a)では、「半分開けた窓から」という「経過域」を表す「から」格成分が主題になっている。ただし、モンゴル語訳(43b)は、不自然な文になる。

(43) a.<日>半分開けた窓からは、たとえ網戸が有っても、ここから虫が進入してきます。 <http://search.yahoo.co.jp/search?>

b.<モ>\*ᠨᠠᠵᠢ ᠵᠡ᠋ᠳᠤᠷᠠᠭ᠎ᠠ ᠠᠵᠢ ᠪᠣᠯᠢ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠷᠣᠻᠠᠢ ᠣᠷᠣᠵᠤ ᠢᠷᠡᠨᠡ ᠵᠡᠢ ᠵᠡ᠋ᠸᠠᠮᠤᠯᠤᠯᠤᠰ ᠠᠨᠤᠳᠤᠰᠤᠳᠤ ᠭᠡᠮᠡᠲᠦᠭᠡᠳᠢᠴᠢᠭᠡᠵᠡᠢ ᠵᠡᠢ

qayās negege-gsen čongqu-ača bol qoroqai oro-ju iren\_e.

半分開ける-VN 窓-ABL は 虫 進入する-CV 来る

(半分開けた窓からは虫が進入してきます。)

日本語では経過域を表す「から」格が主題になり、モンゴル語では経過域を表す奪格が主題にならない理由は、モンゴル語の奪格助詞に経過域を表す用法がないからである。モンゴル語では、経過域を表す「から」の代わりに、造格を用いる。たとえば前の(43b)の奪格助詞を造格助詞に置き換えた次の(44)は、ごく自然な主題文になる。

(44) <モ>  $\text{qayas negege-gsen čongqu-bar bol qoroqai oro-ju iren_e.}$

qayas negege-gsen čongqu-bar bol qoroqai oro-ju iren\_e.

半分開ける-VN 窓-INST は虫 進入する-CV 来る

(半分開けた窓からは虫が進入してきます)

### 7. 2. 5. 5 「奪格成分が主題になっている文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡単にまとめると、次のようになる。

表 14 「奪格成分が主題になっている文」のまとめ

主題になる奪格成分	は	bol
起点、主体を表す奪格成分	○	○
起因・根拠、手段を表す奪格成分	×	×
経過域を表す奪格成分	○	×

### 7. 2. 6 共同格成分が主題になっている文

#### 7. 2. 6. 1 日本語とモンゴル語の共同格助詞

モンゴル語の共同格助詞に相当する日本語の格助詞は「と」である。次の表 15 に、日本語の「と」格助詞とモンゴル語の共同格助詞の用法の違いを示す。

表 15 日本語とモンゴル語の共同助詞の用法

共同格	用法		例 文	日	モ
	相手	共同動作の相手	友達と喫茶店でコーヒーを飲む。	○	○
相互動作の相手		弟とけんかをする。	○	○	
基準としての相手		弟と趣味が違う。	○	○	
	並列を締め括る	太市と新六とは、二階から降りると古机の前にすわった。	○	×	

#### 7. 2. 6. 2 両言語における共同格成分が主題になっている文

この節では、2つのことを考えたい。1つは、日本語とモンゴル語には、共同格成分が主題になっている文があるかどうか、もう1つは、共同格成分が主題になっている場合の形である。

(ア) 日本語の「と」格は主題になるが、モンゴル語の共同格は主題にならない。

野田(1996)は、日本語の「と」格成分は主題になりにくいと指摘し、次の例をあげている。

(45) <日>?大島とはこのまえ僕がけんかしたよ。 (野田 1996:24)

しかし、青木(1992)は、並列を締め括る「と」は主題になることがあると指摘している。氏が指摘する並列を締め括る「と」というのは、次の(46)のようなものである。本研究は、青木に従い、日本語の並列を締め括る「と」は主題になると考える。

(46) a. <日>太郎と次郎とは、仲が悪い。

b. <日> \*ᠲᠠᠷᠤᠨ ᠪᠣᠯᠤᠨ / ᠵᠢᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠬᠡ ᠠᠨᠤᠨᠠᠭᠢᠨᠠᠨᠢᠨᠠᠨᠠᠨᠢ ᠶᠡᠮᠠᠶᠤ ᠡ᠋ᠬᠡᠢ

Tarou bolun Jirou-tai bol qaričay\_a mayu.

太郎 と 次郎-COM は 仲 悪い

(太郎と次郎とは、仲が悪い。)

前のモンゴル語の例(46b)が不自然なように、モンゴル語の共同格は主題になりにくい。モンゴル語の共同格には「並列を締め括る」用法がない。また、日本語では、「と」格成分が主題になった場合、「～とは～……。」の形で表される。

日本語の「と」格は主題になるが、モンゴル語の共同格は主題にならないということを考慮し、ここで、共同格成分が主題になっている文における両言語の類似点と相違点については考察しない。

### 7. 2. 6. 3 「共同格成分が主題になっている文」のまとめ

この節で見えてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表 16 「共同格成分が主題になっている文」のまとめ

主題になる共同格成分	は	bol
相手を表す共同格	○	×
並列を締め括る共同格	○	×

7. 3 格成分の連体修飾部が主題になっている文

この節では、格成分の連体修飾部が主題になっている文における日本語とモンゴル語の類似点と相違点について考察する。

(ア) 日本語にもモンゴル語にも、格成分の連体修飾部が主題になっている文がある。

格成分の連体修飾部が主題になっている文は、主題名詞と被修飾名詞が「の」でつながっている。次の(3-22)から分かるように、日本語にもモンゴル語にも格成分の連体修飾部が主題になっている文がある。

(3-22) a. <日> 象は鼻が長い。

b. <モ> ᠵᠠᠶ᠋ᠠᠨ ᠪᠣᠯ ᠴᠠᠮᠠᠷ ᠨᠢ ᠤᠷᠲᠤ ᠶᠤᠮᠤ ᠠᠨᠢ

jayan bol qamar ni urtu yum.

象 は 鼻 3RD 長い MP

(象は鼻が長い。)

考察に入る前に、両言語の「象の鼻が長い」文における「象の鼻」の部分の種類をまとめておきたい。(次の表17の分類や例文は、ほとんど日本語記述文法研究会(2009)の分類や例文を引用したものである)。

表17 日本語とモンゴル語の連体助詞を用いた名詞修飾の相違

用法		例文		日	モ
修飾名詞が被修飾名詞の所属先や性質、基準点を表すもの	所属先	所有者	私の家、機械の性能	○	○
		全体と部分	家の屋根、パソコンの画面	○	○
		所属	高校の教師、A社の田中さん	○	○
		場所	北海道の叔父、イギリスのロンドン	○	○
	性質	性質	社長の田中氏、日本人の男	○	×
		内容	安全の問題、法律の本	○	○
		種類	シェパードの子犬、桜の木	○	×
		材料	ガラスのコップ、ブリの刺身	○	×
	基準点	概観の特徴	長身の若者、ベンツの男	○	×
		空間的位置	店の前、屋根の上	○	○
修飾名詞が事態を構成する補語にあたるもの	被修飾名詞が事態を表す名詞であるもの	主体	田中の参加、地震の発生	○	×
		対象	食品の製造、新車の販売	○	×
		場所	大阪での開催、都心からの帰宅	○	×
	被修飾名詞が事態を表す名詞でないもの	起点	父からの手紙、	○	×
		着点	東京までの列車	○	×
		方向	母への思い	○	×

7. 3. 1 格成分の連体修飾部が主題になっている文の類似点

1) どの格成分の連体修飾部が主題になっているのか

ここでは、どの格成分の連体修飾部が主題になっているのかについて見ていく。たとえば「象は鼻が長い」で言えば、「象の鼻」がどの格成分であるかということである。

(イ) 日本語もモンゴル語も、主格、対格、与位格、奪格成分の連体修飾部が主題になる。

前の(3-22)'では、「象の鼻が」という主格成分の連体修飾部が主題になっていた。次の(47)は、「母の右手の手のひらに」という与位格成分の連体修飾部が主題になっている文である。このほかに、対格や奪格成分の連体修飾部も主題になることがある。

(47) a. <日>母は右手の手のひらに大きなあかあざがある。

b. <モ>  $\text{ᠮᠣᠪᠤ ᠬᠣᠯᠢ ᠪᠠᠷᠠᠶᠤᠨ ᠶᠠᠷᠤᠨ ᠠᠯᠠᠶᠠᠨ ᠳᠤ ᠨᠢ ᠲᠣᠮᠣ ᠤᠯᠠᠶᠠᠨ ᠮᠡᠩᠭᠡ ᠲᠡᠢ ᠶᠤᠮᠤ}$

eji bol barayun yar-un alayan-du ni tomo ulayan mengge tei yum.

母は右手-GEN 手のひら-DAT 3RD 大きな あかあざ ある MP

(母は右手の手のひらに大きなあかあざがある。)

2) 連体修飾部が主題になっている文の述語

ここでは、格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語の性質について見ていく。たとえば「象は鼻が長い」で言えば、「長い」に当たるものである。

(ウ) 日本語もモンゴル語も、格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語の部分には、形容詞、性質や状態を表す動詞、数量や性質を表す名詞が用いられる。

日本語とモンゴル語では、連体修飾部が主題になっている文の述語の部分は、もっとも典型的な例としては、前の(3-22)'の「象は鼻が長い」という文のように、形容詞である。しかし、形容詞だけではなく、数量や性質を表す名詞、性質や状態を表す動詞も、格成分の連体修飾部が主題になっている文の述語の部分に用いられることがある。

たとえば次の(48)は、「腹いっぱいになる」という動詞が述語になっている例

である。この文では、「我々の地方の牛の腹が」という主格成分の連体修飾部「我々の地方の牛」が主題になっている。

(48) a. <日>我々の地方の牛は7月になってはじめて(青草で)腹いっぱいになる。

b. <モ>  $\text{ᠮᠠᠨ ᠤ nutuy-un mal bol 7 sar_a-du sayi gedesü ni čadday.}$

man-u nutuy-un mal bol 7 sar\_a-du sayi gedesü ni čadday.

我々-GEN 地方-GEN 牛は 7月-DAT はじめて 腹 3RD 腹いっぱいになる  
(我々の地方の牛は7月になってはじめて(青草で)腹いっぱいになる。)

### 3) 格成分の連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞

格成分の連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞というのは、「象は鼻が長い」で言えば、「鼻」の部分に当たる名詞である。

(エ) 日本語とモンゴル語では、部分や側面を表す名詞が被修飾名詞の部分に使われるが、部分や側面になっているとは言いにくい名詞も被修飾名詞の部分に使われることがある。

前の(3-22)の「象は鼻が長い」という文では、被修飾名詞「鼻」と主題名詞「象」の間には、全体と部分の関係があった。しかし、日本語もモンゴル語も、部分や側面になっているとは言いにくい名詞が被修飾名詞の部分に使われることもある。たとえば次の(49)の「利益」は、「この工場」の部分や側面とは言いにくい。

(49) a. <日>この工場は利益がいい。

b. <モ>  $\text{ᠡᠨᠡ ᠦᠶᠢᠯᠡᠳᠪᠦᠷᠢ bol ᠦᠷ_e asiy ni sayin.}$

ene üyiledbüri bol ür\_e asiy ni sayin.

この 工場 は 利益 3RD いい

(この工場は利益がいい。)

### 4) 格成分の連体修飾部が主題になっている文の修飾名詞

格成分の連体修飾部が主題になっている文の修飾名詞というのは、「象は鼻が長い」で言えば、「象」に当たる名詞である。

(オ) 日本語もモンゴル語も形容詞的名詞は修飾名詞の部分には使われない。



日本語もモンゴル語も形容詞的名詞は主題にならない。たとえば次の(50)は性質を表す形容詞的な名詞の例である。(50)の名詞「黄色」を主題にしたその次の(51)は不自然である。

(50) a. <日> 黄色の花がきれい。

b. <モ> ᠰᠢᠷᠠ ᠣᠩᠭᠡ ᠲᠡᠴᠡᠭ ᠰᠠᠶᠢᠴᠠᠨ ᠠᠨᠤ

sir\_a öngge-yin ččeg sayiqan.

黄色-GEN 花 きれい

(黄色の花がきれい。)

(51) a. <日> \*黄色は花がきれい。

b. <モ> \*ᠰᠢᠷᠠ ᠣᠩᠭᠡ ᠪᠣᠯ ᠲᠡᠴᠡᠭ ᠰᠠᠶᠢᠴᠠᠨ ᠠᠨᠤ

sir\_a öngge bol ččeg sayiqan.

黄色 は 花 きれい

(\*黄色は花がきれい。)

### 7. 3. 2 格成分の連体修飾部が主題になっている文における相違点

#### 1) 格成分の連体修飾部が主題になっている文の形

ここで、格成分の連体修飾部が主題になっている文の形における、日本語とモンゴル語の違いについて見ていく。

(カ) 格成分の連体修飾部が主題になっている文において、日本語は「～には～に……。」「～には～が……。」「～では～で……。」の形の文がある。モンゴル語は基本的にこのような形の文はない。

次の(52a)は、「～には～に……。」の形になっている格成分の連体修飾部が主題になっている例である。この文は「独仏両国の伝統的な考え方に」の連体修飾部「独仏両国」が主題になっている。ただし、その次のモンゴル語訳文(52b)は不自然な文になってしまう。次の(52b)は、その次の(53)のように表したほうが自然である。このほかに、日本語の「～には～に……。」「～には～が……。」「～では～で……。」の形の文も、基本的にモンゴル語では用いられない。

(52) a. <日> しかし、独仏両国には、国籍についての伝統的な考え方に、大きな違いもある。 (野田 1996:31)



てしまいたいなんて思うときがあります」と、あなたはお手紙の終わりのところで書いておられました。ぼくは胸がしめつけられました。 (中納言: 斎藤(1995)『子どもって、どうして…』)

b. <モ> \*bol čegeji bačimda-l\_a

bi bol čegeji bačimda-l\_a.

ぼく は 胸 しめつける -PAST

(ぼくは胸がしめつけられました。)

### 3) 格成分の連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞

ここで、連体修飾部が主題になっている文の被修飾名詞における日本語とモンゴル語の相違について見ていく。

(ク) 日本語では、動作名詞が被修飾名詞の部分に使われるが、モンゴル語では、基本的に動作名詞は被修飾名詞の部分に使われることがない。

日本語は、次の(55a)のように、「立証」などのような動作名詞が被修飾名詞の部分に使われる。ただし、モンゴル語は多くの場合、日本語の動作名詞に対応する動作名詞がないので、動作名詞の代わりに動詞を用いる。たとえば次のモンゴル語の例(55b)では、日本語の動作名詞「立証」に「立証する」という動詞が対応している。

(55) a. <日> これまで保険の水増し請求は立証が難しく、摘発されるケースはごくまれ。 (野田 1996:37)

b. <モ> odo boltal dayatyal-i ilegiüü medegül-jü abqu yabudal-i bol

これまで 保険-ACC 水増し請求する-CV こと-ACC は

gerečile-kü ni küčir, ilečilen medegde-kü jisiy\_e ni masi qobor.

立証する-CV 3RD 難しく摘発される-VN ケース 3RD ごく まれ

(これまで保険の水増し請求は立証が難しく、摘発されるケースはごく

まれ。)

ただし、モンゴル語には、日本語の動作名詞に対応するケースがまったくないということではない。たとえば次の日本語の例(56a)は、「説明」という動作名

詞が被修飾名詞になっている。モンゴル語の例(56b)でも、「説明」という名詞が被修飾名詞になっている。

(56) a. <日> この辞書は説明が分かりやすい。

b. <モ>  $\text{ᠠᠨᠤ ᠲᠤᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠪᠣᠯ ᠲᠠᠶᠢᠯᠪᠦᠷᠢ ᠨᠢ ᠣᠶᠢᠯᠠᠮᠵᠢᠲᠠᠢ}$

ene toli bičig bol tayilburi ni oyilyamjital.

この辞書 は 説明 3RD 分かりやすい

(この辞書は説明が分かりやすい。)

### 7. 3. 3 「格成分の連体修飾部が主題になっている文」のまとめ

日本語とモンゴル語の格成分の連体修飾部が主題になっている文について、この節で見てきたことを表で簡潔に示すと、次のようになる。

表 18 「格成分の連体修飾部が主題になっている文」のまとめ

格成分の連体修飾部が主題になっている文	は	bol
主格、対格、与位格、奪格の格成分の連体修飾部が主題になる。	○	○
述語の部分には、形容詞、性質や状態を表す動詞、数量や性質を表す名詞が用いられる。	○	○
部分や側面を表す名詞、部分や側面になっているとは言にくい名詞も被修飾名詞の部分に用いられる。	○	○
形容詞的名詞は修飾名詞の部分に用いられる。	×	×
「～には～に……。」 「～には～が……。」 「～では～で……。」の形の文がある。	○	×
1回だけの動作やできごとを表す動詞が述語の部分に用いられる。	○	×
動作名詞が被修飾名詞の部分に用いられる。	○	×

## 7. 4 述語成分の連体修飾部が主題になっている文

### 7. 4. 1 「述語成分の連体修飾部が主題になっている文」とは

ここで、「述語成分の連体修飾部が主題になっている文」が成立する条件について少し説明を付け加えたい。

(ア) 述語成分の連体修飾部が主題になっている文の成立には、「述語名詞の連体修飾語が主題になっていること」と、「は」名詞と「が」名詞は「の」で接続されうる関係にない」という2つの条件が必要である。

述語成分の連体修飾部が主題になっている文というのは、次の(58)のような文である。この文は、次の(57)の述語「本場」の連体修飾部「かき料理」が主題になってできたものである。

(57) <日> 広島が かき料理 の本場 (であること)  
主題 (野田 1996:42)

(58) <日> かき料理 は広島が本場だ。 (野田 1996:42)

次の(60)も述語成分の連体修飾部が主題になってできた文だと言えそうである。この文は、次の(59)の述語「命」の連体修飾部「芸能人」が主題になってできた文だと解釈することが可能である。

(59) <日> 歯が 芸能人 の命 (であること)  
主題

(60) <日> 芸能人 は歯が命。

(中納言：花田 信弘(2002)『もう虫歯にならない!』)

ただし、前の(58)の「かき料理は広島が本場だ。」文と(60)の「芸能人は歯が命。」文は構造が異なる。(58)は、主題名詞「かき料理」と「が」名詞「広島」を「の」でつなげて「かき料理の広島」にすることはできない。これに対して、(60)は、主題名詞「芸能人」と「が」名詞「歯」を「の」でつなげて「芸能人の歯」にすることができる。

本研究で意味している「述語成分の連体修飾部が主題になっている文」は、前の(58)の「かき料理は広島が本場だ。」のような文である。すなわち、「述語成分の連体修飾部が主題になっている文」の成立は、前記の(ア)のような2つの条件を満たさなければならない(被修飾名詞の連体修飾部が主題になっている文の成立条件については、菊地(1997)、西山(2003)でも指摘されている)。

#### 7. 4. 2 両言語における述語成分の連体修飾部が主題になっている文

ここでは、日本語とモンゴル語には、述語成分の連体修飾部が主題になっている文があるかどうかについて見ていく。

(イ) 述語成分の連体修飾部が主題になっている文は、日本語にはあるが、  
モンゴル語には存在しない。

日本語には述語成分の連体修飾部が主題になっている文はあるが、モンゴル語には連体修飾部が主題になっている文はない。たとえば次の(62a)は、述語成分の連体修飾部が主題になっている文である。この文の主題名詞「僕」は、(61)の述語名詞「目的」の連体修飾名詞である。ただし、その次のモンゴル語の例(62b)が不自然なように、モンゴル語には、述語成分の連体修飾部が主題になっている文は存在しない。

(61) <日> 文学が僕の目的ではない (こと)  
主題

(62) a. <日> 僕は文学が目的ではない。

(中納言：前出 英子(2005)「週刊ファミ通」)

b. <モ> \*bi bol uran jokiyaḷ ni jorily\_a bisi. 〃

bi bol uran jokiyaḷ ni jorily\_a bisi.

僕 は 文学 3RD 目的でない

(僕は文学が目的ではない。)

それでは、モンゴル語では、述語成分の連体修飾部が主題になっている文をどのような形で表現しているのか。

#### 7. 4. 3 モンゴル語ではどのような形で表されているのか

この節で、モンゴル語では、述語成分の連体修飾部が主題になっている文を、どのような形で表現しているのかについて考えたい。

(ウ) 述語成分の連体修飾部が主題になっている文は、モンゴル語では、「広島はかき料理の本場だ」、「かき料理の本場は広島だ」などの構文で表される。

連体修飾部が主題になっている「かき料理は広島が本場だ。」のような文は、モンゴル語では、そのまま表すことができないので、ほかの形式を用いて表す。たとえば次の(63)は、「かき料理は広島が本場だ。」文を、「広島はかき料理の本



## 7. 5 被修飾名詞が主題になっている文

この節では、被修飾名詞が主題になっている文における日本語とモンゴル語の類似点と相違点について考察する。

(ア) 日本語にもモンゴル語にも、被修飾名詞が主題になっている文がある。

日本語とモンゴル語には、被修飾名詞が主題になっている文がある。たとえば次の(67)の主題名詞「辞書」は、(66)の「新しい辞書」の被修飾名詞である（日本語の被修飾名詞が主題になっている文については、野田(1996)が詳しい）。

(66) <日> 新しい辞書が いい (こと) (野田 1996:54)  
主題

(67) a. <日> 辞書は新しいの が いい。

b. <モ> ᠲᠣᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠪᠣᠯ ᠰᠢᠨᠡ ᠨᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠡᠳᠦᠨᠢ  
toli bičig bol sin\_e ni sayin.  
辞書 は 新しい 3RD いい  
(辞書は新しいの が いい。)

### 7. 5. 1 被修飾名詞が主題になっている文における類似点

#### 1) 被修飾名詞が主題になっている文の種類

ここで、被修飾名詞が主題になっている文の種類における日本語とモンゴル語の類似点を見ていく。

(イ) 日本語でもモンゴル語でも、被修飾名詞が主題になっている文には、**選択型と並列型の2種類**ある。

日本語の被修飾名詞が主題になっている文に選択型と並列型の2種類あることについては、野田(1996)で詳しく述べている。日本語だけではなく、モンゴル語にも選択型と並列型の2種類ある。

まず、選択型の被修飾名詞が主題になっている文について見ていこう。

次の(68)は選択型の被修飾名詞が主題になっている文である。この文では、「新しい車」を選択して「よく売れる」と述べている。この選択型の被修飾名詞が主題になっている文の述語には、形容詞だけではなく、名詞や動詞も用いられる。



(68) a.<日>車は新しいのがよく売れる。

b.<モ>  $\text{masin terge bol sin}_e \text{ ni ilegüü borolayuluydaday.}$

masin terge bol sin\_e ni ilegüü borolayuluydaday.

車 は 新しい 3RD よく 売れる

(車は新しいのがよく売れる。)

次に、並列型の被修飾名詞が主題になっている文について見ていこう。

日本語にもモンゴル語にも並列型の被修飾名詞が主題になっている文がある。並列型というのは、次の(69)のような文である。この文では、「Lサイズが 500円」と「Sサイズが 300円」が並列的な関係にある。

(69) a.<日>値段はLサイズが500円、Sサイズが300円だ。(野田 1996:58)

b.<モ>  $\text{ün}_e \text{ ni bol L kemjiiyen-ü kin } 500 \text{ tögöriḡ, } S \text{ kemjiiyen-ü kin } 300 \text{ tögöriḡ yum.}$

ün\_e ni bol L kemjiiyen-ü kin 500 tögöriḡ,S kemjiiyen-ü kin 300 tögöriḡ yum.

値段 3RD は Lサイズ-GEN ほう 500円 Sサイズ-GEN ほう 300円 だ

(値段はLサイズが500円、Sサイズが300円だ。)

## 2) 被修飾名詞が主題になっている文の修飾部

ここでは、たとえば「辞書は新しいのがいい」という文の「新しい」の部分にどのようなものが用いられるのかについて見ていく。

(ウ) 日本語もモンゴル語も、被修飾名詞が主題になっている文の修飾部に

は、「名詞」「形容詞+の」「動詞+の」「XYというY」の4種ある。

まず、被修飾名詞が主題になっている文の修飾部の部分に「名詞」が入るタイプについて見ていこう。次の(70)では、「白水社の辞書」という部分の被修飾名詞「辞書」が主題になっている。修飾部には「白水社」という名詞が用いられている。

(70) a.<日>辞書は白水社がいい。 (野田 1996:56)

b.<モ>  $\text{toil bičig bol Qaküsüisiyan-u kin sayin.}$

toil bičig bol Qaküsüisiyan-u kin sayin.

辞書 は 白水社-GEN ほうが いい

(辞書は白水社がいい。)

次に、日本語もモンゴル語も、被修飾名詞が主題になっている文の修飾部に「形容詞+の」が入るタイプについて見ていこう。次の(71)は、「例文の多いの」ように、「形容詞+の」が用いられている例である。「形容詞+の」と「動詞+の」は形がほとんど同じであるので、「動詞+の」については省略する。次の(71b)で用いられている3人称所属小辞 *ni* は、日本語の名詞化辞「の」に相当するものである。

(71) a. <日>辞書は例文の多いののがいい。 (野田 1996:56)

b. <モ> *ᠰᠢᠰᠢᠬᠤ ᠪᠣᠯ ᠵᠢᠰᠢᠶᠡ ᠣᠯᠠᠨ ᠨᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠡ*

*toli bičig bol jisiy\_e olan ni sayin.*

辞書 は 例文 多い 3RD いい

(辞書は例文の多いののがいい。)

最後に、「XYというY」というタイプについて見ていこう。「XYというY」というのは、次の(72)で言えば、「新華(X)辞書(Y)という辞書(Y)がいい。」というタイプのものである。この文の被修飾名詞「辞書」が主題になると、次の(73)のようになる。野田(1996)によると、「新華辞書」という一語の中に「辞書」という概念が含まれていて、「新華辞書の辞書」のように、「の」という修飾部と被修部に分離できない。氏は、次の(73)を、(72)からできた文だと見ている。

(72) <日>新華辞書のという辞書のがいい (こと)  
主題

(73) a. <日>辞書は新華辞書のがいい。

b. <モ> *ᠰᠢᠰᠢᠬᠤ ᠪᠣᠯ ᠰᠢᠩᠠᠦ ᠲᠣᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠨᠢ ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠡ*

*toli bičig bol Sinquwa toli bičig ni sayin.*

辞書 は 新華 辞書 3RD いい

(辞書は新華辞書のがいい。)

### 7. 5. 2 被修飾名詞が主題になっている文における相違点

被修飾名詞が主題になっている文において、日本語もモンゴル語もほとんど同じである。しかし、違いも見られる。

(エ) 日本語では「格成分が主題になっている文」として解釈されうる文は、モンゴル語では「被修飾名詞が主題になっている文」としてしか解釈できない。

野田(1996)は、次の(74a)は、その次の(75a)の「に」格成分「最近の辞書に」が主題になった文だと考えている。ただし、モンゴル語では、この文は「に」格成分が主題になっているとは解釈できない。その理由は、モンゴル語の例(74b)を(75b)のような「に」格関係の文に戻すことはできないからである。

言い換えると、(75a)のような日本語の「に」格の用法は、モンゴル語の「に」格（与位格）にはないからである。モンゴル語では、(74)の主題「最近の辞書」を、被修飾名詞が主題になってできたものだと考えるしかない。

(74) a. <日>最近の辞書は使いやすいのが多い。 (野田 1996:62)

b. <モ> *ᠠᠷᠴᠢᠮᠤᠨ ᠲᠤᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭ ᠪᠣᠯᠤ ᠠᠷᠢᠭᠦᠯᠦᠭᠦᠨ ᠳᠦᠳᠦᠨ ᠳᠣᠭᠣᠮ ᠨᠢ ᠣᠯᠠᠨ ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠶᠤ ᠠᠳᠤᠭᠤᠨ* ..

orčim-un toli bičig bol keregle-kü-dü dököm ni olan bayi-day.

最近-GEN 辞書 は 使う-VN-DAT やすい 3RD 多いある-VN

(最近の辞書は使いやすいのが多い。)

(75) a. <日>最近の辞書に使いやすいのが多い。 (野田 1996:62)

主題

b. <モ> *\*ᠠᠷᠴᠢᠮᠤᠨ ᠲᠤᠯᠢ ᠪᠢᠴᠢᠭᠲᠦᠨ ᠠᠷᠢᠭᠦᠯᠦᠭᠦᠨ ᠳᠦᠳᠦᠨ ᠳᠣᠭᠣᠮ ᠨᠢ ᠣᠯᠠᠨ ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠶᠤ ᠠᠳᠤᠭᠤᠨ* ..

orčim-un toli bičig-tü keregle-kü-dü dögöm ni olan bayi-day.

最近-GEN 辞書 は 使う-VN-DAT やすい 3RD 多いある-VN

(最近の辞書に使いやすいのが多い。)

### 7. 5. 3 「被修飾名詞が主題になっている文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表 20 「被修飾名詞が主題になっている文」のまとめ

被修飾名詞が主題になっている文	は	bol
選択型と並列型の2種類ある。	○	○
修飾部は、「名詞」「形容詞+の」「動詞+の」「XYというY」の4種類ある。	○	○
「最近の辞書は使いやすいのが多い。」のような文は、格成分が主題になっている文として解釈されることがある。	○	×

## 7. 6 節が主題になっている文

この節では、節が主題になっている文における日本語とモンゴル語の類似点と相違点について見ていく。

(ア) 日本語にもモンゴル語にも、節が主題になっている文がある。

節が主題になっている文というのは、次の(77)のような文である。この文では、(76)の述語を中心にした節が主題に指定されている。次の(77)が自然なように、節が主題になっている文は、日本語にもモンゴル語にもある。節が主題になっている文は、分裂文などと言われてきたものである。

(76) <日> 4月ごろ桜が咲く (こと)

主題

(77) a. <日>桜が咲くのは4月ごろだ。

b. <モ> <sup>ᠰᠠᠬᠢᠷᠠ</sup> <sup>ᠳᠡᠯᠭᠡᠷᠡ</sup> <sup>ᠬᠢ</sup> <sup>ᠨᠢ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>4</sup> <sup>ᠰᠠᠷ</sup> <sup>ᠠ</sup> <sup>ᠶᠢᠨ</sup> <sup>ᠠᠶᠢ</sup> <sup>ᠪᠡᠷ</sup> <sup>ᠶᠤᠮᠤ</sup> .

sakūra delgere-kü ni bol 4 sar\_a-yin üy\_e-ber yum.

桜 咲く-VN 3RD は 4 月-GEN ごろ-INST MP

(桜が咲くのは4月ごろだ。)

### 7. 6. 1 節が主題になっている文における類似点

ここでは、節が主題になっている文の述語成分における日本語とモンゴル語の類似点について見ていく。節が主題になっている文の述語というのは、たとえば「桜が咲くのは4月ごろだ。」で言えば、「4月ごろ」に当たるものである。

(イ) 日本語もモンゴル語も、理由を表す成分や時を表す成分、それに、主格、対格、与位格、造格などの格成分も述語の部分に入る。

野田(1996)は、節が主題になっている文の述語の部分に入りやすい成分として、理由を表す成分、時を表す成分、「が」格成分を取り上げ、「を」格や「に」格や「で」格などの格成分もかなり入りやすいと指摘している。モンゴル語も日本語と同様に、理由を表す成分、時を表す成分、主格成分、対格成分、与位格成分、造格成分が述語の部分に入ることがある。

次の(78)は、時の成分「昭和二十一年」が述語になっている文である。この文は、時の成分が述語になっている文と見てもよいが、「昭和二十一年に」とも言えるように、「に」格成分が述語になっている文と見ることも可能である。

このように、時を表す成分は日本語でもモンゴル語でも、節が主題になっている文の述語になることがある。このほかに、理由を表す成分や、主格、対格、与位格、造格などの格成分も述語の部分に入る。

(78) a. <日> フィリピンで終戦を迎えた竹内鉄男が復員してきたのは昭和二十一年だった。  
 (野田 1996:67)

b. <モ>  $\text{Filipin-dü dayin dayus-qu-yi küliyen abu-γsan Takeüthi tetsuu čerig-eče}$   
 $\text{Filipin-dü ni bol Syouwa-yin qorin nignedüger on-du bile.}$

Filipin-dü dayin dayus-qu-yi küliyen abu-γsan Takeüthi tetsuu čerig-eče  
 フィリピン-DAT 終戦する-VN -ACC 迎える-VN 竹内鉄男 兵-ABL  
 qalayda-ju ire-gsen ni bol Syouwa-yin qorin nignedüger on-du bile.  
 復員する-CV 来る-VN 3RD は 昭和-GEN 二十一 年-DAT MP  
 (フィリピンで終戦を迎えた竹内鉄男が復員してきたのは昭和二十一年だった。)

節が主題になっている文の述語になるのは、理由を表す成分、時を表す成分、格成分だけではない。

(ウ) 日本語とモンゴル語では、目的を表す成分なども、節が主題になっている文の述語になることがある。

たとえば次の(79)では、「すべて彼らのため」という目的成分が述語になっている。

(79) a. <日> 汗をしばり血を流してきたのはすべて彼らのためである。

b. <モ>  $\text{kölösü-ben sibqa-ju čisu-ban urusqa-ju ire-gsen bol bür edenüs-ün}$   
 $\text{tölöge yum.}$

(NMGDX コーパス)

kölösü-ben sibqa-ju čisu-ban urusqa-ju ire-gsen bol bür edenüs-ün  
 汗-REFL しぼる-CV 血-REFL 流す-CV 来る-VN は すべて 彼ら-GEN  
 tölöge yum.

ため MP

(汗をしばり血を流してきたのはすべて彼らのためである。)

### 7. 6. 2 節が主題になっている文における相違点

ここで、節が主題になっている文における日本語とモンゴル語の相違について見ていく。

(エ) 「桜が咲くのは4月ごろだ。」で言えば、日本語では「4月ごろ」の部分に格助詞が残らない時でも、モンゴル語では「4月ごろ」の部分に格助詞が残ることがある。

たとえば次の日本語の例(78)'で言えば、「昭和二十一年」という成分に「に」格助詞を残したままでは、不自然である。これに対して、その次のモンゴル語の例(78)'では、むしろ「昭和二十一年」に与位格を残したままのほうが自然である。

(78)'a.<日>?フィリピンで終戦を迎えた竹内鉄男が復員してきたのは昭和二十一年ににだった。(野田 1996:67)

b.<モ>  $\text{ᠳᠢᠮᠢᠯᠢᠫᠤ ᠳᠠᠶᠢᠨ ᠳᠠᠶᠤᠰᠤ ᠴᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠠᠪᠤ ᠶᠤᠰᠠᠨ ᠲᠠᠬᠡᠭᠦᠲᠡᠬᠢ ᠲᠡᠰᠦᠠᠶᠢ ᠴᠢᠷᠢᠭᠢᠨ ᠵᠢᠠᠶᠢᠳᠠ ᠵᠤ ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ ᠨᠢ ᠬᠣᠯᠢ ᠰᠢᠶᠤᠮᠤᠶᠢᠨ ᠴᠣᠷᠢᠨ ᠨᠢᠭᠢᠳᠦᠭᠢᠷ ᠣᠨ ᠳᠤ ᠪᠢᠯᠡ ᠠᠮᠵᠢ ᠠᠷᠢᠭᠢᠰᠤᠨ ᠴᠠᠶᠢᠳᠠ ᠵᠤ ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ ᠨᠢ ᠬᠣᠯᠢ ᠰᠢᠶᠤᠮᠤᠶᠢᠨ ᠴᠣᠷᠢᠨ ᠨᠢᠭᠢᠳᠦᠭᠢᠷ ᠣᠨ ᠳᠤ ᠪᠢᠯᠡ ᠠᠮᠵᠢ ᠠᠷᠢᠭᠢᠰᠤᠨ ᠴᠠᠶᠢᠳᠠ ᠵᠤ ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ ᠨᠢ ᠬᠣᠯᠢ ᠰᠢᠶᠤᠮᠤᠶᠢᠨ ᠴᠣᠷᠢᠨ ᠨᠢᠭᠢᠳᠦᠭᠢᠷ ᠣᠨ ᠳᠤ ᠪᠢᠯᠡ$

Filipin-dü dayin dayus-qu-yi küliyen abu-γsan Takeüthi tetsuu čerig-eče

フィリピン-DAT 終戦する-VN -ACC 迎える-VN 竹内鉄男 兵-ABL

qalayda-ju ire-gsen ni bol Syouwa-yin qorin nignedüger on-du bile.

復員する-CV 来る-VN 3RD は 昭和-GEN 二十一年 -DAT MP

(フィリピンで終戦を迎えた竹内鉄男が復員してきたのは昭和二十一年にだった。)

### 7. 6. 3 「節が主題になっている文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表 21 「節が主題になっている文」のまとめ

節が主題になっている文	は	bol
理由や時を表す成分、それに、主格、対格、与位格、造格などの格成分が述語の部分に入る。	○	○
目的を表す成分なども、節が主題になっている文の述語になることがある。	○	○
述語を中心にした時の成分などにも、格助詞をつける。	×	○

## 7. 7 破格の主題をもつ文

この節では、破格の主題をもつ文における日本語とモンゴル語の類似点と相違点について見ていく。

(ア) 日本語にもモンゴル語にも、破格の主題をもつ文がある。

破格の主題をもつ文は、不必要なものが加わったり必要なものが抜けたりする「異常」によって、普通の主題をもつ文からはずれてできた、特殊で周辺的なものである(野田 1996:76)。

日本語にもモンゴル語にも、破格の主題をもつ文がある。たとえば次の(80)は、「贈った」などの述語が抜けていて、格関係に戻せない文である。

(80) a.<日> (兄が弟に母からのプレゼントを渡している場面)

これは母 (から) の……。

b.<モ> ᠮᠣᠪᠠ ᠡᠵᠢ ᠶᠢᠨ …… ”

ene bol eji-yin …….

これ は 母-GEN

(これは母 (から) の……。)

### 7. 7. 1 破格の主題をもつ文における類似点

ここで、破格の主題をもつ文における日本語とモンゴル語の類似点について、野田(1996)が破格の主題をもつ文の種類として提案した過剰型、不足型、漠然型の分類に沿って見ていく。

#### 1) 過剰型の破格の主題をもつ文

ここでは、日本語にもモンゴル語にも過剰型の「破格の主題をもつ文」がある場合について見ていく。

(イ) 日本語にもモンゴル語にも過剰型の破格の主題をもつ文がある。

過剰型の破格の主題をもつ文というのは、次の(3-49)'のような文である。(3-49)'では、「話」が主題の部分と述語の部分で過剰に反復されている。2つの「話」のうち1つは必ずしも必要でない過剰なものである。

(3-49)'a.<日>みなさん、今日私が話したい話は「母なる地球が泣いてしまった」というテーマの話である。

b.<モ> ᠠᠨᠵᠢᠰᠠᠨ ᠲᠦᠨ ᠰᠡᠩᠭᠦᠨ ᠤᠨ ᠤᠳᠤ ᠠ ᠵᠣᠳᠢᠶ᠋ᠠᠯ ᠤᠨ ᠳᠡᠭᠡᠵᠢ 2010:329  
ᠲᠡᠭᠦᠭᠦᠨᠢᠨᠡᠷ ᠮᠢᠨᠢ ᠣᠨᠣᠳᠣᠷ ᠤᠨ ᠮᠢᠨᠦ ᠶᠠᠷᠢ ᠵᠤ ᠠᠵᠢᠯᠢᠭᠢᠷ ᠪᠣᠯ <bömbörčeg ejī

(odo üy\_e-yin mongyol keüiked-ün udq\_a jokiyaḷ-un degeji2010:329)

degüüner mini önödör-ün minü yari-qu üliger bol <bömbörčeg ejī

みなさん 今日-GEN 私 話す-VN 話 は 母なる地球

ukilačiqa-jai> gesen γarčay tai üliger yum.

泣いてしまう-PAST という テーマ ある 話 MP

(みなさん、今日私が話したい話は「母なる地球が泣いてしまった」というテーマの話である。)

## 2) 不足型の破格の主題をもつ文

ここでは、日本語にもモンゴル語にも不足型の「破格の主題をもつ文」がある場合について見ていく。

(ウ) 日本語にもモンゴル語にも不足型の破格の主題をもつ文がある。

不足型の破格の主題をもつ文というのは、次の(81)や(3-53)'のような文である。次の(81)では、「今のうちの会社のいいところは」に対して、文末を「雰囲気自由なことなんです」のようにするのが自然なのだが、「こと」が脱落し、不足していると見ることができる(野田 1996:78)。その次のモンゴル語の例(3-53)'では、文末を「もの(写真)である」のようにするのが自然なのだが、「もの(写真)」が脱落し、不足している。

(81)<日>でも、いまのうちの会社のいいところは、雰囲気が自由なんです  
 ね。 (野田 1996:78)

(3-53)'<モ> ᠠᠨᠵᠢᠰᠠᠨ ᠵᠡ᠋ᠳᠤ ᠵᠢᠷᠦᠭ ᠪᠣᠯ 40 ᠶᠠᠷᠠᠢ ᠤᠨᠡᠭᠡ ᠲᠡᠭᠢᠭᠡ ᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠶ ᠠ ᠶᠢᠨ ᠶᠠᠨ ᠰᠢᠶᠠᠩ ᠤᠨ ᠴᠡᠪᠦᠷ ᠣᠷᠣᠯᠢ ᠠ ᠨᠢ 15000  
ᠲᠦᠭᠦᠭᠦᠨᠢᠨᠡᠷ ᠵᠡᠳᠤ (Öbör mongyol-un edür-ün sonin2009.1.3 p.2)

ᠵᠢᠷᠦᠭ bol 40 ᠶᠠᠷᠠᠢ ᠤᠨᠡᠭᠡ ᠲᠡᠭᠢᠭᠡ-ᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠶ\_ᠠ ᠶᠢᠨ ᠶᠠᠨ ᠰᠢᠶᠠᠨᠭ-ᠤᠨ ᠴᠡᠪᠦᠷ ᠣᠷᠣᠯᠢ\_ᠠ ᠨᠢ

写真 は 40 余りキツネ養殖-CV いる インエンシヤン-GEN 純 利益 3RD

15000 tögöriḡ kür-čei.

15000 元 達する-PAST





7. 7. 2 破格の主題をもつ文における両言語の相違点

破格の主題をもつ文において、日本語とモンゴル語はほとんど違うところはない。あえて言えば、定型的な破格構文における表現の違いである。

(オ) 定型的な破格構文においては、日本語とモンゴル語の表現は異なる。

定型的な破格構文というのは、たとえば次の(83)のような文である。野田(1996)によると、この文は、すでに、「～は～にある」の形で定型的に使われるようになっている。この文では、「(ボリュームと安さ)の秘密(は)」や「(大量購入に)秘訣が(ある)」などが不足している。

(83) <日> ボリュームと値段の安さは、披露宴会場ならではの大量購入にある。  
(野田 1996:81)

次の日本語の例(84a)は、「～は～で」の形の文で、定型的な破格文とは言いがたいものである。ただし、この文はモンゴル語の視点から見れば、(84b)が自然なように、定型的な破格文である。モンゴル語では、この文は「～bol-iyer」(「～は～で」)の形で定型的に使われるようになっている。

(84) a. <日> \*人は心で。

b. <モ> ..

kömün bol sedkil-iyer.

人 は 心-INST

(人は心で(人は心を重んじるものだ)。)

7. 7. 3 「破格の主題をもつ文」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表 22 「破格の主題をもつ文」のまとめ

破格の主題をもつ文	は	bol
過剰型の破格の主題をもつ文がある。	○	○
不足型の破格の主題をもつ文がある。	○	○
漠然型の破格の主題をもつ文がある。	○	○
定型的な破格構文において、日本語とモンゴル語は対応している。	×	×

## 第8章 典型的な主題マーカ―の非主題表示機能

### 8. 1 対比表示機能

ここまで見てきた日本語の「は」とモンゴル語の *bol* は主題を表すものであった。しかし、「は」と *bol* の中には、主題を表す働きが弱く、対比的な意味が強いものがある。たとえば次の(4-1)'の「は」と *bol* である。

(4-1)'a.<日>私たちの上には民を愛する党や政府がある。そばには互いに助け合おうとするみなさんがいる。

b.<モ> *biden-ü deger\_e bol arad-i qayirala-day nam jasay bayin\_a. dergete bol qarılčan tusalalča-y\_a geǰü bayiy\_a olan tümen bayin\_a.*  
互い 助ける-VOL とする みなさん いる

(odo üy\_e-yin mongyol kele2005:646)

*biden-ü deger\_e bol arad-i qayirala-day nam jasay bayin\_a. dergete bol*

我々-GEN 上 は 民-ACC 愛する-VN 党 政府 ある そば は

*qarılčan tusalalča-y\_a geǰü bayiy\_a olan tümen bayin\_a.*

互い 助ける-VOL とする みなさん いる

(私たちの上には民を愛する党や政府がある。そばには互いに助け合おうとするみなさんがいる。)

この節では、対比を表す「は」と *bol* や、それに関係の深い「は」と *bol* の類似点と相違点について考えていきたい。具体的には、明示的な対比を表す「は」と *bol*、暗示的な対比を表す「は」と *bol*、「は」と *bol* で対比を表せる成分、まとめ、の順に見ていく。

#### 8. 1. 1 明示的な対比を表す「は」と *bol*

##### 8. 1. 1. 1 明示的な対比を表す「は」と *bol* の類似点

###### 1) 対比専用と対比兼用の「は」と *bol*

ここでは、明示的な対比の種類における「は」と *bol* の類似性について見ていく。



比専用の場合と、対比兼用の場合があるということである。

対比専用の「は」と **bol** と、対比兼用の「は」と **bol** では、対比専用のほうが典型的な対比である。以下で、対比専用の「は」と **bol** を中心に見ていこう。

## 2) 対立的な対比と並立的な対比

ここで、対立的な対比と並立的な対比における「は」と **bol** の類似点について見ていく。

(イ) 対比専用の「は」と **bol** には、対立的な対比と並立的な対比がある。

明示的な対比は、対比の相手が明示されるもので、対比の相手を明示するには特定の構文が使われる。明示的な対比を表すには、日本語もモンゴル語も、対立的な対比と並立的な対比の構文を用いることがある。たとえば次の(1)は、対立的な対比を表すものである。

(1) a.<日>私は肉は食べたが、魚は食べなかった。

b.<モ> *ᠪᠢ ᠮᠢᠴᠢ ᠠᠢ ᠨᠢ ᠪᠣᠯᠢ ᠢᠳᠡᠭᠰᠢᠨ ᠪᠣᠯᠪᠠᠴᠢ ᠶᠢᠶᠠᠰᠤᠶᠢ ᠨᠢ ᠪᠣᠯᠢ ᠢᠳᠡᠭᠰᠢᠨ ᠤᠭᠡᠢ*

bi miq\_a-i ni **bol** ide-gsen bolbaču jiyasu-yi ni **bol** ide-gsen ügei.

私肉-ACC 3RD は食べる-VN が 魚-ACC 3RD は 食べる-VN ない

(私は肉は食べたが、魚は食べなかった。)

次の(4-7)'は、並立的な対比を表すものである。(4-7)'では、「草は顎で食べ」と「水は口で飲んで」は並列的な関係にある。

(4-7)'a.<日>兄よ、草は顎で食べ、水は口で同じく飲んでいるのに、どうして痩せて皮になったのだろうか。

b.<モ> *ᠠᠨᠠ ᠶᠢ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯᠤ ᠬᠡᠢᠬᠡᠳᠦᠨ ᠤᠳᠠ ᠵᠣᠬᠢᠶᠠᠯᠤᠨ ᠳᠡᠭᠡᠵᠢ*  
*ᠠᠶᠤᠵᠢ ᠪᠠᠶᠢᠲᠠᠯᠠ ᠠᠷᠠᠰᠤ ᠰᠢᠷᠪᠦᠰᠦᠲᠡᠢ ᠪᠡᠨ ᠢᠩᠭᠢᠵᠢ ᠴᠠᠲᠤ ᠶᠤᠰᠠᠨ ᠴᠢᠨᠢ ᠶᠠᠶᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠ?*

(odo üy\_e-yin mongyol keiked-ün udq\_a jokiyal-un degeji2010:265)

aq\_a a, ebesü-yi **bol** ereü-ber-iyen iden, usu-yi **bol** uruyul-iyar-iyen adaliqan

兄 MP 草-ACC は 顎-INST-REFL 食べ 水-ACC は 口-INST-REFL 同じく

uuyu-ju bayital\_a, arasu sirbösö-tei-ben inggijü qata-γsan čini yaγu bolba?

飲む-CV いるのに 皮筋-COM-REFL このように痩せる-VN-2ND なぜだろう

(兄よ、草は顎で食べ、水は同じく口で飲んでいるのに、どうして痩せて皮になったのだろうか。)

対立的な対比を表す文は、対比される 2 つの部分が、日本語では逆接の「けれども」、モンゴル語では逆接の *bolbaču* でつながっていることが多い。このタイプでは、対比される 2 つの述語が「食べた」と「食べなかった」のように、肯定と否定で対立している。

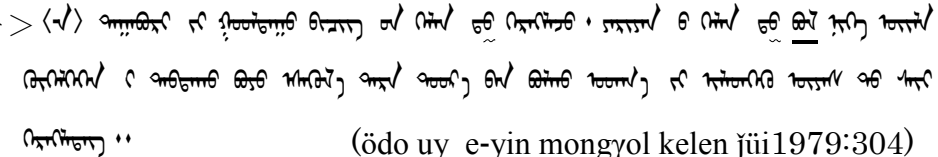
#### 8. 1. 1. 2. 明示的な対比を表す「は」と *bol* の相違点

ここで、明示的な対比における「は」と *bol* の相違について見ていく。

(ウ) モンゴル語では、基本的に、主文になっている後の部分だけに *bol* が付き、従属節になっている前の部分には *bol* が付かない。

日本語もモンゴル語も、主文になっている後の部分のほうが強調したいこと、の中心になっている場合、主文になっている後の部分だけに「は」と *bol* が使われ、従属節になっている前の部分のほうに「は」と *bol* が使われないことがある。ただし、モンゴル語では、基本的に、強調したい部分だけに *bol* を付けるという傾向が見られる。

たとえば次の(4-8)'では、前の従属節「主に書きことばで使い」の部分には *bol* が付かず、後の主文「話しことばで～」の部分だけに *bol* が付いている。

(4-8) <モ> <ノ>  (ödo uy\_e-yin mongyol kelen jüi 1979:304)

<n> *dayaburi-yi*   *yooldayu*   *bičig-ün kelen-dü*   *keregle-ju,*

<n> 語尾-ACC   主に   書きことば-DAT   使う-CV

*yariyan-u kelen-dü bol nige üyile ködelgegen-i dabta-qu*   *buyu esekül\_e*

話しことば-DAT   は 1 つ   動作-ACC   繰り返す-VN   あるいは

*tere door\_a-ban bolqu udq\_a-yi iledke-kü üyes-tü sayi keregle-deg.*

すぐ 行われる   意味-ACC 表す-VN   とき-DAT だけ 使う-VN

(「*n*」という語尾は、主に書きことばで使い、話しことばでは 1 つの動作を繰り返す時や、すぐに行われる意味を表す時だけ使う。)

なお、このような *bol* は、次の(4-9)'のように、2 つの独立した文にまたがって出てくることもある。この場合、*gebeču* (しかし) などの接続詞で 2 つの文をつなぐ。

(4-9) <モ>  $\text{yerüdegen qoni ni imayan-ača büdügün yum. gebeçü bey_e -ber büdügün}$   
 $\text{yimay_a bol qonin-ača çu büdügün siü.}$   
 (フフバートル 1993:96)

yerüdegen qoni ni imayan-ača büdügün yum. gebeçü bey\_e -ber büdügün  
 一般的に 羊 3RD 山羊-ABL 大きい MP しかし 体-INST 大きい  
 yimay\_a bol qonin-ača çu büdügün siü.  
 山羊 は 羊-ABL も 大きい MP  
 (一般的には、羊が山羊より大きい。しかし、体が大きい山羊は羊よりも大きい。)

### 8. 1. 1. 3 「明示的な対比を表す「は」と bol」のまとめ

ここまで見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表1 「明示的な対比を表す「は」と bol」のまとめ

明示的な対比を表す「は」と bol	は	bol
明示的な対比には、対比専用と対比兼用の2種類ある。	○	○
対立的な対比と並立的な対比がある。	○	○
基本的に、主文になっている後の部分だけに対比を表す助詞を付けて、従属節になっている前の部分には対比を表す助詞を付けない。	×	○

### 8. 1. 2 暗示的な対比を表す「は」と bol

#### 8. 1. 2. 1 暗示的な対比を表す「は」と bol の類似点

ここでは、暗示的な対比における「は」と bol の類似点について見ていく。

(ア) 「は」にも bol にも暗示的な対比を表す用法がある。

暗示的な対比は、前節で見た明示的な対比と違って、対比の相手が文中に現れない。しかし、実際には、対比の相手が想定できることも多い。「は」にも bol にも暗示的な対比を表す用法がある。たとえば次の(4-11)'では、「北京にはあるかもしれない」に対して、「ほかのところにはないかもしれない」という対比の意味を表している。

(4-11) a. <日> そのような本は北京にはあるかもしれない。

b. <モ>  $\text{ᠠᠨᠢᠯᠠᠭᠢᠨ ᠪᠤᠨ ᠪᠡᠭᠡᠵᠢᠨ ᠳᠠᠳᠤ ᠪᠣᠯᠤ ᠪᠠᠶᠢᠭᠢ ᠮᠠᠶᠠᠳ ᠤᠭᠡᠢ ᠶ᠋ᠢᠨ ᠠᠨᠢᠯᠠᠭᠢᠨ ᠪᠤᠨ}$  (Čenggeltei 1991:401)

teyimü nom Begejüng-dü bol bayiqu mayad ügei.

そのような 本 北京-DAT は ある かもしれない

(そのような本は北京にはあるかもしれない。)

また、「は」と bol は暗示的な対比になりやすい条件においてもよく似ている。

(イ) 斜格成分に付く「は」と bol や、対になるような名詞に付く「は」と bol は対比的になりやすい。

斜格成分に付く「は」と bol の例は、すでに、(4-11)′で取り上げたので、ここでは、対になるような名詞に付く「は」と bol の例を見てみたい。次の(2)では、「女子生徒はまだ来っていない」に対して、「男子生徒はもう来ている」ということが暗示的に対比されている。

(2) a. <日> 女子生徒はまだ来っていない。

b. <モ>  $\text{ᠡᠮᠡᠭᠡᠲᠡᠢ ᠰᠤᠷᠤᠭᠴᠢᠳᠤ ᠪᠣᠯᠤ ᠮᠣᠨ ᠶᠡᠷᠡᠭᠡ ᠤᠭᠡᠢ ᠶ᠋ᠢᠨ}$

emegtei suruyčid bol mön irege ügei.

女子 生徒 は まだ 来る ない

(女子生徒はまだ来っていない。)

### 8. 1. 2. 2 暗示的な対比を表す「は」と bol の相違点

ここでは、暗示的な対比における「は」と bol の相違点について見ていく。

(ウ) モンゴル語では、事象叙述文の中の bol は、対比の解釈を受けやすい。

モンゴル語では、事象叙述文に用いられる bol は、文型や文脈などがなくてもほとんど対比的に解釈される。たとえば次の日本語の例(3a)は、主題表示と対比表示の両方の解釈が可能な文である。これに対して、その次のモンゴル語の例(3b)は、対比の意味でしか解釈できない。

(3) a. <日> バトは帰った。

b. <モ>  $\text{ᠪᠠᠲᠤ ᠪᠣᠯᠤ ᠬᠠᠷᠢᠪᠠ}$

Batu bol qari-ba.

バト は 帰る-PAST

(バトは帰った。)



8. 1. 2. 3 「暗示的な対比を表す「は」と bol」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表2 「暗示的な対比を表す「は」と bol」のまとめ

暗示的な対比を表す「は」と bol	は	bol
斜格成分や対になるような名詞は対比的になりやすい。	○	○
事象叙述文に用いられた場合、対比的な解釈を受けやすい。	×	○

8. 1. 3 「は」と bol で対比を表せる成分

この節では、「は」と bol で対比を表せる成分について、「は」と bol で対比を表せる格成分、「は」と bol で対比を表せる副詞的成分、「は」と bol で対比を表せる従属節、「は」と bol で対比を表せる述語成分の4つに分けて考察する。

8. 1. 3. 1 「は」と bol で対比を表せる格成分

8. 1. 3. 1. 1 「は」と bol で対比を表す格成分の類似点

1) 「が」格（主格）

尾上(1979)や青木(1992)などで指摘しているように、主格成分は、文型がなければ、ほとんど対比の意味がない。

(ア) 主格成分に付く「は」と bol は、文型的条件があれば、対比の意味で解釈されることがある。

主格成分は、文型があれば、対比の意味で解釈されることがある。この点では、日本語とモンゴル語の主格成分は同じである。たとえば次の(4)は、主格成分「中性音節」に「は」と bol が付いて対比を表している例である。この文では、「男性音節と女性音節を混用することはできない」という文に対して、「中性音節は男性音節と女性音節のどちらとも組み合わせることができる」という対比の意味を表している。

(4) a. <日>一つの単語に男性音節と女性音節を混用することはできないが、  
中性音節は男性音節と女性音節のどちらとも組み合わせることができる。

b. <モ> ḥingγ\_a köndei üy\_e nigen ügen-dü qudqun oro-ju bolqu ügei, sayarmay üy\_e  
 ḥingγ\_a köndei üy\_e nigen ügen-dü qudqun oro-ju bolqu ügei, sayarmay üy\_e  
 ḥingγ\_a köndei üy\_e nigen ügen-dü qudqun oro-ju bolqu ügei, sayarmay üy\_e  
 (NMGDX コーパス)

čingγ\_a köndei üy\_e nigen ügen-dü qudqun oro-ju bolqu ügei, sayarmay üy\_e  
 男性 女性 音節 一つ単語-DAT 混用する-CV できない 中性音節

bol čingγ\_a köndei alin-tai ni ču neyile-jü bolun\_a.

は 男性 女性 どちら-COM 3RD も 組み合わせる できる

(一つの単語に男性音節と女性音節を混用することはできないが、中性音節は男性音節と女性音節のどちらとも組み合わせることができる。)

次に、文型的条件によらぬ対比の「は」と bol について見ていこう。

(イ) 主題の下位にある主格成分や、対になる名詞による主格成分などに付く「は」と bol は対比の意味で解釈されやすい。

たとえば次の(5)は、主題「バトさん」の下位にある「中国語」に「は」と bol が付いている。この場合、「は」と bol は対比的な解釈を受けやすい。

(5) a. <日>バトさんは中国語はできない。

b. <モ> Batu Kitad kele bol čidaqu ügei.

Batu Kitad kele bol čidaqu ügei.

バト 中国語 は できない

(バトさんは中国語はできない。)

## 2) 「を」格 (対格)

ここでは、対格成分に下接して対比を表す「は」と bol の類似性について見る。

(ウ) 対格成分に付く「は」と bol は、文型的条件があるとすれば、対比の意味で解釈することができる。

対格成分に付く「は」と bol の文型的条件による対比については、前の(4-7)で見たので、以下で、文型的条件によらぬ対比の「は」と bol について見ていく。

(エ) 主題の下位にある対格成分や、対になる名詞による対格成分などに付く「は」と bol は対比の意味で解釈されやすい。

たとえば次の(6)では、主題である「私」の後の「海」という語に付いている「は」と bol は、対比の意味で解釈されやすい。対比と言っても、漠然としたもので、「海」と対比されているものは想定しにくい。







(二人の家庭教師がつき、アイルランド人の家庭教師からは英語を習い、インド人からはサンスクリット語を習う。)

次に、文型的条件によらぬ対比の「は」と bol の類似点について見ていこう。

(コ) 主題の下位にある奪格成分や、対になる名詞による奪格成分などにつく「は」と bol は対比の意味で解釈されやすい。

たとえば次の(12)は、主題「私」の後に置かれている奪格成分「教室から」に「は」と bol が付いている例で、この奪格成分は対比的に用いられていると言っても、対比されているものがはっきりとせず、漠然としたものである。

(12) a. <日> 私は教室からは出ていない。

b. <モ> би кичиел-үн гер-еңе бол җар-у-җсан үгеи ..

bi kičiyel-ün ger-eče bol ɟar-u-ɟsan ügei.

私 教室-ABL は 出る-VN ない

(私は教室からは出ていない。)

#### 6) 「と」格 (共同格)

ここで、共同格成分につく「は」と bol の類似点について見ていく。

(サ) 共同格成分につく「は」と bol は、基本的に対比の意味を伴う。

たとえば次の(13)では、「彼(彼女)とは会いたくない」は、「ほかの人とは会ってもよい」などと対比的に用いられている。このように、共同格成分につく「は」と bol は、文型や文脈的な条件がなくても、対比的な解釈を受けやすい。

(13) a. <日> 私は彼(彼女)とは会いたくない。

b. <モ> би тегүн-теи бол аулҗа-қу үгеи ..

bi tegün-tei bol aulja-qu ügei.

私 彼(彼女) -COM は 会う-VN ない

(私は彼(彼女)とは会いたくない。)

#### 8. 1. 3. 1. 2 「は」と bol で対比を表す格成分の相違点

ここで、格成分に下接して対比を表す「は」と bol の違いについて見ていく。

(シ) モンゴル語は日本語と違って、文型的対比であっても、強調したい格成分の部分だけに bol を付けることが多い。

日本語では、一般的に、対比される2つの格成分が文中に明示されている場合は、2つの格成分に「は」を付ける。たとえば次の日本語の(14a)では、「お酒は」と「たばこは」の形で表されている。これに対して、モンゴル語では、文中に対比される2つの格成分が明示されていても、日本語と反対に、基本的に対比される2つの事物のうち、強調したい格成分だけに bol を付ける。たとえば次の(14b)では、強調したい「たばこ」だけに bol が付いている。

(14) a. <日> お酒は飲むが、たばこは吸わない。

b. <モ> ᠠᠷᠢᠻᠢ ᠤᠦᠭᠦᠳᠠᠢ ᠪᠣᠯᠪᠠᠴᠤ , ᠲᠠᠮᠠᠻᠢ ᠪᠣᠯ ᠲᠠᠳᠠᠳᠠᠢ ᠤᠭᠡᠢ ᠡᠢ

ariki uuyu-day bolbaču, tamaki bol tata-day ügei.

酒 飲む-VN が たばこ は 吸う-VN ない

(お酒は飲むが、たばこは吸わない。)

### 8. 1. 3. 1. 3 「「は」と bol で対比を表せる格成分」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表3 「「は」と bol で対比を表せる格成分」のまとめ

「は」と bol で対比を表せる格成分	は	bol
格成分に下接したものは、文型的条件があれば、対比の意味で解釈されやすい。	○	○
主題の下位にある格成分や、対になる名詞による格成分などに付いた場合、対比の意味で解釈されやすい。	○	○
文中に対比されるものが明示されていても、基本的に、強調したい格成分だけに付ける。	×	○

8. 1. 3. 2 「は」と bol で対比を表せる副詞的成分

副詞的成分にも、「は」と bol が付きやすいものと付きにくいものがある。以下、様態を表す副詞的成分、結果を表す副詞的成分、時を表す副詞的成分、アスペクトに関わる副詞的成分、数量を表す副詞的成分、程度を表す副詞的成分、モダリティに関わる副詞的成分の順に見ていく。

1) 様態を表す副詞的成分

ここでは、様態を表す副詞的成分における「は」と bol の類似点と相違点について見てみたい。

(ア) 様態を表す副詞的成分には、対比の「は」も bol も付くことがある。

日本語でもモンゴル語でも、様態を表す副詞的成分には「は」も bol も付くことができる。たとえば次の(15)は、様態を表す副詞的成分「はっきりと」に「は」と bol が付いている例である。

(15) a.<日>はっきりとはは言わなかった。 (野田 1996:223)

b.<モ> ᠠᠪᠠᠷᠠᠨᠢᠯᠢᠭᠡᠨ ᠬᠡᠯᠡ ᠭᠢᠰᠡᠨ ᠤᠭᠡᠢ ᠠᠨᠢ  
 todorqai bol kele-gsen ügei.  
 はっきり は 言う-VN ない  
 (はっきりとは言わなかった。)

ただし、日本語でもモンゴル語でも、様態を表す副詞的成分の中には、日本語の「は」とモンゴル語の bol が付きにくい成分もある。たとえば次の(16)は、様態を表す副詞的成分「しとしと」に「は」と bol が付いている文で、どちらも不自然である。

(16) a.<日>?雨がしとしとは降っている。

b.<モ> \*ᠰᠢᠪᠣᠷᠶ᠋ᠠᠨ ᠰᠢᠪᠡᠷ ᠪᠣᠯ ᠣᠷᠣᠵᠤ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠᠠᠨᠢ  
 boroyan siber siber bol oro-ju bayin\_a.  
 雨 しとしと は 降る-CV いる  
 (\*雨がしとしとは降っている。)





(18) a.<日>私は昨日は本を読んでいない。

b.<モ> 𐰇𐰪 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤 𐰏𐰏

bi öcögödör bol nom ungsi-γsan ügei.

私 昨日 は 本 読む-VN ない

(私は昨日は本を読んでいない。)

次の(19)は、可能性を述べる文である。この文は、時を表す副詞的成分「そのときまで」に「は」と bol が付き、対比を表している。「そのときまでは」の対比されるものは、漠然としたものである。

(19) a.<日>私はそのときまでは終わらせることができない。

b.<モ> 𐰇𐰪 𐰇𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰏𐰏

bi tere üy\_e boltal\_a bol dayusqa-ju deyilkü ügei.

私 そのときまで は 終わらせる-CV できない

(私はそのときまでは終わらせることができない。)

#### 4) アスペクトに関わる副詞的成分

ここでは、アスペクトに関わる副詞的成分に対比の「は」と bol が付くかどうかについて見ていく。

(エ) アスペクトに関わる副詞的成分には、対比の「は」も bol も付くことがある。

アスペクトに関わる副詞的成分に、対比を表す「は」も bol も付くことがある。たとえば次の(4-26)では、「すぐに」というアスペクトに関わる副詞的成分に「は」と bol が付いている。(日本語記述文法研究会 2007:69 では、「すぐに」をアスペクトに関わる副詞的成分として扱っている)

(4-26) a.<日>しかし、二頭の牛はすぐには突き合わず、相手を睨み据え、威嚇するように身構えている。

(中納言：鎌田 敏夫(1982)『新・里見八犬伝』)

b.<モ> 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤 𐰇𐰏𐰤𐰃𐰏𐰤

(中納言：鎌田 敏夫(1982)『新・里見八犬伝』)

getel\_e, qoyar üker ni tere door\_a ni bol mörgölde-gsen ügei, esergüü tal\_a

しかし 二頭 牛 3RD すぐに 3RD は突きあう-VN ない 相手  
 -iyan göliin qara-ju sürdegül-kü siy mayiy yarya-ju bayin\_a.  
 -GEN 睨み据える-CV 威嚇する-VN よう 身構える-CV いる  
 (しかし、二頭の牛はすぐには突き合わず、相手を睨み据え、威嚇する  
 ように身構えている。)

ただし、「もう」「だんだん」のようなアスペクトに関わる副詞的成分には、  
 対比の「は」も bol も付きにくい。たとえば次の(20)は、「もう」というアスペ  
 クトに関わる副詞的成分に「は」と bol が付いている例で、いずれも不自然な文  
 である。

(20) a.<日>\*もうは着ていないと思う。 (野田 1996:222)

b.<モ>\*niigente bol emüs-čü ügei gejä bodon\_a.  
 もう は 着る-CV ない と 思う  
 (\*もうは着ていないと思う。)

##### 5) 数量を表す副詞的成分

ここでは、数量を表す副詞的成分に対比の「は」と bol が付くかどうかについ  
 て見ていく。

(オ) 数量を表す副詞的成分には、対比の「は」も bol も付くことがある。

数量を表す副詞的成分に対比を表す「は」と bol が付く。たとえば次の(4-28)  
 は、「百人」に「は」と bol が付いて、「百人来ることは確実だが、それ以上の  
 数量なら来ない」という意味になる。すなわち、対比されるのは「百五十人は  
 来ない」などである。

(4-28) a.<日>百人は来る。

b.<モ> jayun kömün bol ire-n\_e.  
 百 人 は 来る-NP  
 (百人は来る。)

述語が否定の時は、次の(4-29)のように、「多くても」の意味になる。すなわ  
 ち、「百人は来ないが、百人以下の量なら来る」の意味になる。

(4-29) a. <日>百人は来ない。

b. <モ>  $\text{ᠵᠠᠶᠤᠨ ᠬᠣᠮᠦᠨ ᠪᠣᠯ ᠶᠢᠷᠡᠬᠦ ᠤᠭᠡᠢ}$

ᠵᠠᠶᠤᠨ ᠬᠣᠮᠦᠨ **ᠪᠣᠯ** ᠶᠢᠷᠡᠬᠦ ᠤᠭᠡᠢ.

百 人 は 来る-VN ない

(百人は来ない。)

### 6) 程度を表す副詞的成分

ここでは、程度を表す副詞的成分に対比の「は」と bol が付くかどうかについて見ていく。

(カ) 程度を表す副詞的成分には、対比の「は」は付くことがあるが、bol は付きにくい。

程度を表す副詞的成分には、普通は対比の「は」は付きにくい。ただし、青木(1992)や野田(1996)などでも指摘しているように、「ちょっと」「少し」のような程度を表す副詞的成分には、「は」が付くこともある。たとえば次の(21a)では、程度を表す副詞的成分「少し」に「は」が付いている。その次のモンゴル語の例(21b)が不自然なように、bol は程度を表す副詞的成分には付きにくい。

(21) a. <日>その間、内地の情報も少しは入って来ていました。

(中納言：帚木 蓬生(2001)『安楽病棟』)

b. <モ>  $\text{*ᠰᠢᠨᠡ ᠶᠡᠷᠢᠨ ᠶᠢᠷᠡᠨ ᠵᠢᠮᠡᠭᠡ ᠴᠦ ᠵᠢᠶᠠᠭᠠᠨ ᠪᠣᠯ ᠣᠷᠣᠵᠤ ᠶᠢᠷᠡᠵᠦ}$

tere qoyorondo, dotoyadu ᠶᠠᠵᠠᠷ-un čimege čü ᠵᠢᠶᠠᠭᠠᠨ **ᠪᠣᠯ** oro-ju ire-jü

その間 内地-GEN 情報 も 少し は 入る-CV 来る-CV

bayi-l\_a.

いる-PAST

(その間、内地の情報も少しは入って来ていました。)

### 7) モダリティに関わる副詞的成分

ここでは、「きっと」「ぜひ」「たぶん」「どうやら」などのようなモダリティに関わる副詞的成分に、対比の「は」と bol が付くかどうかについて見る。

(キ) モダリティに関わる副詞的成分には、対比の「は」も bol も付きにくい。





妻-GEN するようにはできる ない が私一通り-GEN 家事-ACC できる-VN  
(妻がするようにはできないが、私も一通りの家事ができる。)

### 3) 目的節

ここでは、目的節に対比を表す「は」と bol が付くかどうかについて見ていく。

(ウ) 目的節には、対比を表す「は」も bol も付くことがある。

目的節には対比を表す「は」も bol も付くと言っても、「ように」という目的節には対比を表す「は」も bol も付きにくい。次の(4-35)'は、「ために」という目的節の例である。この例文では「戦争を防ぐために」という目的節に対比を表す「は」と bol が付いている例である。

(4-35)'a.<日>戦争を防ぐためには、平和交渉を続けるしかない。

(日本語記述文法研究会 2008:237)

b.<モ> 𑄀𑄁𑄂𑄃𑄄𑄅𑄆𑄇𑄈𑄉𑄊𑄋𑄌𑄍𑄎𑄏𑄐𑄑𑄒𑄓𑄔𑄕𑄖𑄗𑄘𑄙𑄚𑄛𑄜𑄝𑄞𑄟𑄠𑄡𑄢𑄣𑄤𑄥𑄦𑄧𑄨𑄩𑄪𑄫𑄬𑄭𑄮𑄯𑄰𑄱𑄲𑄳𑄴𑄵𑄶𑄷𑄸𑄹𑄺𑄻𑄼𑄽𑄾𑄿𑅀𑅁𑅂𑅃𑅄𑅅𑅆𑅇𑅈𑅉𑅊𑅋𑅌𑅍𑅎𑅏𑅐𑅑𑅒𑅓𑅔𑅕𑅖𑅗𑅘𑅙𑅚𑅛𑅜𑅝𑅞𑅟𑅠𑅡𑅢𑅣𑅤𑅥𑅦𑅧𑅨𑅩𑅪𑅫𑅬𑅭𑅮𑅯𑅰𑅱𑅲𑅳𑅴𑅵𑅶𑅷𑅸𑅹𑅺𑅻𑅼𑅽𑅾𑅿𑆀𑆁𑆂𑆃𑆄𑆅𑆆𑆇𑆈𑆉𑆊𑆋𑆌𑆍𑆎𑆏𑆐𑆑𑆒𑆓𑆔𑆕𑆖𑆗𑆘𑆙𑆚𑆛𑆜𑆝𑆞𑆟𑆠𑆡𑆢𑆣𑆤𑆥𑆦𑆧𑆨𑆩𑆪𑆫𑆬𑆭𑆮𑆯𑆰𑆱𑆲𑆳𑆴𑆵𑆶𑆷𑆸𑆹𑆺𑆻𑆼𑆽𑆾𑆿𑇀𑇁𑇂𑇃𑇄𑇅𑇆𑇇𑇈𑇉𑇊𑇋𑇌𑇍𑇎𑇏𑇐𑇑𑇒𑇓𑇔𑇕𑇖𑇗𑇘𑇙𑇚𑇛𑇜𑇝𑇞𑇟𑇠𑇡𑇢𑇣𑇤𑇥𑇦𑇧𑇨𑇩𑇪𑇫𑇬𑇭𑇮𑇯𑇰𑇱𑇲𑇳𑇴𑇵𑇶𑇷𑇸𑇹𑇺𑇻𑇼𑇽𑇾𑇿𑈀𑈁𑈂𑈃𑈄𑈅𑈆𑈇𑈈𑈉𑈊𑈋𑈌𑈍𑈎𑈏𑈐𑈑𑈒𑈓𑈔𑈕𑈖𑈗𑈘𑈙𑈚𑈛𑈜𑈝𑈞𑈟𑈠𑈡𑈢𑈣𑈤𑈥𑈦𑈧𑈨𑈩𑈪𑈫𑈬𑈭𑈮𑈯𑈰𑈱𑈲𑈳𑈴𑈶𑈵𑈷𑈸𑈹𑈺𑈻𑈼𑈽𑈾𑈿𑉀𑉁𑉂𑉃𑉄𑉅𑉆𑉇𑉈𑉉𑉊𑉋𑉌𑉍𑉎𑉏𑉐𑉑𑉒𑉓𑉔𑉕𑉖𑉗𑉘𑉙𑉚𑉛𑉜𑉝𑉞𑉟𑉠𑉡𑉢𑉣𑉤𑉥𑉦𑉧𑉨𑉩𑉪𑉫𑉬𑉭𑉮𑉯𑉰𑉱𑉲𑉳𑉴𑉵𑉶𑉷𑉸𑉹𑉺𑉻𑉼𑉽𑉾𑉿𑊀𑊁𑊂𑊃𑊄𑊅𑊆𑊇𑊈𑊉𑊊𑊋𑊌𑊍𑊎𑊏𑊐𑊑𑊒𑊓𑊔𑊕𑊖𑊗𑊘𑊙𑊚𑊛𑊜𑊝𑊞𑊟𑊠𑊡𑊢𑊣𑊤𑊥𑊦𑊧𑊨𑊩𑊪𑊫𑊬𑊭𑊮𑊯𑊰𑊱𑊲𑊳𑊴𑊵𑊶𑊷𑊸𑊹𑊺𑊻𑊼𑊽𑊾𑊿𑋀𑋁𑋂𑋃𑋄𑋅𑋆𑋇𑋈𑋉𑋊𑋋𑋌𑋍𑋎𑋏𑋐𑋑𑋒𑋓𑋔𑋕𑋖𑋗𑋘𑋙𑋚𑋛𑋜𑋝𑋞𑋟𑋠𑋡𑋢𑋣𑋤𑋥𑋦𑋧𑋨𑋩𑋪𑋫𑋬𑋭𑋮𑋯𑋰𑋱𑋲𑋳𑋴𑋵𑋶𑋷𑋸𑋹𑋺𑋻𑋼𑋽𑋾𑋿𑌀𑌁𑌂𑌃𑌄𑌅𑌆𑌇𑌈𑌉𑌊𑌋𑌌𑌍𑌎𑌏𑌐𑌑𑌒𑌓𑌔𑌕𑌖𑌗𑌘𑌙𑌚𑌛𑌜𑌝𑌞𑌟𑌠𑌡𑌢𑌣𑌤𑌥𑌦𑌧𑌨𑌩𑌪𑌫𑌬𑌭𑌮𑌯𑌰𑌱𑌲𑌳𑌴𑌵𑌶𑌷𑌸𑌹𑌺𑌻𑌼𑌽𑌾𑌿𑍀𑍁𑍂𑍃𑍄𑍅𑍆𑍇𑍈𑍉𑍊𑍋𑍌𑍍𑍎𑍏𑍐𑍑𑍒𑍓𑍔𑍕𑍖𑍗𑍘𑍙𑍚𑍛𑍜𑍝𑍞𑍟𑍠𑍡𑍢𑍣𑍤𑍥𑍦𑍧𑍨𑍩𑍪𑍫𑍬𑍭𑍮𑍯𑍰𑍱𑍲𑍳𑍴𑍵𑍶𑍷𑍸𑍹𑍺𑍻𑍼𑍽𑍾𑍿𑎀𑎁𑎂𑎃𑎄𑎅𑎆𑎇𑎈𑎉𑎊𑎋𑎌𑎍𑎎𑎏𑎐𑎑𑎒𑎓𑎔𑎕𑎖𑎗𑎘𑎙𑎚𑎛𑎜𑎝𑎞𑎟𑎠𑎡𑎢𑎣𑎤𑎥𑎦𑎧𑎨𑎩𑎪𑎫𑎬𑎭𑎮𑎯𑎰𑎱𑎲𑎳𑎴𑎵𑎶𑎷𑎸𑎹𑎺𑎻𑎼𑎽𑎾𑎿𑏀𑏁𑏂𑏃𑏄𑏅𑏆𑏇𑏈𑏉𑏊𑏋𑏌𑏍𑏎𑏏𑏐𑏑𑏒𑏓𑏔𑏕𑏖𑏗𑏘𑏙𑏚𑏛𑏜𑏝𑏞𑏟𑏠𑏡𑏢𑏣𑏤𑏥𑏦𑏧𑏨𑏩𑏪𑏫𑏬𑏭𑏮𑏯𑏰𑏱𑏲𑏳𑏴𑏵𑏶𑏷𑏸𑏹𑏺𑏻𑏼𑏽𑏾𑏿𑐀𑐁𑐂𑐃𑐄𑐅𑐆𑐇𑐈𑐉𑐊𑐋𑐌𑐍𑐎𑐏𑐐𑐑𑐒𑐓𑐔𑐕𑐖𑐗𑐘𑐙𑐚𑐛𑐜𑐝𑐞𑐟𑐠𑐡𑐢𑐣𑐤𑐥𑐦𑐧𑐨𑐩𑐪𑐫𑐬𑐭𑐮𑐯𑐰𑐱𑐲𑐳𑐴𑐵𑐶𑐷𑐸𑐹𑐺𑐻𑐼𑐽𑐾𑐿𑑀𑑁𑑂𑑃𑑄𑑅𑑆𑑇𑑈𑑉𑑊𑑋𑑌𑑍𑑎𑑏𑑐𑑑𑑒𑑓𑑔𑑕𑑖𑑗𑑘𑑙𑑚𑑛𑑜𑑝𑑞𑑟𑑠𑑡𑑢𑑣𑑤𑑥𑑦𑑧𑑨𑑩𑑪𑑫𑑬𑑭𑑮𑑯𑑰𑑱𑑲𑑳𑑴𑑵𑑶𑑷𑑸𑑹𑑺𑑻𑑼𑑽𑑾𑑿𑒀𑒁𑒂𑒃𑒄𑒅𑒆𑒇𑒈𑒉𑒊𑒋𑒌𑒍𑒎𑒏𑒐𑒑𑒒𑒓𑒔𑒕𑒖𑒗𑒘𑒙𑒚𑒛𑒜𑒝𑒞𑒟𑒠𑒡𑒢𑒣𑒤𑒥𑒦𑒧𑒨𑒩𑒪𑒫𑒬𑒭𑒮𑒯𑒰𑒱𑒲𑒳𑒴𑒵𑒶𑒷𑒸𑒻𑒻𑒼𑒽𑒾𑒿𑓀𑓁𑓃𑓂𑓄𑓅𑓆𑓇𑓈𑓉𑓊𑓋𑓌𑓍𑓎𑓏𑓐𑓑𑓒𑓓𑓔𑓕𑓖𑓗𑓘𑓙𑓚𑓛𑓜𑓝𑓞𑓟𑓠𑓡𑓢𑓣𑓤𑓥𑓦𑓧𑓨𑓩𑓪𑓫𑓬𑓭𑓮𑓯𑓰𑓱𑓲𑓳𑓴𑓵𑓶𑓷𑓸𑓹𑓺𑓻𑓼𑓽𑓾𑓿𑔀𑔁𑔂𑔃𑔄𑔅𑔆𑔇𑔈𑔉𑔊𑔋𑔌𑔍𑔎𑔏𑔐𑔑𑔒𑔓𑔔𑔕𑔖𑔗𑔘𑔙𑔚𑔛𑔜𑔝𑔞𑔟𑔠𑔡𑔢𑔣𑔤𑔥𑔦𑔧𑔨𑔩𑔪𑔫𑔬𑔭𑔮𑔯𑔰𑔱𑔲𑔳𑔴𑔵𑔶𑔷𑔸𑔹𑔺𑔻𑔼𑔽𑔾𑔿𑕀𑕁𑕂𑕃𑕄𑕅𑕆𑕇𑕈𑕉𑕊𑕋𑕌𑕍𑕎𑕏𑕐𑕑𑕒𑕓𑕔𑕕𑕖𑕗𑕘𑕙𑕚𑕛𑕜𑕝𑕞𑕟𑕠𑕡𑕢𑕣𑕤𑕥𑕦𑕧𑕨𑕩𑕪𑕫𑕬𑕭𑕮𑕯𑕰𑕱𑕲𑕳𑕴𑕵𑕶𑕷𑕸𑕹𑕺𑕻𑕼𑕽𑕾𑕿𑖀𑖁𑖂𑖃𑖄𑖅𑖆𑖇𑖈𑖉𑖊𑖋𑖌𑖍𑖎𑖏𑖐𑖑𑖒𑖓𑖔𑖕𑖖𑖗𑖘𑖙𑖚𑖛𑖜𑖝𑖞𑖟𑖠𑖡𑖢𑖣𑖤𑖥𑖦𑖧𑖨𑖩𑖪𑖫𑖬𑖭𑖮𑖯𑖰𑖱𑖲𑖳𑖴𑖵𑖶𑖷𑖸𑖹𑖺𑖻𑖼𑖽𑖾𑗀𑖿𑗁𑗂𑗃𑗄𑗅𑗆𑗇𑗈𑗉𑗊𑗋𑗌𑗍𑗎𑗏𑗐𑗑𑗒𑗓𑗔𑗕𑗖𑗗𑗘𑗙𑗚𑗛𑗜𑗝𑗞𑗟𑗠𑗡𑗢𑗣𑗤𑗥𑗦𑗧𑗨𑗩𑗪𑗫𑗬𑗭𑗮𑗯𑗰𑗱𑗲𑗳𑗴𑗵𑗶𑗷𑗸𑗹𑗺𑗻𑗼𑗽𑗾𑗿𑘀𑘁𑘂𑘃𑘄𑘅𑘆𑘇𑘈𑘉𑘊𑘋𑘌𑘍𑘎𑘏𑘐𑘑𑘒𑘓𑘔𑘕𑘖𑘗𑘘𑘙𑘚𑘛𑘜𑘝𑘞𑘟𑘠𑘡𑘢𑘣𑘤𑘥𑘦𑘧𑘨𑘩𑘪𑘫𑘬𑘭𑘮𑘯𑘰𑘱𑘲𑘳𑘴𑘵𑘶𑘷𑘸𑘹𑘺𑘻𑘼𑘽𑘾𑘿𑙀𑙁𑙂𑙃𑙄𑙅𑙆𑙇𑙈𑙉𑙊𑙋𑙌𑙍𑙎𑙏𑙐𑙑𑙒𑙓𑙔𑙕𑙖𑙗𑙘𑙙𑙚𑙛𑙜𑙝𑙞𑙟𑙠𑙡𑙢𑙣𑙤𑙥𑙦𑙧𑙨𑙩𑙪𑙫𑙬𑙭𑙮𑙯𑙰𑙱𑙲𑙳𑙴𑙵𑙶𑙷𑙸𑙹𑙺𑙻𑙼𑙽𑙾𑙿𑚀𑚁𑚂𑚃𑚄𑚅𑚆𑚇𑚈𑚉𑚊𑚋𑚌𑚍𑚎𑚏𑚐𑚑𑚒𑚓𑚔𑚕𑚖𑚗𑚘𑚙𑚚𑚛𑚜𑚝𑚞𑚟𑚠𑚡𑚢𑚣𑚤𑚥𑚦𑚧𑚨𑚩𑚪𑚫𑚬𑚭𑚮𑚯𑚰𑚱𑚲𑚳𑚴𑚵𑚷𑚶𑚸𑚹𑚺𑚻𑚼𑚽𑚾𑚿𑛀𑛁𑛂𑛃𑛄𑛅𑛆𑛇𑛈𑛉𑛊𑛋𑛌𑛍𑛎𑛏𑛐𑛑𑛒𑛓𑛔𑛕𑛖𑛗𑛘𑛙𑛚𑛛𑛜𑛝𑛞𑛟𑛠𑛡𑛢𑛣𑛤𑛥𑛦𑛧𑛨𑛩𑛪𑛫𑛬𑛭𑛮𑛯𑛰𑛱𑛲𑛳𑛴𑛵𑛶𑛷𑛸𑛹𑛺𑛻𑛼𑛽𑛾𑛿𑜀𑜁𑜂𑜃𑜄𑜅𑜆𑜇𑜈𑜉𑜊𑜋𑜌𑜍𑜎𑜏𑜐𑜑𑜒𑜓𑜔𑜕𑜖𑜗𑜘𑜙𑜚𑜛𑜜𑜝𑜞𑜟𑜠𑜡𑜢𑜣𑜤𑜥𑜦𑜧𑜨𑜩𑜪𑜫𑜬𑜭𑜮𑜯𑜰𑜱𑜲𑜳𑜴𑜵𑜶𑜷𑜸𑜹𑜺𑜻𑜼𑜽𑜾𑜿𑝀𑝁𑝂𑝃𑝄𑝅𑝆𑝇𑝈𑝉𑝊𑝋𑝌𑝍𑝎𑝏𑝐𑝑𑝒𑝓𑝔𑝕𑝖𑝗𑝘𑝙𑝚𑝛𑝜𑝝𑝞𑝟𑝠𑝡𑝢𑝣𑝤𑝥𑝦𑝧𑝨𑝩𑝪𑝫𑝬𑝭𑝮𑝯𑝰𑝱𑝲𑝳𑝴𑝵𑝶𑝷𑝸𑝹𑝺𑝻𑝼𑝽𑝾𑝿𑞀𑞁𑞂𑞃𑞄𑞅𑞆𑞇𑞈𑞉𑞊𑞋𑞌𑞍𑞎𑞏𑞐𑞑𑞒𑞓𑞔𑞕𑞖𑞗𑞘𑞙𑞚𑞛𑞜𑞝𑞞𑞟𑞠𑞡𑞢𑞣𑞤𑞥𑞦𑞧𑞨𑞩𑞪𑞫𑞬𑞭𑞮𑞯𑞰𑞱𑞲𑞳𑞴𑞵𑞶𑞷𑞸𑞹𑞺𑞻𑞼𑞽𑞾𑞿𑟀𑟁𑟂𑟃𑟄𑟅𑟆𑟇𑟈𑟉𑟊𑟋𑟌𑟍𑟎𑟏𑟐𑟑𑟒𑟓𑟔𑟕𑟖𑟗𑟘𑟙𑟚𑟛𑟜𑟝𑟞𑟟𑟠𑟡𑟢𑟣𑟤𑟥𑟦𑟧𑟨𑟩𑟪𑟫𑟬𑟭𑟮𑟯𑟰𑟱𑟲𑟳𑟴𑟵𑟶𑟷𑟸𑟹𑟺𑟻𑟼𑟽𑟾𑟿𑠀𑠁𑠂𑠃𑠄𑠅𑠆𑠇𑠈𑠉𑠊𑠋𑠌𑠍𑠎𑠏𑠐𑠑𑠒𑠓𑠔𑠕𑠖𑠗𑠘𑠙𑠚𑠛𑠜𑠝𑠞𑠟𑠠𑠡𑠢𑠣𑠤𑠥𑠦𑠧𑠨𑠩𑠪𑠫𑠬𑠭𑠮𑠯𑠰𑠱𑠲𑠳𑠴𑠵𑠶𑠷𑠸𑠺𑠹𑠻𑠼𑠽𑠾𑠿𑡀𑡁𑡂𑡃𑡄𑡅𑡆𑡇𑡈𑡉𑡊𑡋𑡌𑡍𑡎𑡏𑡐𑡑𑡒𑡓𑡔𑡕𑡖𑡗𑡘𑡙𑡚𑡛𑡜𑡝𑡞𑡟𑡠𑡡𑡢𑡣𑡤𑡥𑡦𑡧𑡨𑡩𑡪𑡫𑡬𑡭𑡮𑡯𑡰𑡱𑡲𑡳𑡴𑡵𑡶𑡷𑡸𑡹𑡺𑡻𑡼𑡽𑡾𑡿𑢀𑢁𑢂𑢃𑢄𑢅𑢆𑢇𑢈𑢉𑢊𑢋𑢌𑢍𑢎𑢏𑢐𑢑𑢒𑢓𑢔𑢕𑢖𑢗𑢘𑢙𑢚𑢛𑢜𑢝𑢞𑢟𑢠𑢡𑢢𑢣𑢤𑢥𑢦𑢧𑢨𑢩𑢪𑢫𑢬𑢭𑢮𑢯𑢰𑢱𑢲𑢳𑢴𑢵𑢶𑢷𑢸𑢹𑢺𑢻𑢼𑢽𑢾𑢿𑣀𑣁𑣂𑣃𑣄𑣅𑣆𑣇𑣈𑣉𑣊𑣋𑣌𑣍𑣎𑣏𑣐𑣑𑣒𑣓𑣔𑣕𑣖𑣗𑣘𑣙𑣚𑣛𑣜𑣝𑣞𑣟𑣠𑣡𑣢𑣣𑣤𑣥𑣦𑣧𑣨𑣩𑣪𑣫𑣬𑣭𑣮𑣯𑣰𑣱𑣲𑣳𑣴𑣵𑣶𑣷𑣸𑣹𑣺𑣻𑣼𑣽𑣾𑣿𑤀𑤁𑤂𑤃𑤄𑤅𑤆𑤇𑤈𑤉𑤊𑤋𑤌𑤍𑤎𑤏𑤐𑤑𑤒𑤓𑤔𑤕𑤖𑤗𑤘𑤙𑤚𑤛𑤜𑤝𑤞𑤟𑤠𑤡𑤢𑤣𑤤𑤥𑤦𑤧𑤨𑤩𑤪𑤫𑤬𑤭𑤮𑤯𑤰𑤱𑤲𑤳𑤴𑤵𑤶𑤷𑤸𑤹𑤺𑤻𑤼𑤽𑤾𑤿𑥀𑥁𑥂𑥃𑥄𑥅𑥆𑥇𑥈𑥉𑥊𑥋𑥌𑥍𑥎𑥏𑥐𑥑𑥒𑥓𑥔𑥕𑥖𑥗𑥘𑥙𑥚𑥛𑥜𑥝𑥞𑥟𑥠𑥡𑥢𑥣𑥤𑥥𑥦𑥧𑥨𑥩𑥪𑥫𑥬𑥭𑥮𑥯𑥰𑥱𑥲𑥳𑥴𑥵𑥶𑥷𑥸𑥹𑥺𑥻𑥼𑥽𑥾𑥿𑦀𑦁𑦂𑦃𑦄𑦅𑦆𑦇𑦈𑦉𑦊𑦋𑦌𑦍𑦎𑦏𑦐𑦑𑦒𑦓𑦔𑦕𑦖𑦗𑦘𑦙𑦚𑦛𑦜𑦝𑦞𑦟𑦠𑦡𑦢𑦣𑦤𑦥𑦦𑦧𑦨𑦩𑦪𑦫𑦬𑦭𑦮𑦯𑦰𑦱𑦲𑦳𑦴𑦵𑦶𑦷𑦸𑦹𑦺𑦻𑦼𑦽𑦾𑦿𑧀𑧁𑧂𑧃𑧄𑧅𑧆𑧇𑧈𑧉𑧊𑧋𑧌𑧍𑧎𑧏𑧐𑧑𑧒𑧓𑧔𑧕𑧖𑧗𑧘𑧙𑧚𑧛𑧜𑧝𑧞𑧟𑧠𑧡𑧢𑧣𑧤𑧥𑧦𑧧𑧨𑧩𑧪𑧫𑧬𑧭𑧮𑧯𑧰𑧱𑧲𑧳𑧴𑧵𑧶𑧷𑧸𑧹𑧺𑧻𑧼𑧽𑧾𑧿𑨀𑨁𑨂𑨃𑨄𑨅𑨆𑨇𑨈𑨉𑨊𑨋𑨌𑨍𑨎𑨏𑨐𑨑𑨒𑨓𑨔𑨕𑨖𑨗𑨘𑨙𑨚𑨛𑨜𑨝𑨞𑨟𑨠𑨡𑨢𑨣𑨤𑨥𑨦𑨧𑨨𑨩𑨪𑨫𑨬𑨭𑨮𑨯𑨰𑨱𑨲𑨳𑨴𑨵𑨶𑨷𑨸𑨹𑨺𑨻𑨼𑨽𑨾𑨿𑩀𑩁𑩂𑩃𑩄𑩅𑩆𑩇𑩈𑩉𑩊𑩋𑩌𑩍𑩎𑩏𑩐𑩑𑩒𑩓𑩔𑩕𑩖𑩗𑩘𑩙𑩚𑩛𑩜𑩝𑩞𑩟𑩠𑩡𑩢𑩣𑩤𑩥𑩦𑩧𑩨𑩩𑩪𑩫𑩬𑩭𑩮𑩯𑩰𑩱𑩲𑩳𑩴𑩵𑩶𑩷𑩸𑩹𑩺𑩻𑩼𑩽𑩾𑩿𑪀𑪁𑪂𑪃𑪄𑪅𑪆𑪇𑪈𑪉𑪊𑪋𑪌𑪍𑪎𑪏𑪐𑪑𑪒𑪓𑪔𑪕𑪖𑪗𑪘𑪙𑪚𑪛𑪜𑪝𑪞𑪟𑪠𑪡𑪢𑪣𑪤𑪥𑪦𑪧𑪨𑪩𑪪𑪫𑪬𑪭𑪮𑪯𑪰𑪱𑪲𑪳𑪴𑪵𑪶𑪷𑪸𑪹𑪺𑪻𑪼𑪽𑪾𑪿𑫀𑫁𑫂𑫃𑫄𑫅𑫆𑫇𑫈𑫉𑫊𑫋𑫌𑫍𑫎𑫏𑫐𑫑𑫒𑫓𑫔𑫕𑫖𑫗𑫘𑫙𑫚𑫛𑫜𑫝𑫞𑫟𑫠𑫡𑫢𑫣𑫤𑫥𑫦𑫧𑫨𑫩𑫪𑫫𑫬𑫭𑫮𑫯𑫰𑫱𑫲𑫳𑫴𑫵𑫶𑫷𑫸𑫹𑫺𑫻𑫼𑫽𑫾𑫿𑬀𑬁𑬂𑬃𑬄𑬅𑬆𑬇𑬈𑬉𑬊𑬋𑬌𑬍𑬎𑬏𑬐𑬑𑬒𑬓𑬔𑬕𑬖𑬗𑬘𑬙𑬚𑬛𑬜𑬝𑬞𑬟𑬠𑬡𑬢𑬣𑬤𑬥𑬦𑬧𑬨𑬩𑬪𑬫𑬬𑬭𑬮𑬯𑬰𑬱𑬲𑬳𑬴𑬵𑬶𑬷𑬸𑬹𑬺𑬻𑬼𑬽𑬾𑬿𑭀𑭁𑭂𑭃𑭄𑭅𑭆𑭇𑭈𑭉𑭊𑭋𑭌𑭍𑭎𑭏𑭐𑭑𑭒𑭓𑭔𑭕𑭖𑭗𑭘𑭙𑭚𑭛𑭜𑭝𑭞𑭟𑭠𑭡𑭢𑭣𑭤𑭥𑭦𑭧𑭨𑭩𑭪𑭫𑭬𑭭𑭮𑭯𑭰𑭱𑭲𑭳𑭴𑭵𑭶𑭷𑭸𑭹𑭺𑭻𑭼𑭽𑭾𑭿𑮀𑮁𑮂𑮃𑮄𑮅𑮆𑮇𑮈𑮉𑮊𑮋𑮌𑮍𑮎𑮏𑮐𑮑𑮒𑮓𑮔𑮕𑮖𑮗𑮘𑮙𑮚𑮛𑮜𑮝𑮞𑮟𑮠𑮡𑮢𑮣𑮤𑮥𑮦𑮧𑮨𑮩𑮪𑮫𑮬𑮭𑮮𑮯𑮰𑮱𑮲𑮳𑮴𑮵𑮶𑮷𑮸𑮹𑮺𑮻𑮼𑮽𑮾𑮿𑯀𑯁𑯂𑯃𑯄𑯅𑯆𑯇𑯈𑯉𑯊𑯋𑯌𑯍𑯎𑯏𑯐𑯑𑯒𑯓𑯔𑯕𑯖𑯗𑯘𑯙𑯚𑯛𑯜𑯝𑯞𑯟𑯠𑯡𑯢𑯣𑯤𑯥𑯦𑯧𑯨𑯩𑯪𑯫𑯬𑯭𑯮𑯯𑯰𑯱𑯲𑯳𑯴𑯵𑯶𑯷𑯸𑯹𑯺𑯻𑯼𑯽𑯾𑯿𑰀𑰁𑰂𑰃𑰄𑰅𑰆𑰇𑰈𑰉𑰊𑰋𑰌𑰍𑰎𑰏𑰐𑰑𑰒𑰓𑰔𑰕𑰖𑰗𑰘𑰙𑰚𑰛𑰜𑰝𑰞𑰟𑰠𑰡𑰢𑰣𑰤𑰥𑰦𑰧𑰨𑰩𑰪𑰫𑰬𑰭𑰮𑰯𑰰𑰱𑰲𑰳𑰴𑰵𑰶𑰷𑰸𑰹𑰺𑰻𑰼𑰽𑰾𑰿𑱀𑱁𑱂𑱃𑱄𑱅𑱆𑱇𑱈𑱉𑱊𑱋𑱌𑱍𑱎𑱏𑱐𑱑𑱒𑱓𑱔𑱕𑱖𑱗𑱘𑱙𑱚𑱛𑱜𑱝𑱞𑱟𑱠𑱡𑱢𑱣𑱤𑱥𑱦𑱧𑱨𑱩𑱪𑱫𑱬𑱭𑱮𑱯𑱰𑱱𑱲𑱳𑱴𑱵𑱶𑱷𑱸𑱹𑱺𑱻𑱼𑱽𑱾𑱿𑲀𑲁𑲂𑲃𑲄𑲅𑲆𑲇𑲈𑲉𑲊𑲋𑲌𑲍𑲎𑲏𑲐𑲑







(イ) 日本語の「は」もモンゴル語の **bol** も、「動詞の中止形+は(**bol**)+いる／ある／その他の補助動詞」の形で用いられることがある。

日本語は、動詞のテ形に「は」を付けて、その後に「いる（ある）や他の補助動詞」を接続することができる。たとえば次の(26a)では、「承知して」に「は」を付けて、その後に、さらに「いる」という補助動詞を付けている。

モンゴル語も「並列の副動詞」に **bol** を付けて、その後に、さらに「いる／他の補助動詞」を付けることができる。たとえば次の(26b)では、対比を表す **bol** が「承知して」と「いる」の間に割り込んで、対比的に用いられている。

(26) a. <日>承知してはいるが、自分で自分が制御できない。

(中納言：杉本 苑子(2000)『風の群像』)

b. <モ> ᠮᠡᠳᠡ ᠵᠢᠨ ᠪᠠᠶᠢᠭᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠᠴᠤ, ᠣᠪᠡᠷ-ᠶᠡᠨ ᠣᠪᠡᠷ-ᠶᠡ-ᠪᠡᠨ ᠴᠣᠷᠢᠶᠡᠯᠠ-ᠵᠤ ᠴᠢᠳᠠᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ.

mede-jü bol bayiqu bolbaču, öber-iyen öber-i-ben qoriyla-ju čidaqu ügei.

知る-CV は いるが 自分-REFL 自分-ACC-REFL 制御-CV できる ない

(承知してはいるが、自分で自分が制御できない。)

## 2) 「は」と **bol** で対比を表せる形容詞述語

ここでは、どのような形容詞述語に「は」と **bol** が付くかについて見ていく。

(ウ) 日本語は「形容詞連用形+は+ある／いる」の形で用いられるこ

とはあるが、モンゴル語の **bol** にはこのような用法はない。

次の肯定文である日本語の例(27a)は、「古く」と「ある」の間に「は」が挿入されている例で、自然な文である。これに対して、そのモンゴル語訳である(27b)は不自然な文である。

(27) a. <日>このホテルは古くはあるが、掃除は行き届いている。

(日本語記述文法研究会 2009b:36)

b. <モ> \*ᠬᠤ ᠮᠣᠲᠤᠯ ᠪᠣᠯ ᠴᠠᠶᠤᠴᠢᠨ ᠪᠠᠶᠢᠭᠤ ᠪᠣᠯᠪᠠᠴᠤ, ᠴᠡᠪᠡᠷᠯᠡᠭᠡ ᠨᠢ ᠭᠢᠶᠢᠴᠡᠳ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ.

ene bayudal bol qayučin bol bayiqu bolbaču, čeberlege ni güyičed bayin\_a.

このホテルは 古く は ある が 掃除 3RD 行き届いている

(このホテルは古くはあるが、掃除は行き届いている。)

前のモンゴル語の例(27) が不自然であるのは、肯定文と否定文が関係していると考えられる。以下で、否定文の例を見てみたい。

(エ) 日本語の「は」もモンゴル語の **bol** も、「形容詞+は(**bol**)+ない」の形で用いられることがある。

次の否定文(28)は、前の(27)と同じく「古い」という名詞が用いられているが、この「古く」と「ない」の間には「は」と **bol** が入っていても自然である。これは、モンゴル語の **bol** は、肯定文の形容詞述語には付きにくい、否定文の形容詞述語には付きやすいという証拠でもある。

(28) a. <日> この服はそれほど古くはないよ。

b. <モ> <sup>ᠲᠦᠨᠢᠨᠠᠭᠤᠨ</sup> <sup>ᠰᠤᠮᠤᠨᠠᠭᠤᠨ</sup> <sup>ᠲᠡᠢᠮᠤᠨ</sup> <sup>ᠴᠢᠨ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>ᠪᠢᠰᠢ</sup> <sup>ᠰᠢᠢᠨ</sup> ᠡᠨᠢ

ene qubčasu teyimü qayučin **bol** bisi siü.

この 服 それほど 古く は ない よ

(この服はそれほど古くはないよ。)

### 3) 「は」と **bol** で対比を表せる名詞述語

ここでは、どのような名詞述語に「は」と **bol** が付くかについて見ていく。

(オ) 日本語は「名詞+は+ある/いる」の形で用いられることはあるが、モンゴル語の **bol** にはこのような用法はない。

次の肯定文である日本語の例(29a)では、「で」と「ある」の間に「は」が入っている例で、自然な文である。これに対して、その次のモンゴル語の例(29b)では、**bol** を入れると不自然で、**bayiqu** の間に **bol** を入れることはできない。

(29) a. <日> 鈴木さんはいい人ではあるが、仕事がよくできるとは言いがたい。 (日本語記述文法研究会 2009b:36)

b. <モ> <sup>\*ᠰᠡᠳᠵᠡᠬᠢ</sup> <sup>ᠨᠥᠴᠦᠵᠢ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>ᠰᠠᠶᠢᠨ</sup> <sup>ᠬᠣᠮᠤᠨ</sup> <sup>ᠪᠣᠯ</sup> <sup>ᠪᠠᠶᠢᠴᠢᠨ</sup> <sup>ᠪᠣᠯᠪᠠᠴᠤ</sup>, <sup>ᠠᠵᠢᠯ</sup> <sup>ᠰᠠᠶᠢᠨ</sup> <sup>ᠴᠢᠳᠠᠨ</sup> <sup>ᠠ</sup> <sup>ᠭᠡᠵᠢ</sup> ᠡᠨᠢ

Sedzeki nökör bol sayin kömün **bol** bayiqu bolbaču, aḷil sayin čidan\_a geḷü  
鈴木 さん は いい人 は である が 仕事よくできると  
**bol** kele-kü-yin arḷ\_a ügei.

は 言う-VN-GEN が たい

(鈴木さんはいい人ではあるが、仕事がよくできるとは言いがたい。)

前のモンゴル語の例(29b)が不自然であるのは、肯定文と否定文が関係していると考えられる。次に、否定文の例を見てみたい。

(カ) 日本語の「は」もモンゴル語の **bol** も、「名詞+は(bol)+ない」の形で用いられることがある。

たとえば次の否定文(30)は、「で」と「ない」の間に「は」と **bol** が用いられている例である。同じく「人」という名詞であるが、前の(29b)の名詞「人」に **bol** は付きにくいのが、次の(30b)の名詞「人」には付くことができる。その理由は、肯定文と否定文という違いから来ていると考えられる。すなわち、モンゴル語の **bol** は、肯定文の名詞述語には付きにくいのが、否定文の名詞述語には付くことができる。この点では、名詞述語に付く **bol** と形容詞述語に付く **bol** は同じである。

(30) a.<日>どちらにしてもいい人ではない。(中納言: Yahoo!知恵袋 2005)

b.<モ>  $\text{ᠰᠠᠶᠢᠨ ᠬᠣᠮᠦᠨ ᠪᠣᠯ ᠪᠢᠰᠢ}$

yaḡu gesen ču sayin kömün **bol** bisi.

どちらにしても いい 人 は でない

(どちらにしてもいい人ではない。)

#### 4) 「「は」と **bol** で対比を表せる述語成分」のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表6 「「は」と **bol** で対比を表せる述語成分」のまとめ

「は」と <b>bol</b> で対比を表せる述語成分	は	<b>bol</b>
「動詞連用形+は(bol)+する」の形で用いられる。	○	×
「動詞のテ形+は(bol)+いる／ある／その他の補助動詞」の形で用いられる。	○	○
「形容詞連用形+は(bol)+ある／いる」の形で用いられる。	○	×
「形容詞連用形+は(bol)+ない」の形で用いられる。	○	○
「名詞+は+ある／いる」の形で用いられる。	○	×
「名詞+は(bol)+ない」の形で用いられる。	○	○

## 8. 2 条件表示機能

この章では、日本語の「は」とモンゴル語の *bol* の条件用法について考察する。条件用法といえ、ば、「は」というより「ば」のほうがよく使われる。すでに日本語の先行研究のまとめのところで述べたように、条件を表す「ば」は「は」から発展変化したものである。よって、この章では、主に、日本語の条件を表す「～ば」とモンゴル語の *bol* を中心に、その類似点と相違点について考察を行いたい。

ここで、阪倉(1993)の説、すなわち、「ば」は「は」から発展変化したとう説について振り返ってみたい。

- 1) 動詞の第一活用形に助詞の「は」を添えた「～未然形+は」は仮定条件の前件を表していた。それが形式として固定して慣用化した結果、「は」が連濁を起し、「ば」になった。たとえば、「行か+は」→「行かば」
- 2) 動詞の第五活用形に助詞の「は」を添えた「～已然形+は」は確定条件の前件を表していた。それが形式として固定して慣用化した結果、「は」が連濁を起し、「ば」になった。たとえば、「読め+は」→「読めば」
- 3) 形容詞の連用形に助詞の「は」を添えた「～くは」は仮定条件の前件を表していた。この「は」が「ば」と連濁しなかったのは、連用形はある程度独立性をもった自由形式であったためである。たとえば、「よい+は」→「よくは」
- 4) 否定の助動詞「ず」に助詞の「は」を添えた「～ずは」は仮定条件の前件を表していた。この「は」が「ば」と連濁しなかったのは、否定の助動詞「ず」が形容詞性をもっていたからである。たとえば、「ふる+ず+は」→「ふらずは」

モンゴル語の *bol* にも条件を表す用法があることについては、すでに第2部で述べたので、ここで、*bol* に条件を表す用法があることに触れず、直接日本語の「ば」とモンゴル語の *bol* の類似点と相違点について見ていきたい。具体的には、恒常条件を表す用法、仮定条件を表す用法、確定条件を表す用法の3つに分けて考察する。

8. 2. 1 恒常条件を表す用法

この節では、日本語の「ば」とモンゴル語の *bol* について、「恒常条件を表す用法」と「反復・習慣を表す用法」の2つに分けて考察する。以下で、恒常条件を表す用法、反復・習慣を表す用法の順に見ていく。

1) 恒常条件を表す用法

恒常条件の用法は、物事の道理を表し、現実には生起・存続する個別的事態を問題にしないものであった。

(ア) 「ば」にも *bol* にも恒常条件を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の *bol* にも恒常条件を表す用法がある。たとえば次の(4-56)は、「多い」という形容詞に「ば」と *bol* が接続して、恒常条件を表している例である。

(4-56) a. <日> 人が多ければ力大きいよ。

b. <モ> *᠋ᠮᠣᠮᠦᠨ ᠣᠯᠠᠨ ᠪᠣᠯᠠᠳᠤ ᠬᠦᠴᠦᠢ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠢᠦ* (NMGDX コーパス)

*kömün olan bol kücü yeke siü.*

人 多ければ 力 大きい MP

(人が多ければ力大きいよ。)

前の(4-56)では、「ば」と *bol* が形容詞に下接して恒常条件を表す用法について見た。次に、否定形に下接して恒常条件を表す「ば」と *bol* について見ていこう。

次の(31)は、「いる」動詞の否定形に「ば」と *bol* が接続した例である。この文も、恒常条件を表しているものである。このほかに、モンゴル語の *bol* は、形動詞に下接して恒常条件を表す用法もある。

(31) a. <日> 他人がいなければ、恥というものは生まれてこない。

(益岡 2000:154)

b. <モ> *᠋ᠪᠤᠰᠤᠳᠤ ᠬᠣᠮᠦᠨ ᠪᠠᠶᠢᠬᠢ ᠭᠡᠭᠡᠢ ᠪᠣᠯᠤ ᠶᠡᠭᠢᠭᠦᠷᠢ ᠭᠡᠰᠡᠨ ᠶᠠᠭᠤᠮᠤ ᠠ ᠪᠣᠯᠤ ᠪᠠᠢ ᠪᠣᠯᠠᠬᠤ ᠭᠡᠭᠡᠢ*

*busud kömün bayiqu ügei bol, içigüri gesen yayum\_a bol bui bolqu ügei.*

他 人 いる ない ば 恥 という もの は 生まれる ない

(他人がいなければ、恥というものは生まれてこない。)

## 2) 反復・習慣を表す用法

恒常条件の用法に隣接するものとして、反復・習慣を表す用法がある（益岡 2000:155）。

(イ) 「ば」にも **bol** にも反復・習慣を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の **bol** にも反復・習慣的動作を表す用法がある。たとえば次の(32)では、「折さえあれば本を読んでいる」という反復・習慣的動作を表している。

(32) a. <日>二人とも折さえあれば本を読んでいる。 (益岡 2000:155)

b. <モ> *ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠢ ᠪᠣᠯᠠᠨᠠᠨᠢ ᠤᠨᠭᠤᠰᠢᠵᠤ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠ* ..

qoyayula čöm čay le bayi-day **bol** nom ungsi-ju bayin\_a.

二人 とも 折 さえ ある-VN ば 本 読む-CV いる

(二人とも折さえあれば本を読んでいる。)

反復・習慣を表す「ば」と **bol** は、次の(33)の「没頭していた」のように、過去のテンスを取ることが可能である。

(33) a. <日>僕は暇さえあれば読書に没頭していた。 (益岡 2000:155)

b. <モ> *ᠪᠢ ᠴᠢᠯᠦᠭᠡ ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠢ ᠪᠣᠯᠠᠨᠠᠨᠢ ᠤᠨᠭᠤᠰᠢᠵᠤ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠ* ..

bi čilüge le bayi-day **bol** nom ungsi-ju bayi-ba.

僕 暇 さえ ある-VN ば 本 読む-CV いる-PAST

(僕は暇さえあれば読書に没頭していた。)

## 8. 2. 2 仮定条件

仮定条件を表す用法を、現実化以前の事態を表す用法、成立するかどうか分からない事態を仮定する用法、事実と反する事態を仮定する用法の 3 つに分けて述べる（この 3 つの用語は益岡 2000 の用語である）。

### 1) 現実化以前の事態を表す用法

現実化以前の事態というのは、前件の事態が起こることは確実であるが、まだ起こっていないということを意味している。

(ウ) 「ば」にも **bol** にも、現実化以前の事態を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の **bol** にも現実化以前の事態を表す用法があ

る。bol で現実化以前の事態を表す時は、基本的に bol の前に真偽判断のモダリティ yum を入れる。たとえば次の(34)は、「ば」と bol によって現実化以前の事態を仮定している例である。モンゴル語の例(34b)は、仮定形 bol の前に真偽判断のモダリティ yum が用いられている。

(34) a. <日> どんなに愛し合っても、時間がくれば別々の場所へ帰らなければならぬ……。(益岡 2000:156)

b. <モ>  $\text{ᠶᠠᠶᠠᠵᠢᠵᠤ ᠴᠠᠷᠢᠯᠴᠠᠨ ᠴᠠᠶᠢᠷᠠᠯᠠ-ᠵᠤ ᠪᠠᠶᠢᠶᠢᠰᠠᠨ ᠴᠤ, ᠴᠠᠭ ᠨᠢ ᠪᠣᠯ-ᠳᠠᠶ ᠶᠤᠮ ᠪᠣᠯ ᠣᠨᠳᠣᠣ ᠣᠨᠳᠣᠣ ᠰᠢᠶᠠᠷ ᠵᠢᠭ ᠴᠠᠷᠢ-ᠴᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯᠠ ᠤᠭᠡᠢ ᠮᠠᠰᠠ ᠣᠴᠢ-ᠨ ᠠ}$

yayakijū qarilčan qayirala-ju bayiysan ču,čay ni bol-day yum bol ondoo ondoo  
 どんなに 互い 愛する-CV いても 時間 来る-VN は 別々

ᠶᠠᠶᠠᠵᠢᠵᠤ ᠴᠠᠷᠢ-ᠴᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠣᠯ ᠪᠣᠯᠠ ᠤᠭᠡᠢ.

場所へ 帰る-VN なければ なる ない

(どんなに愛し合っても、時間がくれれば別々の場所へ帰らなければならぬ……。)

## 2) 成立するかどうか分からない事態を仮定する用法

この用法は、事態が起こるかどうか分からないことを仮定するもので、事態が起こることが不確実であることを表す「もし」や「万一」等を用いることができる。

(エ) 「ば」にも bol にも、成立するかどうか分からない事態を仮定する用法がある。

たとえば次の(4-63)'の前件に、成立するかどうか分からない「もし雨が降らなければ」という事態を仮定し、後件に万一前件のことが起こったら後件のことをするという意味である

(4-63)' a. <日> もし雨が降らなければ私も行く。

b. <モ>  $\text{ᠠᠮᠤᠰᠢ ᠶᠤᠮ ᠵᠢᠭ ᠴᠠᠷᠢ-ᠴᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠣᠯ ᠪᠢ ᠪᠠᠰᠠ ᠣᠴᠢ-ᠨ ᠠ}$

kerbe boroyan oro-qu ügei bol bi basa oči-n\_a.

もし 雨 降る-VN ない 私 も 行く-NP

(もし雨が降らなければ私も行く。)



前のモンゴル語の例文(4-63b)は、動詞の否定形に bol を付けた例文である。成立するかどうか分からない事態を仮定する bol は、動詞の肯定形に付くこともある。たとえば次のモンゴル語の例文(35b)では、形動詞の肯定形 oro-day (降る) に bol が付いている。

(35) a.<日>もし雨が降ればば散歩には行けない。(http://search.yahoo.co.jp)

b.<モ>ᠶ᠋ᠢᠨ ᠵᠢᠨᠠᠭᠤᠨ ᠠᠷᠤᠯᠠᠳᠤ ᠵᠢᠨ ᠪᠣᠯ (ᠠᠷᠣᠪᠠᠯ) ᠰᠡᠭᠦᠴᠡᠻᠦ ᠬᠦᠪᠦ ᠣᠴᠢᠵᠦ ᠴᠢᠳᠠᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠶ᠋ᠢ

kerbe boroyan oro-qu yum bol (orobal)selegüče-kü-ber oči-ju čidaqu ügei.

もし 雨 降る-VN MP ば 散歩-VN-INST 行く-CV できない

(もし雨が降れば散歩には行けない。)

### 3) 反事実的条件用法

反事実的条件文は、前件に事実反する事態を想定し、もし前件の事態が起こったら後件のことが起こるだろうという意味を表すものであった。

(オ) 「ば」にも bol にも、反事実的条件を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、反事実的条件を表す用法がある。たとえば次の(36)は、過去の事実反する仮定条件の用法である。過去の事実反する場合、日本語は、条件節に「していれば」という形が用いられると、反事実であることが明確になる(日本語記述文法研究会 2008:105)。

(36) a.<日>もっと早く来ていれば、間に合ったのに。

(日本語記述文法研究会 2008:105)

b.<モ>ᠡᠭᠦᠨ-ᠡᠴᠡ ᠡᠷᠲᠡ ᠢᠷᠡ-ᠭᠰᠢᠨ ᠪᠣᠯ ᠠᠮᠵᠢ-ᠴᠤ ᠪᠠᠶᠢ-ᠶᠰᠠᠨ ᠶ᠋ᠢ

egün-eče erte ire-gsen bol amji-qu bayi-γsan.

これ-ABL 早く来る-VN ば 間に合う-VN いる-VN

(もっと早く来ていれば、間に合ったのに。)

モンゴル語では、過去の反事実を表す場合、bol の前接語が動詞であれば、前の(36b)のように、「形動詞の過去形」の形で用いられる。もし、bol の前接語が名詞や形容詞であれば、前接語に bayi-γsan (～ていた) を付けると、反事実であることが一層明確になる。たとえば次の(37b)では、sayin (よい) という形容詞と仮定形 bol の間に bayi-γsan (～ていた) を挿入し、反事実を表す仮定であることを明確にしている。

(37) a.<日>視力がよければば通った。(http://search.yahoo.co.jp/search?)

b.<モ>  $\text{ᠠᠶᠢᠨ ᠠᠷᠢᠨ ᠶ᠋ᠢᠨ ᠪᠠᠶᠢᠭᠰᠠᠨ ᠪᠤᠯᠤ ᠣᠩᠭᠡᠷᠡᠴᠢᠭᠡᠭᠰᠢᠨ ᠭᠰᠢᠨ ᠠᠨ}$

nidün qarača sayin bayi-γsan bol önggerečike-gsen .

視力 よい ある-VN ば 通る-PAST

(視力がよければ通った。)

### 8. 2. 3 確定条件

必然確定条件の用法、偶然確定条件の用法、前件だけが現実の事態を表す条件の用法の3つに分けて見ていきたい。

#### 1) 必然確定条件の用法

必然確定条件の用法は、前件が後件の原因・理由を表すものであった。

(カ) 「ば」にも bol にも、必然確定条件を表す用法がある。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、必然確定条件を表す用法がある。モンゴル語は、基本的に過去を表す形動詞に bol を付けて必然確定の意味を表す。たとえば次の(4-68)'は、十年も外国で暮らしていたので、当然外国の食べ物が好きになるだろうということを述べている。

(4-68)'a.<日>十年も外国で暮らしていればば外国の食べ物が好きになったのも無理ないことである。

b.<モ>  $\text{ᠠᠷᠪᠠᠨ ᠵᠢᠯ ᠶ᠋ᠳᠠᠶᠠᠳᠤᠳᠤ ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠭᠰᠠᠨ ᠪᠤᠯ ᠶ᠋ᠳᠠᠶᠠᠳᠤᠶᠢᠨ ᠬᠣᠶᠣᠯᠠᠨᠳᠤ ᠳᠤᠷᠠᠲᠠᠢ ᠠᠨ ᠪᠣᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠨᠢ ᠪᠠᠰᠠ ᠠᠷᠢᠭᠠ ᠤᠭᠡᠢ ᠠᠨ}$   
 $\text{ᠠᠨ ᠪᠣᠯᠤᠭᠰᠠᠨ ᠨᠢ ᠪᠠᠰᠠ ᠠᠷᠢᠭᠠ ᠤᠭᠡᠢ ᠠᠨ}$

arban jil yadayadu-du amidura-γsan bol yadayadu-yin qoyolan-du duratai

十 年 外国-DAT 暮らす-VN ば 外国-GEN 料理-DAT 好き

bolu-γsan ni basa ary\_a ügei.

なる-VN 3RD も 無理ないこと

(十年も外国で暮らしていれば外国の料理が好きになったのも無理ないことである。)

次に、前件が動的事態を表している例を1つあげておきたい。次の(38)の前件「お母さんが赤ちゃんを放っておいて外に出た」は動的事態を表している。

(38) a. <日>お母さんが赤ちゃんを放っておいて外に出ていれば、赤ちゃんは当然泣くだろう。

b. <モ>  $\text{ᠡᠵᠢ ᠨᠢ ᠨᠢᠯᠠ ᠠᠬᠡᠢᠬᠡᠳᠡᠢᠶᠢᠨ ᠠᠶᠠᠳᠠᠨ ᠠ ᠶᠠᠷᠤᠬᠤᠰᠠᠨ ᠶᠤᠮ ᠪᠠᠯ}$   
 $\text{ᠡᠵᠢ ᠨᠢ ᠨᠢᠯᠠ ᠠᠬᠡᠢᠬᠡᠳᠡᠢᠶᠢᠨ ᠠᠶᠠᠳᠠᠨ ᠠ ᠶᠠᠷᠤᠬᠤᠰᠠᠨ ᠶᠤᠮ ᠪᠠᠯ}$

eji ni nilq\_a keiked-iyen qayayad yadan\_a yar-u-γsan yum bol

お母さん 3RD 赤ちゃん-REFL 放って 外 出る-VN MP ば

nilq\_a keiked ukila-qu ügei yayakib.

赤ちゃん 泣く-VN ない あるか

(お母さんが赤ちゃんを放っておいて外に出ていれば、赤ちゃんは当然泣くだろう。)

## 2) 偶然確定

ここでは、日本語の「ば」とモンゴル語の bol に偶然確定を表す用法があるかどうかについて見ていく。

(キ) 「ば」には偶然確定条件を表す用法はあるが、bol には偶然確定条件を表す用法はない。

日本語の「ば」には偶然確定条件を表す用法はあるが、モンゴル語の bol には偶然確定条件を表す用法はない。たとえば次の日本語の例文(39a)が自然な偶然確定条件を表す文であるのに対して、モンゴル語の例(39b)は不自然である。この理由は、モンゴル語では、偶然確定条件を表すには、もう一つの条件を表す形式 bal を用いるからである。

(39) a. <日>生計を切りつめていけば、五六軒の家作の家賃で立てていけた。

(益岡 2000:160)

b. <モ>  $\text{*ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠯᠢᠶᠠᠨ ᠠᠷᠪᠢᠯᠠᠵᠤ ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ ᠪᠠᠯ, ᠲᠠᠪᠤ ᠵᠢᠷᠢᠶᠤᠶᠠᠨ ᠲᠠᠰᠤᠯᠤᠭᠠ ᠲᠦᠷᠢᠶᠡᠰᠦᠨ ᠭᠡᠷᠦᠨ}$   
 $\text{ᠠᠮᠢᠳᠤᠷᠠᠯᠢᠶᠠᠨ ᠠᠷᠪᠢᠯᠠᠵᠤ ᠢᠷᠡᠭᠰᠡᠨ ᠪᠠᠯ, ᠲᠠᠪᠤ ᠵᠢᠷᠢᠶᠤᠶᠠᠨ ᠲᠠᠰᠤᠯᠤᠭᠠ ᠲᠦᠷᠢᠶᠡᠰᠦᠨ ᠭᠡᠷᠦᠨ}$

amidural-iyen arbila-ju ire-gsen bol, tabu jiryuyan tasuly\_a türiyesün ger-ün

生計切り-INST つめる-CV くる-VN は 五 六 軒 家 作-GEN

türiyesü-ber amidura-ju deyilü-be.

家賃-INST 生活する-CV できる-PAST

(生計を切りつめていけば、五六軒の家作の家賃で立てていけた。)

3) 前件だけが現実の事態を表す

前件だけが現実の事態を表す用法は、前件が現実の事態を表しているという点で確定条件に隣接するもので、確定条件のところでは扱うことにする。

(ク) 「ば」にも bol にも、前件だけが現実の事態を表す用法がある。

前件だけが現実の事態を表すというのは、次の(40)のようなものである。(40)の前件は「こんなに風が激しい」という現実の事態を表している。後件の「あの男は一晩中眠れないかもしれない」は不確定なもので、この点で確定条件と異なる。(40)が自然なように、日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、「前件だけが現実の事態を表す」用法がある。

(40) a.<日>こんなに風が激しければ、あの男は一晩中眠れないかもしれない。(益岡 2000:160)

b.<モ> <sup>ᠰᠠᠯᠠᠬᠢ</sup> <sup>ᠡᠶᠢᠮᠦ</sup> <sup>ᠳᠣᠶᠰᠢᠨ</sup> ᠪᠣᠯ <sup>ᠲᠡᠷᠡ</sup> <sup>ᠡᠷᠡᠭᠡᠲᠡᠢ</sup> <sup>ᠨᠢᠭᠡ</sup> <sup>ᠰᠣᠨᠢ</sup> <sup>ᠤᠨᠲᠠᠭᠤ</sup> <sup>ᠵᠤ</sup> <sup>ᠴᠢᠳᠠᠬᠤ</sup> <sup>ᠤᠭᠡᠢ</sup> <sup>ᠪᠠᠶᠢᠻᠠᠭᠤ</sup> a.

salki eyimü doysin bol tere eregtei nige söni unta-ju čidaqu ügei bayiq\_a.  
 風こんな風 激しいば あの男 一晩中 眠れる-cv できないだろう  
 (こんなに風が激しければ、あの男は一晩中眠れないかもしれない)

4) 「条件用法と「は」 bol」のまとめ

この節で述べてきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表7 「条件用法と「は」 bol」のまとめ

条件用法と「は」 bol	ば	bol
恒常条件を表す用法がある。	○	○
反復・習慣を表す用法がある。	○	○
現実化以前の事態を表す用法がある。	○	○
成立するかどうか分からない事態を仮定する用法がある。	○	○
反事実的条件を表す用法がある。	○	○
必然確定条件を表す用法がある。	○	○
偶然確定条件を表す用法がある。	○	×
前件だけが現実の事態を表す用法がある。	○	○

## 第9章 非典型的な主題マーカ－の主題表示機能

この章では、日本語とモンゴル語の非典型的な主題マーカ－における主題を表す用法について考察する。本研究は2種類の非典型的な主題マーカ－を考察の対象とする。すなわち、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ－と、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ－の2種類である。

以下で、言葉の解説を行う文の主題マーカ－、限定された叙述を行う文の主題マーカ－の順に見ていく。

### 9. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカ－

この節では、日本語の非典型的な主題マーカ－「って」「とは」「というのは」と、モンゴル語の非典型的な主題マーカ－*gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol*の類似点と相違点について考察をする。具体的には、「って」と*gejü*、「とは」「というのは」と*gesen bol*、*gedeg bol*の2種類に分けて考察する。

#### 9. 1. 1 「って」と *gejü*

##### 9. 1. 1. 1 「って」と *gejü* の類似点

###### 9. 1. 1. 1. 1 言葉を再現して提示する「って」と *gejü*

###### 1) 言葉の意味を問題にする文における「って」と *gejü*

ここでは、言葉の意味を問題にする文における「って」と *gejü*の類似点について見ていく。

(ア) 「って」にも *gejü*にも、言葉の意味を問題にする文の主題を提示する用法がある。

「って」と *gejü*がもっともよく使われる場合の1つは、次のような言葉の意味が分からない場合である。次の(5-1)'は「タンゴド」(チベット人)という言葉がどういう意味であるか、何を指示しているのか分からなくて、その言葉を主題として提示して、述部でその意味・指示対象が何であることを問題にしている。

(5-1)'a.<日>タンゴドってどういう意味ですか。

b.<モ> ᠭᠡᠵᠢᠵᠢᠨ ᠶᠠᠶᠤ ᠪᠠᠶᠢᠳᠠᠶ ᠶᠤᠮᠤ ?.. (NMGDXコーパス)

Tangyud gejü yayu bayi-day yum?

タンゴド って 何 ある-VN MP

(タンゴドってどういう意味ですか。)

言葉そのものの意味は分かるのだが、その文脈でどういう意味であるかということが知られていない時に「って」と gejü で主題を提示することもある。たとえば次の(5-2)'は、「消えない灯」という言葉の意味は分かるが、その文脈の中で何を指しているかが分からないので、それを主題としてその意味を問う文である。(「消えない灯」というのは「太陽」を指している)。

(5-2)'a.<日>消えない灯 ᠭᠡᠵᠢᠵᠢᠨ ᠲᠡᠷᠡ ᠶᠠᠶᠤᠶᠢ ᠬᠡᠯᠡᠳᠡᠭ ᠪᠤᠢ ?

b.<モ> ᠤᠨᠲᠠᠷᠠᠭᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠳᠡᠩᠭᠡ ᠭᠡᠵᠢᠵᠢᠨ ᠲᠡᠷᠡ ᠶᠠᠶᠤᠶᠢ ᠬᠡᠯᠡᠳᠡᠭ ᠪᠤᠢ ? (NMGDXコーパス)

untara-qu ügei deng gejü tere yayu-yi kele-deg bui?

消える-VN ない 灯 って それ 何-ACC 言う-VN QP

(消えない灯ってそれは何を指しているのですか。)

## 2) 言葉の属性を問題にする文における「って」と gejü

ここでは、言葉の属性を問題にする文における「って」と gejü の類似点について見ていく。

(イ) 「って」にも gejü にも、言葉の属性を問題にする文の主題を提示する用法がある。

言葉の属性を叙述する文において、その言葉がどのような属性をもっているかを述べることがある。たとえば次の(5-3)'は属性叙述文で、この文で問題にしているのは「作風」で、述部でその言葉に関する属性が示されている。

(5-3)'a.<日>作風って人々が文章を書く、講演する時のスタイルをいう。

b.<モ> ᠣᠪᠣᠷ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯᠤᠨ ᠶᠡᠬᠡ ᠰᠤᠷᠶᠠᠶᠤᠯᠢᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤᠨ ᠳᠡᠭᠡᠳᠦ ᠰᠤᠷᠶᠠᠶᠤᠯᠢᠶᠢᠨ ᠮᠣᠩᠭᠣᠯ ᠬᠡᠯᠡ ᠰᠤᠳᠤᠯᠤᠯᠤ ᠶᠠᠵᠠᠷ 1964:954)

(öbör mongyol-un yeke suryayuli-yin mongyol sudulul-un

degedü suryayuli-yin mongyol kele sudulqu yaĵar1964:954)

ĵokiyal-un surtal gejü, kömüs-ün ĵokiyal biĉi-kü, ileldgel ki-kü surtal-i nerele-n\_e.

文章-GEN作風 って 人々-GEN 作文書く-VN講演する-VNスタイル-GENいう

(作風って人々が文章を書く、講演する時のスタイルをいう。)

9. 1. 1. 1. 2 捉えなおしの主題を表す「って」と geǰü

1) 属性の捉えなおし

「って」と geǰü の主題を表す用法には前に述べたように、言葉の意味を問題にする以外に、事物を主題にたてて、その属性を改めて捉えなおす用法もある。

(ウ) 「って」にも geǰü にも、属性の捉えなおしをする文の主題を提示する用法がある。

たとえば次の(5-4)'は、「この人」を主題として提示し、その述部で「利己的だ」という属性を付与している。言わば、「あの人」に「利己的だ」という属性を取り入れている表現である。

(5-4)'a.<日>この人って本当におかしいよ。いつも自分のことばかり考えるんだよ。

b.<モ> ne kömün geǰü ünən sonin a! dangda öber-ün bey\_e ben bodo-day yum

(NMGDXコーパス)

ene kömün geǰü ünən sonin a! dangda öber-ün bey\_e ben bodo-day yum.

この人 って本当 おかしいMPいつも 自 分-REFL 考える-VN MP

(この人って本当におかしいよ。いつも自分のことばかり考えるんだよ。)

前の(5-4)'は「この人」という名詞が主題になっている文であった。ただし、「って」と geǰü で提示されるのは名詞に限らず、名詞修飾節や文までも用いられることがある。次の(5-5)'は名詞修飾節「ホルチン地方の春と秋の強風」が主題になっている文で、その次の(5-6)'は「週に二十元」という文が主題になっている例である。これらの文は、述部で主題の属性や評価を述べている。

(5-5)'a.<日>ホルチン地方の春と秋の強風って恐ろしい。

b.<モ> Qorčün nutuy-un qabur namur-un qar\_a salki geǰü kečegüü yum

(NMGDXコーパス)

Qorčün nutuy-un qabur namur-un qar\_a salki geǰü kečegüü yum.

ホルチン地方-GEN 春 秋-GEN 強 風 って 恐ろしい MP

(ホルチン地方の春と秋の強風って恐ろしい。)

(5-6)'a.<日>週に二十元 (で暮らす) ってきついな。

b.<モ> šüwün 20 šüwün qasqasqar geǰü qasqasqar yum

(NMGDXコーパス)

γaray-tu qorin tögöriḡ gejü kečekiiü ču yum de.

週-DAT 二十 元 とは きつい も MP MP

(週に二十元 (で暮らす) ってきついな。)

## 2) 存否の捉えなおし

存否を問題にする文は属性を問題にする文と違って、その主題の存否を問う文である。

(エ) 「って」にも gejü にも、存否の捉えなおしをする文の主題を提示する用法がある。

たとえば次の(5-7)'は、「揺らがない草」と「慌てない人」を主題とする疑問文で、その主題が存在するかないかを問題にしている例である。このような存否を問題にする文の述語は「ある」「ない」でない場合もある。

(5-7)'a.<日>揺らがない草ってあるものかい、慌てない人っているものかい。

b.<モ>  $\text{ᠰᠠᠵᠢᠯᠠᠭᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠪᠡᠰᠦ ᠭᠡᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ ᠠᠭᠤ? ᠰᠠᠨᠳᠤᠷᠤᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠬᠣᠮᠤᠨ ᠭᠡᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠨ ᠠ ᠠᠭᠤ?}$

(NMGDXコーパス)

šajıla-qu ügei ebesü gejü bayin\_a uu? šandur-qu ügei kömün gejü bayin\_a uu?

揺るぐ-VNない草 って ある QP 慌てる-VNない 人 って ある QP

(揺らがない草ってあるものかい、慌てない人っているものかい。)

## 9. 1. 1. 2 「って」と gejü の相違点

日本語の「って」とモンゴル語の gejü には、類似点もあれば相違点もある。

(オ) 主題として提示される節の動作主と述部の動作主が異なる場合、「って」は用いられるが、gejüは用いられない。

節を主題として提示する場合、主題として提示される節の動作主と、節に対する感想、評価などを表す述部の動作主が異なる場合は、モンゴル語の gejü は用いられない。しかし、日本語の「って」はこの場合も用いられることがある。たとえば次の(1)は、主題として提示されている節の動作主は「あの子」で、述部の動作主は「話し手」(書き手)である。

(1) a.<日>あの子が3回も来てくれたって、感激だなあ。(丹羽2006:257)





9. 1. 2 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol

9. 1. 2. 1 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol の類似点

1) 言葉を再現して提示する

「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol は、引用と主題提示の二つの機能を融合的に表しているものである。

(ア) 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には、言葉の意味を問題にする文の主題を提示する用法がある。

「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法がある。たとえば次の(5-8)'では、「家」というモンゴル語の意味を主題にして、それについて説明している文である。

(5-8)'a. <日> ger というのは、日本語の家という意味である。

b. <モ> <日> ger 家 ger 家 ger 家 ..

<ger> gesen bol Yapon kelen-ü 家 gesen üge yum.

ger というのは 日本語-GEN 家 という 意味 MP

(ger というのは、日本語の家という意味である。)

2) 言葉の属性を問題にする

「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には、言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法以外に、言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法もある。

(イ) 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には、言葉の属性を問題にする文の主題を提示する用法がある。

たとえば次の(5-15)'は、「隕石」を主題として提示し、述部でそれがどのような属性をもつものかについて述べている文である。

(5-15)'a. <日> 隕石 とは 宇宙で太陽に付いて回っている大小の石だよ。

b. <モ> 隕石 宇宙で太陽に付いて回っている大小の石だよ。  
 (NMGDX コーパス)

solir odu gedeg bol sansar-un oytaryui-du nara-yi dayan ergi-jü yabu-day  
 隕石 とは 宇宙-GEN 空-DAT 太陽-ACC付いて回-CV行く -VN  
 tomo jġig čilayu-nuyud siu de.  
 大 小 石-PL MP MP

(隕石とは宇宙で太陽について回っている大小の石だよ。)

### 3) 属性の捉えなおしの gedeg bol

主題を表す「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には、前の(5-8)'と(5-15)'のような言葉の解説を行うものばかりではなく、主題について評価を述べたりするものもある。

(ウ) 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には、属性の捉えなおしをする文の主題を表す用法がある。

主題を表す「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol には、捉えなおしをする文の主題を提示する用法がある。たとえば次の(5-16)'は、šarqud (酒) を主題として提示し、酒は自分が入っている容器以外のすべてのものを興奮させる力があると述べている。その評価が真であることもあれば偽であることもある。

(5-16)'a. <日>酒というのは、容器以外のすべてのものを興奮させることができる飲み物である。

b. <モ> ᠰᠢᠷᠠᠬᠤᠳᠤ ᠭᠡᠳᠡᠭ ᠪᠣᠯᠢ ᠰᠠᠪᠠᠨ-ᠠᠴᠠ-ᠪᠠᠨ ᠪᠤᠰᠤᠳᠤ-ᠢ ᠪᠦᠷ ᠬᠡᠭᠵᠢ-ᠭᠡ-ᠵᠦ ᠴᠢᠳᠠᠳᠠᠭ ᠤᠮᠳᠠᠶᠠᠨ ᠰᠢᠤ ᠠᠶᠢᠨ

(NMGDX コーパス)

šarqud gedeg bol saban-ača-ban busud-i бүр көгġi-ge-jü čidaday umdayan siu.  
 酒 というのは容器-ABL-REFL他-ACC全部興奮-CAUS-CVできる飲み物MP  
 (酒というのは、容器以外のすべてのものを興奮させることができる飲み物である。)

### 9. 1. 2. 2 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol の相違点

日本語の主題を表す「とは」「というのは」とモンゴル語の主題を表す gesen bol、gedeg bol には、類似点もあれば相違点もある。

(エ) 「とは」「というのは」には存否の主題を提示する用法はあるが、gesen bol、gedeg bol にはそのような用法はない。



9. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカ－

9. 2. 1 「については」と *tuqai* の類似点

日本語の「については」とモンゴル語の *tuqai* は、その意味と用法が類似しているもので、両方とも主題を提示する用法をもつ。

(ア) 「については」も *tuqai* も、言語活動や思考活動の対象を主題として提示する用法がある。

たとえば次の(5-20)'では、主題マーカ－「については」と *tuqai* を用いて言語活動の対象「これ」を主題として提示し、述部で「言ってくれた」と述べている。

(5-20)'a.<日> これについては漁夫が私にはっきり言ってくれた。

b.<モ> ᠠᠵᠤ ᠰᠤ ᠶ᠋ᠢᠵᠢᠰᠤᠴᠢᠨ ᠡᠪᠦᠭᠡᠨ ᠨᠠᠳᠤ ᠲᠣᠳᠣᠷᠠᠵᠠᠢ ᠶᠠᠷᠢ-ᠵᠤ ᠣᠭᠴᠡᠢ \*\*

(NMGDX コーパス)

egün-ü tuqai jiyasučin ebügen nada todorqai yari-ju ögčei.

これ-GEN について 漁 夫 私にはっきり 言う-CV くれる-PAST

(これについては漁夫が私にはっきり言ってくれた)

また、*tuqai* が主題を表す場合、*tuqai bol* の形で用いられることもある。これは *tuqai* の後に主題マーカ－*bol* を付けた複合型のもので、日本語の「については」の形に類似している。たとえば次の(5-22)'は、*tuqai bol* の形で主題を提示している例である。

(5-22)'<モ> ᠶᠡᠷᠦ ᠤᠶᠤᠴᠠ-ᠶᠢᠨ ᠲᠤᠵᠠᠢ ᠪᠣᠯ 《ᠲᠠᠶᠢᠵᠢ-ᠶᠢᠨ ᠤᠶᠤᠴᠠ ᠲᠠᠪᠤᠨ ᠨᠢᠷᠦᠶᠤ-ᠲᠠᠢ, ᠶᠡᠷᠦᠨ ᠤᠶᠤᠴᠠ ᠶᠤᠷᠪᠠᠨ ᠨᠢᠷᠦᠶᠤ-ᠲᠠᠢ》ᠭᠡᠬᠦ ᠤᠭᠡ ᠪᠠᠶᠢ-ᠳᠠᠭ.

ᠶᠡᠷᠦᠨ ᠤᠶᠤᠴᠠ ᠶᠤᠷᠪᠠᠨ ᠨᠢᠷᠦᠶᠤ-ᠲᠠᠢ》ᠭᠡ ᠬᠡ ᠤᠭᠡ ᠪᠠᠶᠢ-ᠳᠠᠭ \*\*

(NMGDX コーパス)

yerü uyuča-yin tuqai bol <tayiji-yin uyuča tabun niruyu-tai,

普段 臀部-GEN については 皇族- GEN 臀部 五つ 腰-ある

qarača-yin uyuča yurban niruyu-tai> gekü üge bayi-day.

庶民-GEN 臀部 三つ 腰-ある ということば ある-VN

(臀部については、皇族の臀部は五つの腰があり、庶民の臀部は三つの腰があるという言葉がある。)

9. 2. 2 「については」と tuqai の相違点

主題を表す「については」と tuqai は、同じく、主題を提示する用法があるとしても、その用いられる範囲が異なる。

(イ)「については」は、言語活動や思考活動の対象以外の事物を主題として提示することもできるが、tuqai はできない。

日本語の「については」は、「話す」や「考える」などの言語活動や思考活動の対象以外のものを主題として提示することもできる。次の(5)は、動作の対象である「ゴミ」が主題になっている文である。日本語の例(5a)は自然な主題をもつ文であるが、モンゴル語の例(5b)は不自然である。モンゴル語では、このような文を元の格関係で表すのが一番自然である。たとえばその次のモンゴル語の例(6)は、(5)を対格関係に戻した例で、自然な文である。

(5) a. <日> ゴミ については 各自で持ち帰ってもらった。(丹羽 2006:237)

b. <モ> \*qoy-un tuqai qubi qubin-du ni ab-u-γad yabu-γul-ba.

\*qoy-un tuqai qubi qubin-du ni ab-u-γad yabu-γul-ba.  
 ゴミ-GEN については 各自-DAT 3RD 持つ-VN 帰る-CAUS -PAST  
 (ゴミについては各自で持ち帰ってもらった。)

(6) <モ> qoy-i qubi qubin-du ni ab-u-γad yabu-γul-ba.

qoy-i qubi qubin-du ni ab-u-γad yabu-γul-ba.  
 ゴミ-ACC 各自-DAT 3RD 持つ-VN 帰る-CAUS -PAST  
 (ゴミを各自で持ち帰ってもらった。)

9. 2. 3 「については」と tuqai のまとめ

ここまで見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表3 「については類」と tuqai のまとめ

「については」と tuqai	については	tuqai
言語活動や思考活動の対象を主題として提示する用法がある。	○	○
言語活動や思考活動の対象以外の事物を主題として提示する用法がある。	○	×

第10章 非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能

10. 1 言葉の解説を行う文の主題マーカ―

10. 1. 1 「って」と geĵü

10. 1. 1. 1 「って」と geĵü の類似点

日本語の「って」とモンゴル語の geĵü には、非主題表示においても類似するところが見られる。

(ア) 「って」にも geĵü にも、発話内容・思考内容を文脈に導入する用法がある。

たとえば次の(1)は、「ガールフレンドいない」という発話内容を文脈に導入している例である。このほかに、「って」と geĵü には、思考内容を表す用法もある。思考内容を表す時は、基本的に述部に「～思う」や「～考える」などの動詞が用いられる。

(1) a.<日>ガールフレンドいないって言ったじゃないの。

(中納言：森 瑤子(1989)『あなたに電話』)

b.<モ> ᠮᠡᠭᠡᠲᠡᠢ ᠨᠠᠶᠢᠵᠢ ᠪᠠᠶᠢᠬᠤ ᠤᠭᠡᠢ ᠬᠡᠯᠡᠭᠰᠡᠨ ᠪᠢᠰᠢᠢ ..

emegtei nayiji bayiqu ügei geĵü kele-gsen bisii.

ガールフレンド いない って 言う-VN じゃないの

(ガールフレンドいないって言ったじゃないの。)

(イ) 「って」と geĵü は、「が」格成分を文脈に導入するのに用いられる。

たとえば次の(2)は、「みどりスーパーが」という「が」格成分が、「って」や geĵü によって文脈に導入されている。

(2) a.<日>駅前にみどりスーパーってあるだろ。あそこ、来週開店するらしいよ。(日本語記述文法研究会 2009:232)

b.<モ> ᠣᠷᠲᠡᠭᠡᠨ ᠤ ᠡᠮᠦᠨ ᠡ ᠨᠣᠶᠣᠶᠠᠨ ᠳᠡᠯᠭᠡᠭᠦᠷ ᠭᠡᠵᠦ ᠪᠠᠶᠢᠬᠤ ᠪᠢᠰᠢᠢ ᠲᠡᠨᠳᠡ ᠳᠠᠷᠠᠶ ᠠ ..

örtegen-ü emün\_e noyoyan delgegür geĵü bayiqu bisii. tende daray\_a

駅-GEN 前 みどり スーパーって ある だろ あそこ 来

γaray delgegür nege-gegde-kü mayiytai.

週 店 開く-PASS-VN らしい

(駅前にもどりスーパーってあるだろ。あそこ、来週開店するらしいよ。)

### 10. 1. 1. 2 「って」と geǰü の相違点

「って」と geǰü の非主題提示用法には、上述のように、類似点もあれば相違点も多く見られる。

(ウ) 「って」は、「を」格成分を文脈に導入するのに用いられるが、geǰü はこのような用法をもたない。

「って」には、話し手(書き手)が、聞き手が知っているかどうか分からないものや、そのとき聞き手(読み手)の意識にはないと思われるものを文脈に導入するのに用いられる。次の(3)は、「3組の佐藤を」という「を」格成分が「って」や geǰü によって文脈に導入されている例である。ただし、日本語の例(3a)は自然であるが、モンゴル語の例(3b)は不自然な文である。このように、モンゴル語の geǰü には、「を」格成分を文脈に導入するという用法はない。

(3) a. <日> 3組の佐藤一郎 って 知っている?

(日本語記述文法研究会 2009:232)

b. <モ>?3 ᠰᠠᠲᠤ ᠶ᠋ᠢᠨᠠᠭᠤᠯᠠᠩ ᠤᠨ ᠰᠠᠲᠤ ᠶ᠋ᠢᠨᠠᠭᠤᠯᠠᠩ ᠤᠨ ᠰᠠᠲᠤ ᠶ᠋ᠢᠨᠠᠭᠤᠯᠠᠩ ᠲᠠᠨᠢᠵᠤ ᠪᠠᠶᠢᠨᠠᠭᠤ?

3 duγar duγuyilang-un Satou ičirou geǰü tani-ju bayinuu?

3 組-GEN 佐藤一郎 って 知る-CV いる

(3組の佐藤一郎って知っている?)

日本語の「って」とモンゴル語の geǰü は、アスペクトに関わる用法があるかどうかという点でも異なる。

(エ) geǰü にはアスペクトに関わる用法はあるが、「って」にはそのような用法はない。

たとえば次の(6-5a)'は、モンゴル語の例(6-5b)'を日本語の「って」に翻訳した例で、非文法的な文である。その理由は、この場合の geǰü は「しようとする」という、動きの時間的な局面を示しているからである。



(6-5) a. <日>\*訪問に出るっている父母を銀白色のヘリコプターが迎えに  
来た。

b. <モ> ᠠᠶᠢᠯᠴᠢᠯᠠᠴᠤᠯᠠᠭᠤᠨ ᠭᠡᠵᠢᠭᠦ ᠪᠠᠶᠢᠶᠢᠭᠠ ᠠᠪᠤᠶᠢᠶᠢ ᠶᠢ ᠮᠢᠨᠢ ᠲᠤᠰᠤᠴᠤᠪᠠᠷ ᠨᠢᠭᠢᠨ  
ᠮᠣᠩᠭᠣᠨ ᠴᠠᠶᠠᠨ ᠡᠭᠴᠡ ᠨᠢᠰᠬᠡᠯ ᠬᠢᠷᠦᠭᠡᠭᠡᠳ ᠢᠷᠡᠯᠡ ᠡ.  
(NMGDX コーパス)

ayilčila-qu gejü bayiy\_a abu eji-yi mini tos-qu-bar nigen

訪問する-VNようと いる 父 母-ACC 1ST 迎える-VN-INST 一つ

mönggön čayan egče niskel kür-ü-ged ire-l\_e.

銀 白い ヘリコプター 着く-VN来る-PAST

(訪問に行こうとしている父母を銀白色のヘリコプターが迎えに来た。)

「って」と gejü は、慣用表現をつくるという用法があるかどうかという点でも違いが見られる。

(オ) gejü には、疑問語 yayu (なに) と結びついて「なんで」という語を形成する用法がある。「って」には、このような用法はない。

たとえば次のモンゴル語の例(4b)は、「yayu (なに) + gejü」の形で用いられ、「なんで」という語を形成している。しかし、このモンゴル語の例の gejü を日本語の「って」に翻訳した(4a)は、非文法的である。

(4) a. <日>\*私はなにってこのような事をしてしまったのか?

b. <モ> ᠠᠶᠢᠨᠠᠨᠢ ᠭᠡᠵᠢᠭᠦ ᠡᠶᠢᠮᠦ ᠶᠠᠪᠤᠳᠠᠯ ᠬᠢᠭᠰᠢᠨ ᠪᠤᠢ ?  
(NMGDX コーパス)

bi yayu gejü eyimü yabudal ki-gsen bui ?...

私 なんで このような 事 する か

(私はなんでこのような事をしてしまったのか?)

### 10. 1. 1. 3 「って」と gejü のまとめ

この節で見てきたことを表で簡潔にまとめると、次のようになる。

表1 「って」と gejü のまとめ

「って」と <u>gejü</u>	って	<u>gejü</u>
発話内容・思考内容を文脈に導入するのに用いられる。	○	○
「が」格成分を文脈に導入するのに用いられる。	○	○
「を」格成分を文脈に導入するのに用いられる。	○	×
アスペクトに関わる用法がある。	×	○
疑問詞と結びついて、他の語を形成する。	×	○

10. 1. 2 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol

1) 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol の類似点

「というのは」「とは」と gesen bol、gedeg bol の非主題表示の用法にも、類似するところがある。

(ア) 「とは」と gesen bol は、事態を提示し、それについて話し手の感想や評価を述べるのに用いられる。

たとえば次の(5)は、「とは」と gedeg bol を用いて「あれだけ世話になっておいて一言の挨拶もない」という事態を提示し、述部で、それについて「失礼な奴だ」と評価している。

(5) a.<日>あれだけ世話になっておいて一言の挨拶もないとは、失礼な奴だ。 (日本語記述文法研究会 2009b:232)

b.<モ> あれだけ世話になっておいて一言の挨拶もないとは、失礼な奴だ。

tedüi qarayaljalal kürte-ged nige ügen-ü mendüçilel çü ügei gesen bol  
 あれだけ お世話 受ける-CV 一言-GEN 挨拶 も ない とは  
 yosu ügei amitan bayin\_a.

失 礼 奴 だ

(あれだけ世話になっておいて一言の挨拶もないとは、失礼な奴だ。)

このような感想や評価を述べるのに用いられる「とは」と gedeg bol は、終助詞的に用いられる場合もある。たとえば次の(6)は、「とは」と gedeg bol が文末に用いられ、「合格者がたった3人」とすることに驚きを表している文である。

(6) a.<日>合格者がたった3人とは。 (日本語記述文法研究会 2009b:232)

b.<モ> 合格者がたった3人とは。

kiri tengçegçid jöbken yurbaqan kömün gesen bol.

合 格 者 た っ た 3 人 と は

(合格者がたった3人とは。)

2) 「とは」「というのは」と gesen bol、gedeg bol の相違点

日本語の「とは」「というのは」とモンゴル語の gesen bol、gedeg bol の非主題提示の用法には異なるところも見られる。

(イ) gesen bol には、形動詞に下接し、仮定を表す用法がある。ただし、「とは」と「というのは」にはこのような用法がない。

gesen bol の仮定条件を表す用法というのは、次の(6-7b)'のようなものである。形動詞「釣る」に gesen bol が下接し、「釣りたなら」という仮定の意味を表している。ただし、モンゴル語の例(6-7b)'を日本語の「とは」と「というのは」に翻訳した(6-7a)'は非文法的で、gesen 「という」、bol 「なら」と訳せば正しい日本語になる。

(6-7)'a.<日>\*魚を釣る{とは/ というのは}ちゃんと座って釣れ、トンボを追いかけたり、チョウチョウを追いかけてたりして、どうして魚を釣ることができようか。

b.<モ> ᠠᠵᠢᠰᠢᠨ ᠪᠣᠯ ᠣᠯᠢᠶᠲᠠᠢ ᠰᠠᠶᠤᠶᠠᠳ ᠭᠣᠬᠢᠳᠡ , ᠪᠠᠶᠢᠰᠢᠬᠢᠭᠡᠳ ᠣᠷᠪᠡᠬᠡᠢ ᠲᠠᠶᠤᠬᠤ ᠶᠤᠮ ᠴᠢᠨᠢ  
ᠲᠣᠨᠪᠣ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ᠲᠤᠷᠠᠭᠤᠨ ?

(NMGDXコーパス)

ᠵᠢᠶᠠᠰᠤ ᠭᠣᠬᠢᠳᠡᠬᠦ gesen bol ᠣᠯᠢᠶᠲᠠᠢ ᠰᠠᠶᠤᠶᠠᠳ ᠭᠣᠬᠢᠳᠡ , ᠪᠠᠶᠢᠰᠢᠬᠢᠭᠡᠳ  
 魚 釣る-VN たいなら ちゃんと座る-CV 釣れ 時々  
 öröm\_e qulayayiči köggege-jü bayiskiged erbekei tayu-qu yum čini  
 トンボ 追う-CV 時々 チョウチョウ追う-VN MP 2ND  
 yayakiju ᠵᠢᠶᠠᠰᠤ ᠭᠣᠬᠢᠳᠡᠵᠦ ᠣᠯᠤᠬᠤ ᠪᠠᠢᠭᠦᠨ?  
 どうして 魚 釣る-CV - 得る-VN QP

(魚を釣るといふならちゃんと座って釣れ、トンボを追いかけてたり、チョウチョウを追いかけてたりして、どうして魚を釣ることができようか。)

「というのは」「とは」と gesen bol、gedeg bol の違いは、疑問を表す用法の点でも見られる。

(ウ) gesen bol と gedeg bol には、文末に用いられて疑問を表す用法がある。「とは」と「というのは」にはこのような用法がない。

次の(6-8b)'は、gesen bol が文末に来て疑問を表している例で、その次の(6-9b)'は、gedeg bol が文末に用いられて疑問を表している例である。ただし、日本語



10. 2 限定された叙述を行う文の主題マーカ―

「については」と *tuqai* の非主題表示の用法には、次のような用法がある。

(ア) 「については」と *tuqai bol* には、明示的な対比を表す用法がある。

「については」と *tuqai bol* は、明示的な対比を表すことがある。明示的な対比というのは、「は」の対比を表す用法を考察した時に使った用語で、「～については」が文の中に2つ以上現れることである。たとえば次の(7)は、明示的な対比を表している例である。この例には、「生存者に対する叙勲については」と「死亡者に対する叙勲については」が対比的に使われている。

(7) a. <日>生存者に対する叙勲については、毎年、春と秋に、死亡者に対する叙勲については、その都度発令されている。

(中納言：消防庁(1991)「消防白書」)

b. <モ> *amidu bayiqu kömüs-tü yabiy\_a-yin temdeg olyo-qu tuqai bol, jil büri, qabur*  
*bolun namur-tu, bey\_e üregde-gsen kömüs-tü yabiy\_a-yin temdeg olyo-qu*  
*tuqai bol, tere darui-duni neyitelen\_e.*

生存者 叙勲する-VN については 毎年 春  
 と 秋-DAT 死亡者-DAT 叙勲 する-VN  
tuqai bol, tere darui-duni neyitelen\_e.

については その都度 発令される

(生存者に対する叙勲については、毎年、春と秋に、死亡者に対する叙勲については、その都度発令されている。)

日本語の「については」とモンゴル語の *tuqai bol* は、修飾名詞を提示することができるという点でも類似している。

(イ) 「については」と *tuqai bol* には、修飾名詞を提示する用法がある。

「については」と *tuqai bol* には、修飾名詞を提示する用法がある。たとえば次の(8)は、「神の存在」という部分の修飾名詞「神」が「については」と *tuqai bol* によって提示されている。



## 終章 まとめと今後の課題

本研究は日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカ―「は」と bol の主題表示機能と非主題表示機能における類似点と相違点、日本語とモンゴル語の非典型的な主題マーカ―「って」「とは」「というのは」と geju、gesen bol、gedeg bol および、「については」と tuqai bol の主題表示機能と非主題表示機能における類似点と相違点について考察してきた。最後に、ここまで見てきたことをまとめ、今後の課題を述べたい。

### 1. 主題マーカ―についての研究

本論文の第1章では、日本語の主題マーカ―についての研究史と研究の現状を概観し、第2章では、モンゴル語の主題マーカ―についての研究史と研究の現状を概観した。

#### 1) 日本語の主題マーカ―に関する研究

日本語の主題マーカ―に関する研究を、典型的な主題マーカ―と非典型的な主題マーカ―に分けて述べた。

##### (1) 日本語の典型的な主題マーカ―に関する研究

典型的な主題マーカ―というのは「は」のことである。「は」についての先行研究を、本研究の構成に合わせて「主題を表す用法に関する研究」、「対比を表す用法に関する研究」、「条件用法に関する研究」の3つに分類してまとめた。

「は」の主題を表す用法に関する研究には、格と主題の研究、従属節の中の主題の研究、主題からみた文の種類の研究、二重主語構文の研究、新情報と旧情報に基づく主題の研究、叙述類型に基づく主題研究、措定と指定に基づく主題の研究のように7種類の研究があると述べた。

「は」の対比を表す機能に関する研究には、「は」に2種類の対比があると見た研究（主語のみを対比的に取り立てる説と、述語を対比的に取り立てる説）、「は」に対比を表す用法があるとみた研究、「は」の対比を表す機能を基本と見た研究、「は」で対比を表せる成分に注目した研究の4種類があると述べた。

「は」の条件用法に関する研究については、日本語の条件を表す「～ば」は、「は」から発展変化したという説を中心に述べた。

(2) 非典型的な主題マーカに関する先行研究

非典型的な主題マーカに関する先行研究では、日本語の非典型的な主題マーカについて、話しことばの主題マーカ「無助詞」、それに、助詞があるものとしては、言葉の解説を行う文の主題マーカ「とは」類、限定された叙述を行う文の主題マーカ「については」類、立場を表す主題マーカ「としては」類、敬意を伴う主題マーカ「におかれては」類、評価を伴う主題マーカ「なんか」類、「ったら」類、発話の受け取りを表す主題マーカ「なら」、「とえば」類、段階に関する主題マーカ「となると」類、新しく示す主題マーカ「だが」類があり、したがって、無助詞と助詞を使っているものは合わせて9種類あると指摘している。

2) モンゴル語の主題マーカについての研究

本論文の第2章では、モンゴル語の典型的な主題マーカと非典型的な主題マーカについての研究史と研究の現状を概観した。

(1) 典型的な主題マーカに関する研究

モンゴル語の典型的な主題マーカはbolである。bolについての先行研究を、本研究の構成に合わせて「主題を表す用法に関する研究」、「対比を表す用法に関する研究」、「条件用法に関する研究」の3つに分類してまとめた。

bolの主題を表す用法に関する研究には、主題マーカ説、主語・主格説、新情報・旧情報に基づく主題説、従属節の中の主題研究、叙述類型に基づく主題研究の5種類の研究があることを述べた。

bolの対比を表す用法に関する研究には、bolの対比を表す機能のみを重視した結果、その主題を表す用法を見逃した研究があることを述べた。

bolの条件用法に関する研究のところでは、bolに条件用法があることを指摘した研究について概観した。

(2) 非典型的な主題マーカに関する先行研究

モンゴル語の非典型的な主題マーカに関する先行研究には、3人称所属小辞niを主題マーカと主張した研究、gegči bol (とは/というのは)、gedeg bol (とは/というのは)、gedeg ni (とは/というのは)などの主題マーカを扱った研究を紹介した。また、先行研究の問題点について、bolは主格助詞ではなく、主題マーカで、3人称所属小辞niは主題マーカではないことを指摘した。



## 2. モンゴル語の典型的な主題マーカーが使われる文の構造

本論文の第3章では、モンゴル語の典型的な主題マーカーbolについて、その使われる範囲を明確にした上で、どのような成分が主題になっているかによって、主題文を次の2)から6)の5種類に分類した。

- 1) 主題表示のbolと属性叙述文・事象叙述文
- 2) 格成分が主題になっている文
- 3) 格成分の連体修飾部が主題になっている文
- 4) 被修飾名詞が主題になっている文
- 5) 節が主題になっている文
- 6) 破格の主題をもつ文

1)の「主題表示のbolと属性叙述文・事象叙述文」では、主題を表すbolは属性叙述文には使われるが、事象叙述文には使われないことを指摘した。また、主題を表すbolは名詞節、引用節、疑問節、名詞修飾節、等位節の中に用いられることを述べた。

2)の「格成分が主題になっている文」というのは、「父はこの本を買ってくれた。」のような文で、この文は「父がこの本を買ってくれた。」文の格成分「父が」が主題になった文である。ここで、主格、対格、与位格、奪格成分、造格成分のような格成分が主題になることを指摘した。

3)の「格成分の連体修飾部が主題になっている文」というのは、「象は鼻が長い。」のような文で、この文は「象の鼻が長い。」という文の「象の鼻が」という格成分の連体修飾部「象」が主題になっている文である。このタイプの文は、典型的なケースでは、「鼻」の部分が、部分や側面を表す名詞が用いられ、「長い」の部分が形容詞など性質や状態を表すものが用いられることを述べた。

4)の「被修飾名詞が主題になっている文」というのは、「友だちは古いのがいい。」のような文で、この文は「古い友だちがいい。」という文の被修飾名詞「友だち」が主題になった文である。このタイプの文は、典型的なケースでは、選択型と並列型の2種類あると指摘した。選択型の「被修飾名詞が主題になっている文」とは、「友だちは古いのがいい。」のような文で、「友だち」の中から「古いの」をいいものとして選択している。並列型の「被修飾名詞が主題になっている文」とは、「値段はLサイズが210円で、Sサイズが190円だ。」のような

文である。

5) の「節が主題になっている文」というのは、「桜が咲くのは 4 月ごろだ。」のような文で、この文は「4 月ごろ桜が咲く。」という文の述語を中心にした節が主題になっている文である。このタイプの文は、典型的なケースでは、「4 月ごろ」の部分が一番主張したいところになる。

6) の「破格の主題をもつ文」というのは、「私はウナギだ。」のような文で、この文は、必要な部分が欠落したり不必要な部分が過剰に反復したりしてできた文で、格関係の文に戻すことができない。このタイプの文は、過剰型、不足型、漠然型の 3 種類に分けられると述べた。

過剰型の破格の主題をもつ文とは、不必要なものが反復される文で、不足型の破格の主題をもつ文とは、必要なものが抜けたりしてできた文で、漠然型の破格の文とは、漠然としたものを主題として提示する文のことである。

### 3. モンゴル語の典型的な主題マーカーの非主題表示用法

本論文の第 4 章では、モンゴル語の典型的な主題マーカー *bol* の対比表示機能と条件表示機能について見た。

#### 1) 対比を表す *bol*

この節では、*bol* に明示的な対比と暗示的な対比、*bol* で対比を表せる格成分、*bol* で対比を表せる副詞的成分、*bol* で対比を表せる従属節、*bol* で対比を表せる述語成分に分けて考察した。結論を表で示すと、次の表 1 のようになる。

表 1 *bol* で対比を表せる成分

<i>bol</i> で表せる対比の種類	明示的な対比と暗示的な対比
<i>bol</i> で表せる格成分	主格、対格、与位格、造格、奪格、共同格などの格成分
<i>bol</i> で表せる副詞的成分	様態を表す副詞的成分、時を表す副詞的成分、アスペクトに関わる副詞的成分、量を表す副詞的成分、程度を表す副詞的成分
<i>bol</i> で表せる従属節	引用節、様態節、目的節、時間節
<i>bol</i> で表せる述語成分	補助動詞の前に、否定文の名詞述語や形容詞述語の後に <i>bol</i> が付く。

#### 2) 条件を表す *bol*

*bol* には、名詞、形容詞、形動詞、否定形に接続して恒常条件、仮定条件、確定条件を表す用法があることを述べた。

#### 4. モンゴル語の非典型的な主題マーカ－の主題表示用法

本論文の第5章では、モンゴル語の2種類の非典型的な主題マーカ－の主題を表す用法について述べた。すなわち、言葉の解説を行う文の主題と、限定された叙述を行う文の主題の2種類である。

##### 1) 言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ－

この節では、*gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol* の3種を扱った。*gejü* は日本語の「つて」の意味・用法に近い、*gesen bol* と *gedeg bol* は日本語の「というのは」「とは」の意味・用法に近い。

*gejü* の主題を表す用法には、言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法、言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法、属性の捉えなおしをする文の主題を表す用法、存否の捉えなおしをする文の主題を表す用法の4種類ある。

*gesen bol* と *gedeg bol* の主題を表す用法には、言葉の意味を問題にする文の主題を表す用法、言葉の属性を問題にする文の主題を表す用法、属性の捉えなおしをする文の主題を表す用法の3種類ある。

##### 2) 限定された叙述を行う文の主題マーカ－

この節では、*tuqai* について考察をした。モンゴル語の *tuqai* は意味と用法が日本語の「については」に近い。*tuqai* には、言語活動や思考活動の動作が向けられる対象を主題として提示する用法があることを述べた。また、主題を表す *tuqai* は、*tuqai bol* の形で用いられると指摘した。

#### 5. モンゴル語の非典型的な主題マーカ－の非主題表示用法

本論文の第6章では、モンゴル語の2種類の非典型的な主題マーカ－の非主題表示機能について見た。すなわち、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ－と、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ－の2種類である。

##### 1) 言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ－

この節では、*gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol* の3種を扱った。

*gejü* の非主題表示用法には、発言内容・思考内容を表す用法、文脈に事物を導入する用法、アスペクトに関わる用法、慣用的用法などがある。*gesen bol* の非主題表示用法には、仮定条件を表す用法と、疑問を表す用法がある。*gedeg bol* の非主題表示用法には、疑問を表す用法や驚き・詠嘆を表す用法がある。

2) 限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカー

この節では、tuqai の非主題表示用法には、明示的な対比を表す用法、修飾名詞を提示する用法などがあることを述べた。

6. 日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカーの主題表示機能

本論文の第7章では、日本語の典型的な主題マーカー「は」とモンゴル語の典型的な主題マーカーbol について、その使われる範囲を比較した上で、どんな成分が主題になっているかによって、主題文を次の2)から7)の6種類に分類し、その類似点と相違点について考察を行った。

- 1) 主題マーカーと属性叙述文・事象叙述文
- 2) 格成分が主題になっている文
- 3) 格成分の連体修飾部が主題になっている文
- 4) 述語名詞の連体修飾部が主題になっている文
- 5) 被修飾名詞が主題になっている文
- 6) 節が主題になっている文
- 7) 破格の主題をもつ文

1) の「主題マーカーと属性叙述文・事象叙述文」では、属性叙述文と事象叙述文の観点から、主題を表す「は」と bol の類似点と相違点を述べた。主題を表す「は」と bol の使われ方を単文と従属節に分けて考察した。結論を表で示すと、次のようになる。

表2 単文と複文の「は」・bol

種類	単文		従属節		
	属性叙述	事象叙述	名詞節、引用節、疑問節、名詞修飾節 (内容補充修飾節)、等位節、原因理由節②	名詞修飾節 (格成分名詞修飾節、相対名詞修飾節、付随名詞修飾節)、原因理由節①、順接条件節、逆接条件節、時間節、目的節、様態節、並列節	
は	○	○	○	○	×
bol	○	×	○	×	×

2) の「格成分が主題になっている文」では、日本語の主題を表す「は」とモンゴル語の主題を表す bol について、主格成分が主題になっている文、対格成分が主題になっている文、与位格成分が主題になっている文、奪格が主題になっ

ている文、造格成分が主題になっている文、共同格成分が主題になっている文の6つに分けて考察した。主題になる格成分と主題になりにくい格成分を表で示すと、次のようになる。

表3 主題になる格成分となりにくい格成分

	は	bol
状態の主体、同定の主体を表す主格成分／変化の対象、動作の対象、心的活動の対象を表す対格成分／主体、場所、時間を表す与位格成分／場所、手段、起因・根拠、限界、目的、様態を表す造格成分／起点、主体を表す奪格成分／	○	○
対象を表す主格成分／出発点、通過点を表す対格成分／着点（結果）、起因・根拠、相手、対象、手段、役割、割合を表す与位格成分／起因・根拠、手段を表す奪格成分／	×	×
動きの主体を表す主格成分／経過域を表す対格成分／目的を表す与位格成分／領域を表す造格成分／経過域を表す奪格成分／並列を締め括る共同格成分	○	×

3) の「格成分の連体修飾部が主題になっている文」

「格成分の連体修飾部が主題になっている文」における主題表示の「は」と bol の類似点と相違点について見たことを表でまとめると、次のようになる。

表4 格成分の連体修飾部が主題になっている文

格成分の連体修飾部が主題になっている文	は	bol
主格、対格、与位格、奪格の格成分の連体修飾部が主題になる。	○	○
述語の部分には、形容詞、性質や状態を表す動詞、数量や性質を表す名詞が用いられる。	○	○
部分や側面を表す名詞、部分や側面になっているとは言いにくい名詞も被修飾名詞の部分に用いられる。	○	○
形容詞的名詞は修飾名詞の部分に用いられる。	×	×
「～には～に……。」「～には～が……。」「～では～で……。」の形の文がある。	○	×
1回だけの動作やできごとを表す動詞が述語の部分に用いられる。	○	×
動作名詞が被修飾名詞の部分に用いられる。	○	×

4) の「述語名詞の連体修飾部が主題になっている文」というのは、「かき料理は広島が本場だ。」のような文である。この文は「広島がかき料理の本場だ。」という文の述語名詞の連体修飾部「かき料理」が主題になった文である。

日本語にはこのような文はあるが、モンゴル語にはこのような文はない。モンゴル語では、「かき料理は広島が本場だ。」のような文は、「広島はかき料理の本場だ」、「かき料理の本場は広島だ」などの構文で表される。どうしても「かき料理」を主題にしたい場合は、形容詞述語や動詞述語を用いて表す。

5) の「被修飾名詞が主題になっている文」では、被修飾名詞が主題になっている文における日本語とモンゴル語の類似点と相違点を述べた。日本語もモンゴル語も選択型と並列型の 2 種類の「被修飾名詞が主題になっている文」がある、「友だちは古いのがいい。」という文の「古い」の部分には、「名詞」「形容詞+の」「動詞+の」「XY という Y」(例、新華辞書という辞書)の 4 種あるという 2 点で共通している。

被修飾名詞が主題になっている文における日本語とモンゴル語の相違点は、日本語では「最近の辞書は使いやすいのが多い。」のような文を、「最近の辞書に使いやすいのが多い。」という「に」格成分である「辞書に」が主題になった文だと見ることができる。ただし、モンゴル語ではこのような文を、「使いやすい辞書が多い。」という文の被修飾名詞である「辞書」が主題になった文だとしか解釈できない。

6) の「節が主題になっている文」における日本語とモンゴル語の類似点は、理由や時を表す成分、格成分、目的を表す成分が「4 月ごろ」の部分に入るなどがあげられる。また、日本語では述語を中心にした「4 月ごろ」の部分に格助詞が残らない時でも、モンゴル語では格助詞が残ることがあるなどの違いがある。

7) の「破格の主題をもつ文」には、日本語もモンゴル語も「過剰型」「不足型」「漠然型」の 3 種類あることを指摘した。

破格の主題をもつ文において、日本語とモンゴル語はほとんど同じであるが、定型的な破格の主題をもつ文では、日本語とモンゴル語は異なるところもある。たとえば「ボリュームと値段の安さは、披露宴会場ならではの大量購入にある。」(野田 1996:81) という文は「～は～にある」の形で用いられるようになってきている。このような定型的な破格の主題をもつ文は、日本語では定型的な破格の文になっているものが、モンゴル語では定型的な破格の文になっていない、あるいは、モンゴル語では定型的な破格の主題をもつ文になっているものが、日本語では、定型的な破格の文になっていないという違いがある。

## 7. 日本語とモンゴル語の典型的な主題マーカーの非主題表示機能

本論文の第 8 章では、日本語の典型的な主題マーカー「は」とモンゴル語の典型的な主題マーカーbol の対比を表す用法と条件を表す用法について見た。

1) 対比を表す「は」と bol

対比を表す「は」と bol について、明示的な対比と暗示的な対比、「は」と bol で対比を表せる格成分、「は」と bol で対比を表せる副詞的成分、「は」と bol で対比を表せる従属節、「は」と bol で対比を表せる述語成分に分けて考察した。

明示的な対比と暗示的な対比については、対比を表す「は」と bol には、明示的な対比と暗示的な対比の 2 種類の対比があることを述べた。明示的な対比は対比の相手が文中に明示されるもので、暗示的な対比は対比されるものが文中に現れない対比である。ただし、モンゴル語は日本語と違って、文型的対比であっても、強調したい部分だけに bol を付けることが多い。

従属節において、日本語もモンゴル語も引用節、様態節、目的節、時間節、理由節には、対比を表す「は」も bol も付くことがあるが、等位節・並列節には、対比を表す「は」も bol も付きにくい。

副詞的成分において、様態を表す副詞的成分、時を表す副詞的成分、アスペクトに関わる副詞的成分、数量を表す副詞的成分に対比の「は」も bol も付く。モダリティに関わる副詞的成分には対比の「は」も bol も付きにくい。ただし、結果を表す副詞的成分、程度を表す副詞的成分には、日本語の対比を表す「は」は付くことはあるが、モンゴル語の対比を表す bol は付きにくいという違いも見られる。

述語成分において、「は」も bol も「動詞の中止形+は(bol)+いる／ある／その他の補助動詞」の形や「形容詞+は(bol)+ない」の形で用いられるという共通点がある。ただし、対比を表す「は」は「動詞連用形+は+する」の形、形容詞連用形+は+ある／いる」の形、「名詞+は+ある／いる」の形で用いられるが、モンゴル語の対比を表す bol にはこのような用法がないという違いも見られる。

2) 条件を表す用法

条件用法の節では、日本語の条件を表す「ば」は「は」から発展変化したことを述べた上で、日本語の「ば」とモンゴル語の bol の条件表示用法における類似点と相違点について見た。

日本語の「ば」にもモンゴル語の bol にも、恒常条件、反復・習慣、現実化以前の事態、成立するかどうか分からない事態を仮定する、反事実的条件、必

然確定条件、前件だけが現実の事態を表すなどの条件用法がある。ただし、日本語の「ば」には偶然確定条件を表す用法はあるが、モンゴル語の *bol* にはそのような用法はない。

## 8. 日本語とモンゴル語の非典型的な主題マーカ―の主題表示機能

この章では、日本語とモンゴル語の 2 種類の非典型的な主題マーカ―の主題を表す用法における類似点と相違点について考察した。すなわち、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ―と、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ―の 2 種類である。

### 1) 言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ―

この節では、日本語の非典型的な主題マーカ―「って」「とは」「というのは」と、モンゴル語の非典型的な主題マーカ―*gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol* の類似点と相違点について考察をした。

日本語の「って」とモンゴル語の *gejü* には、言葉の意味を問題にする文の主題を提示する用法、言葉の属性を問題にする文の主題を提示する用法、属性の捉えなおしをする文の主題を提示する用法、存否の捉えなおしをする文の主題を提示する用法がある。ただし、日本語の「って」は、主題として提示される節の動作主と述部の動作主が異なる場合も用いられる、指示詞を主題として提示することができるなどの用法もあるが、モンゴル語の *gejü* にはこのような用法はない。

日本語の「とは」「というのは」とモンゴル語の *gesen bol*、*gedeg bol* には、言葉の意味を問題にする文の主題を提示する用法、言葉の属性を問題にする文の主題を提示する用法、属性の捉えなおしをする文の主題を表す用法などがある点では類似している。ただし、日本語の「とは」「というのは」には、存否の主題を提示する用法がある、述語に他動詞を用いることができるなどの特徴はあるが、モンゴル語の *gesen bol*、*gedeg bol* にはこのような用法はない。

### 2) 限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ―

この節では、日本語の非典型的な主題マーカ―「については」と、モンゴル語の非典型的な主題マーカ―*tuqai* の類似点と相違点について考察をした。

「については」と *tuqai* の主題表示の用法には、言語活動や思考活動の対象を主題として提示する用法がある。ただし、日本語の非典型的な主題マーカ―「に



については」には、言語活動や思考活動の対象以外の事物を主題として提示する用法はあるが、モンゴル語の非典型的な主題マーカ―tuqai にはこのような用法はない。

## 9. 日本語とモンゴル語の非典型的な主題マーカ―の非主題表示機能

本論文の第10章では、日本語とモンゴル語の2種類の非典型的な主題マーカ―の非主題表示用法における類似点と相違点について考察した。すなわち、言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ―と、限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ―の2種類である。

### 1) 言葉の解説を行う文の主題を表す主題マーカ―

日本語の「って」とモンゴル語の *gejü* の非主題表示用法には、発話内容・思考内容を文脈に導入する用法がある。ただし、日本語の「って」には、格成分を文脈に導入する用法はあるが、モンゴル語の *gejü* にはこのような用法はない。モンゴル語の *gejü* には、アスペクトに関わる用法、疑問詞と結びついて、他の語を形成するなどの用法はあるが、日本語の「って」にはこのような用法はないなどの違いも見られる。

日本語の非主題表示の「とは」「というのは」とモンゴル語の非主題表示の *gesen bol*、*gedeg bol* には、話し手の感想や評価を述べるのに用いられる用法がある。ただし、モンゴル語の非主題表示の *gesen bol*、*gedeg bol* には、仮定を表す用法、疑問を表す用法はあるが、日本語の非主題表示の「とは」「というのは」にはこのような用法はない。

### 2) 限定された叙述を行う文の主題を表す主題マーカ―

この節では、日本語の非典型的な主題マーカ―「については」の非主題表示用法と、モンゴル語の非典型的な主題マーカ―tuqai の非主題表示用法における類似点と相違点について考察した。

日本語の非典型的な主題マーカ―「については」の非主題表示用法と、モンゴル語の非典型的な主題マーカ―tuqai の非主題表示用法には、明示的な対比を表す用法、修飾名詞を提示する用法などがある。

## 10. 今後の課題

本研究は日本語の典型的な主題マーカ―「は」とモンゴル語の典型的な主題マーカ―bol および、日本語の非典型的な主題マーカ―「って」「とは」「という

のは」「については」とモンゴル語の非典型的な主題マーカー *gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol*、*tuqai bol* との類似点と相違点を解明してきた。ただ、残された課題もたくさんある。その中から、今後の課題として特に重要なものを 5 つあげておきたい。

- 1) 「は」と *bol*、「って」「とは」「というのは」「については」と *gejü*、*gesen bol*、*gedeg bol*、*tuqai bol* 以外の主題を表す形式
- 2) 日本語とモンゴル語がお互いに対応する場合と対応しない場合の理由の解明
- 3) モンゴル語の話しことばや事象叙述文の中の主題の形式
- 4) 過去のモンゴル語との対照
- 5) バウアン（保安）、シラ・ユグル（東部裕固）語、モンゴオル（土族）語、ドンシャン（東郷）語などのモンゴル語諸語の主題を表す形式

1) のその他の主題を表す形式というのは、日本語に「といえば」「といたら」などの主題を表す形式があるように、モンゴル語にも仮定条件と関係する *gebel*（といえば）、*gejü kelebel*（といたら）などの諸形式がある。これらの諸形式を明らかにすることによって、モンゴル語の主題の全体像が見えてくる。

2) の日本語とモンゴル語がお互いに対応する場合と対応しない場合の理由の解明も今後の課題としたい。

3) のモンゴル語の話しことばや事象叙述文の中の主題の形式も、本研究で取り扱うことができなかつた課題の 1 つである。話しことばの主題の形式や事象叙述文の中の主題の形式を明らかにすることも、モンゴル語の主題の全体像を明らかにすることにつながる。

4) の過去のモンゴル語との対照研究も、本研究の残された課題の 1 つである。古代モンゴル語の主題の形式と現代モンゴル語の主題の形式を明らかにすることによって、モンゴル語の主題マーカーの性質が見えてくる可能性がある。

5) のバウアン（保安）、シラ・ユグル（東部裕固）語、モンゴオル（土族）語、ドンシャン（東郷）語などのモンゴル語諸語の主題を表す形式は、本論文で扱うことができなかつた課題である。これらのモンゴル語諸言語の主題を研究することによって、モンゴル語の主題の形式がはっきり見えてくると考えられる。

例 文 採 集 資 料

現代日本語書き言葉均衡コーパス（中納言）

odo üy\_e-yin mongγol keüked-ün udq\_a jokiyal-un degeji jüüce-yin boti, Öbör mongγol-un keblel-ün bülügge, Öbör mongγol-un surγan kömüjil-ün keblel-ün qoriy\_a, Öbör mongγol-un baγaçud keüked-ün keblel-ün qoriy\_a 2010

Öbör mongγol-un edür-ün sonin2009

G,ayurzan\_a, L,öljeitegüs, mongγol-un songγomal ögülelge, Öbör mongγol-un soyol-un keblel-ün qoriy\_a 2009

Mönggenbayar, gün uqayan, Öbör mongγol-un yeke surγaγuli-yin keblel-un qoriy\_a1996

Sečenbilig-ün nayiraγulul-un songγomal, Öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy\_a 2003

Зууны Мэдээ2010

100tümen üge-tei odo üy\_e-yin monnγol kele bičig-ün deyita kömörge(NMGDX コーパス), Öbör mongγol-un yeke surγaγuli

参 考 文 献

【日本語の参考文献】

- 青木伶子(1992)『現代助詞「は」の構文論的研究』笠間書院
- 浅野信(1937)『日本文法辞典 文語篇』八弘書店
- 浅野信(1938)『日本文法辞典 口語篇』八弘書店
- 浅山友貴(2004)『日本語における「は」と「が」の意味と機能』第一書房
- 有田節子(1992)「日本語における条件と主題の融和について」『KLS12』  
p.110-p.119 関西言語学会
- 庵功雄(2003)『「象は鼻が長い」入門』くろしお出版
- 泉井久之助(1967)『言語の構造』紀伊国屋書店
- 市川保子(1995)「従属度の低い従属節の主語」仁田義雄(編)『複文の研究(下)』  
p.265-p.284 くろしお出版
- 岩男考哲(2008)「「って」提題文の表す属性と使用の広がり」益岡隆志(編)『叙  
述類型論』 p.45-p.66 くろしお出版
- 梅谷博之(1999)「現代モンゴル語の使役を表す接辞が連続して現れる場合」『日  
本言語学会第118回大会 予稿集』 p.177-p.182 日本言語学会
- 大久保忠利(1968)『日本文法陳述論』明治書院
- 大島資生(1995)「「は」と連体修飾構造」益岡隆志・野田尚史・沼田善子(編)『日  
本語の主題と取り立て』 p.109-p.138 くろしお出版
- 大野晋(1978)『日本語の文法を考える』岩波書店
- 大野晋(1993)『係り結びの研究』岩波書店
- 奥野敬一郎(1999)『ボクはウナギだの文法』くろしお出版
- 尾上圭介(1979)「助詞「は」研究史に於ける意味と文法」『三十周年記念論  
集』 p.369-p.386 神戸大学文学部
- 尾上圭介(1981)「「は」の係助詞性と表現の機能」『国語と国文学』58巻5号  
p.102-p.117 至文堂
- 尾上圭介(2001)『文法と意味I』くろしお出版
- 影山太郎(2012)「属性叙述の文法的意義」影山太郎(編)『属性叙述の世界』p.3-p.35

## 参考文献

くろしお出版

亀井孝(1955)『概説文語文法』吉川弘文館

川端善明(1976)「用言」『講座日本語 6 文法 I』p.169-p.217 岩波書店

上林洋二(1988)「措定文と指定文 ―ハとガの一面―」『筑波大学文藝言語研究・言語編』14 p.57-p.74 筑波大学大学院人文社会科学研究科

菊地康人(1995)「「は」構文の概観」益岡隆志・野田尚史・沼田善子(編)『日本語の主題と取り立て』p.37-p.69 くろしお出版

北原保雄(1981)『日本語の世界 6』中央公論社

北原保雄(1984)『日本語文法の焦点』教育出版株式会社

金水敏(1995)「「語りのハ」に関する覚書」益岡隆志・野田尚史・沼田善子(編)『日本語の主題と取り立て』p.71-p.80 くろしお出版

工藤真由美(2012)「時間的限定性という観点が提起するもの」『属性叙述の世界』p.143-p.176 くろしお出版

久野暉(1973)『日本文法研究』大修館書店

熊本千明(1989)「日・英語の分裂文について」『佐賀大学英文学研究』第 17 号 p.11-p.34 佐賀大学教養部英語教室

熊本千明(1989)「指定と同定 ―「……のが……だ」の解釈をめぐって」大江三郎先生追悼論文編集委員会(編)『英語の視点』p.307-p.318 九州大学出版会

国立国語研究所報告 3(1951)『現代語の助詞・助動詞―用例と実例―』秀英出版  
此島正年(1973)『国語助詞の研究』桜楓社

阪倉篤義(1993)『日本語表現の流れ』岩波書店

佐久間鼎(1940)『現代日本語法の研究』厚生閣

佐久間鼎(1941)『日本語の特質』育英書院

佐治圭三(1989)「「～のだ」の本質を求めて ―再び山口佳也氏に答えて―」『阪大日本語研究』1 p.105-p.127 大阪大学文学部日本学科

佐治圭三(1991)『日本語の文法の研究』ひつじ書房

澤田浩子・中川正之(2004)「中国語における語順と主題化 ―主題化とその周辺  
の概念を中心に―」益岡隆志(編)『主題の対照』p.19-p.42 くろしお出版

柴谷方良(1978)『日本語の分析』大修館書店

柴谷方良(1990)「助詞の意味と機能について ―「は」と「が」を中心に―」『文

## 参考文献

- 法と意味の間：国広哲弥教授還暦退官記念論文集』p.281-p.301 くろしお出版
- 柴谷方良(1990)「主題と主語」近藤達夫(編)『講座 日本語と日本語教育—12 卷 言語学要説(下)一』p.97-p.126 明治書院
- 杉崎一雄(1968)『国語法概説』有精堂出版株式会社
- 杉本武(1995)「大主語構文と総記の解釈」益岡隆志・野田尚史・沼田善子(編)『日本語の主題と取り立て』p.81-p.108 くろしお出版
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法形態論』むぎ書房
- 砂川有里子(2002)「日本語コピュラ文の構造と談話機能」上田博人(編)『日本語学と言語教育』p.39-p.70 財団法人東京大学出版会
- 砂川有里子(2003)「文法的な類型が談話の主題展開に与える影響」『文藝言語研究・言語篇』44 p.133-p.160 筑波大学文藝・言語系
- 砂川有里子(2005)『文法と談話の接点 —日本語の談話における主題展開機能の研究—』くろしお出版
- 高見・他(2004)『新・はじめての日本語教育基本用語事典』株式会社アスク語学事業部
- 角田大作(1991)『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 第Ⅰ巻』くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 第Ⅱ巻』くろしお出版
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味 第Ⅲ巻』くろしお出版
- 時枝誠記(1941)『国語学原論』岩波書店
- 時枝誠記(1950)『日本文法口語篇』岩波書店
- 西田直敏(1993)『日本文法の研究』和泉書院
- 西山祐司(1985)「措定文、指定文、同定文の区別をめぐって」『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』17 p.135-p.165 慶応義塾大学言語文化研究所
- 西山祐司(2003)『日本語名詞句の意味論と語用論 —指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房
- 仁田義雄(1979)「日本語文の表現類型—主格の人称制限と文末構造のあり方の観点において—」『英語と日本語と：林栄一教授還暦記念論文集』p.287-p.306 くろしお出版

## 参考文献

- 仁田義雄(1995)『複文の研究 上』くろしお出版
- 仁田義雄(1995)『複文の研究 下』くろしお出版
- 仁田義雄(2009)『日本語の文法カテゴリーをめぐって』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2010)『現代日本語文法 1』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2009a)『現代日本語文法 2』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2007)『現代日本語文法 3』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法 4』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2009b)『現代日本語文法 5』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2008)『現代日本語文法 6』くろしお出版
- 日本語記述文法研究会(2009c)『現代日本語文法 7』くろしお出版
- 丹羽哲也(1993)「仮定条件と主題、対比」『国語国文』62 卷 10 号 p.19-p.33 中央図書出版社
- 丹羽哲也(2006)『日本語の題目文』和泉書院
- 野田尚史(1996)『「は」と「が」』くろしお出版
- 野田尚史(1998)「文の構造と機能からみた日本語の主題」(博士学位請求論文)筑波大学大学院 文芸・言語学研究科
- 野田尚史(2007)「日本語の主題マーカー」中日理論言語学会 第 11 回研究会 シンポジウム「主題マーカーと SOV 型言語」
- 橋本進吉(1948)『国語法研究』岩波書店
- 林巨樹・安藤千鶴子編(1997)『古語林』大修館書店
- 樋上勲(1979)「主語と主題」『英語と日本語と 林栄一教授還暦記念論文集』p.307-p.322 くろしお出版
- 福嶋教隆(2004)「スペイン語の主題に関する記述的研究」益岡隆志(編)『主題の対照』p.129-p.148 くろしお出版
- 堀川智也(2005)「「典型的な題目語」の意味的立場」『日本語文法』5 卷 1 号 p.39-p.54 日本語文法学会
- 堀川智也(2006)「ヲ格項・ニ格項の題目化」『大阪外国語大学論集』第 34 号 p.21-p.35 大阪外国語大学
- 堀川智也(2007)「「対比」でも「題目提示」でもない「ハ」 — 「万葉集の用例を中心に—」『日本語・日本文化研究』第 17 号 p.33-p.44 大阪外国語大学

## 参考文献

日本語講座

- 堀川智也(2009)「主題として機能する格助詞表示の名詞句」『大阪大学世界言語研究センター論集』1 p.75-p.88 大阪大学世界言語研究センター
- 堀川智也(2010)「日本語の「主題」をめぐる基礎論」『大阪大学世界言語研究センター論集』4 p.103-p.117 大阪大学世界言語研究センター
- 益岡隆志(1987)『命題の文法』くろしお出版
- 益岡隆志(1987)『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志・他編(1995)『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 益岡隆志(1997)『複文』くろしお出版
- 益岡隆志(2000)『日本語文法の諸相』くろしお出版
- 益岡隆志(2003)『三上文法から寺村文法へ 日本語記述文法の世界』くろしお出版
- 益岡隆志(2004)「日本語の主題－叙述の類型の観点から－」『主題の対照』p.3-p.17 くろしお出版
- 益岡隆志(2008)「叙述類型に向けて」『叙述類型論』p.3-p.18 くろしお出版
- 益岡隆志(2012)「属性叙述と主題標識」影山太郎編『属性叙述の世界』p.91-p.109 くろしお出版
- 松尾捨治郎(1936)『国語法論攷』文学社
- 松下大三郎(1928)『改撰標準日本文法』紀元社
- 松村明(1969)『古典語現代語助詞助動詞詳説』学燈社
- 三尾砂(1948)『国語法文章論』三省堂
- 三上章(1953)『現代語法序説 シンタクスの試み』刀江書院 (復刊 くろしお出版 1972)
- 三上章(1960)『象は鼻が長い』くろしお出版
- 三上章(1970)『文法小論集』くろしお出版
- 三上章(1972)『続・現代語法序説 主語廃止論』くろしお出版
- 南不二男(1974)『現代日本語の構造』大修館書店
- 南不二男(1993)『現代日本語文法の輪郭』大修館書店
- 三原健一(2008)『構造から見る日本語文法』開拓社
- 森岡健二(1994)『日本文法体系論』明治書院



## 参考文献

- 森重敏(1965)『日本文法 一主語と述語一』武蔵野書院
- 森重敏(1971)『日本文法の諸問題』笠間書院
- 森田良行(1995)『日本語の視点』創拓社
- 山岡政紀(2000)『日本語の叙述と文機能』くろしお出版
- 山崎良幸(1965)『日本語の文法機能に関する体系的研究』風間書房
- 山田孝雄(1908)『日本文法論』宝文館
- 山田孝雄(1936)『日本文法学概論』宝文館
- 山田孝雄(1950)『日本文法学要論』角川書店
- 渡部真一郎(1979)「日本語の分裂文について」『英語と日本語 林栄一教授還暦記念論文集』p.405-p.423 くろしお出版
- 渡辺誠治(1995)「ある要素に対する新規の属性の取り入れに関わる形式——「ッテ」と「φ」を中心に——」『日本語・日本文化』第 21 号 p.105-p.123 大阪外国語大学留学生日本語教育センター
- 渡辺実(1971)『日本語構文論』塙書房

### 【日本語とモンゴル語の対照研究およびその他の言語の参考文献】

- 梅谷博之(1999)「現代モンゴル語の使役を表す接辞が連続して現れる場合」『日本言語学会第 118 回大会予稿集』p.177-p.182 日本言語学会
- 大藪鉦太郎(1921)『日本語と蒙古語』株式会社満州日日新聞社
- 小沢重男(1978)『モンゴル語の話』大学書林
- 小沢重男(1995)『蒙古語文語文法講義』大学書林
- 鴛淵一等(1928)『蒙和辞典』甲文堂
- 風間伸次郎(2003)「アルタイ諸語の 3 グループ (チュルク、モンゴル、ツングース)、および朝鮮語、日本語の文法は本当に似ているのか — 対照文法の試み」『日本語系統論の現在』p.249-p.337 国際日本文化研究センター
- 韓穆精阿等(1928)『蒙和辞典』甲文堂書店
- サイシャラト(2012a)「モンゴル語の主題表示 bol の使用される範囲 — 叙述類型論の観点から —」『日本モンゴル学会紀要』第 42 号 p.39-p.47 日本モンゴル学会

## 参考文献

- サイシャラト(2012b)「日本語の「は」とモンゴル語の bol の対照研究」『KLS32』  
p.85-p.96 関西言語学会
- サイシャラト(2012c)「モンゴル語の主題に関する一考察 ——定義型主題を中心——」『言語文化学研究(言語情報編)』7号 p.135-p.146 大阪府立大学  
人間社会学部 言語文化研究科
- 徐烈炯・劉丹青(2007)『話題的結構与効能』上海世紀出版股份有限公司、上海教育  
出版社
- 竹内幾之助・出村良一(1957)『蒙古語四週間』大学書林
- 中央民族学院少数民族語言研究所編(1987)『中国少数民族語言』四川民族出版  
社
- 張麟声(2004)「景頗語(Kachin)の主題マーカーについて」益岡隆志(編)『主題の  
対照』p.43-p.55 くろしお出版
- 張麟声(2010)「「は」のような主題マーカーと言語の語順との相関関係について」  
『KLS』第30号 p.254-p.265 関西言語学会
- Tumenolzii(2002)「日本語の「は」に対するモンゴル語の`bol`」『日本語・日本  
文化研修留学生論文集』4 p.57-p.69 大阪外国語大学留学生日本語教育セ  
ンター
- 内蒙古自治区社会科学院蒙古語言文字研究所(1964)『漢蒙詞典』内蒙古人民出版  
社
- ナラントヤ(2006)「モンゴル語の主題小辞 bol、ni — 日本語の助詞「は」と「が」  
との対照を通して」『研究論集』6 p.23-p.39 北海道大学大学院文学研究科
- ナラントヤ(2011)「モンゴル語の小辞 mini,čini,ni,čü,le,bol に関する考察」北方言  
語ネットワーク(編)『北方言語研究』第1号 p.165-p.184 北海道大学大学院  
文学研究科
- 橋本邦彦(1987)「対格の目的語の意味論と機能論」『モンゴル研究』18 p.94-p.112  
日本モンゴル学会
- 橋本邦彦(2004)「モンゴル語のコピュラ構文の意味類型」『室蘭工業大学紀要』  
第54号 p.91-p.100 室蘭工業大学
- 橋本邦彦(2006)「モンゴル語3人称所有後接語の複数の機能について」『実験音  
声学と一般言語学 —城生佰太郎博士還暦記念論文集』p.401-p.411 東京堂

## 参考文献

出版

- 橋本邦彦(2009)「現代モンゴル語の否定文脈における焦点化詞  $\check{c}$ ( $\check{c}$ )の機能について」『北海道言語文化研究』第7号 p.119-p.133 北海道言語研究会
- フフバートル(1997)『モンゴル語基礎文法』インターブックス
- 水野正規(1991)「モンゴル語の所属小辞」『日本モンゴル学会紀要』No.20 p.42-p.56 日本モンゴル学会
- 水野正規(1995)「現代モンゴル語の従属節主語における格選択」『東京大学言語学論集』第14号 p.667-p.680 東京大学文学部
- Öbör mongyol-un yeke suryaγuli-yin mongyol sudulul-un degedü suryaγuli-yin mongyol kele sudulqu γajar(1964) odo üy\_e-yin mongyol kele, Öbör mongyol-un arad-un keblel-ün qoriy\_a  
(内蒙古大学蒙古学学院蒙古語文研究所(1964)『現代蒙古語』内蒙古人民出版社)
- Öbör mongyol-un yeke suryaγuli-yin mongyol sudulul-un küriyeleng-ün mongyol kele bičig sudulqu γajar(1999) Mongyol Kitad toil, Öbör mongyol-un yeke suryaγuli-yin keblel-ün qoriy\_a  
(内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所(1999)『蒙漢詞典』内蒙古大学出版社)
- Nasunbayar.Qaserdeni.Sčen.čoytu.Dawadayba.Naranbatu(1982) orčin čay-un mongyol kelen-ü jüi, Öbör mongyol-un suryan kümüjil-ün keblel-ün qoriy\_a  
(那森柏・哈斯額爾敦・斯琴・朝克凶・達瓦達布格・凶力更・那仁巴凶(1982)『現代蒙古語』内蒙古教育出版社)
- Qai yin qua(2006) ‘Monggol kelen-ü ner\_e üge-yin emün\_e kereglegdekü <bol> un kelen jüi-yin ončaliγ sinji-yin tuqai,’ Öbör mongyol-un yeke suryaγuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül, No.35-109 p.23-p.26 Öbör mongyol-un yeke suryaγuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül nayirayulqu keldes,  
(海銀花(2006)「モンゴル語の名詞の前の bol およびその文法的特徴」『内蒙古大学学报』哲学社会科学蒙文版 No.35-109 p.23-p.26 内蒙古大学学报編集部)
- Garudi(2001) orčin čay-un mongyol kele, Öbör mongyol-un suryan kümüjil-ün keblel-ün qoriy\_a  
(嘎日迪(2001)『現代蒙古語』内蒙古教育出版社)
- L.Toγtanbayar(2006) ‘kelegdekün kiged kelegdekün bolγaqu sedkiče-yin bayiyulumji,’

## 参考文献

- Öbör mongγol-un yeke surγayuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül, No.35-124  
p.7-p.13 Öbör mongγol-un yeke surγayuli-yin erdem sinjilegen-ü sedkül  
nayirayulqu keldes
- (樂・套格敦巴乙拉(2006)「主題および主題化する過程における心理的メカニズ  
ム」『内蒙古大学学报』哲学社会科学蒙文版 No.35-124 p.7-p.13 内蒙古大  
学学报编辑部)
- Š.Lubsangwangdan(1982) orčin čay-un mongγol kelen-ü jüi, Öbör mongγol-un arad-un  
keblel-ün qoriy\_a  
(舍. 羅布蒼旺丹(1982)『現代蒙古語』内蒙古人民出版社)
- Čenggeltei(1979) odo üy\_e-yin mongγol kelen-ü jüi, Öbör mongγol-un arad-un  
keblel-ün qoriy\_a  
(清格爾泰(1979)『現代蒙古語語法』内蒙古人民出版社)
- Čenggeltei(1991) mongγol kelen-ü jüi, Öbör mongγol-un arad-un keblel-ün qoriy\_a  
(清格爾泰(1991)『蒙古語語法』内蒙古人民出版社)
- Hammar, Lucia B.(1983)「SYNTACTIC AND PRAGMATIC OPTIONS IN  
MONGOLIAN: A STUDY OF 'BOL' AND 'N'」 Indiana University

## 謝 辞

本博士論文を完成させるにあたり、まず、指導教官である張麟声先生に心から感謝の意を申し上げたい。中国内蒙古自治区通遼市出身の留学生である私を救い上げてくださり、また、筆者の漠然とした問題意識に形を与えてくださり、今日に至るまでご指導、ご助言をくださった。張麟声先生からは、研究に対する真摯な姿勢と熱意を身近で学ぶことができた。

角道正佳先生にも感謝の気持ちを申し上げたい。学会発表のときから、博士論文を完成させるまで、終始懇切丁寧なご指導、貴重な資料のご提供、モンゴル語についてのご助言などをいただき、暖かく見守ってくださった。また、博士論文の完成にあたり、角道正佳先生に副査になっていただいた。

山東功先生と高木佐知子先生に感謝の意を申し上げたい。山東功先生と高木佐知子先生は私の博士論文の副査になってくださり、ご多忙中貴重なお時間を費やされ、拙稿を審査なさってくださいました。また、博士論文の予備論文の副査になってくださった内田充美先生にも感謝の意を申し上げたい。

野田尚史先生にも感謝の気持ちを申し上げたい。日本モンゴル学会、関西言語学会、日本言語学会などの学会発表の前に、シミュレーションのご指導をいただき、学会発表のテクニックなどを熱心に教えてくださった。また、ゼミのときもご指導やご助言をいただいた。

そして、博士論文を最後までチェックしてくださった近藤功氏に、言葉には表すことができないほど感謝の気持ちでいっぱいである。日本語だけではなく、博士論文の構成や内容についても、終始近藤功氏に懇切丁寧なご助言をいただいた。近藤功氏に、人としての誠意や優しさを身近に学び取ることができた。

長年の研究生活の中で、一緒に勉強や研究をしてきた皆様にも感謝したい。ゼミや勉強会のとき、いつも日本語のチェックや貴重なコメントなどをいただいた。

更には、日本の方々に感謝したい。外国人である私に日本での教育を受ける機会を与えてくださり、学部から博士後期課程までの11年間の長い留學生活の中で、奨学金という形で多くの方々に支えられてきた。

最後に、来日以来、筆者を母国で支え続けてくれた家族に感謝したい。

2014年1月

サイシャラト  
賽希雅拉図